

第424図 第610号土坑出土遺物実測図(2)

第610号土坑出土遺物観察表(第423・424図)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
1	深鉢 縄文土器	A [23.4] B 31.7 C 9.8	口縁部及び胴部一部欠損。胴部は直線的に立ち上がり、頸部で屈曲して外傾し、口縁部は内彎する。環状把手を有し、口縁部には半截竹管による平行沈線文と波状文を巡らしている。地文はRLの単節縄文で、口唇部外面は横方向に、それ以外は縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい赤褐色 普通	P1268 40% P L 39
2	深鉢 縄文土器	A 22.4 B 31.2 C 9.0	口縁部及び胴部一部欠損。胴部は直線的に立ち上がり、頸部で屈曲して外傾し、口縁部はわずかに外反する。RLの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P1270 80% 底部に網代痕 P L 39
3	深鉢 縄文土器	A [19.2] B (19.0)	口縁部から胴部にかけての破片。胴部は直線的に立ち上がり、頸部で屈曲して外傾し、口縁部は内傾する。口縁部は細い隆帯により文様を描出し、隆帯に沿って結節沈線文を施している。RLの単節縄文を横方向に施している。	長石・石英 赤褐色 普通	P1269 30% P L 39
4	深鉢 縄文土器	B (11.0)	胴部片。胴部は直線的に立ち上がる。沈線により渦巻文を施している。RとLの無節縄文を縦方向に施すことにより羽状に構成している。	長石・石英 にぶい褐色 普通	T P 1185 5%
5	深鉢 縄文土器	B (7.0)	口縁部片。口縁部は屈曲して外傾する。RLの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 黒褐色 普通	T P 1183 5%

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
6	深鉢 縄文土器	A [23.0] B [29.8] C 8.4	口縁部から底部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がり、頸部で屈曲し、口縁部は内彎する。口縁部は細い隆帯により文様を描出している。地文はLRの単節縄文で、縦方向に施している。	長石・石英 暗赤褐色 普通	P1271 50% 底部に木葉痕
7	深鉢 縄文土器	B (5.1)	頸部片。頸部は外傾する。半截竹管による平行沈線文により渦巻文を施している。地文はLRの単節縄文で、縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	TP1186 5%
8	浅鉢 縄文土器	B (3.6)	口縁部付近の破片。口縁部と胴部の境で屈曲し、口縁部は内傾する。頸部に鏝状の隆帯を巡らしている。口縁部は沈線により文様を描出している。	長石・石英・雲母 橙色 普通	TP1187 5%

図版番号	器種	計測値				石質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
9	磨製石斧	14.2	5.2	1.5	170.9	粘板岩	完形。両側縁に調整加工痕が残る。	Q1015

### 第611号土坑 (第425・426図)

位置 調査1区の東部，C5c9区。

規模と平面形 開口部は長径0.98m，短径0.86mの楕円形で，深さは26cmである。

壁 ほぼ直立する。

底 平坦である。

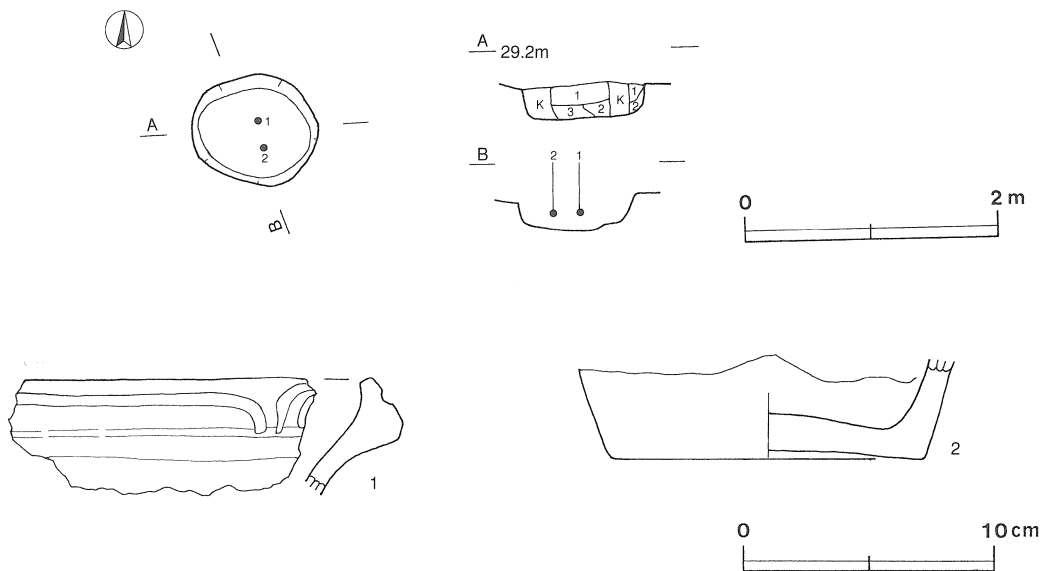
覆土 3層に分層され，レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

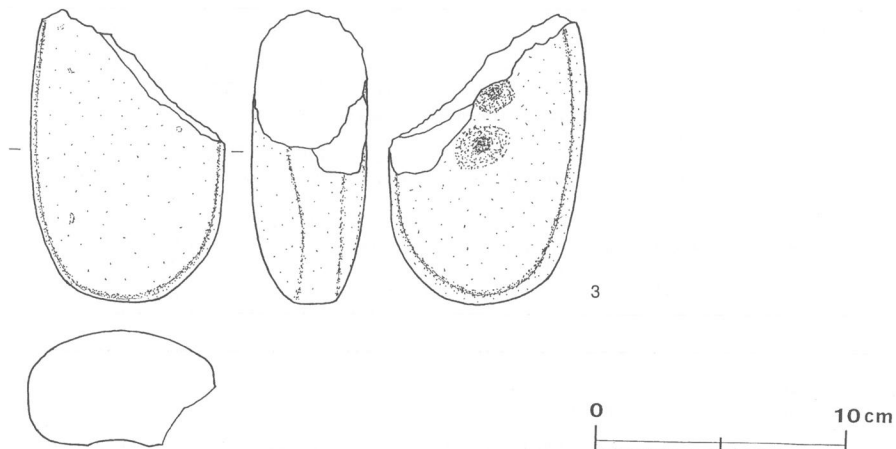
- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量

遺物 縄文土器片4点，磨石1点が出土している。そのうち縄文土器片2点，磨石1点を抽出・図示した。1は浅鉢の口縁部付近の破片，2は深鉢の胴部から底部にかけての破片で，いずれも覆土上層から出土している。3は磨石で，覆土から出土している。

所見 時期は出土している土器が破片であり，覆土上層から出土であるため明確ではないが，中期後葉と考えられる。



第425図 第611号土坑・出土遺物実測図



第426図 第611号土坑出土遺物実測図

第611号土坑出土遺物観察表 (第425・426図)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
1	浅鉢 縄文土器	B (4.6)	口縁部片。口縁部は緩やかに外傾する。口唇部外面は沈線により文様を描出している。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P 1273 5%
2	深鉢 縄文土器	B (4.1) C 12.5	胴部から底部にかけての破片。胴部は直線的に立ち上がる。無文。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P 1274 10%

図版番号	器種	計測値				石質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
3	磨石	(11.6)	7.8	4.5	(542.8)	安山岩	一部欠損。裏面に凹みが2か所ある。	Q 1016

### 第612号土坑 (第427図)

**位置** 調査1区の西部, C 4 c7区。

**重複関係** 本跡は第591号土坑に掘り込まれていることから, 本跡が古い。

**規模と平面形** 第591号土坑と重複しているため, 開口部は長径1.70m, 短径は推定で1.52mの楕円形である。底部は長径1.90m, 短径は推定で1.72mの楕円形で, 深さは54cmである。P 2付近の開口部には半円形状に突出している部分があり, 長さ70cm, 幅40cmを測る。

**壁** フラスコ状を呈する。

**底** 平坦である。

**ピット** 2か所。P 1は南東壁際に位置し, 第591号土坑のP 1と重複しているため, 径32cmほどの円形と推定され, 深さ14cmである。P 2は北西壁際に位置し, 径40cmほどの円形で, 深さ114cmである。P 2については土層断面で確認することができなかったが, P 2付近の開口部には半円形状に突出している部分があることから, 別の遺構のピットである可能性がある。

**覆土** 第1～6層は第591号土坑の覆土で, 第7～11層が本跡の覆土である。レンズ状に堆積することから, 自然堆積と考えられる。

土層解説

- 7 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
- 8 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・炭化粒子少量
- 9 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
- 10 暗褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 11 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量

遺物 縄文土器片22点が出土している。そのうち縄文土器片3点を抽出・図示した。1は上半部が欠損する深鉢, 2は深鉢の胴部から底部にかけての破片, 3は深鉢の口縁部片で, いずれも覆土下層から出土している。

所見 時期は, 出土土器から中期後葉(加曾利E I 式期)と考えられる。



第427図 第612号土坑・出土遺物実測図

第612号土坑出土遺物観察表 (第427図)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
1	深鉢 縄文土器	B (15.0) C 9.2	上半部欠損。胴部は開きながら内彎して立ち上がり, 頸部で屈曲する。頸部に沈線を巡らし, 胴部は沈線により文様を描出している。地文はLの無節縄文で, 縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P 1275 40% P L 39

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
2	深鉢 縄文土器	B (12.5) C 11.6	胴部から底部にかけての破片。胴部は直線的に立ち上がる。クシ状工具による条線文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 良好	P 1276 20% 内面に炭化物附着 底部に網代痕
3	深鉢 縄文土器	B (8.1)	口縁部片。口縁部は内彎する。口縁部は細い隆帯により文様を描出している。地文はRLの単節縄文で、横方向に施している。	長石・石英・雲母 灰褐色 良好	T P 1188 5%

### 第613号土坑（第428～430図）

**位置** 調査1区の南西部，C 4 e6区。

**重複関係** 第1号堀に掘り込まれていることから，本跡が古い。本跡と第629号土坑は重複しているが，新旧関係は不明である。

**規模と平面形** 開口部は長径2.42m，短径2.00mの楕円形である。底面は長径2.78m，短径2.56mのほぼ円形で，深さは78cmである。

**壁** フラスコ状を呈する。北東壁は第629号土坑と重複しているため，ほぼ直立する。

**底** ほぼ平坦である。

**ピット** 1か所。P1は長径30cm，短径25cmの円形で，深さは7cmである。

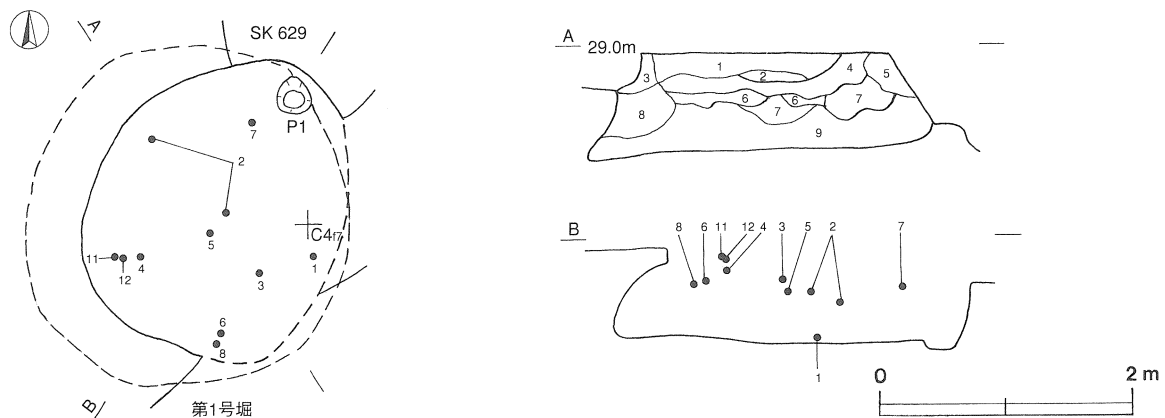
**覆土** 9層に分層され，第7～9層はローム小ブロックを多く含んでいることから，人為堆積と考えられる。

#### 土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化物・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 炭化物少量，ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物少量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
- 6 黒褐色 炭化粒子中量，炭化物・白色粘土小ブロック少量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量
- 7 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量，炭化物少量，ローム中ブロック・炭化粒子微量
- 8 暗褐色 ローム中ブロック・炭化粒子微量
- 9 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック・炭化物少量，炭化粒子微量

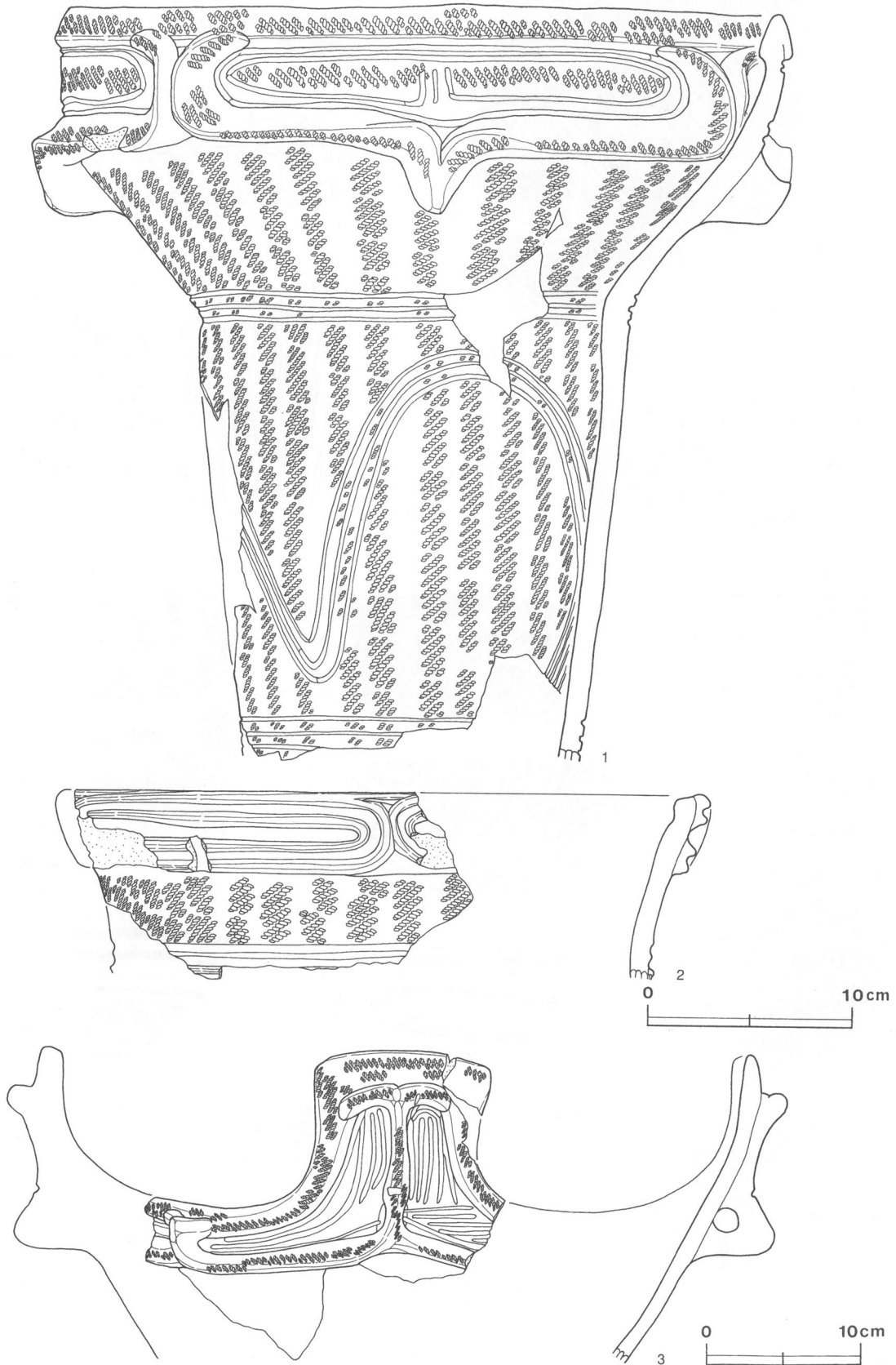
**遺物** 縄文土器片245点，石匙1点が出土している。そのうち縄文土器片16点，石匙1点を抽出・図示した。

1は底部が欠損する深鉢で，覆土下層(第9層)から出土している。2は深鉢の口縁部から胴部にかけての破片，3は大波状口縁を呈する深鉢の口縁部から頸部にかけての破片，4は深鉢の口縁部から胴部にかけての破片，5・6は深鉢の口縁部から頸部にかけての破片，7は深鉢の把手部片，8は深鉢の胴部片，11は深鉢の口縁部片，12は深鉢の胴部片で，いずれも覆土上層から出土している。9・10は深鉢の口縁部片，13・16は深鉢の胴部片，14・15は深鉢の頸部片，17は石匙で，いずれも覆土から出土している。

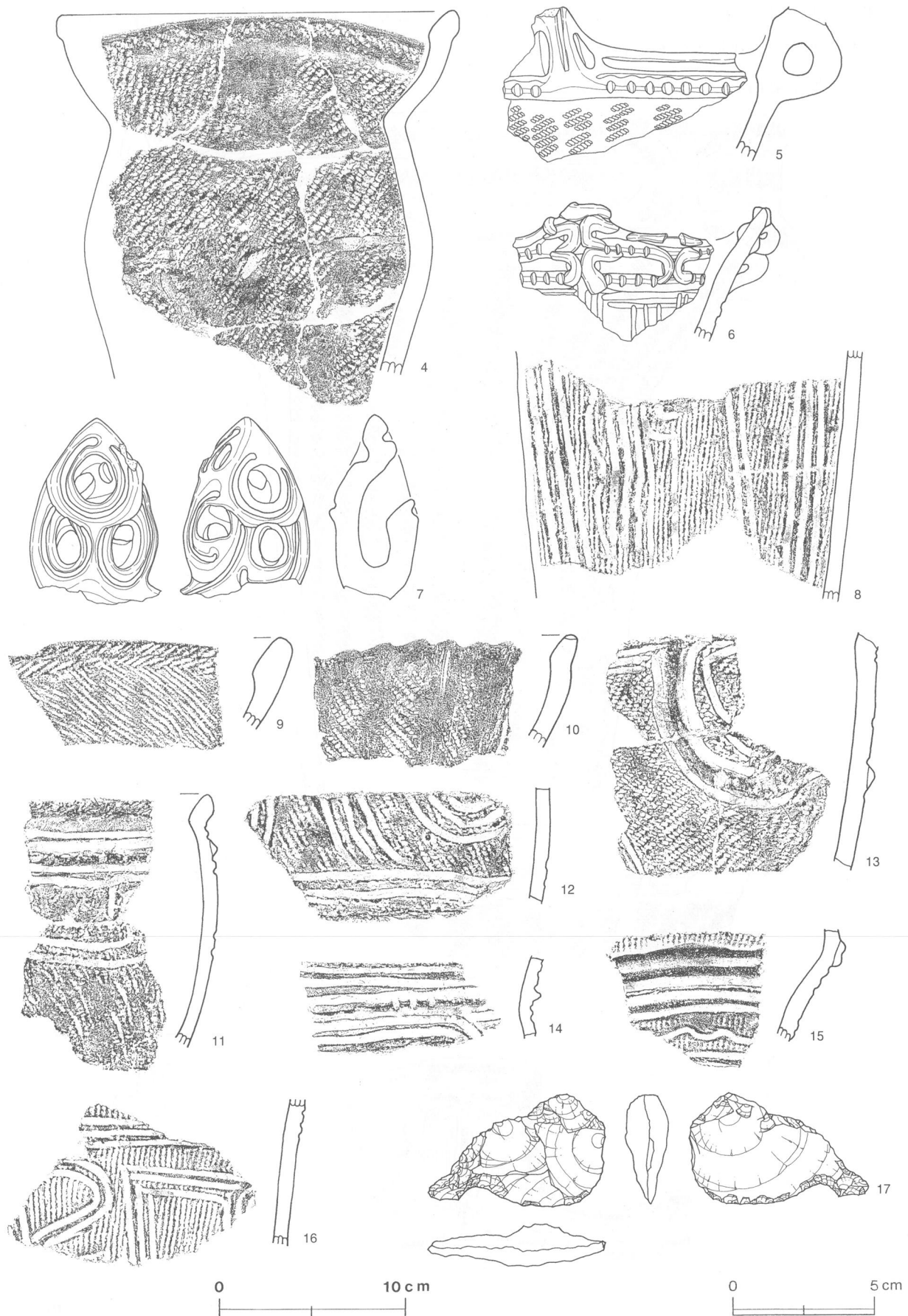


第428図 第613号土坑実測図

所見 覆土下層から出土した1は中期中葉(阿玉台Ⅳ式期)のもので、覆土上層から出土した土器は中期中葉(阿玉台Ⅳ式期)ものと中期後葉(加曾利EⅠ式期)のものとが混在している。本跡の廃絶時期は、覆土下層の出土土器から中期中葉(阿玉台Ⅳ式期)と考えられる。



第429図 第613号土坑出土遺物実測図(1)



第430图 第613号土坑出土遗物实测图(2)

第613号土坑出土遺物観察表（第429・430図）

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
1	深鉢 縄文土器	A 34.5 B (36.0)	胴部の一部及び底部欠損。胴部は直線的に立ち上がり、頸部で屈曲して外傾し、口縁部は内彎する。口縁部は鐮状の隆帯により4単位の区画文を形成し、区画文の中央部は下方に突出させている。頸部と胴部の境には3条一組の沈線を巡らし、胴部には沈線による波状文を施している。地文はRLの単節縄文で、口縁部は横方向に、それ以外は縦方向に施している。	長石・雲母 灰褐色 普通	P 1278 60% P L 39
2	深鉢 縄文土器	A [31.0] B (9.1)	口縁部から胴部にかけての破片。頸部は外傾し、口縁部に至る。口縁部には背に沈線を有する隆帯により4単位の区画文を形成している。頸部には沈線を巡らしている。地文はRLの単節縄文で、縦方向に施している。	長石・石英・雲母 灰褐色 普通	P 1284 10%
3	深鉢 縄文土器	A [45.6] B (20.2)	口縁部から頸部にかけての破片。頸部は外傾し、口縁部はわずかに内彎する。4単位の大波状口縁を呈し、波頂部の形態は台形状である。口縁部は波頂部下と波底部下に隆帯を垂下させて区画文を形成し、区画文内には沈線により文様を描出している。RLの単節縄文を主に横方向に施している。	長石・石英・雲母 黒褐色 普通	P 1279 10%
4	深鉢 縄文土器	A [21.0] B (19.5)	口縁部から胴部にかけての破片。胴部はわずかに内彎して立ち上がり、頸部で屈曲して、口縁部は外傾する。RLの単節縄文を、口唇部は横方向に、それ以外は縦方向に施している。	長石・石英 灰褐色 普通	P 1280 15%
5	深鉢 縄文土器	B (8.3)	口縁部から頸部にかけての破片。頸部は外傾し、口縁部に至る。口縁部には橋状把手を有し、押圧文を有する隆帯を巡らしている。頸部にはRLの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 橙色 良好	P 1282 5%
6	深鉢 縄文土器	B (7.5)	小波状口縁を呈する口縁部から頸部にかけての破片。頸部は外傾し、口縁部に至る。口縁部には押圧文を有する隆帯を巡らし、幅狭の口縁部文様帯を形成している。波頂部直下にはX字状の隆帯文を施している。頸部には沈線で文様を描出している。	長石・石英・雲母 灰褐色 普通	P 1283 5%
7	深鉢 縄文土器	B (9.9)	眼鏡状の把手部片。中空で、形状は縦長の紡錘形である。孔に沿って沈線文を施している。	長石・石英 灰褐色 良好	P 1285 5%
8	深鉢 縄文土器	B (13.3)	胴部片。胴部は直線的に立ち上がる。3条一組の沈線文を懸垂させている。地文は撚糸文である。	長石・石英・雲母 にぶい橙黄色 普通	P 1288 10%
9	深鉢 縄文土器	B (5.0)	口縁部片。口縁部は外傾し、内面に稜を有する。Lの無節縄文を、口唇部と口唇部外面には横方向に、それ以外は縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい黄橙色 良好	T P 1189 5%
10	深鉢 縄文土器	B (6.1)	口縁部片。口縁部はわずかに外傾し、内面に稜を有する。口唇部に押圧文を施し、LRの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい橙黄色 普通	T P 1190 5%
11	深鉢 縄文土器	B (13.6)	口縁部片。口縁部はわずかに内彎し、内面に稜を有する。口縁部に隆帯を巡らし、沈線により文様を描出している。地文はLの無節縄文で、口唇部は横方向に、それ以外は縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい黄橙色 普通	T P 1192 5%
12	深鉢 縄文土器	B (6.2)	胴部片。胴部は直立する。沈線により文様を描出している。地文はLRの単節縄文で、縦方向に施している。	長石・石英 にぶい黄褐色 良好	T P 1194 5%
13	深鉢 縄文土器	B (12.0)	胴部片。胴部は直立する。隆帯により文様を描出し、隆帯に沿って沈線文を施している。地文はRLの単節縄文で、縦方向に施している。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	T P 1191 5%
14	深鉢 縄文土器	B (4.2)	頸部片。頸部はわずかに外傾する。頸部にキザミを有する細い隆帯を巡らし、沈線により文様を描出している。	長石・石英・雲母 にぶい黄橙色 良好	T P 1196 5%
15	深鉢 縄文土器	B (5.9)	頸部片。頸部はわずかに外傾する。口縁部と頸部の境に背に沈線を有する隆帯を巡らし、沈線により文様を描出している。地文は撚糸文である。	長石・石英・雲母 黒褐色 良好	T P 1197 5%
16	深鉢 縄文土器	B (7.8)	胴部片。胴部はほぼ直立する。沈線により文様を描出している。地文は撚糸文である。	長石・石英・雲母 黒褐色 良好	T P 1198 5% TP 1197と同一個体

図版番号	器種	計測値				石質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
17	石匙	4.0	6.4	1.5	26.7	メノウ	縦長剥片を素材。つまみ部の右側縁を刃部としている。	Q1017



第616号土坑（第431～433図）

位置 調査1区の中央部，B 5 i3区。

重複関係 本跡は第24号住居跡と重複しており，出土遺物から本跡が古い。

規模と平面形 開口部は長径1.00m，短径0.93mの円形，底面は長径2.24m，短径2.08mの円形で，深さは114cmである。

壁 フラスコ状を呈する。

底 平坦である。

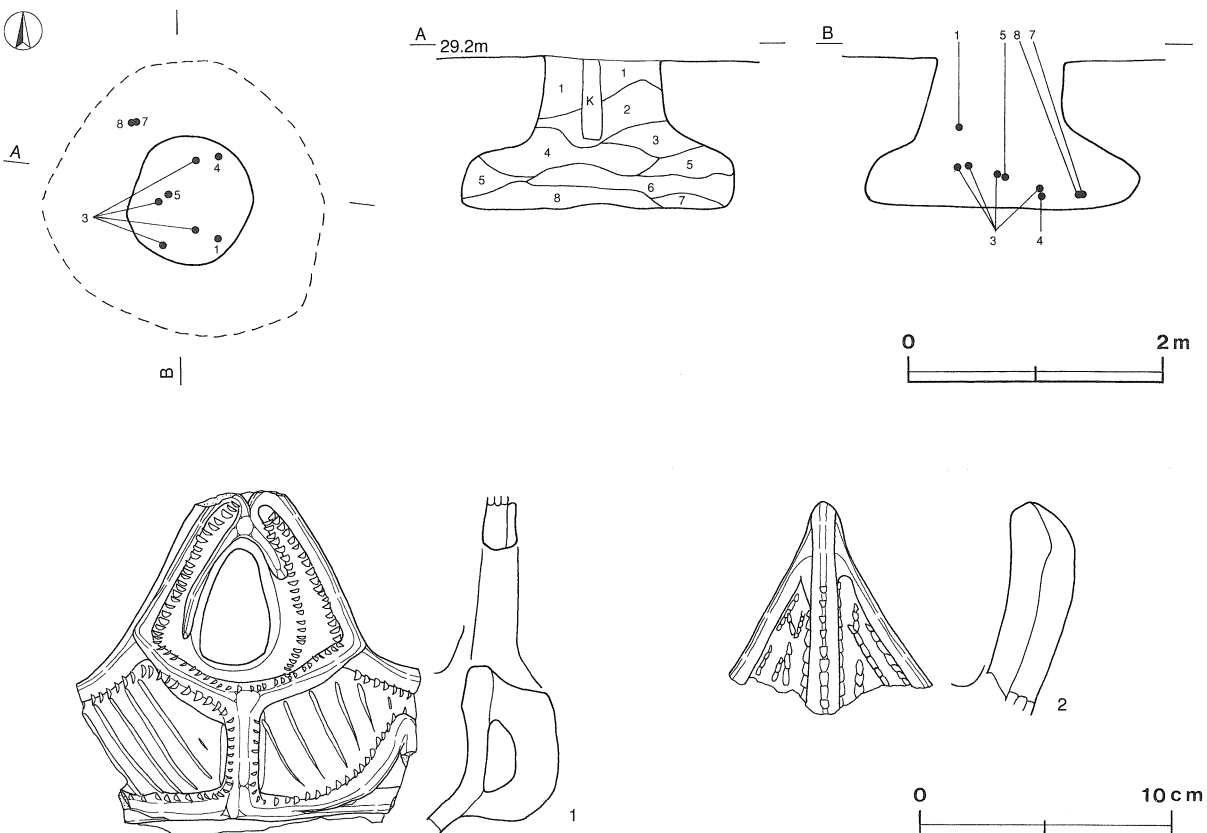
覆土 8層に分層され，レンズ状に堆積することから，自然堆積と考えられる。

土層解説

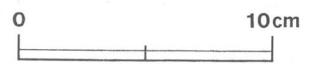
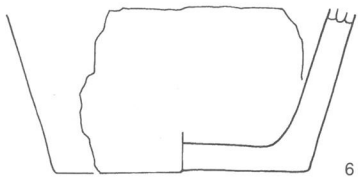
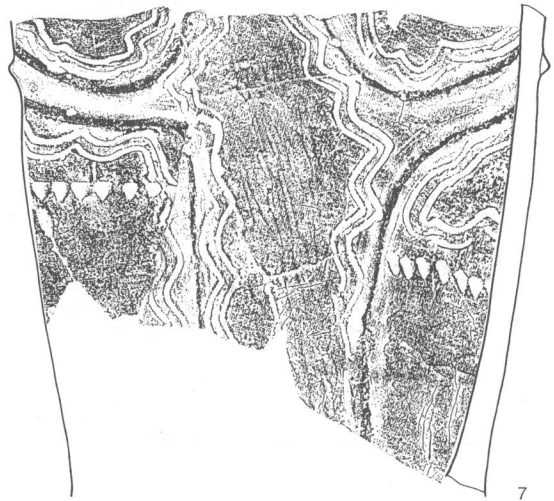
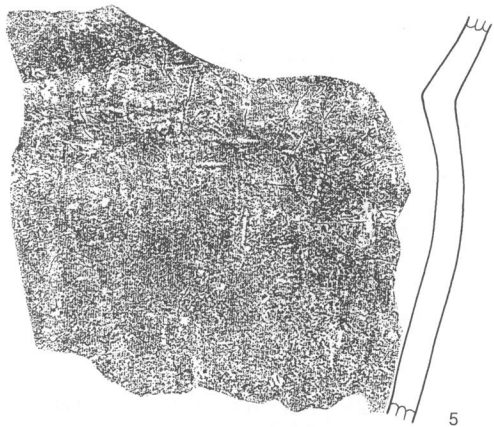
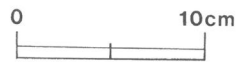
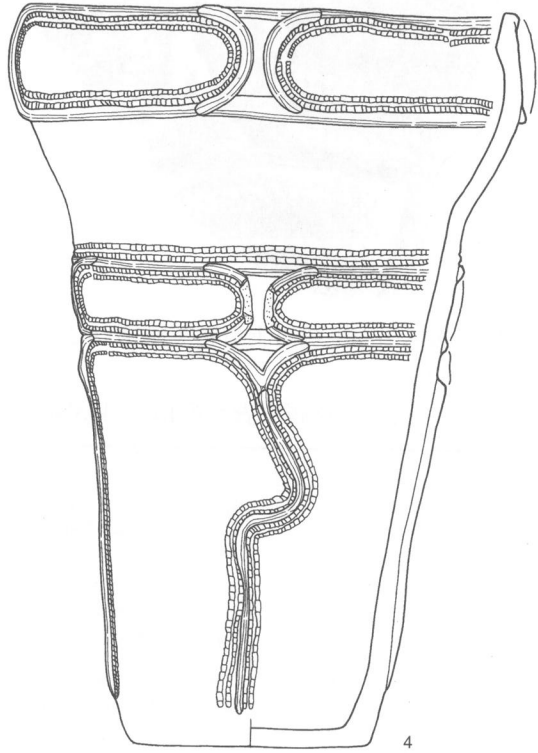
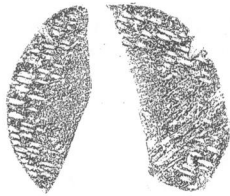
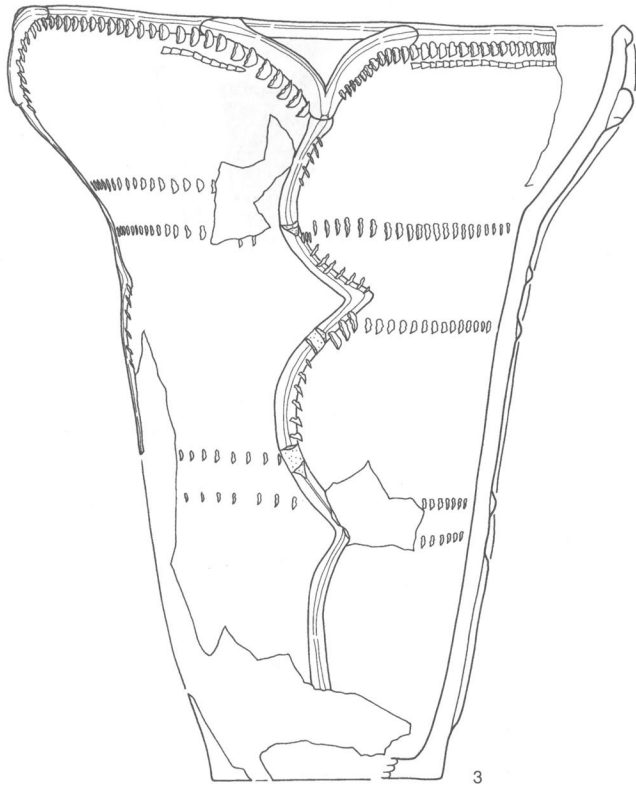
- 1 黒褐色 ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子・炭化物微量
- 3 極暗褐色 炭化粒子少量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・炭化物・炭化粒子少量，焼土粒子・炭化材・ローム粒子微量
- 5 黒褐色 ローム小ブロック・炭化物・炭化粒子少量，ローム粒子微量
- 6 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化材・炭化物・炭化粒子微量
- 7 極暗褐色 ローム小ブロック・炭化物・炭化粒子少量，焼土粒子・ローム粒子微量
- 8 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量，鹿沼バミス粒子少量，ローム中ブロック・炭化物・炭化粒子微量

遺物 縄文土器片144点，凹石片1点が出土している。そのうち縄文土器9点を抽出・図示した。3は胴部の一部が欠損する深鉢，4は底部の一部が欠損する深鉢，5は深鉢の頸部から胴部にかけての破片，7は深鉢の胴部片，8は深鉢の口縁部片で，いずれも覆土下層から出土している。1は環状把手を有する深鉢の口縁部片で，覆土中層から出土している。2は深鉢の波状口縁部片，6は深鉢の胴部から底部にかけての破片，9は深鉢の口縁部片で，いずれも覆土から出土している。

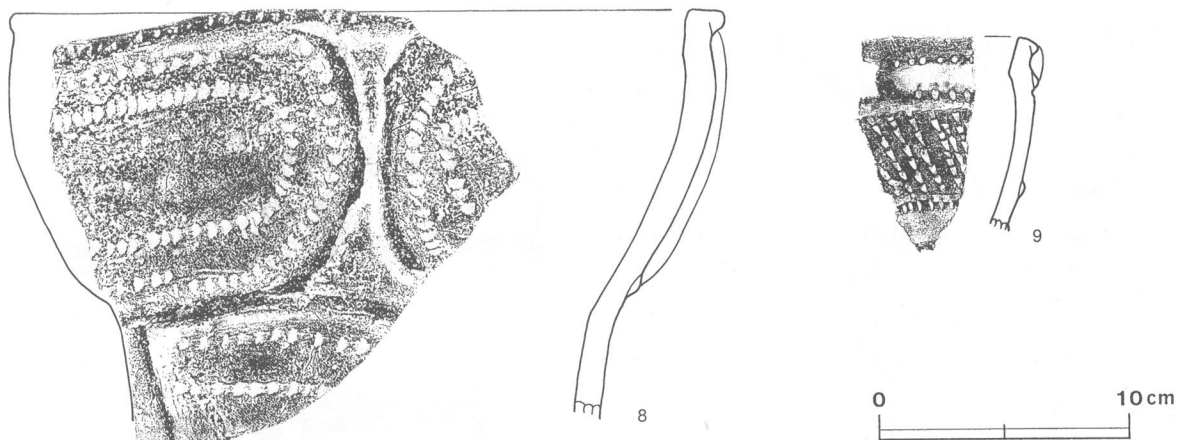
所見 時期は，出土土器から中期中葉(阿玉台Ⅱ式期)と考えられる。



第431図 第616号土坑・出土遺物実測図



第432图 第616号土坑出土遗物实测图(1)



第433図 第616号土坑出土遺物実測図(2)

第616号土坑出土遺物観察表(第431~433図)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
1	深鉢 縄文土器	B(13.8)	環状の把手を有する口縁部片。口縁部はほぼ直立する。波頂部下の口縁部には橋状把手を有し、隆帯に沿ってキザミ目を施している。口縁部には斜位の条線文を施している。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P 1292 5%
2	深鉢 縄文土器	B(8.5)	波状口縁を呈する口縁部片。口縁部はほぼ直立する。口縁部は波頂部から隆帯を垂下させている。隆帯に沿って半截竹管による結節平行沈線文を施している。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P 1294 3%
3	深鉢 縄文土器	A 31.5 B 45.6 C [12.0]	口縁部・胴部一部欠損。胴部は直線的に立ち上がり、頸部で屈曲して、口縁部は開きながら内彎する。口縁部に隆帯による4単位のV字状文を施し、そのV字状文を起点に蛇行する隆帯を垂下させている。隆帯に沿ってアナダラ属の貝によるキザミを施し、器面には同工具によるキザミ目列を巡らしている。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P 1290 65% 底部に網代痕
4	深鉢 縄文土器	A 25.2 B 39.9 C 12.6	底部一部欠損。胴部は直線的に立ち上がり、頸部で屈曲して、口縁部は内彎する。口縁部と胴部上位には隆帯による4単位の楕円区画文を形成し、隆帯に沿って半截竹管による結節平行沈線文を施している。胴部下位には蛇行する隆帯を垂下させている。	長石・石英 灰褐色(上半部) にぶい橙色(下半部) 普通	P 1289 95% P L 39
5	深鉢 縄文土器	B(16.1)	頸部から胴部にかけての破片。胴部はわずかに内彎して立ち上がり、頸部は屈曲して外傾する。無文。	雲母 にぶい赤褐色 普通	P 1295 10%
6	深鉢 縄文土器	B(6.3) C 10.2	胴部から底部にかけての破片。胴部は直線的に立ち上がる。無文。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P 1296 10%
7	深鉢 縄文土器	B(19.5)	胴部片。胴部は直線的に立ち上がる。胴部は隆帯による文様を挿出し、隆帯に沿って半截竹管による波状の平行沈線文を施している。器面にはキザミ目列を巡らしている。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P 1291 20%
8	深鉢 縄文土器	B(16.2)	口縁部から胴部にかけての破片。胴部は直線的に立ち上がり、頸部で屈曲して、口縁部は開きながら内彎する。口縁部には隆帯による4単位の楕円区画文を形成し、隆帯に沿うようにキザミ目列を施している。	長石・石英・雲母 灰褐色 普通	P 1293 10%
9	深鉢 縄文土器	B(7.8)	口縁部片。口縁部はわずかに内彎する。口縁部には隆帯を巡らし、棒状工具による結節沈線文を充填している。	長石・石英・雲母 黒褐色 普通	T P 1199 5%

第617号土坑(第434・435図)

位置 調査1区の中央部、C 5a1区。

重複関係 本跡は第618号土坑に掘り込まれていることから、本跡が古い。

規模と平面形 本跡は第618号土坑と重複しているため、開口部は長径1.32m、短径が推定で1.30mの円形であ

る。底面は長径2.60m，短径が推定で1.78mの楕円形で，深さは78cmである。

**壁** フラスコ状を呈する。

**底** ほぼ平坦である。

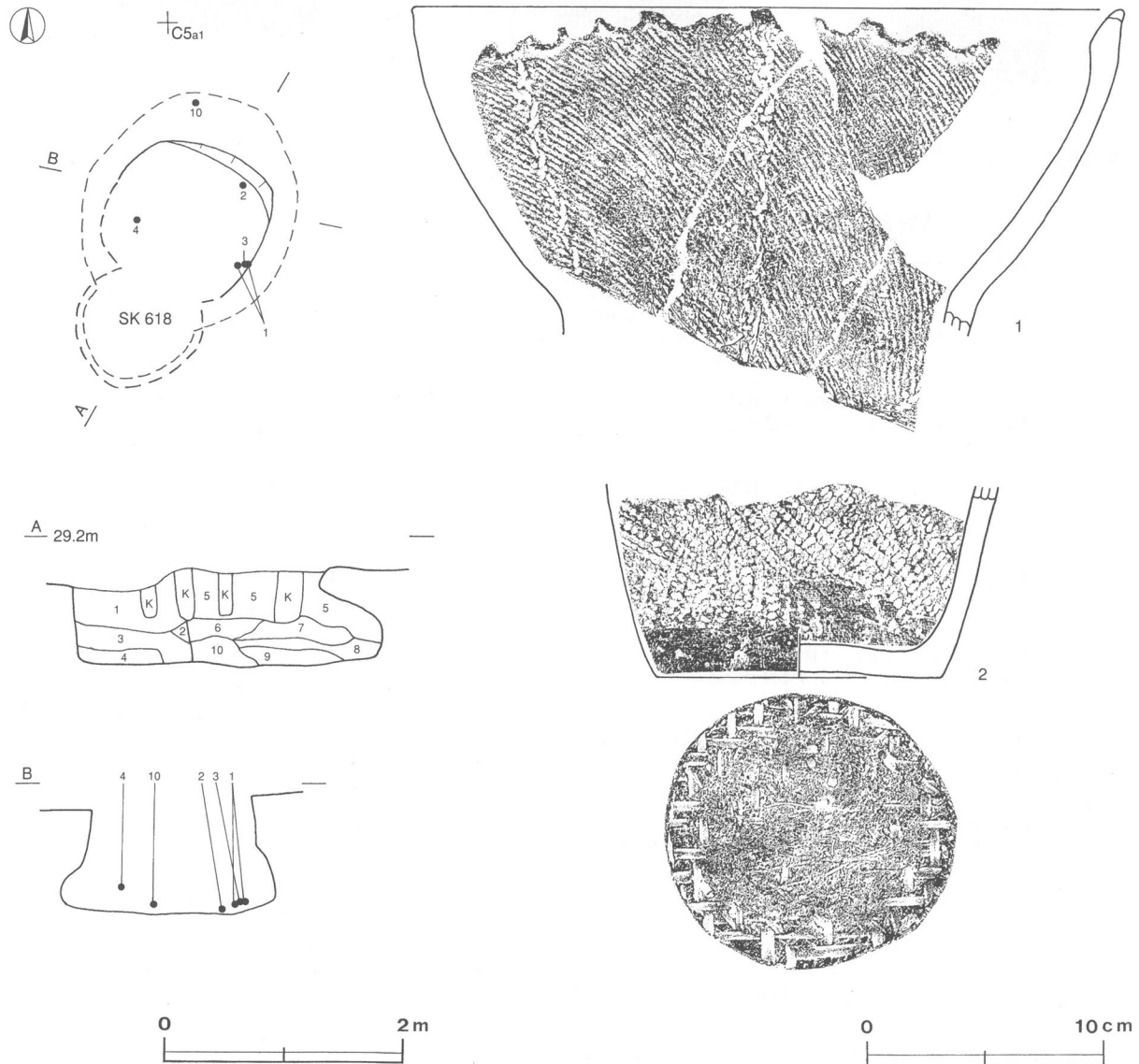
**覆土** 第1～4層は第618号土坑の覆土で，第5～10層が本跡の覆土である。6層に分層され，レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

**土層解説**

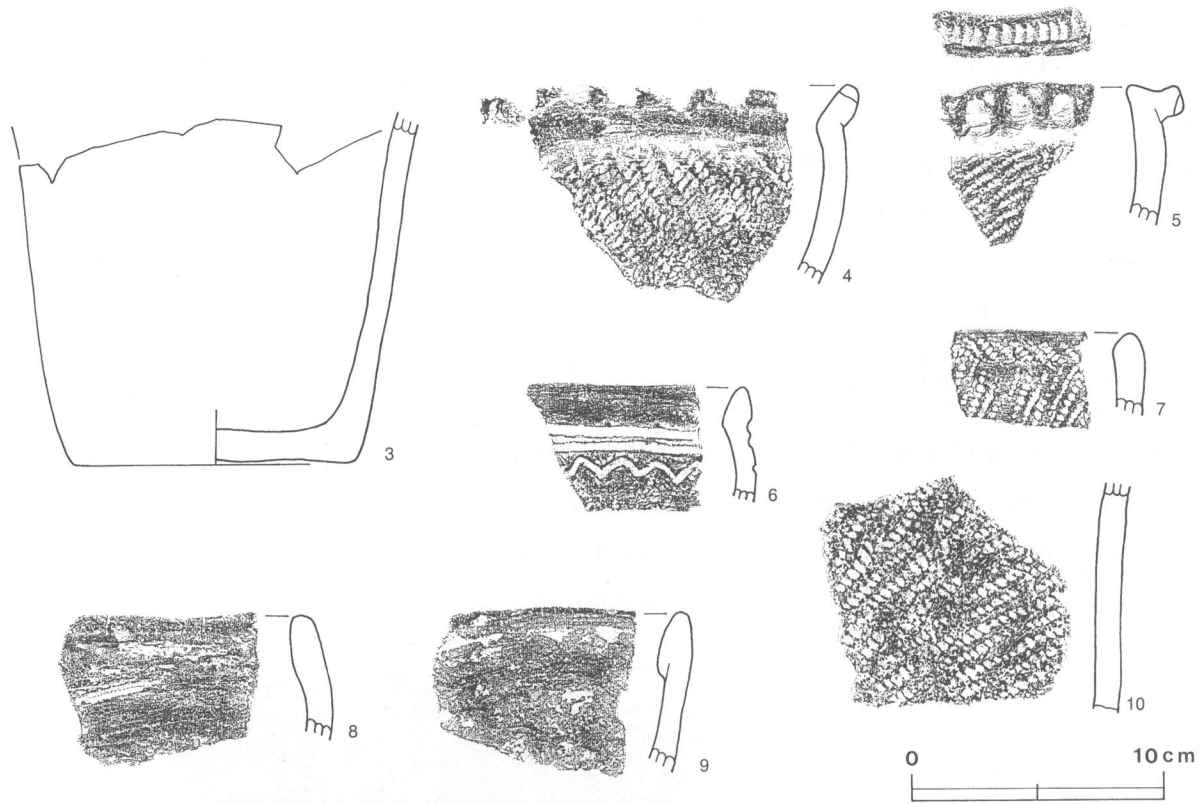
- 5 黒褐色 ローム粒子・炭化物微量
- 6 極暗褐色 ローム粒子微量
- 7 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 8 暗褐色 ローム粒子中量，鹿沼パミス粒子少量
- 9 黒褐色 炭化粒子・鹿沼パミス粒子微量
- 10 暗褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量

**遺物** 縄文土器片184点が出土している。そのうち縄文土器片10点を抽出・図示した。1は深鉢の口縁部から頸部にかけての破片，2・3は深鉢の胴部から底部にかけての破片，4は深鉢の口縁部片，10は深鉢の胴部片で，いずれも覆土下層から出土している。5～9は深鉢の口縁部片で，いずれも覆土から出土している。

**所見** 時期は，出土土器から中期中葉(阿玉台Ⅲ・Ⅳ式期)と考えられる。



第434図 第617号土坑・出土遺物実測図



第435図 第617号土坑出土遺物実測図

第617号土坑出土遺物観察表 (第434・435図)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
1	深鉢 縄文土器	A [30.0] B (23.9)	口縁部から頸部にかけての破片。頸部で屈曲し、口縁部は開きながらわずかに内彎する。口唇部は押圧文を連続して施している。一部に結節のあるLの無節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 暗赤褐色 普通	P 1297 15%
2	深鉢 縄文土器	B (8.1) C 12.2	胴部から底部にかけての破片。胴部は直線的に立ち上がる。R Lの単節縄文を横及び斜方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P 1299 10% 底部に網代痕
3	深鉢 縄文土器	B (13.7) C 11.0	胴部から底部にかけての破片。胴部は直線的に立ち上がる。無文。	長石・石英・雲母 にぶい赤褐色 普通	P 1298 10%
4	深鉢 縄文土器	B (8.0)	口縁部片。口縁部はわずかに内彎し、内面に稜を有する。口唇部に押圧文を施している。R Lの単節縄文を横方向に施している。	長石・石英・雲母 黒褐色 普通	T P 1210 5%
5	深鉢 縄文土器	B (5.6)	口縁部片。口縁部はわずかに内彎する。口唇部外面に押圧文を有する隆帯を巡らしている。R Lの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	T P 1211 3%
6	深鉢 縄文土器	B (5.5)	口縁部片。口縁部はわずかに内彎し、内面に稜を有する。口唇部は肥厚し、口縁部には沈線による鋸歯縄文を巡らしている。	長石・石英・雲母 黒褐色 普通	T P 1212 3%
7	深鉢 縄文土器	B (3.4)	口縁部片。口縁部はわずかに内彎する。R Lの単節縄文を口唇部外面は横方向に、それ以外は縦方向に施している。	長石・石英・雲母 褐灰色 普通	T P 1213 3%
8	深鉢 縄文土器	B (4.8)	口縁部片。口縁部はわずかに内彎する。無文。	長石・石英・雲母 黒褐色 普通	T P 1215 5%
9	深鉢 縄文土器	B (6.3)	口縁部片。口縁部はほぼ直立し、内面に稜を有する。無文。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	T P 1214 5%

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
10	深鉢 縄文土器	B (9.0)	胴部片。胴部はほぼ直立する。RLの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 褐灰色 普通	TP1216 5%

### 第618号土坑 (第436図)

**位置** 調査1区の中央部, C 4 a0区。

**重複関係** 本跡は第617号土坑を掘り込んでいることから, 本跡が新しい。

**規模と平面形** 本跡は第617号土坑と重複しているため, 長径が推定で1.05m, 短径が推定で1.00mの円形と推定され, 深さは78cmである。

**壁** ほぼ直立する。

**底** ほぼ平坦である。

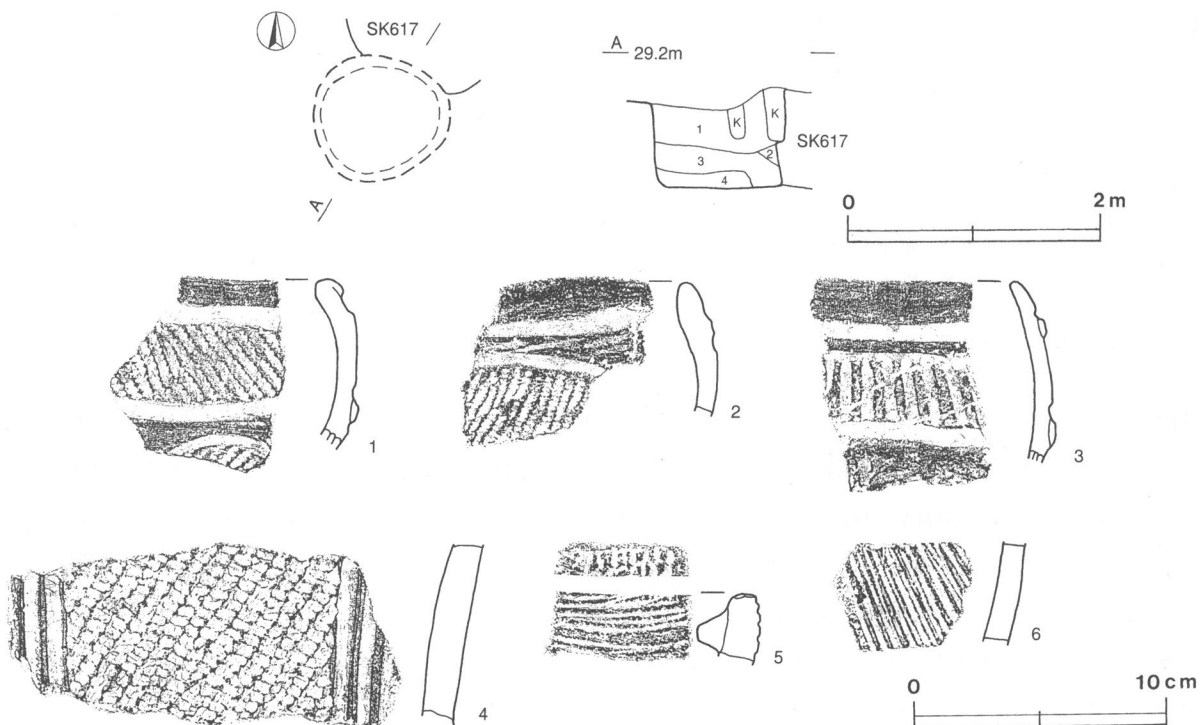
**覆土** 4層に分層され, レンズ状に堆積していることから, 自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 極暗褐色 ローム粒子微量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 4 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量

**遺物** 縄文土器片23点が出土している。そのうち縄文土器片6点を抽出・図示した。1は深鉢の口縁部から頸部にかけての破片, 2・3は深鉢の口縁部片, 4は深鉢の胴部片で, いずれも覆土から出土している。5・6は曽利式土器で, 5が深鉢の口縁部片, 6が深鉢の胴部片で, いずれも覆土から出土している。

**所見** 時期は, 出土土器から中期後葉(加曾利EⅢ式期)と考えられる。



第436図 第618号土坑・出土遺物実測図

第618号土坑出土遺物観察表（第436図）

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
1	深鉢 縄文土器	B (6.8)	口縁部から頸部にかけての破片。口縁部は内彎する。沈線の沿う隆帯により区画文を施している。地文はRLの単節縄文で、口縁部は横方向に、頸部は縦方向に施している。	長石・石英 橙色 普通	TP1217 5%
2	深鉢 縄文土器	B (5.4)	口縁部片。口縁部は内彎する。口縁部は沈線による区画文を施している。地文はRLの単節縄文で、縦方向に施している。	長石・石英 橙色 普通	TP1218 5%
3	深鉢 縄文土器	B (7.2)	口縁部片。口縁部は内彎する。沈線の沿う隆帯による区画文を施している。区画文内に沈線文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	TP1219 5%
4	深鉢 縄文土器	B (7.2)	胴部片。胴部はわずかに外傾する。沈線による3条一組の懸垂文を施している。地文はRLRの複節縄文で、縦方向に施している。	長石・石英 にぶい褐色 普通	TP1220 5%
5	深鉢 縄文土器	B (2.7)	口縁部片。口縁部はほぼ直立する。口縁部の内面には突出した隆帯を巡らし、口唇部には半截竹管によるキザミを施している。口縁部には半截竹管による平行沈線文を横方向に施している。	長石・石英 明褐色 普通	TP1221 5%
6	深鉢 縄文土器	B (3.9)	胴部片。胴部はわずかに外傾して立ち上がる。胴部には半截竹管による平行沈線文を斜方向に施している。	長石・石英 にぶい褐色 普通	TP1222 5%

第622号土坑（第437・438図）

位置 調査1区の南西部，C4f7区。

重複関係 第9号溝に掘り込まれていることから，本跡が古い。

規模と平面形 開口部は長径1.82m，短径1.76mの円形，底面は長径2.80m，短径2.64mの円形で，深さは80cmである。

壁 フラスコ状を呈する。

底 平坦である。

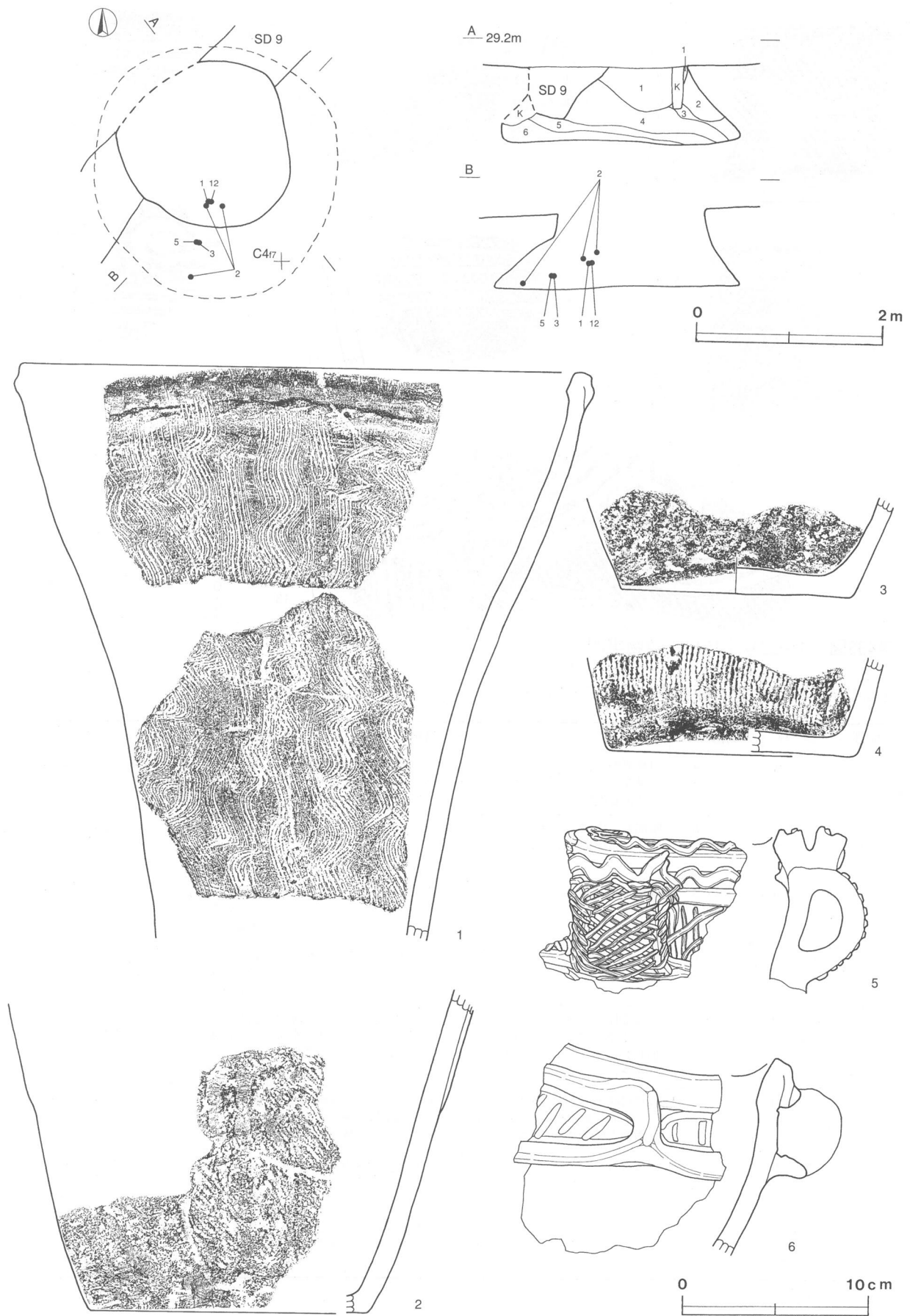
覆土 6層に分層され，北壁側から堆積している。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量，炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量，鹿沼バミス粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量，鹿沼バミス粒子少量
- 4 暗褐色 鹿沼バミス粒子中量，ローム粒子・炭化物微量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量，炭化物・焼土粒子微量
- 6 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック少量，炭化粒子・鹿沼バミス粒子微量

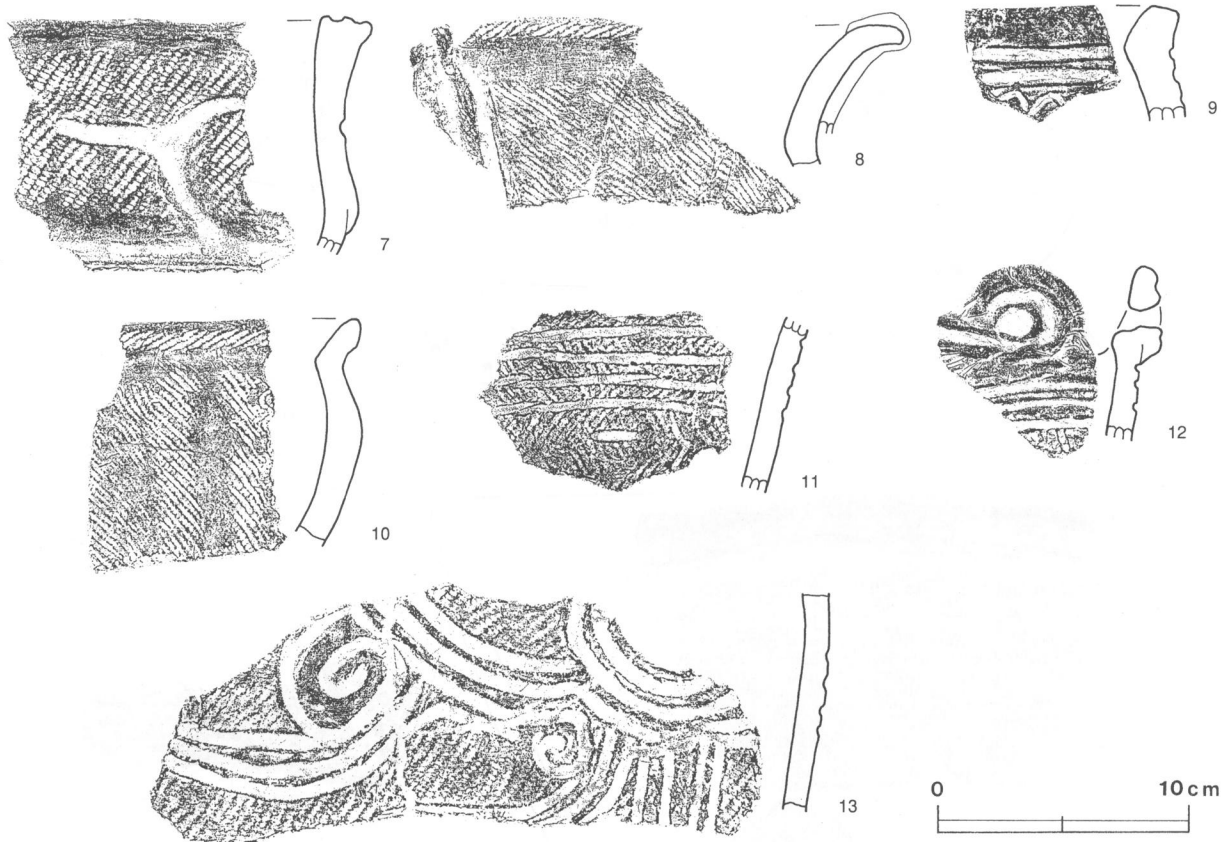
遺物 縄文土器片135点が出土している。そのうち縄文土器片13点を抽出・図示した。1は深鉢の口縁部から胴部にかけての破片，2・3は深鉢の胴部から底部にかけての破片，5は橋状把手を有する深鉢の口縁部片，12は環状把手を有する深鉢の口縁部片で，いずれも覆土中層から出土している。4は深鉢の胴部から底部にかけての破片，6は波状口縁を呈する深鉢の口縁部から頸部にかけての破片，7・9・10は深鉢の口縁部片，8は甕の口縁部片，11・13は深鉢の胴部片で，いずれも覆土から出土している。

所見 図示した土器は覆土中層の堆積時に廃棄されたもので，時期は中期中葉(阿玉台Ⅳ式期)と考えられる。本跡の廃絶時期は，覆土中層の堆積時と時間差がほとんどないと考えられることから，阿玉台Ⅳ式期と考えられる。



第437图 第622号土坑·出土遺物実測図





第438図 第622号土坑出土遺物実測図

第622号土坑出土遺物観察表 (第437・438図)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
1	深鉢 縄文土器	A [30.4] B (30.8)	口縁部から胴部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。口唇部は肥厚し、内面に稜を有する。クシ状工具による波状の条線文を縦方向に施している。	長石・石英 にぶい褐色 普通	P 1302 40%
2	深鉢 縄文土器	B (17.6) C [14.8]	胴部から底部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がる。3本一組の隆帯文を懸垂させている。	長石・白色礫粒 にぶい橙色 普通	P 1303 30%
3	深鉢 縄文土器	B (5.5) C 12.4	胴部から底部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がる。無文。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P 1304 5%
4	深鉢 縄文土器	B (5.0) C [12.8]	胴部から底部にかけての破片。胴部は直線的に立ち上がる。撚糸文を施している。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P 1305 5%
5	深鉢 縄文土器	B (9.0)	口縁部片。口縁部はわずかに外傾する。口唇部には背に沈線を有する隆帯によるS字状文を施し、細い隆帯による波状文を付加している。口縁部には橋状把手を有し、細い隆帯による格子状文を付加している。	長石・石英 にぶい褐色 普通	P 1300 5%
6	深鉢 縄文土器	B (11.0)	波状口縁を呈する口縁部から頸部にかけての破片。口縁部は突出した隆帯による区画文を施し、隆帯に沿って沈線文を施している。区画文内には沈線文を縦方向に施している。頸部は無文である。	長石・石英 にぶい赤褐色 普通	P 1301 5%
7	深鉢 縄文土器	B (9.5)	口縁部片。口縁部は肥厚し、ほぼ直立する。口縁部には沈線による三叉文を施している。地文はRLの単節縄文で、縦方向に施している。	長石・石英・雲母 暗褐色 普通	T P 1223 5%
8	甕 縄文土器	B (6.2)	口縁部片。口縁部は外反する。口唇部から隆帯を垂下させている。Lの無節縄文を口唇部は横方向に、それ以外は縦方向に施している。	長石・石英 赤褐色 普通	T P 1224 5%

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
9	深鉢 縄文土器	B (4.5)	口縁部片。口縁部は内傾し、内面に稜を有する。口縁部に半截竹管による平行沈線文を巡らしている。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	T P 1225 5%
10	深鉢 縄文土器	B (6.0)	口縁部片。口縁部は内彎し、口縁端部は短く外傾する。内面に稜を有する。L Rの単節縄文を口唇部外面は横方向に、それ以外は縦方向に施している。	長石・石英・雲母 黒褐色 良好	T P 1226 5%
11	深鉢 縄文土器	B (7.1)	胴部片。胴部は外傾して立ち上がる。沈線文を巡らしている。RとLの無節縄文を横方向に施し、羽状に構成している。	長石・石英・雲母 黒褐色 良好	T P 1229 5%
12	深鉢 縄文土器	B (6.9)	環状の把手を有する口縁部片。口縁部はわずかに外傾する。把手部には孔に沿って背に沈線文を有する隆帯を施している。口縁部には沈線文を巡らしている。地文はLの無節縄文で、縦方向に施している。	長石・石英・雲母 黒褐色 良好	T P 1227 5%
13	深鉢 縄文土器	B (8.5)	胴部片。胴部はわずかに内彎して立ち上がる。沈線による渦巻文を連結させて施している。地文はR Lの単節縄文で、縦方向に施している。	長石・石英 黒褐色 普通	T P 1228 5%

### 第630号土坑 (第439・440図)

**位置** 調査1区の南西部, C 4h6区。

**重複関係** 本跡は第1号堀に掘り込まれていることから, 本跡が古い。

**規模と平面形** 開口部は長径1.42m, 短径1.14mの楕円形で, 底面は長径1.58m, 短径1.26mの楕円形で, 深さは74cmである。

**壁** フラスコ状を呈する。

**底** 平坦である。

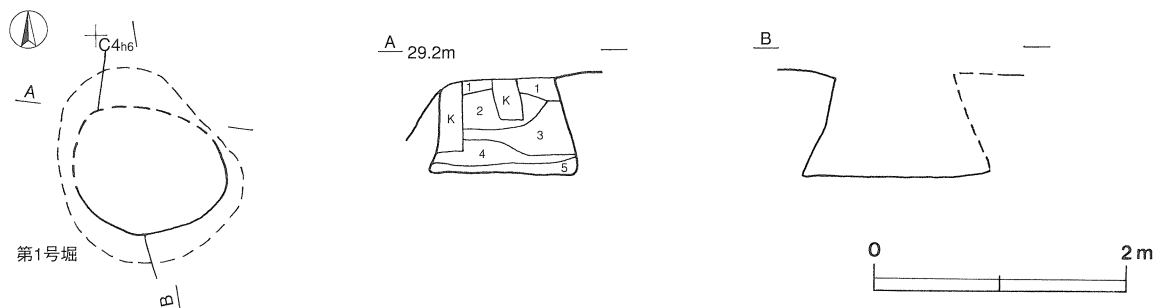
**覆土** 5層に分層され, レンズ状に堆積していることから, 自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

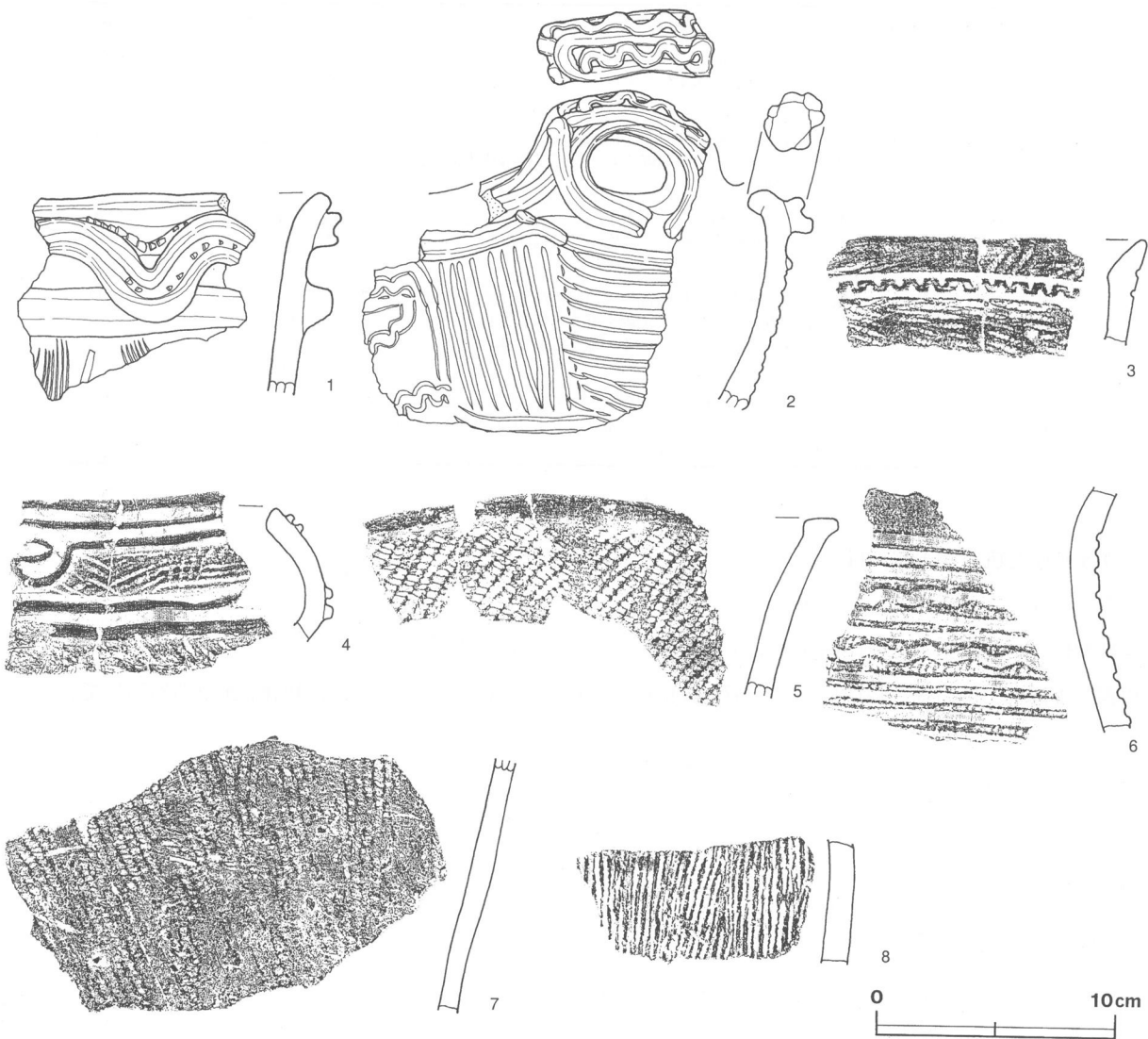
- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・焼土粒子・鹿沼バミス粒子微量
- 3 暗褐色 炭化粒子微量
- 4 暗褐色 鹿沼バミス粒子中量, ローム粒子少量, 鹿沼バミスブロック微量
- 5 暗褐色 焼土粒子微量

**遺物** 縄文土器片104点が出土している。そのうち縄文土器片8点を抽出・図示した。1は深鉢の口縁部から胴部にかけての破片, 2は環状把手を有する深鉢の口縁部片, 3・4・5は深鉢の口縁部片, 6は深鉢の頸部片, 7・8は深鉢の胴部片で, いずれも覆土から出土している。

**所見** 時期は, 出土土器から中期後葉(加曾利E I式期)と考えられる。



第439図 第630号土坑実測図



第440図 第630号土坑出土遺物実測図

第630号土坑出土遺物観察表（第440図）

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
1	深鉢 縄文土器	B (8.4)	口縁部から胴部にかけての破片。口縁部はわずかに外反する。口縁部と胴部の境には隆帯を巡らし、口縁部には背に沈線を有する隆帯による波状文を施している。胴部にはクシ状工具による条線文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P 1307 5%
2	深鉢 縄文土器	B (14.3)	環状の把手を有する口縁部片。口縁部はわずかに外傾する。把手部には孔に沿って細い隆帯を巡らし、把手の頂部には細い隆帯による波状文を施している。口縁部には半截竹管による平行沈線文を施している。	長石・石英・雲母 黒褐色 普通	P 1308 10%
3	深鉢 縄文土器	B (4.4)	口縁部片。口縁部はほぼ直立し、内面に稜を有する。口縁部には交互刺突による連続コの字状文を巡らしている。LRの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	T P 1231 5%
4	深鉢 縄文土器	B (5.6)	口縁部片。口縁部は内彎する。口縁部と頸部の境に2本一組の隆帯を巡らし、口縁部には細い隆帯による文様を描出している。地文はLRの単節縄文で、主に縦方向に施している。	長石・石英 にぶい橙色 良好	T P 1230 5%
5	深鉢 縄文土器	B (7.6)	口縁部片。口縁部は外反する。口唇部外面は肥厚している。RLの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	T P 1232 5%

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
6	深鉢 縄文土器	B (9.9)	頸部片。頸部は内傾しながら外反する。沈線を幾重にも巡らしている。地文は撚糸文である。	長石・石英・雲母 褐灰色 良好	T P 1235 5%
7	深鉢 縄文土器	B (10.4)	胴部片。胴部は外傾して立ち上がる。Lの無節縄文を縦方向に施している。	長石・石英 黒褐色 普通	T P 1237 5%
8	深鉢 縄文土器	B (5.3)	胴部片。胴部は直線的に立ち上がる。撚糸文を施している。	長石・石英・雲母 黒褐色 普通	T P 1236 5%

### 第631号土坑 (第441・442図)

**位置** 調査1区の南西部, C4g6区。

**規模と平面形** 開口部は長径1.12m, 短径0.96mの楕円形, 底面は長径2.12m, 短径2.00mのほぼ円形で, 深さは66cmである。

**壁** フラスコ状を呈する。

**底** ほぼ平坦である。

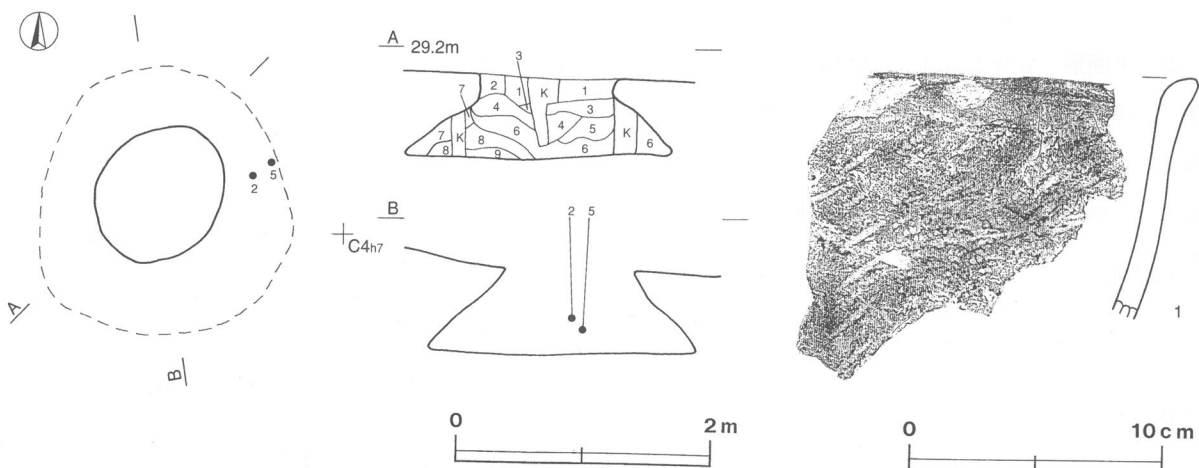
**覆土** 9層に分層され, レンズ状に堆積していることから, 自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

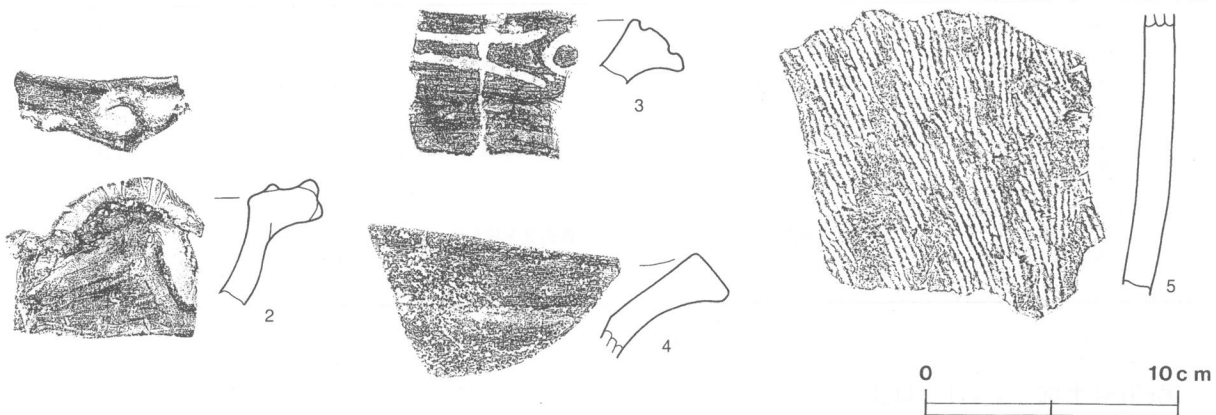
- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量
- 3 極暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 4 黒褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子・鹿沼パミス粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック少量, 鹿沼パミス粒子微量
- 6 極暗褐色 ローム粒子少量, 炭化物・炭化粒子微量
- 7 黒褐色 ローム粒子少量
- 8 暗褐色 ローム粒子・炭化物・炭化粒子微量
- 9 極暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・鹿沼パミス粒子微量

**遺物** 縄文土器片64点が出土している。そのうち縄文土器片5点を抽出・図示した。2は深鉢の口縁部片, 5は深鉢の胴部片で, いずれも覆土中層から出土している。1は深鉢の口縁部片, 3・4は浅鉢の口縁部片で, いずれも覆土から出土している。

**所見** 時期は, 出土土器から中期中葉(阿玉台IV式期)と考えられる。



第441図 第631号土坑・出土遺物実測図



第442図 第630号土坑出土遺物実測図

第631号土坑出土遺物観察表 (第441・442図)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
1	深鉢 縄文土器	B (9.4)	口縁部片。口縁部は外傾する。RLの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 褐色 良好	TP1239 5%
2	深鉢 縄文土器	B (5.7)	口唇部外面に突起を有する口縁部片。口縁部は外傾する。突起の頂部には隆帯による渦巻文を施している。口縁部には突起を起点に隆帯文を施している。	長石・石英 灰褐色 普通	TP1238 5%
3	浅鉢 縄文土器	B (2.4)	口縁部片。口縁部は緩やかに外反する。口唇部は平坦で、下端を突出させている。口唇部は沈線による文様を描出している。	長石・石英・雲母 褐色 良好	TP1241 5% 口唇部・内・外面赤彩
4	浅鉢 縄文土器	B (4.1)	波状口縁を呈する口縁部片。口縁部は緩やかに外反する。口唇部は平坦で、下端を突出させている。無文。	長石・石英 黒褐色 普通	TP1242 5% 口唇部・内面赤彩
5	深鉢 縄文土器	B (11.1)	胴部片。胴部は直線的に立ち上がる。Lの無節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい赤褐色 普通	TP1240 5%

### 第632号土坑 (第443図)

**位置** 調査1区の南部, C4h8区。

**重複関係** 本跡と第638号土坑は重複しているが、土層では確認できなかった。出土遺物からみると本跡が新しい。

**規模と平面形** 長径2.30m, 短径2.16mの円形で、深さは34cmである。

**壁** 外傾して立ち上がる。

**底** 平坦である。

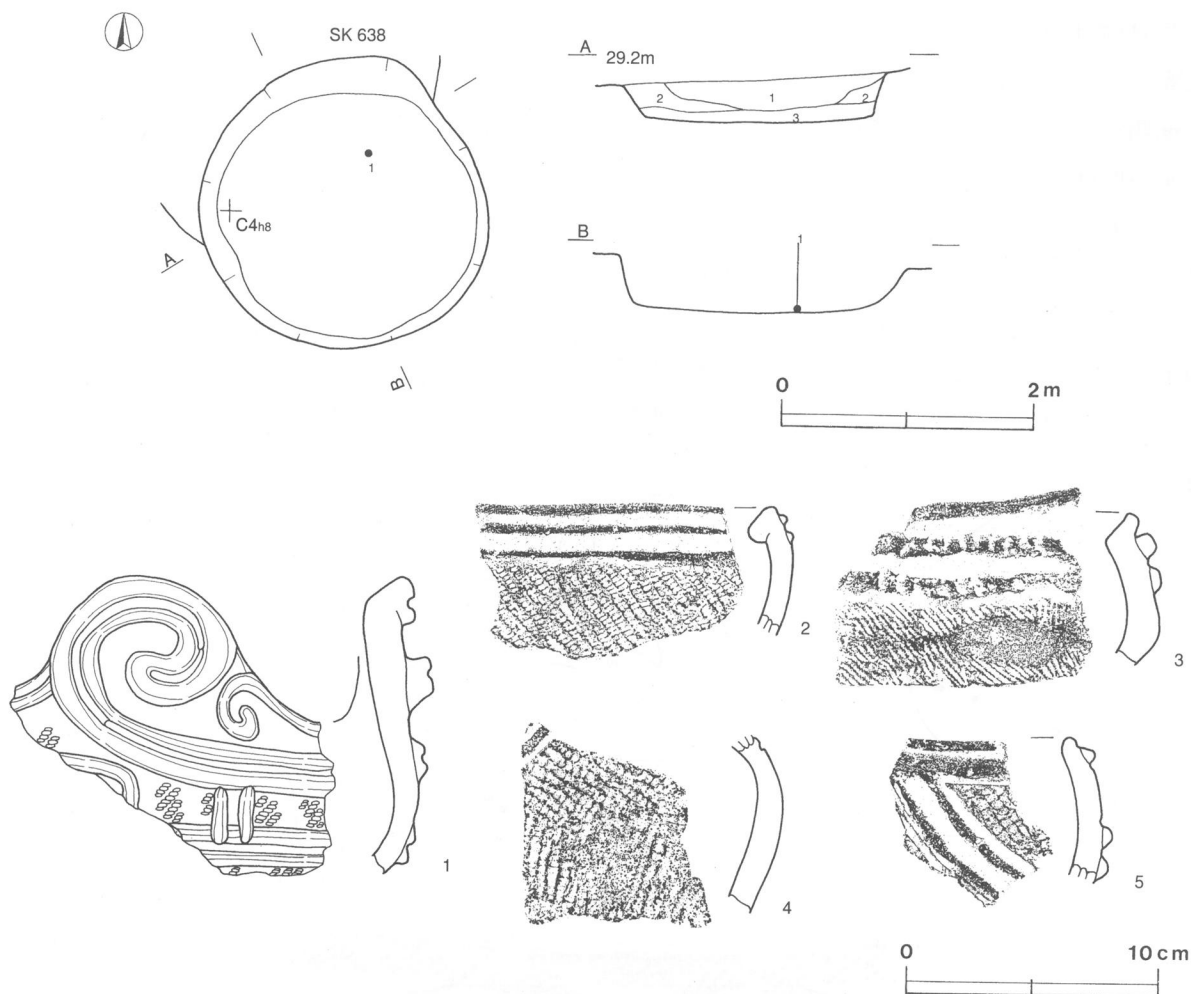
**覆土** 3層に分層され、レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

- 1 黒色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子微量, 第2層より色調が明るい。

**遺物** 縄文土器片332点が出土している。そのうち縄文土器片5点を抽出・図示した。1は波状口縁を呈する深鉢の口縁部片で、底面から出土している。2・3・5は深鉢の口縁部片, 4は深鉢の口縁部付近から頸部にかけての破片で、いずれも覆土から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から中期後葉(加曾利E I 式期)と考えられる。



第443図 第632号土坑・出土遺物実測図

第632号土坑出土遺物観察表（第443図）

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
1	深鉢 縄文土器	B (11.8)	波状口縁を呈する口縁部片。口縁部は内彎する。口縁部と頸部の境に背に沈線を有する隆帯を巡らし、波頂部には背に沈線を有する隆帯による渦巻文を施している。地文はRLの単節縄文で、縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 良好	P 1310 5%
2	深鉢 縄文土器	B (5.2)	口縁部片。口縁部は内彎する。口唇部直下に細い隆帯を巡らしている。LRの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 暗赤褐色 良好	T P 1243 5%
3	深鉢 縄文土器	B (6.1)	口縁部片。口縁部は内彎し、内面に稜を有する。キザミを有する隆帯を巡らしている。RLの単節縄文を横方向に施している。	長石・石英・雲母 黒褐色 普通	T P 1244 5% 外面にスス付着
4	深鉢 縄文土器	B (7.2)	口縁部付近から頸部にかけての破片。口縁部は内彎する。半截竹管による平行沈線文による文様を描出している。地文はRLの単節縄文で、口縁部付近は横方向に、頸部は縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	T P 1245 5%
5	深鉢 縄文土器	B (5.8)	口縁部片。口縁部は内彎する。口唇部外面に隆帯を巡らし、2本一組の隆帯による文様を描出している。地文はRLの単節縄文で、横方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	T P 1246 5%

第633号土坑 (第444~446図)

位置 調査1区の南部, C4f0区。

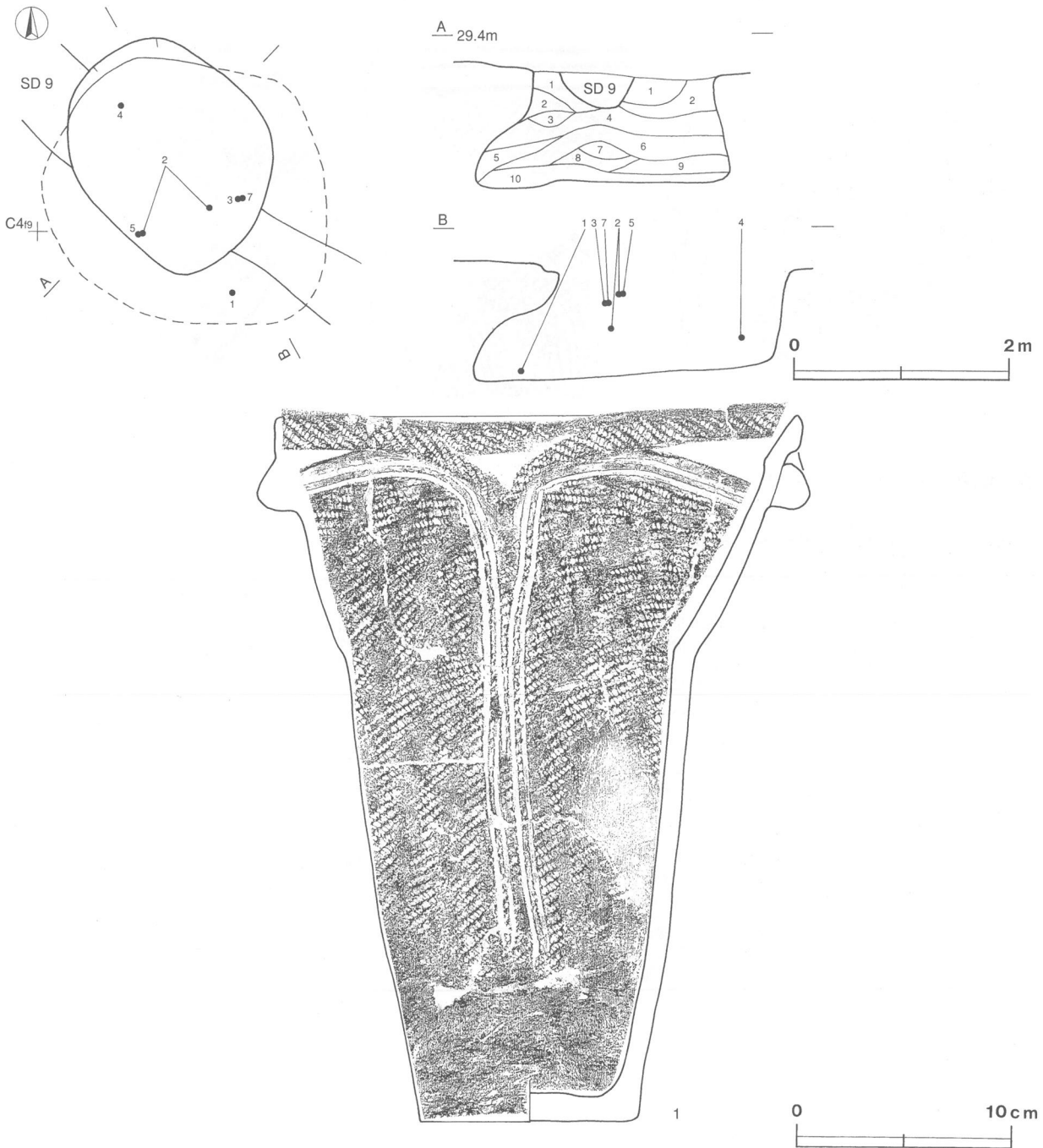
重複関係 第9号溝に掘り込まれていることから, 本跡が古い。

規模と平面形 開口部は長径2.18m, 短径1.70mの楕円形, 底部は長径2.70m, 短径2.46mの楕円形で, 深さは96cmである。

壁 フラスコ状を呈する。北西壁だけは外傾する。

底 平坦であるが, 南壁際だけがわずかに窪んでいる。

覆土 10層に分層され, 第1~4層はレンズ状に堆積することから自然堆積, 第5~10層はロームブロックを多く含む褐色土が主体になること, 北西壁側から堆積していることから, 壁の崩落土と考えられる。



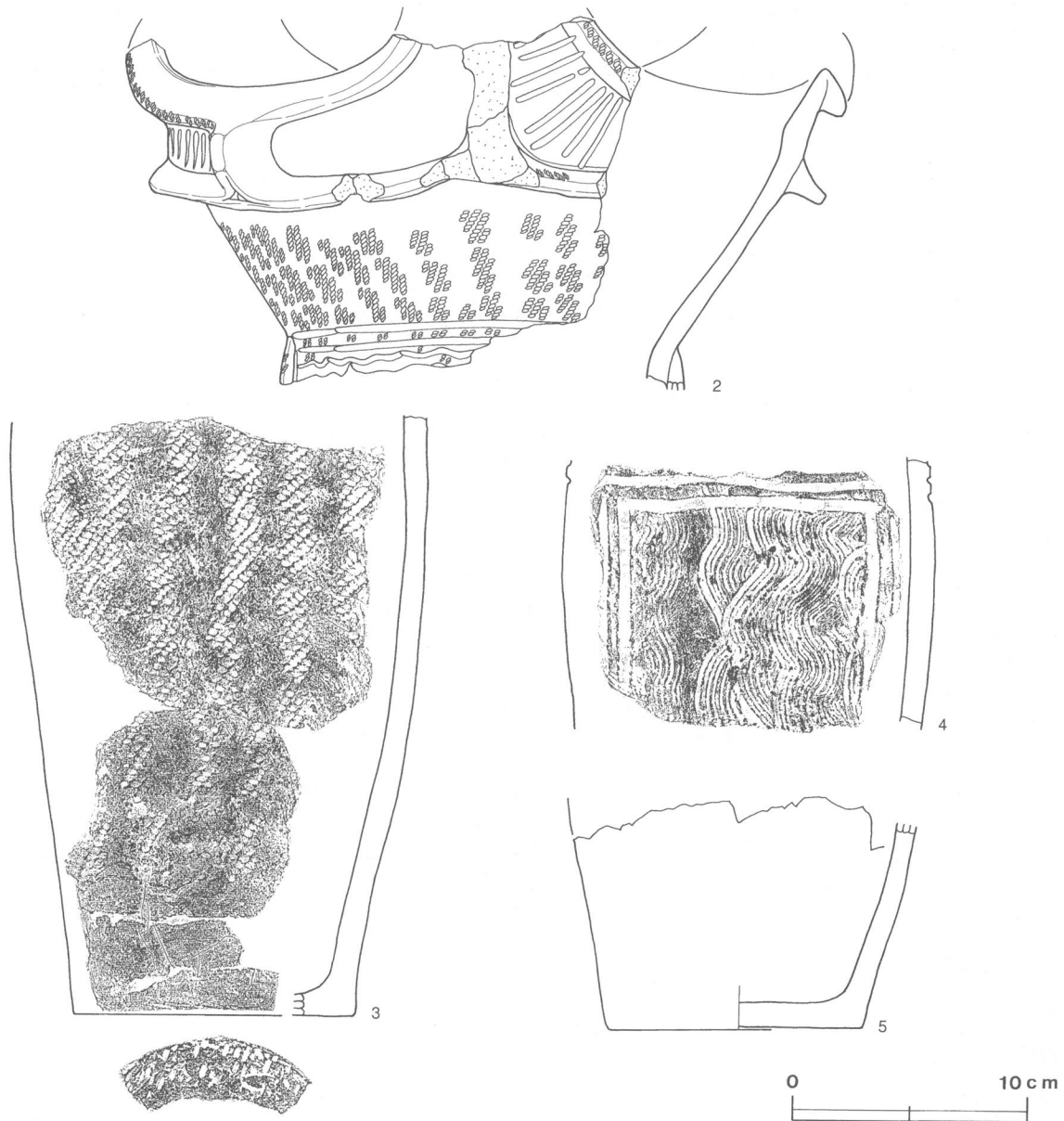
第444図 第633号土坑・出土遺物実測図

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック少量, ローム中ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ローム小ブロック少量, ローム中ブロック・ローム粒子・炭化物・炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ローム中ブロック中量, ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 6 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 鹿沼パミス粒子少量, 炭化粒子微量
- 7 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック・鹿沼パミス粒子少量, 炭化粒子微量
- 8 褐色 ローム粒子・鹿沼パミス粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム大ブロック・ローム中ブロック微量
- 9 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム大ブロック・ローム中ブロック・鹿沼パミス粒子微量
- 10 褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック少量, 鹿沼パミス粒子微量

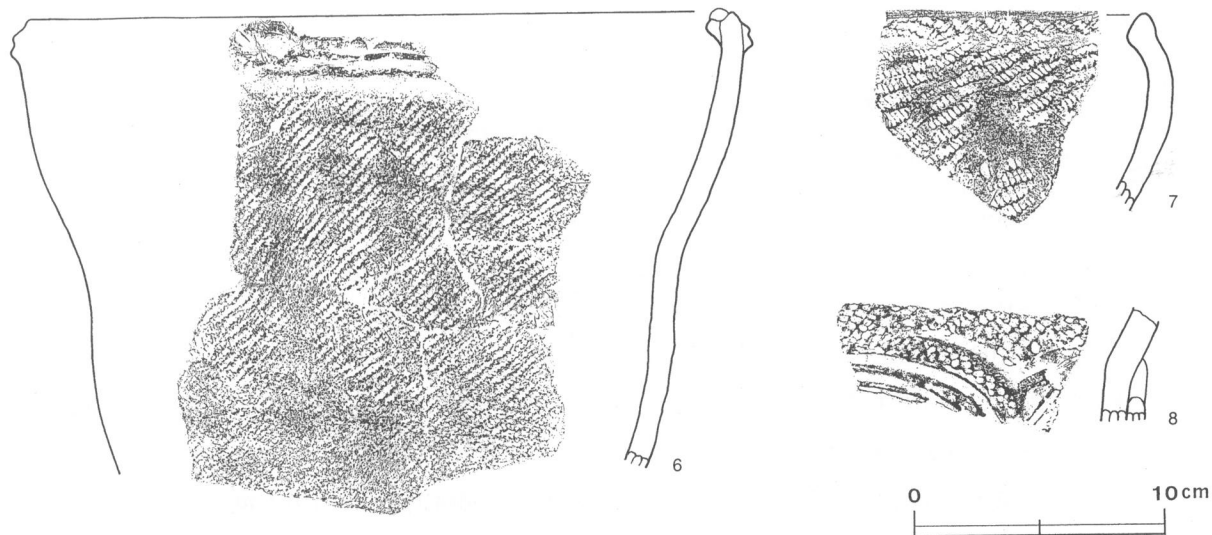
遺物 縄文土器片109点が出土している。そのうち縄文土器片8点を抽出・図示した。1はほぼ完形の深鉢, 4は深鉢の胴部片で、いずれも覆土下層から出土している。2は波状口縁を呈する深鉢の口縁部から胴部にかけての破片, 3・5は深鉢の胴部から底部にかけての破片, 7は深鉢の口縁部片で、いずれも覆土中層から出土している。6は深鉢の口縁部から胴部にかけての破片, 8は深鉢の胴部片で、いずれも覆土から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期中葉(阿玉台Ⅳ式期)と考えられる。



第445図 第633号土坑出土遺物実測図(1)





第446図 第633号土坑出土遺物実測図(2)

第633号土坑出土遺物観察表(第444~446図)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
1	深鉢 縄文土器	A 24.5 B 33.1 C 10.2	ほぼ完形。胴部は直線的に立ち上がり、頸部で屈曲し、口縁部は外傾する。口唇部外面に隆帯を巡らし、隆帯によるV字状文を4単位施している。隆帯に沿って半截竹管による平行沈線文を施している。RLの単節縄文を口唇部外面は横方向に、それ以外は縦方向に施している。	長石・石英・雲母 黒褐色(上半) にぶい赤褐色(下半) 普通	P1311 85% P L39
2	深鉢 縄文土器	A [24.8] B (16.0)	口縁部から胴部にかけての破片。口縁部は3単位の大波状口縁を呈し、波頂部と波底部を起点に突出した隆帯による6単位の区画文を形成している。区画文の内3単位には縦方向の沈線文を施し、残りの3単位は無文である。頸部と胴部の境には沈線文を巡らし、胴部には隆帯を垂下させている。地文はRLの単節縄文で、縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい赤褐色 普通	P1312 15%
3	深鉢 縄文土器	B (25.6) C [11.9]	胴部から底部にかけての破片。胴部は直線的に立ち上がる。RLの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英 にぶい褐色 普通	P1314 40% 底部に網代痕
4	深鉢 縄文土器	B (11.4)	胴部片。胴部は直線的に立ち上がる。頸部と胴部の境に沈線文を巡らし、胴部は沈線による区画文を施している。地文はクシ状工具による波状の条線文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 黒褐色 普通	P1315 5%
5	深鉢 縄文土器	B (9.9) C 10.6	胴部から底部にかけての破片。胴部は直線的に立ち上がる。無文。	長石・石英 にぶい橙色 普通	P1316 5%
6	深鉢 縄文土器	A [27.8] B (18.3)	口縁部から胴部にかけての破片。胴部は直線的に立ち上がり、口縁部は外傾する。口唇部外面には背に沈線文を有する隆帯を巡らし、口唇部内面には突出した隆帯を巡らしている。RLの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P1313 10%
7	深鉢 縄文土器	B (7.7)	口縁部片。口縁部は内彎する。口唇部内面に稜を有する。RLの単節縄文を口唇部を横方向に、それ以外を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 灰褐色 普通	T P1247 5%
8	深鉢 縄文土器	B (4.2)	胴部片。胴部は直線的に立ち上がり、頸部と胴部の境で屈曲する。頸部と胴部の境から隆帯によるV字状文を垂下させている。隆帯に沿って沈線文を施している。RLの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 暗赤褐色 普通	T P1249 5%

第637号土坑(第447~451図)

位置 調査1区の南部, C4g0区。

重複関係 本跡は第9号溝に掘り込まれていることから、本跡が古い。

規模と平面形 開口部は長径2.50m, 短径1.88mの楕円形, 底面は長径2.64m, 短径2.40mの楕円形で、深さは92cmである。

壁 フラスコ状を呈する。西壁は外傾する。

底 平坦である。

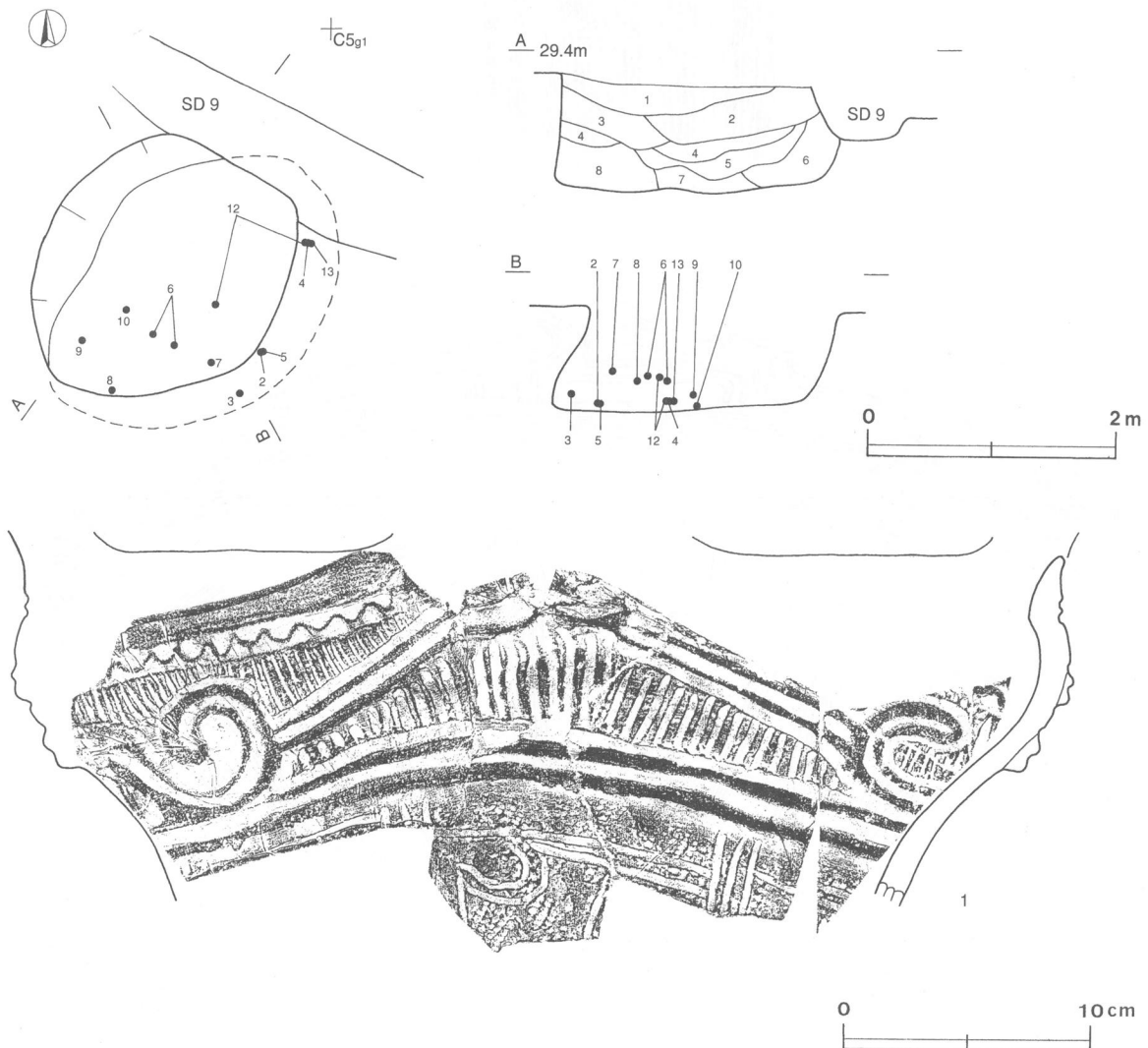
覆土 8層に分層され、第1～7層はレンズ状に堆積していることから自然堆積、第8層はロームブロックを多く含む褐色土で、西壁側から堆積していることから壁の崩落土と考えられる。

土層解説

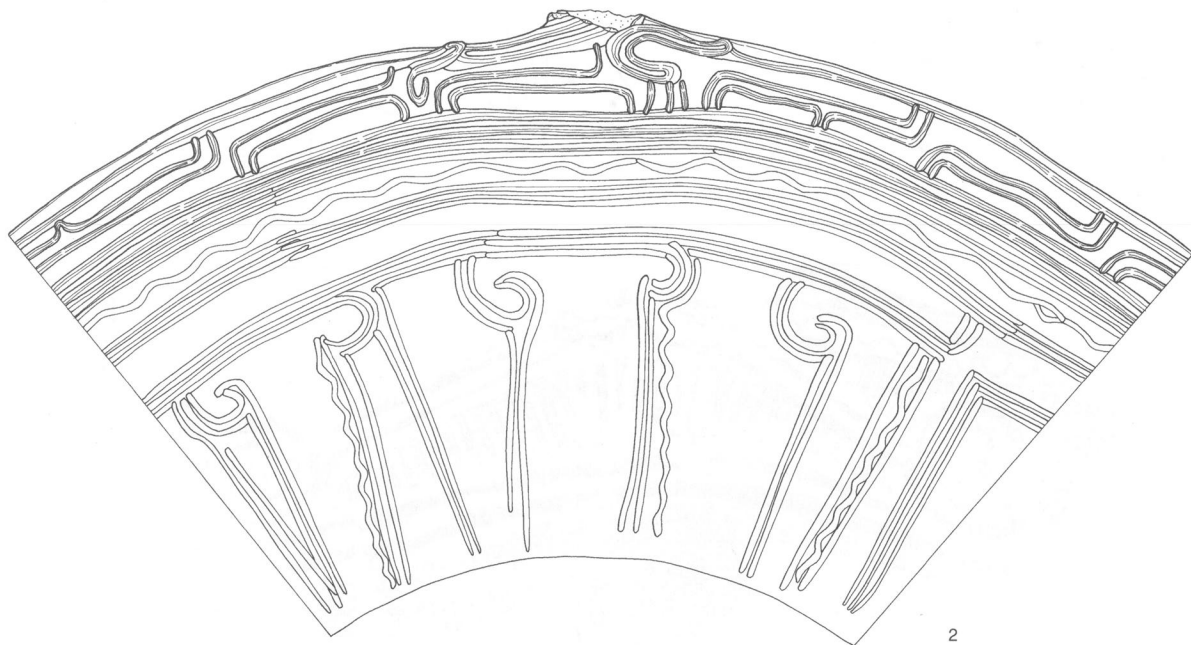
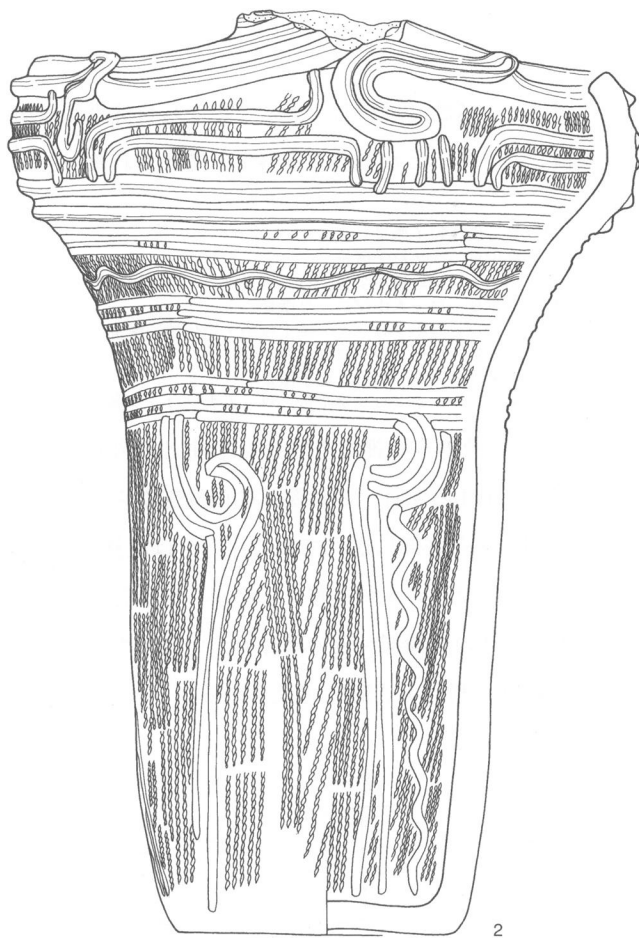
- 1 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム大ブロック・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量
- 7 暗褐色 鹿沼パミス中ブロック少量, ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 8 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量, ローム大ブロック微量

遺物 縄文土器片313点が出土している。そのうち縄文土器13点を抽出・図示した。2はほぼ完形の深鉢, 3は底部が欠損する深鉢, 4は口縁部が欠損する深鉢, 5は深鉢の口縁部から胴部にかけての破片, 7は底部が欠損する深鉢, 6・8・12は深鉢の胴部から底部にかけての破片, 9は深鉢の胴部片, 10は深鉢の口縁部片, 13は深鉢の口縁部から頸部にかけての破片で、いずれも覆土下層から出土している。1は深鉢の口縁部から頸部にかけての破片, 11は把手を有する深鉢の口縁部付近の破片で、いずれも覆土から出土している。

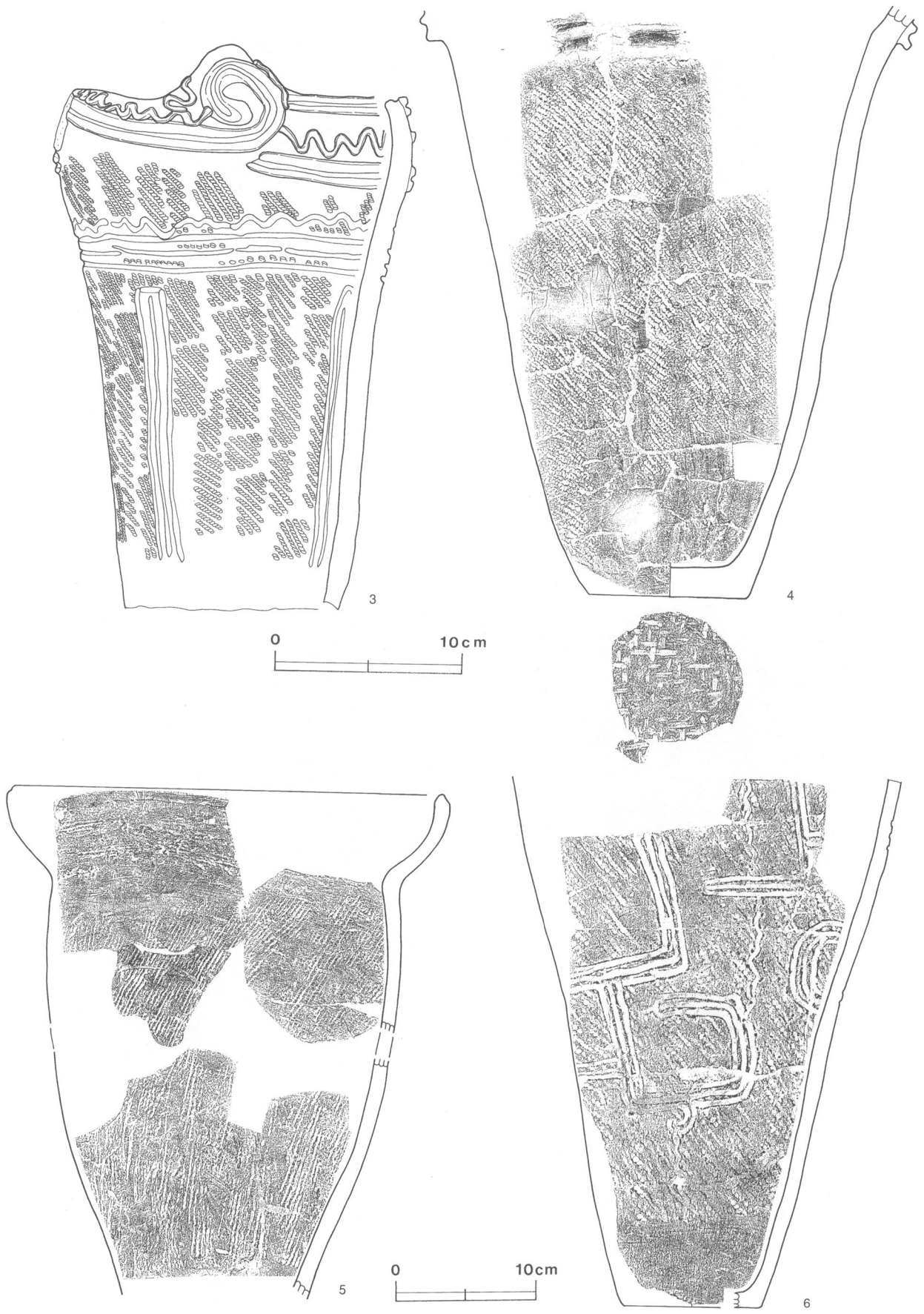
所見 時期は、出土土器から中期後葉(加曾利E I 式期)と考えられる。



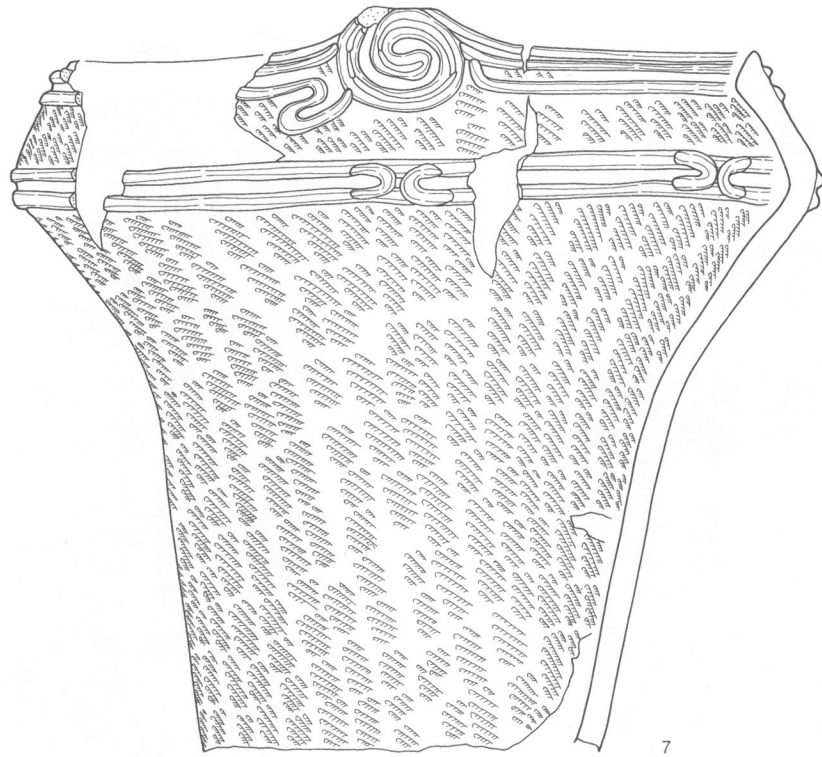
第447図 第637号土坑・出土遺物実測図



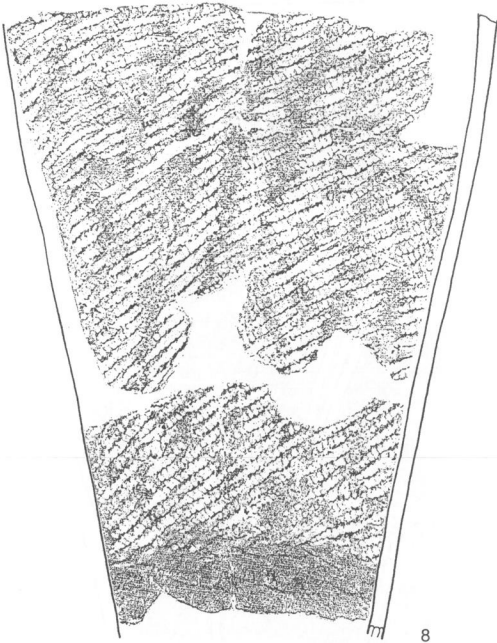
第448图 第637号土坑出土遗物实测图 (1)



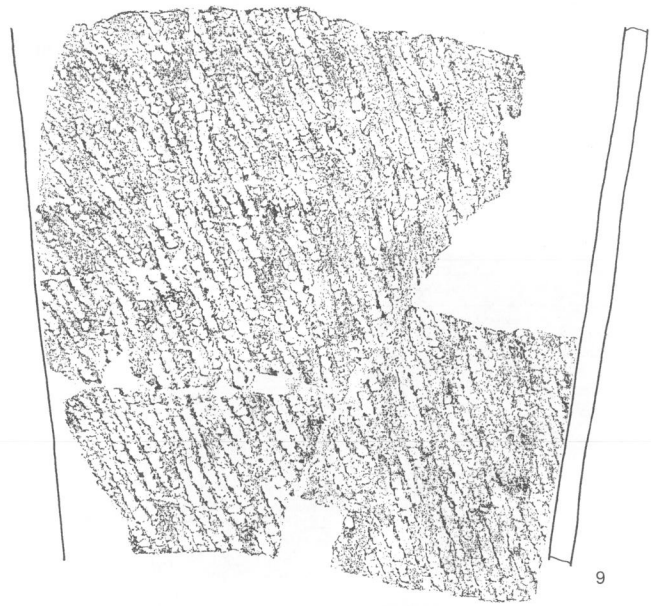
第449图 第637号土坑出土遗物实测图(2)



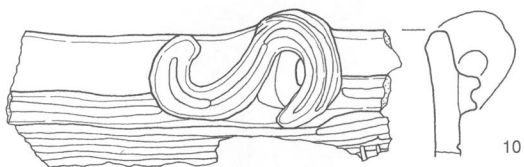
7



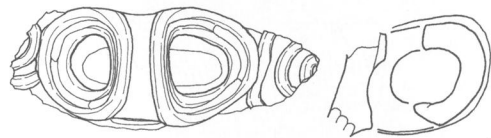
8



9



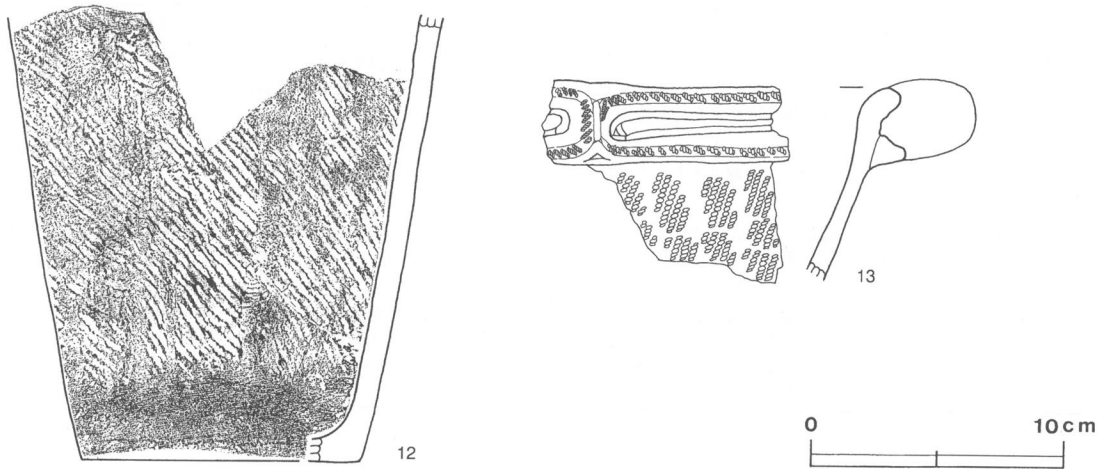
10



11



第450图 第637号土坑出土遺物实测图(3)



第451図 第637号土坑出土遺物実測図(4)

第637号土坑出土遺物観察表(第447~451図)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
1	深鉢 縄文土器	A [41.4] B (14.5)	口縁部から頸部にかけての破片。頸部は外反し、口縁部は内彎する。把手部は欠損しているが、4単位の眼鏡状把手を有していることが推定される。口唇部直下に交互刺突による連続コの字状文を巡らし、口縁部には背に沈線を有する隆帯で文様を描出している。口縁部の地文として沈線文を縦方向に施している。胴部は沈線による文様を描出し、RLの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P 1323 10% P L 39
2	深鉢 縄文土器	A 22.4 B (36.4) C 11.0	ほぼ完形。胴部は直線的に立ち上がり、頸部で外反し、口縁部は内彎する。把手部は欠損しているが、1単位の把手を有していることが推定される。把手部の直下には背に沈線を有する隆帯で文様を施し、口縁部には細い隆帯による文様を描出している。胴部は多截竹管の内面による沈線文で文様を描出している。地文は捺糸文である。	長石・石英・雲母 暗赤褐色(上半) にぶい赤褐色(下半) 良好	P 1321 10% P L 39
3	深鉢 縄文土器	A 17.5 B (30.1)	底部欠損。胴部は直線的に立ち上がり、口縁部はわずかに内彎する。1単位の山形状の把手を有する。口縁部には把手部直下が渦巻文となる隆帯を巡らし、口縁部には細い隆帯による波状文を施している。口縁部と胴部の境には沈線を巡らし、胴部には沈線による3条一組の懸垂文を施している。地文はRLの単節縄文で、縦方向に施している。	長石・石英 黒褐色(上半) にぶい褐色(下半) 良好	P 407 90%
4	深鉢 縄文土器	B (41.5) C 11.2	口縁部欠損。胴部は直線的に立ち上がる。口縁部と頸部の境に背に沈線を有する隆帯を巡らしている。RLの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 褐灰色 普通	P 1320 60% P L 40 底部に網代痕
5	深鉢 縄文土器	A [30.4] B (36.0)	口縁部から胴部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がり、口縁部と胴部の境で屈曲し、口縁部は開きながら内彎する。口縁部は無文で、胴部は捺糸文を縦方向に施している。	長石・石英 にぶい褐色 普通	P 1324 30% P L 39
6	深鉢 縄文土器	B (37.8) C [9.8]	胴部から底部にかけての破片。胴部は直線的に立ち上がる。3条一組の沈線文による文様を描出している。地文はLRの単節縄文で、縦方向に施している。	長石・石英・雲母 黒褐色 普通	P 1325 40% P L 40
7	深鉢 縄文土器	A 26.0 B (29.4)	口縁部の一部及び底部欠損。胴部は直線的に立ち上がり、頸部で外傾し、口縁部は内傾する。2単位の小波状口縁を呈し、波頂部直下には背に沈線を有する隆帯による渦巻文を施している。口縁部と頸部の境には2本一組の隆帯を巡らし、隆帯による8単位のX字状文を施している。地文はLの無節縄文で、縦方向に施している。	長石・石英・雲母 黒褐色(上半) にぶい赤褐色(下半) 普通	P 1322 70% P L 39
8	深鉢 縄文土器	B (24.7)	胴部から底部にかけての破片。胴部は直線的に立ち上がる。RLの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 黒褐色 良好	P 1326 15%
9	深鉢 縄文土器	B (21.5)	胴部片。胴部は直線的に立ち上がる。LRの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 黒褐色 普通	P 1328 10%

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
10	深鉢 縄文土器	B (6.2)	口縁部片。口縁部は直立する。口縁部と胴部の境に沈線を有する隆帯を巡らし、口縁部には背に沈線を有する隆帯による突起状の横S字状文を施している。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P 1329 5%
11	深鉢 縄文土器	B (6.2)	眼鏡状把手を有する口縁部片。口縁部は外傾する。把手部の孔に沿って沈線文を巡らし、口縁部は細い隆帯による文様を描出している。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P 1332 5%
12	深鉢 縄文土器	B (17.8) C [11.0]	胴部から底部にかけての破片。胴部は直線的に立ち上がる。L Rの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 良好	P 1327 10%
13	深鉢 縄文土器	B (7.9)	口縁部から頸部にかけての破片。口縁部には突出した突起を起点に隆帯による幅狭の区画文を形成し、隆帯に沿って沈線文を施している。R Lの単節縄文を隆帯上は横方向に、胴部は縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい赤褐色 良好	P 1335 5%

### 第638号土坑 (第452・453図)

位置 調査1区の南部, C 4 g8区。

重複関係 本跡は第632号土坑と重複するが、土層では確認できなかった。出土遺物からみると本跡が古い。

規模と平面形 第632号土坑と重複しているため、長径2.58m、短径が1.96mの楕円形と推定され、深さは35cmである。

壁 外傾して立ち上がる。

底 ほぼ平坦である。

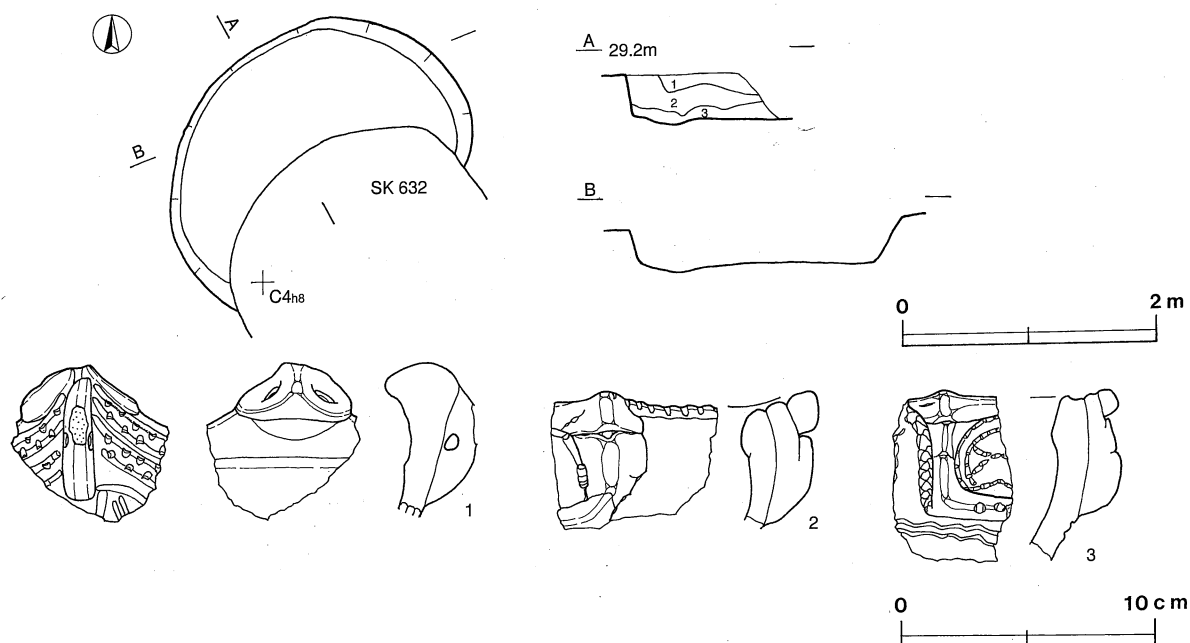
覆土 3層に分層され、レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

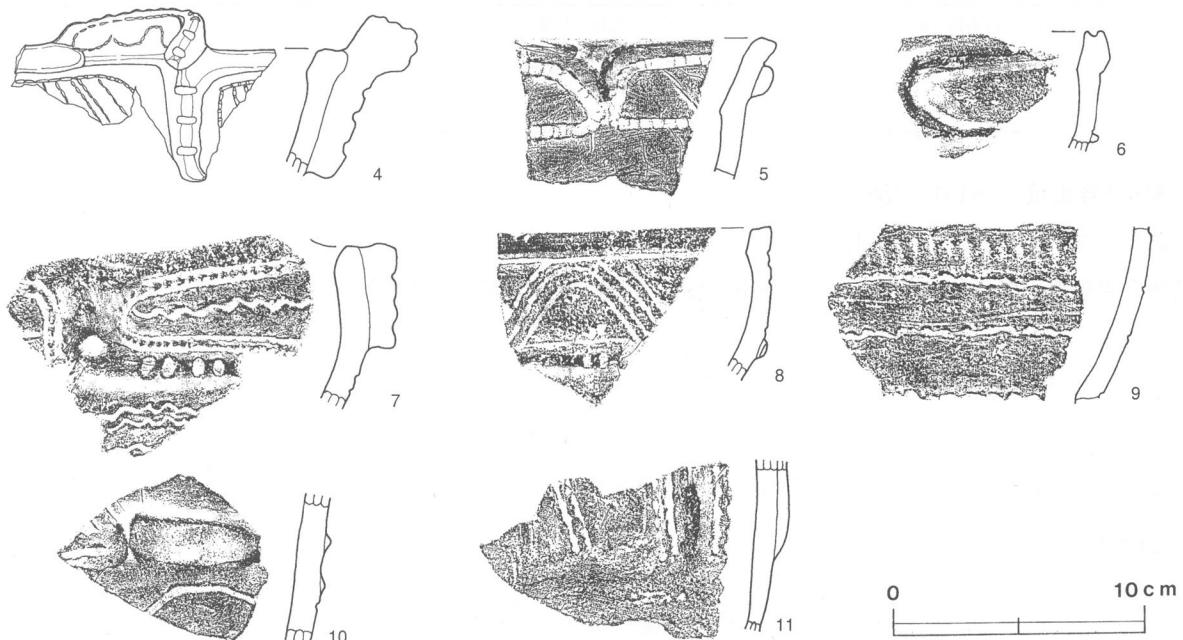
- 1 黒褐色 ローム小ブロック・炭化粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子少量, ローム中ブロック・焼土粒子・炭化物微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック・炭化粒子微量

遺物 縄文土器片60点が出土している。そのうち縄文土器11点を抽出・図示した。1～8は深鉢の口縁部片, 9は頸部片, 10・11は深鉢の胴部片で、いずれも覆土から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期中葉(阿玉台Ⅱ式期)と考えられる。



第452図 第638号土坑・出土遺物実測図



第453図 第638号土坑出土遺物実測図

第638号土坑出土遺物観察表（第452・453図）

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
1	深鉢 縄文土器	B (6.1)	波状口縁を呈する口縁部片。口縁部はわずかに外傾する。波頂部内面に獣面状の把手を有する。波頂部直下には孔を有する縦長の突起を有し、その突起を起点に交互刺突による連続コの字状文を巡らしている。	長石・石英・雲母 黒褐色 普通	P 1337 5%
2	深鉢 縄文土器	B (5.4)	口縁部片。口縁部は直立する。粘土棒を芯とした紐状突起を起点に隆帯による区画文を施している。区画文の内側に沿って結節沈線文を施している。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P 1339 5%
3	深鉢 縄文土器	B (6.8)	口縁部片。口縁部は開きながら内彎する。粘土棒を芯とした紐状突起を起点に隆帯による区画文を施している。隆帯に沿って複列の結節沈線文を施している。	長石・石英・雲母 にぶい赤褐色 普通	P 1340 5%
4	深鉢 縄文土器	B (6.8)	扇状把手を有する口縁部片。口縁部はわずかに外傾する。扇状把手直下のキザミを有する突起を起点に隆帯による区画文を施している。区画文内に結節沈線文を施している。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P 1341 5%
5	深鉢 縄文土器	B (5.6)	口縁部片。口縁部はわずかに外傾する。隆帯によるV字状文を施している。結節沈線文による区画文を施している。	長石・石英 黒褐色 普通	T P 1251 5%
6	深鉢 縄文土器	B (4.8)	口縁部片。口縁部は直立する。口唇部にはペン先状の工具による結節沈線文を施している。口縁部には隆帯による区画文を形成し、隆帯に沿ってペン先状の工具による結節沈線文を施している。	長石・石英・雲母 黒褐色 普通	T P 1252 5%
7	深鉢 縄文土器	B (6.5)	波状口縁を呈する口縁部片。口縁部は内彎する。口縁部には押圧文を有する隆帯による区画文を形成し、隆帯に沿って半截竹管による結節平行沈線文を施している。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	T P 1253 5%
8	深鉢 縄文土器	B (6.1)	口縁部片。口縁部は開きながら内彎する。口縁部にはキザミを有する隆帯による区画文を形成し、隆帯に沿って半截竹管による波状の結節平行沈線文を施している。	長石・石英・雲母 にぶい赤褐色 普通	T P 1254 5%
9	深鉢 縄文土器	B (7.0)	頸部片。頸部は外傾する。頸部には沈線による鋸歯状文を巡らしている。	長石・石英・雲母 にぶい赤褐色 普通	T P 1256 5%
10	深鉢 縄文土器	B (6.0)	胴部片。胴部は直線的に立ち上がる。胴部には隆帯による楕円形区画文を横位に連続させて施している。	長石・石英・雲母 黒褐色 普通	T P 1257 5%



図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
11	深鉢 縄文土器	B (6.8)	胴部片。胴部は直線的に立ち上がる。胴部には隆帯による懸垂文を施し、隆帯に沿って半截竹管による結節平行沈線文を施している。	長石・石英・雲母 明褐色 普通	TP1258 5%

### 第641号土坑 (第454～458図)

**位置** 調査1区の南部，C5e1区。

**規模と平面形** 開口部は長径1.40m，短径1.18mの楕円形，底面は長径2.64m，短径2.60mの円形で，深さは108cmである。

**壁** フラスコ状を呈する。

**底** 平坦である。

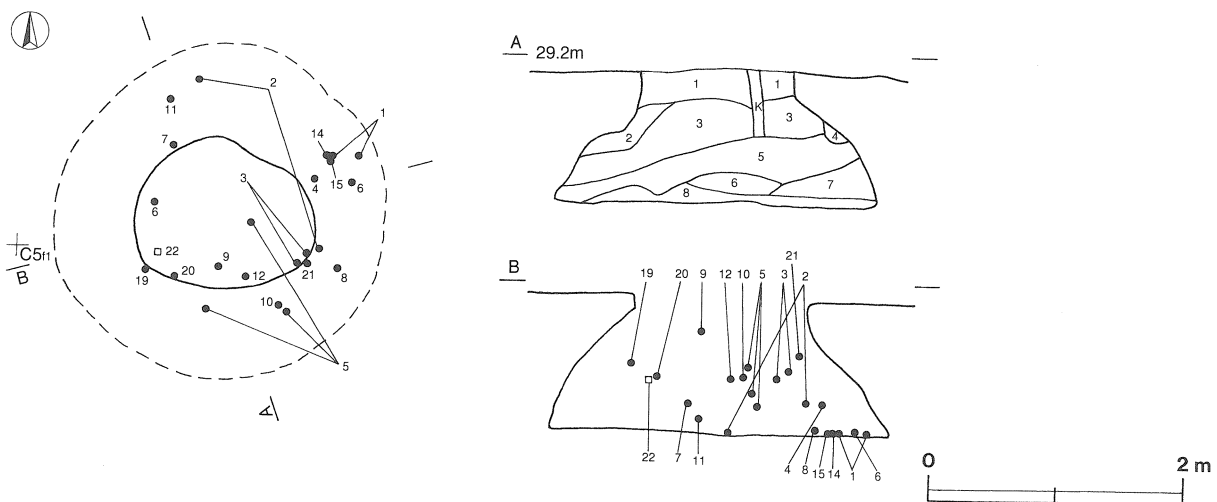
**覆土** 8層に分層され，レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

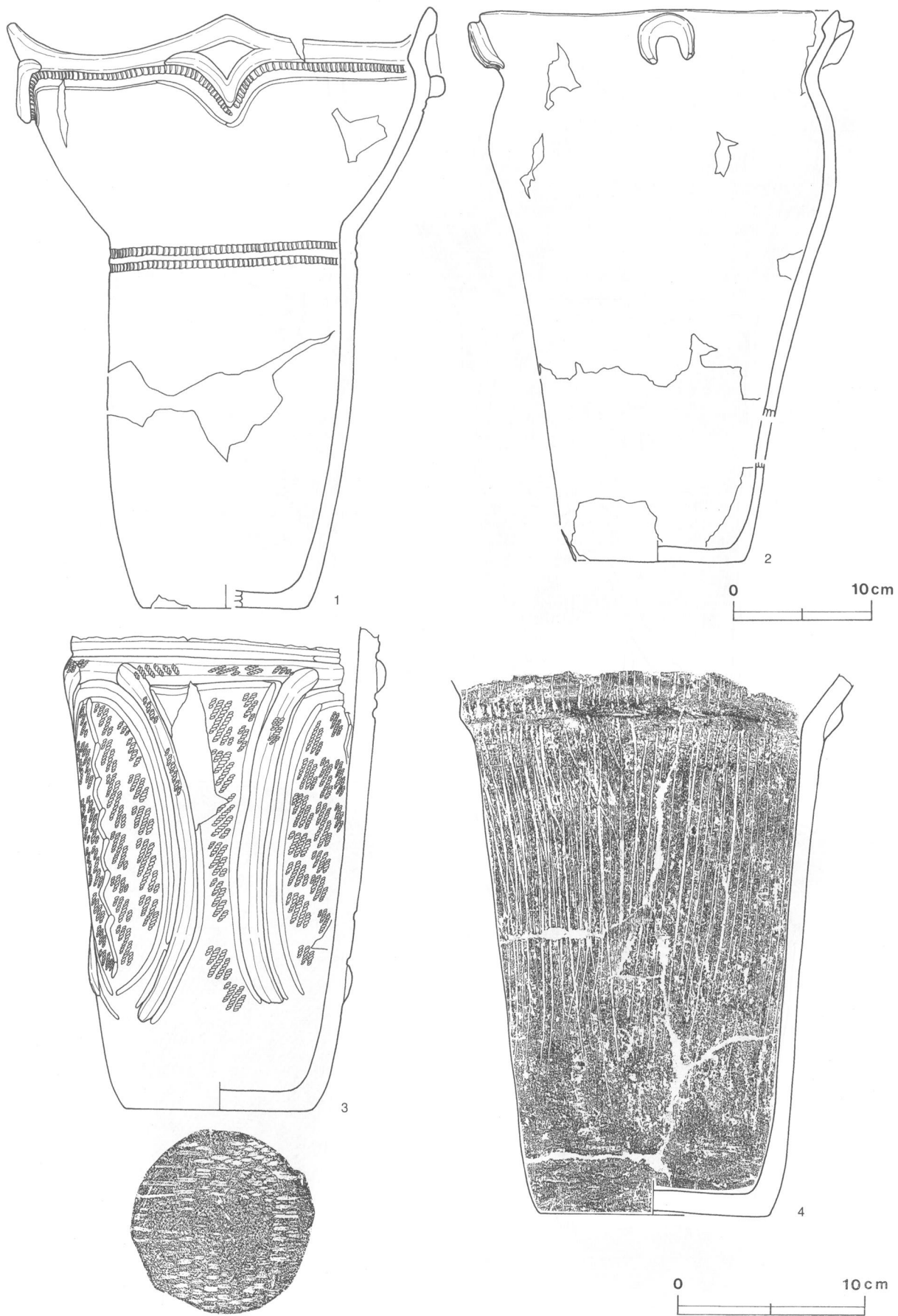
- 1 極暗褐色 ローム中ブロック中量，ローム小ブロック・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・焼土小ブロック微量
- 4 黒褐色 ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量
- 5 黒褐色 ローム粒子少量，焼土小ブロック微量
- 6 黒褐色 ローム中ブロック少量，ローム粒子微量
- 7 黒褐色 ローム粒子中量
- 8 暗褐色 ローム粒子多量，ローム中ブロック少量，焼土粒子微量

**遺物** 大量の縄文土器片511点，凹石2点が出土している。そのうち縄文土器21点，凹石2点を抽出・図示した。1・8はほぼ完形の深鉢，6は上半部が欠損する深鉢，14は深鉢の口縁部から頸部にかけての破片，15は深鉢の胴部から底部にかけての破片，いずれも底面から出土している。2は胴部の一部が欠損する深鉢，4は上半部が欠損する深鉢，7は口縁部及び胴部の一部が欠損する深鉢，11は深鉢の頸部から底部にかけての破片で，覆土下層から出土している。3は上半部が欠損する深鉢，5は口縁部の一部と底部が欠損する深鉢，9は口縁部の一部と底部が欠損する深鉢，10は深鉢の胴部から底部にかけての破片，12は深鉢の口縁部から底部にかけての破片，19は深鉢の胴部片，20は深鉢の頸部片，21は深鉢の頸部から胴部にかけての破片，22は磨石で，いずれも覆土中層から出土している。13は深鉢の胴部から底部にかけての破片，16・18は深鉢の口縁部片，17は壺の口縁部片，23は凹石で，いずれも覆土から出土している。

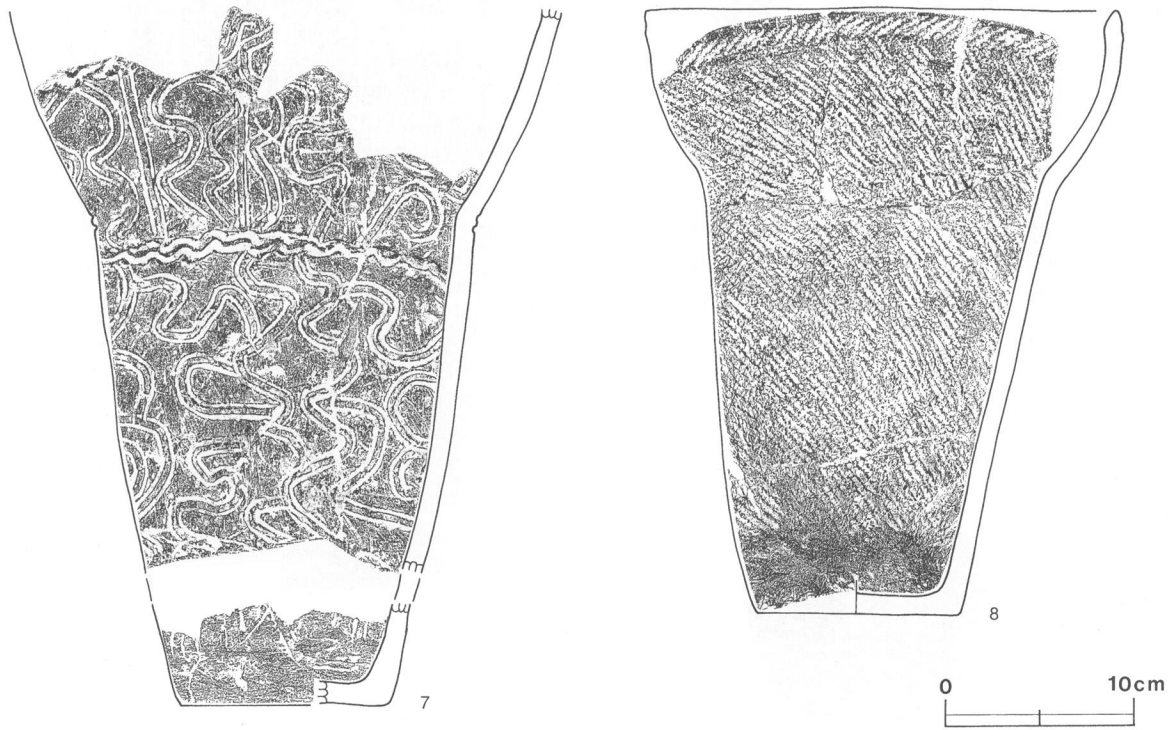
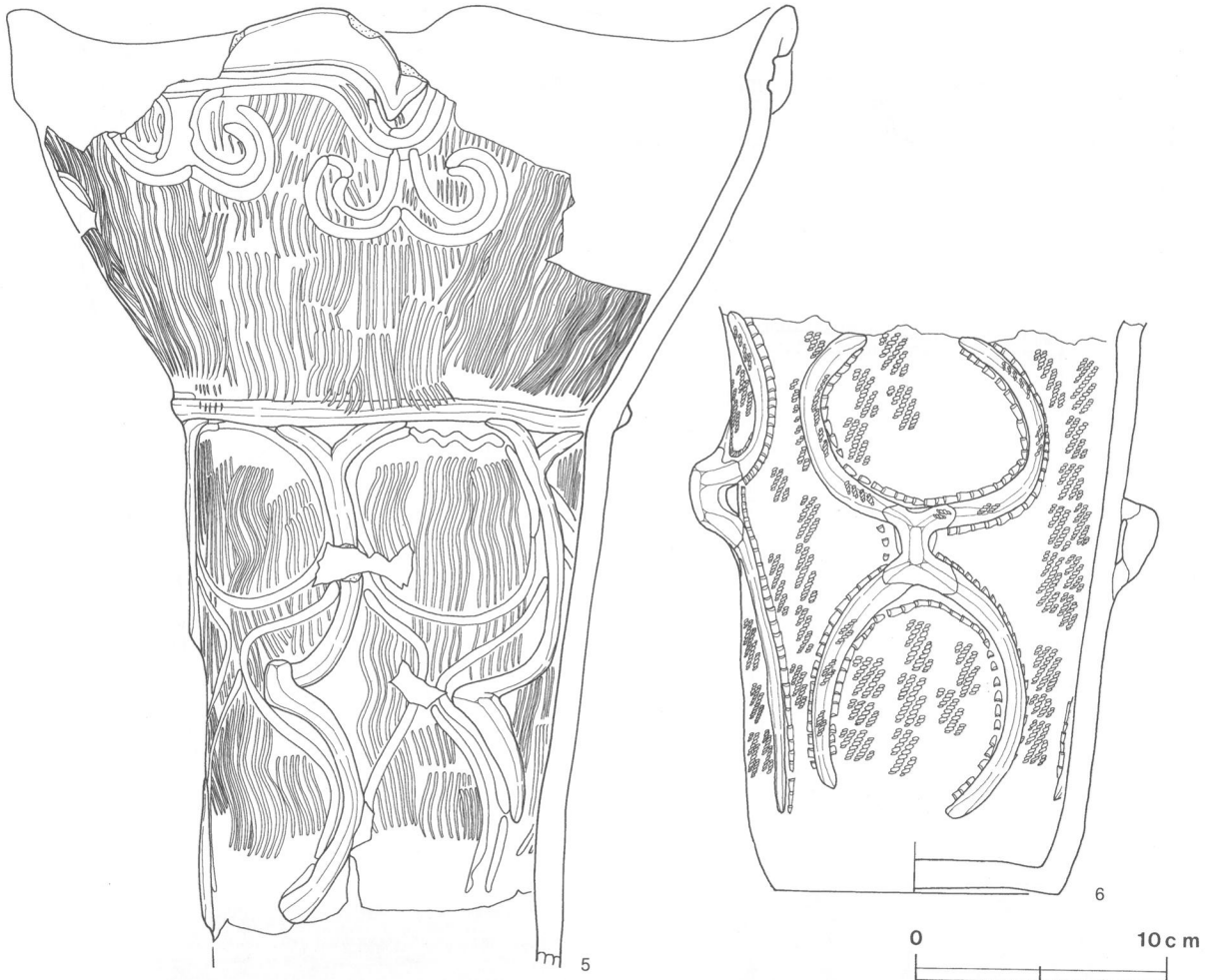
**所見** 時期は，出土土器から中期中葉(阿玉台Ⅲ式期)と考えられる。



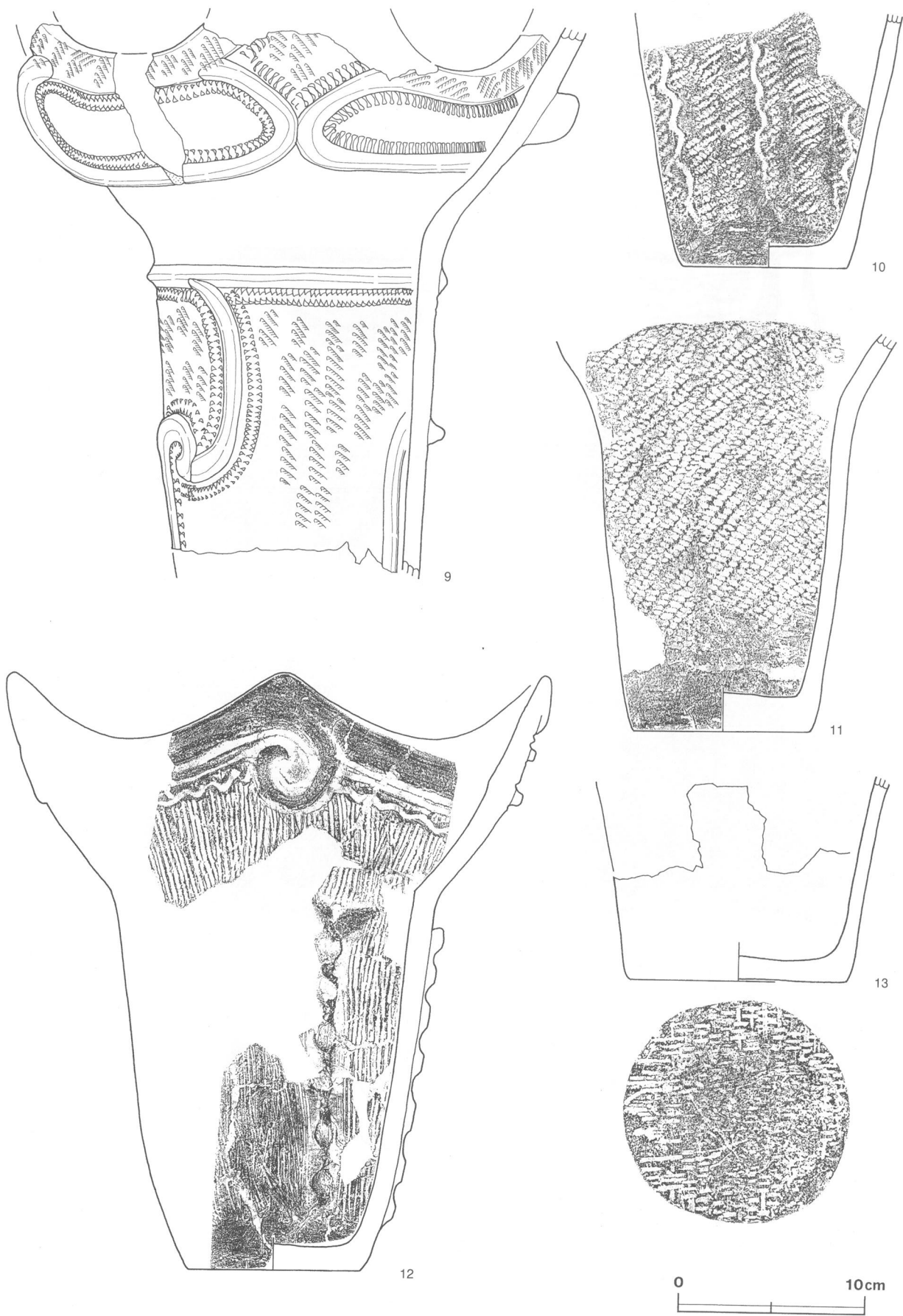
第454図 第641号土坑実測図



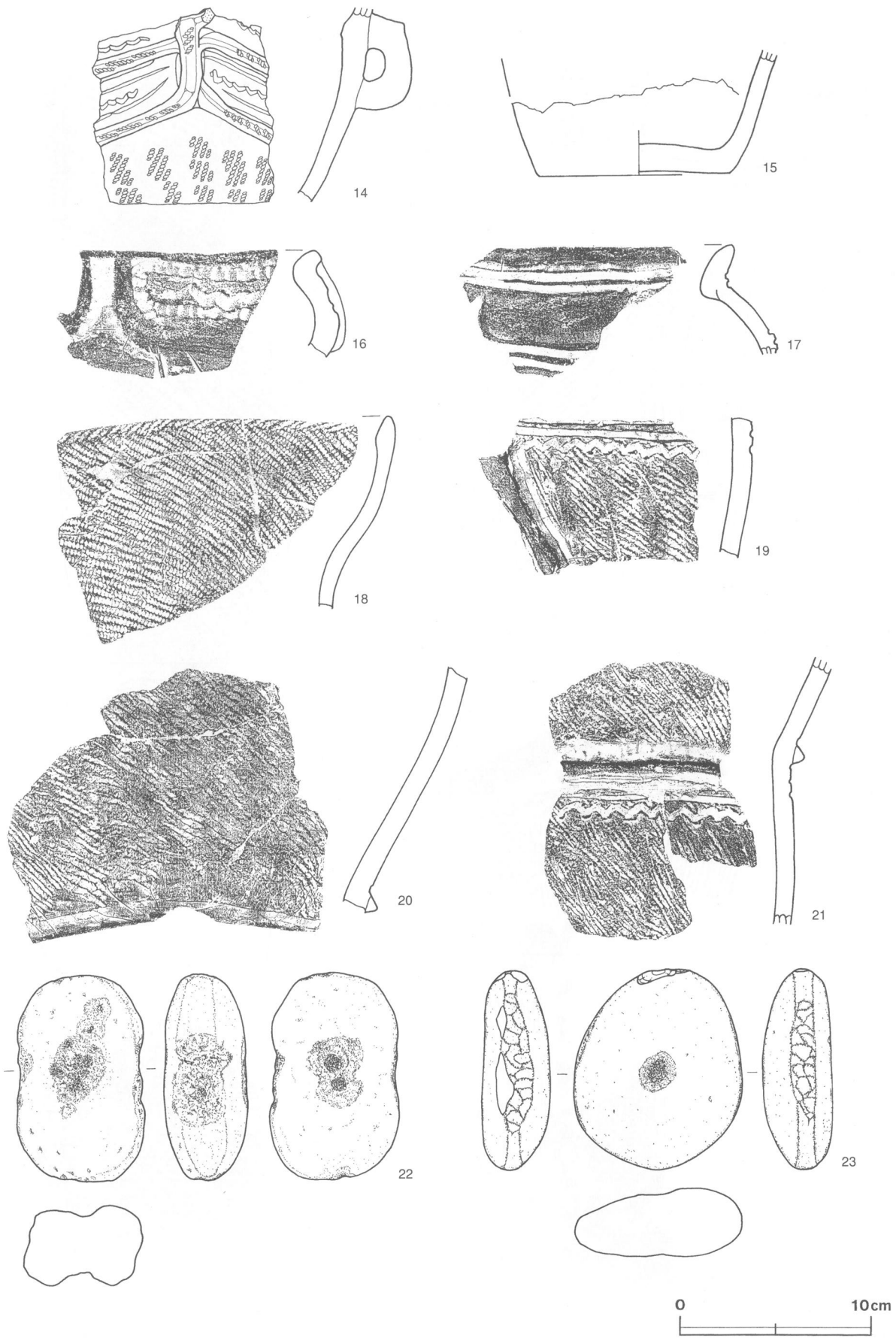
第455图 第641号土坑出土遗物实测图(1)



第456图 第641号土坑出土遗物实测图(2)



第457图 第641号土坑出土遗物实测图(3)



第458图 第641号土坑出土遗物实测图(4)

第641号土坑出土遺物観察表（第455～458図）

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
1	深鉢 縄文土器	A 29.9 B 42.8 C [11.8]	胴部一部欠損。胴部は直線的に立ち上がり、頸部で屈曲し、口縁部は開きながら内彎する。4単位の小波状口縁を呈し、波頂部の直下には隆帯によるV字状文を施している。V字状文の直下及び頸部と胴部の境には爪形文を巡らしている。	長石・石英・雲母 灰褐色（上半） にぶい橙色（下半） 普通	P 1344 80% P L 40
2	深鉢 縄文土器	A 23.5 B [39.2] C 12.2	口縁部・胴部の一部欠損。胴部は外傾して立ち上がり、頸部でくびれ、口縁部は短く外傾する。口縁部に隆帯による4単位の逆U字状文を施している。無文。	長石・石英・雲母 黒褐色 普通	P 1345 60% P L 40
3	深鉢 縄文土器	B (26.0) C 10.0	上半部欠損。胴部は直線的に立ち上がる。胴部には隆帯による左右に内向する弧状文を3単位施している。隆帯に沿って沈線文を施している。地文はRLの単節縄文で、縦方向に施している。	長石・石英・雲母 灰褐色 普通	P 1347 40% P L 40 底部に網代痕
4	深鉢 縄文土器	B (29.1) C 12.4	上半部欠損。胴部は直線的に立ち上がり、頸部で屈曲する。頸部と胴部の境に隆帯を巡らしている。条線文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 灰褐色 普通	P 1348 40% P L 40
5	深鉢 縄文土器	A [30.8] B (38.0)	口縁部の一部及び底部欠損。胴部は直線的に立ち上がり、頸部で屈曲し、口縁部は開きながら内彎する。4単位の小波状口縁を呈し、波頂部の直下には隆帯によるV字状文を施している。胴部には隆帯による4単位の曲線的な懸垂文を施し、その間に上下左右に対向するX字状の沈線文を施している。地文はクシ状工具による波状の条線文で、縦方向に施している。	長石・石英・雲母 黒褐色（上半） にぶい褐色（下半） 普通	P 1346 70% P L 40
6	深鉢 縄文土器	B (22.9) C 11.2	上半部欠損。胴部は直線的に立ち上がる。胴部には隆帯による上下に対向する弧状文を施し、その交点には橋状の突起を付けている。隆帯に沿って結節沈線文を施している。RLの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 灰褐色 普通	P 1401 50% P L 40 外面にスス付着
7	深鉢 縄文土器	B [34.6] C [11.2]	口縁部及び胴部の一部欠損。胴部は直線的に立ち上がり、頸部で屈曲し、口縁部は開きながら内彎する。頸部と胴部の境に半截竹管による波状の平行沈線文を巡らし、頸部と胴部を区画している。頸部と胴部は半截竹管による平行沈線文による文様を描出している。	長石・石英・雲母 黒褐色（上半） にぶい橙色（下半） 普通	P 1349 70% P L 40
8	深鉢 縄文土器	A 24.4 B 31.8 C 10.6	ほぼ完形。胴部は直線的に立ち上がり、頸部で屈曲し、口縁部は開きながら内彎する。LRの単節縄文を、口唇部外面は横方向に、それ以外は縦方向に施している。	長石・石英・雲母 黒褐色 普通	P 1350 90% P L 40
9	深鉢 縄文土器	A [30.0] B (29.9)	口縁部の一部及び底部欠損。胴部は直線的に立ち上がり、頸部で屈曲し、口縁部は開きながら内彎する。4単位の大波状口縁を呈する。口縁部には隆帯による4単位の楕円形区画文を施し、胴部には隆帯による3単位の曲線的な懸垂文を施している。隆帯に沿って半截竹管による結節平行沈線文と爪形文を施している。地文はLの無節縄文で、縦方向に施している。	長石・石英・雲母 褐灰色（上半） にぶい褐色（下半） 普通	P 1343 80% P L 40
10	深鉢 縄文土器	B (13.8) C 8.6	胴部から底部にかけての破片。胴部は直線的に立ち上がる。沈線による波状の懸垂文を施している。地文はRLの単節縄文で、縦方向に施している。	長石・石英・雲母 灰褐色 普通	P 1352 15%
11	深鉢 縄文土器	B (21.4) C 9.5	頸部から底部にかけての破片。胴部は直線的に立ち上がり、頸部は外傾する。RLの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P 1351 35%
12	深鉢 縄文土器	A [28.7] B 31.9 C 9.2	口縁部から底部にかけての破片。胴部は直線的に立ち上がり、頸部で屈曲し、口縁部は開きながら内彎する。4単位の波状口縁を呈し、波頂部直下に隆帯による渦巻文を施している。隆帯に沿って沈線文を施している。地文は条線文で、縦方向に施している。	長石・石英・雲母 黒褐色（上半） 橙色（下半） 普通	P 1353 40%
13	深鉢 縄文土器	B (11.1) C 11.8	胴部から底部にかけての破片。胴部は直線的に立ち上がる。無文。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P 1354 10% 底部に網代痕
14	深鉢 縄文土器	B (10.7)	口縁部から頸部にかけての破片。口縁部から頸部にかけては開きながら内彎する。口縁部に橋状把手を有し、その把手を起点に隆帯による区画文を施している。隆帯に沿って半截竹管による平行沈線文を施している。地文はRLの単節縄文で、縦方向に施している。	長石・石英・雲母 黒褐色 普通	P 1356 10%
15	深鉢 縄文土器	B (6.2) C 10.0	胴部から底部にかけての破片。胴部は直線的に立ち上がる。無文。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P 1357 10%
16	深鉢 縄文土器	B (5.6)	口縁部片。口縁部は内彎する。口縁部には隆帯による区画文を形成し、隆帯に沿って爪形文を施している。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	T P 1259 5%

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
17	壺 縄文土器	B (5.8)	口縁部から胴部にかけての破片。胴部は内彎し、口縁部は短く外傾する。沈線文を巡らしている。内・外面はよく研磨している。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 良好	T P 1260 5%
18	深鉢 縄文土器	B (9.6)	口縁部片。口縁部は開きながら内彎する。L Rの単節縄文を口唇部外面は横方向に、それ以外は縦方向に施している。	長石・石英・雲母 暗赤褐色 普通	T P 1261 5%
19	深鉢 縄文土器	B (7.4)	胴部片。胴部は直線的に立ち上がる。頸部と胴部の境に沈線を巡らし、胴部は隆帯により文様を描出している。地文はLの無節縄文で、縦方向に施している。	長石・石英・雲母 黒褐色 普通	T P 1264 5%
20	深鉢 縄文土器	B (13.2)	頸部片。頸部は外傾する。頸部と胴部の境に隆帯を巡らしている。Lの無節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 黒褐色 普通	T P 1265 5%
21	深鉢 縄文土器	B (13.2)	頸部から胴部にかけての破片。胴部は直線的に立ち上がり、頸部で屈曲して外傾する。頸部と胴部の境に隆帯文と沈線文を巡らしている。地文はLの無節縄文で、縦方向に施している。	長石・石英・雲母 黒褐色 普通	T P 1266 5% T P 1264と同一個体

図版番号	器種	計測値				石質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
22	磨石	10.9	6.8	4.6	499.8	安山岩	自然礫を素材としている。凹石兼用。	Q 1018
23	凹石	10.5	8.8	3.7	472.0	砂岩	自然礫を素材としている。	Q 1019

### 第642号土坑 (第459~462図)

**位置** 調査1区の南部, C 5 f1区。

**規模と平面形** 開口部は長径2.04m, 短径2.00mの円形, 底面は長径2.44m, 短径2.32mの円形で, 深さは68cmである。

**壁** フラスコ状を呈する。

**底** 平坦である。

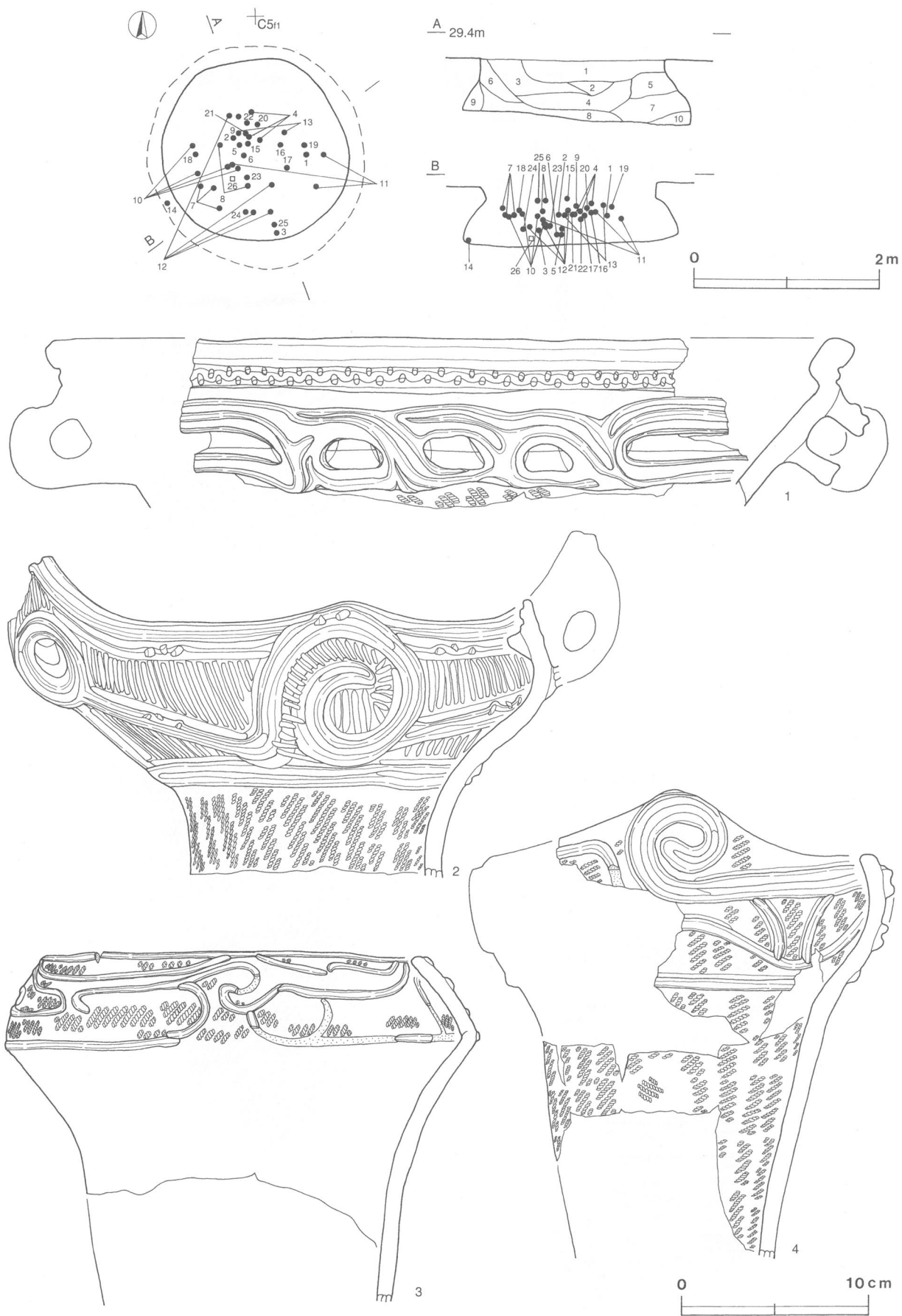
**覆土** 10層に分層され, レンズ状に堆積していることから, 自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

- 1 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 4 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
- 5 黒褐色 ローム粒子少量
- 6 黒褐色 炭化粒子少量, ローム粒子微量
- 7 極暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 8 暗褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 9 暗褐色 ローム粒子中量, ローム大ブロック微量
- 10 褐色 ローム粒子多量

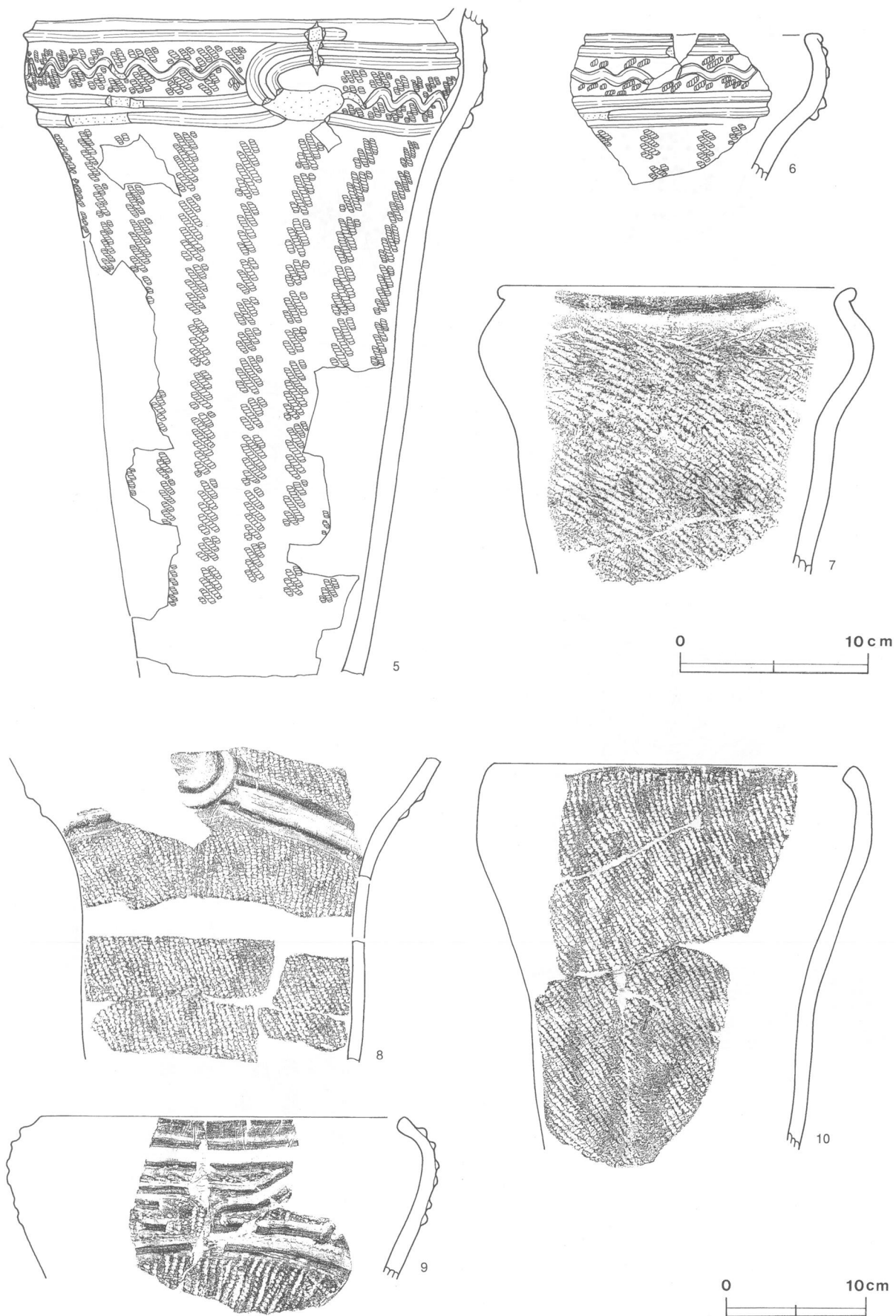
**遺物** 大量の縄文土器片484点, 磨製石斧1点が主に覆土中層に廃棄されたように出土している。そのうち縄文土器25点, 磨製石斧1点を抽出・図示した。14は深鉢の胴部から底部にかけての破片で, 覆土下層から出土している。1は深鉢の口縁部から頸部にかけての破片, 2・3は胴下半部が欠損する深鉢, 4・5・7・10・12・15は深鉢の口縁部から胴部にかけての破片, 6・9は深鉢の口縁部から頸部にかけての破片, 8は深鉢の口縁部付近から胴部にかけての破片, 11は口縁部と胴部の一部が欠損する深鉢, 13は眼鏡状把手を有する深鉢の口縁部片, 16は深鉢の頸部から胴部にかけての破片, 17~19は深鉢の口縁部片, 20は深鉢の頸部片, 21~24は深鉢の胴部片, 25は浅鉢の口縁部片, 26は磨製石斧で, いずれも覆土中層から出土している。

**所見** 図示した土器は主に覆土中層の堆積時期に廃棄されたもので, 1・13のいわゆる中峠式土器と2~6の加曽利E I式土器が相伴して出土している。本跡の廃絶時期と土器の廃棄時期は時間差がほとんどないと判断できることから, 本跡の廃絶時期は中期後葉(加曽利E I式期)と考えられる。

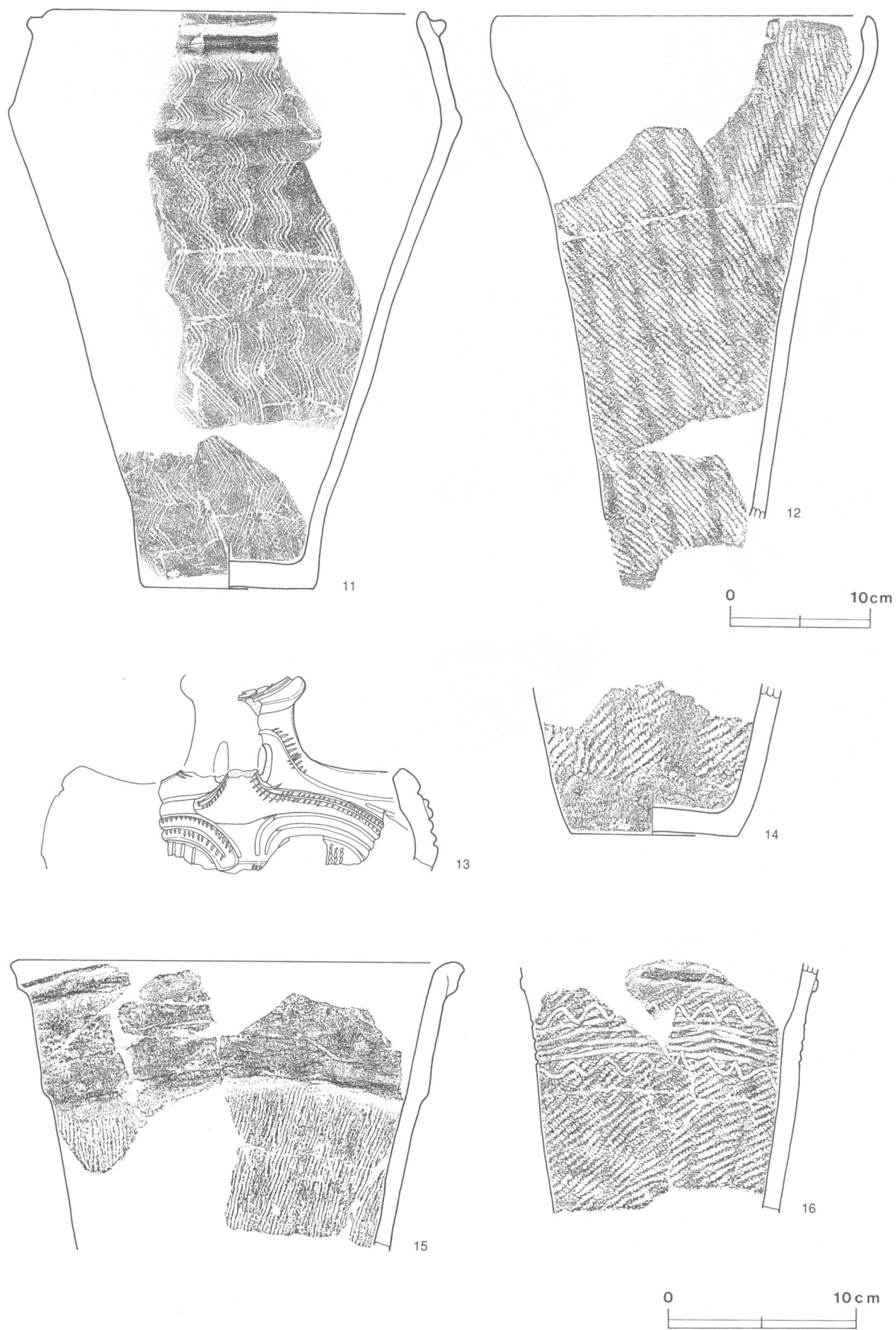


第459图 第642号土坑·出土遺物実測図

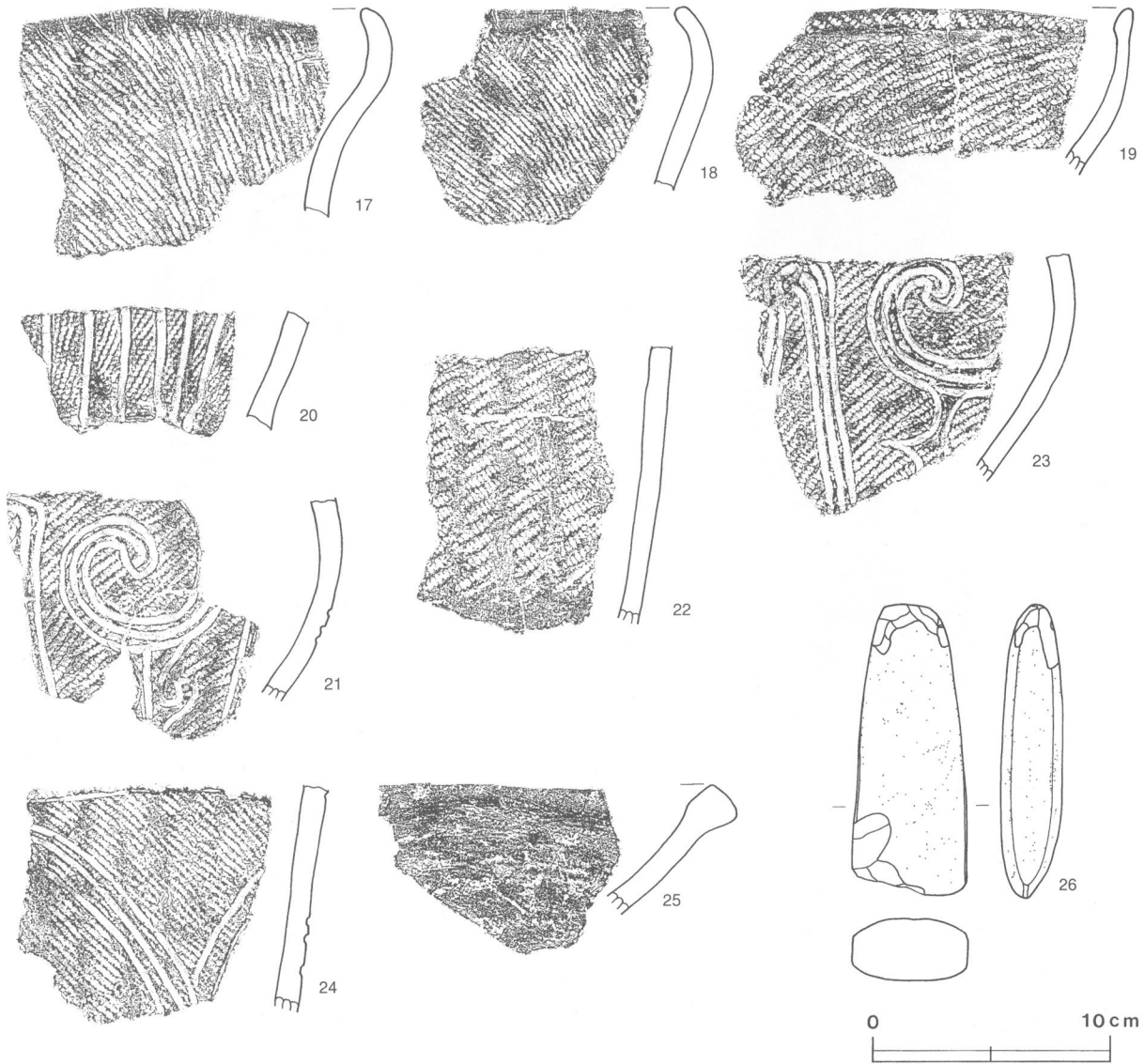




第460图 第642号土坑出土遗物实测图(1)



第461图 第642号土坑出土遗物实测图(2)



第462図 第642号土坑出土遺物実測図（3）

第642号土坑出土遺物観察表（第459～462図）

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
1	深鉢 縄文土器	A [42.4] B (9.2)	口縁部から頸部にかけての破片。口縁部は外傾し、口縁端部は短く外反する。口唇部直下に交互刺突による連続コの字状文を巡らしている。口縁部には正面に3孔を有する立体的な把手を起点に突出する2本の隆帯を巡らしている。頸部以下にはLRの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P1359 10% P L43
2	深鉢 縄文土器	A [22.0] B (17.3)	胴部下半部欠損。胴部は直線的に立ち上がり、口縁部は開きながら内彎する。2単位の眼鏡状把手を有する。口縁部と胴部の境には背に沈線を有する隆帯を巡らしている。口縁部には波底部直下に背に沈線を有する隆帯による渦巻文を施し、区画文内に沈線文を縦方向に施している。胴部にはRLの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 黒褐色 普通	P1360 60% P L40
3	深鉢 縄文土器	A 20.4 B (18.8)	胴部下半部欠損。胴部は直線的に立ち上がり、頸部は外傾し、口縁部で屈曲して内傾する。口縁部は細い隆帯による文様を描出している。口縁部の地文はLRの単節縄文で、横方向に施している。頸部から胴部にかけては無文である。	長石・石英・雲母 にぶい橙色（上半） 褐灰色（下半） 普通	P1363 60% P L41

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
4	深鉢 縄文土器	A [20.1] B (25.2)	口縁部から胴部にかけての破片。胴部は直線的に立ち上がり、口縁部は開きながら内彎する。2単位の波状口縁を呈する。波頂部直下には背に沈線を有する隆帯により渦巻文を施し、口縁部には隆帯により文様を描出している。地文はRLの単節縄文で、縦方向に施している。	長石・石英 灰褐色(上半) にぶい褐色(下半) 普通	P1361 40% P L41
5	深鉢 縄文土器	A [23.2] B (34.8)	口縁部から胴部にかけての破片。胴部は直線的に立ち上がり、口縁部は開きながら内彎する。把手部は欠損しているが、1単位の把手を有することが考えられる。口縁部には把手部を起点に背に沈線を有する隆帯を施し、細い隆帯による波状文を巡らしている。地文はLRの単節縄文で、縦方向に施している。	長石・石英・雲母 褐灰色(上半) にぶい橙色(下半) 普通	P1364 50% P L41
6	深鉢 縄文土器	B (8.0)	口縁部から頸部にかけての破片。頸部は外反し、口縁部は開きながら内彎する。口唇部直下及び口縁部と頸部の境に2本一組の隆帯を巡らし、口縁部には隆帯による波状文を施している。地文はLRの単節縄文で口縁部は横方向に、それ以下は縦方向に施している。	長石・石英 にぶい褐色 普通	P1365 5%
7	深鉢 縄文土器	A [18.8] B (15.3)	口縁部から胴部にかけての破片。胴部は直線的に立ち上がり、口縁部は開きながら内彎する。口唇部外面は突出し、内面に稜を有するLRの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 褐灰色 普通	P1369 25% P L41
8	深鉢 縄文土器	B (21.0)	口縁部付近から胴部にかけての破片。胴部は直線的に立ち上がり、頸部は外傾する。口縁部と胴部の境に2本一組の隆帯を巡らしている。地文はLRの単節縄文で、縦方向に施している。	長石・石英 黒褐色 普通	P1362 15%
9	深鉢 縄文土器	A [25.2] B (11.6)	口縁部から頸部にかけての破片。頸部は外反し、口縁部は開きながら内彎する。口縁部は細い隆帯により文様を描出している。地文はRLの単節縄文で、斜方向に施している。	長石・石英・雲母 暗赤褐色 普通	P1366 10%
10	深鉢 縄文土器	A [25.6] B (27.2)	口縁部から胴部にかけての破片。胴部は直線的に立ち上がり、口縁部は開きながら内彎する。LRの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P1367 40% P L41
11	深鉢 縄文土器	A [26.2] B [40.8] C 12.0	口縁部と胴部の一部欠損。胴部は外傾して立ち上がり、口縁部は内傾する。口唇部直下に隆帯を巡らし、口縁部と胴部の境は肥厚して段を有する。クシ状工具による波状の条線文を縦方向に施している。	長石・石英 黒褐色(上半) にぶい橙色(下半) 普通	P1370 60% P L41
12	深鉢 縄文土器	A [26.4] B (35.3)	口縁部から胴部にかけての破片。胴部は直線的に立ち上がり、口縁部はわずかに開きながら内彎する。LRの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 黒褐色 良好	P1368 40% P L41
13	深鉢 縄文土器	A [17.0] B (10.4)	眼鏡状把手を有する口縁部片。口縁部は内彎する。口縁部には背に沈線とキザミを有する隆帯により文様を描出し、隆帯に沿って沈線文を施している。地文は撚糸文である。	長石・石英 にぶい赤褐色 普通	P1371 10% P L43
14	深鉢 縄文土器	B (8.2) C 8.9	胴部から底部にかけての破片。胴部は直線的に立ち上がる。RLの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英 にぶい黄褐色 普通	P1375 10%
15	深鉢 縄文土器	A [22.8] B (15.3)	口縁部から胴部にかけての破片。胴部は直線的に立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は二重口縁を呈し、口縁部と胴部の境は肥厚して段を有する。胴部は撚糸文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 暗赤褐色 普通	P1373 15%
16	深鉢 縄文土器	B (13.3)	頸部から胴部にかけての破片。胴部は直線的に立ち上がり、頸部はわずかに外傾する。口縁部と頸部の境に隆帯を、頸部は沈線文を巡らしている。地文はRLの単節縄文で、縦方向に施している。	長石・石英 にぶい橙色 普通	P1374 15%
17	深鉢 縄文土器	B (8.8)	口縁部片。口縁部は開きながら内彎する。LRの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 黒褐色 普通	T P1267 5%
18	深鉢 縄文土器	B (7.7)	口縁部片。口縁部は開きながら内彎する。Lの無節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 黒褐色 普通	T P1268 5%
19	深鉢 縄文土器	B (7.1)	口縁部片。口縁部は開きながら内彎する。RLの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 黒褐色 普通	T P1269 5%
20	深鉢 縄文土器	B (5.4)	頸部片。頸部は外傾する。沈線文を縦方向に施している。地文はRLの単節縄文で、縦方向に施している。	長石・石英・雲母 暗赤褐色 普通	T P1270 5%
21	深鉢 縄文土器	B (8.7)	胴部片。胴部は開きながら内彎して立ち上がる。3条一組の沈線文により文様を描出している。地文はRLの単節縄文で、縦方向に施している。	長石・石英・雲母 橙色 普通	T P1273 5%

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
22	深鉢 縄文土器	B(11.7)	胴部片。胴部は直線的に立ち上がる。RLの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母にぶい 橙色 普通	TP1271 5%
23	深鉢 縄文土器	B(9.8)	胴部片。胴部は開きながら内彎して立ち上がる。3条一組の沈線文により文様を描出している。地文はRLの単節縄文で、縦方向に施している。	長石・石英・雲母にぶい 褐色 普通	TP1272 5%
24	深鉢 縄文土器	B(9.7)	胴部片。胴部は直線的に立ち上がる。3条一組の沈線文により文様を描出している。地文はLRの単節縄文で、縦方向に施している。	長石・石英・雲母 暗褐色 普通	TP1274 5%
25	浅鉢 縄文土器	B(5.5)	口縁部片。口縁部は緩やかに外傾する。口唇部は角頭状で、肥厚する。無文。	長石・石英・雲母にぶい 赤褐色 普通	TP1275 5%

図版番号	器種	計測値				石質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
26	磨製石斧	(12.1)	5.0	2.5	(261.0)	砂岩	刃部・基部の一部欠損。定角式。	Q1020 PL45

### 第643号土坑（第463・464図）

**位置** 調査1区の南西部，C4h7区。

**重複関係** 本跡と第644号土坑は重複するが，新旧関係は不明である。

**規模と平面形** 開口部は長径2.56m，短径2.42mの円形，底面は長径2.62m，短径は2.48mの円形で，深さは48cmである。

**壁** フラスコ状を呈するが，東壁だけは外傾して立ち上がる。

**底** 平坦である。

**埋設土器** 覆土の土層断面に重複しているような状況はなく，底面から掘り込んでいることから，本跡に伴う埋設土器と判断した。南西壁寄りに位置し，掘り方は長径33cm，短径30cmの楕円形で，深さ31cmである。1の深鉢が正位の状態に埋設され，埋設土器内の覆土は第5・6層で，掘り方の覆土は第7・8層である。

#### 土層解説

- 5 暗褐色 ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・鹿沼パミス粒子微量
- 7 暗褐色 ローム粒子少量
- 8 褐色 ローム粒子中量

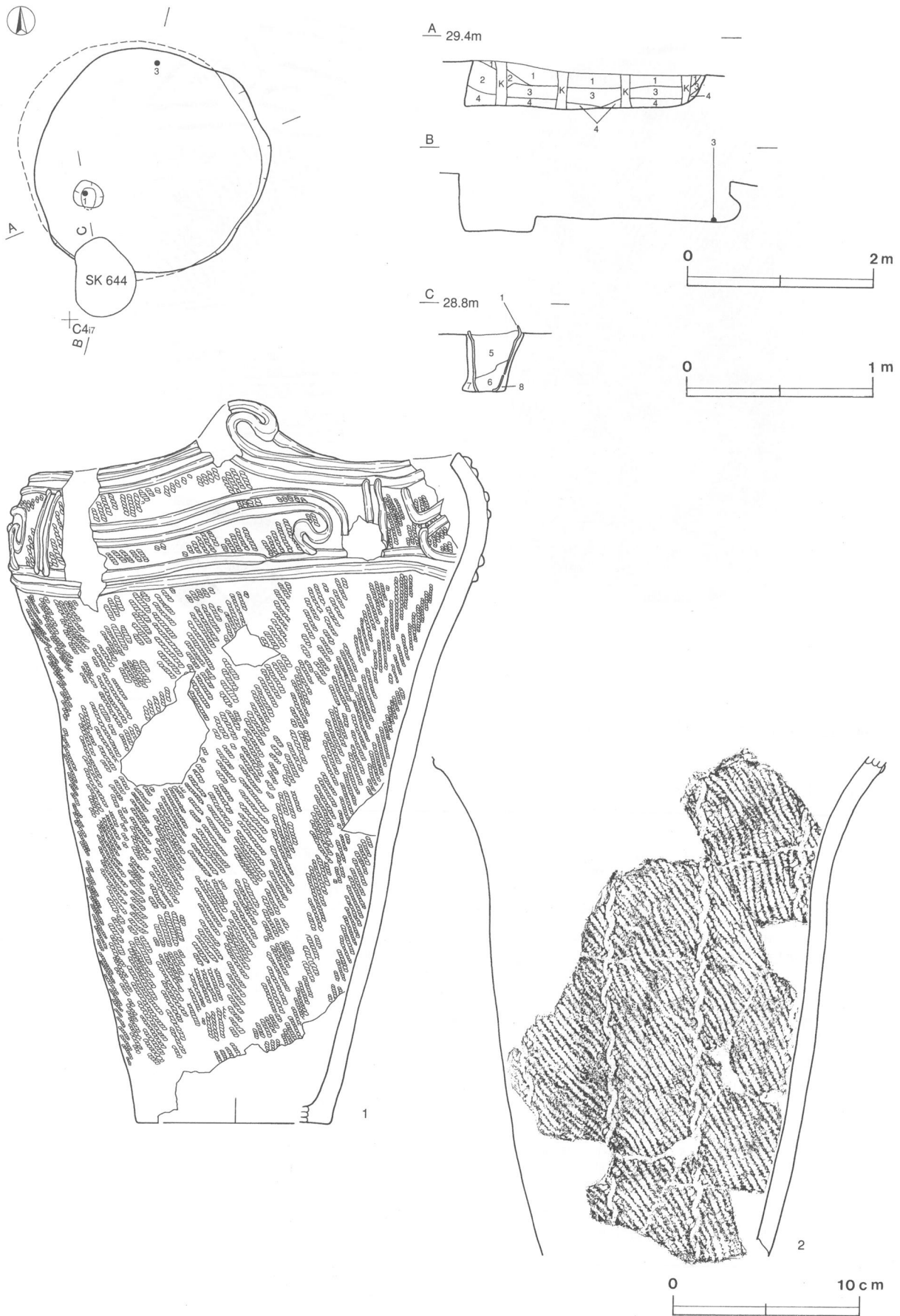
**覆土** 4層に分層され，レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量
- 2 極暗褐色 ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック微量

**遺物** 縄文土器片165点が出土している。そのうち縄文土器片6点を抽出・図示した。1は埋設土器で，底部が欠損する深鉢である。3は口縁部と頸部の一部が欠損する深鉢で，底面から出土している。2は深鉢の胴部片，4は深鉢の口縁部から胴部にかけての破片，5・6は深鉢の口縁部片で，いずれも覆土から出土している。

**所見** 本跡は底面に埋設土器を有するフラスコ状土坑である。時期は，出土土器から中期後葉(加曾利E I式期)と考えられる。



第463图 第643号土坑·出土遺物実測図



第464図 第643号土坑出土遺物実測図

第643号土坑出土遺物観察表（第463・464図）

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
1	深鉢 縄文土器	A 22.4 B 38.6 C [10.4]	口縁部・底部の一部欠損。胴部は直線的に立ち上がり、口縁部は開きながら内彎する。1単位の波状口縁を呈する。波頂部直下には2本一組の隆帯により渦巻文を施し、口縁部には2本一組の隆帯により文様を描出している。地文はLRの単節縄文で、縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい赤褐色 普通	P 1376 90% P L41
2	深鉢 縄文土器	B (26.8)	頸部から胴部にかけての破片。胴部は直線的に立ち上がり、頸部は外傾する。LRの単節縄文と綾織文を縦方向に施している。	長石・石英 にぶい褐色 普通	P 1378 15%
3	深鉢 縄文土器	B (30.0) C 11.8	口縁部・頸部の一部欠損。胴部は直線的に立ち上がり、頸部は外傾する。口縁部と頸部の境に隆帯を巡らしている。Lの無節縄文を縦方向に施している。	長石・石英 にぶい赤褐色 普通	P 1377 60%
4	深鉢 縄文土器	A [17.0] B (15.5)	口縁部から胴部にかけての破片。胴部は直線的に立ち上がり、口縁部は開きながら内彎する。口縁部は細い隆帯で、胴部は半截竹管による平行沈線文で文様を描出している。地文はRLの単節縄文で、縦方向に施している。	長石・石英 灰褐色 普通	P 1379 60%
5	深鉢 縄文土器	B (6.5)	口縁部片。口縁部は内彎する。口縁部には円形の突起を有し、その突起を起点に細い隆帯により文様を描出している。地文はRLの単節縄文で、縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P 1380 5%
6	深鉢 縄文土器	B (6.8)	波状口縁を呈する口縁部片。口縁部は開きながら内彎する。口縁部は細い隆帯により文様を描出している。地文はLの単節縄文で、縦方向に施している。	長石・石英・雲母 暗赤褐色 普通	T P 1276 5%

第645号土坑（第465・466図）

位置 調査1区の南西部，C4h6区。

規模と平面形 開口部は長径1.08m，短径1.04mの円形，底面は長径1.68m，短径は1.48mのほぼ円形で，深さは74cmである。

壁 フラスコ状を呈する。

底 平坦である。

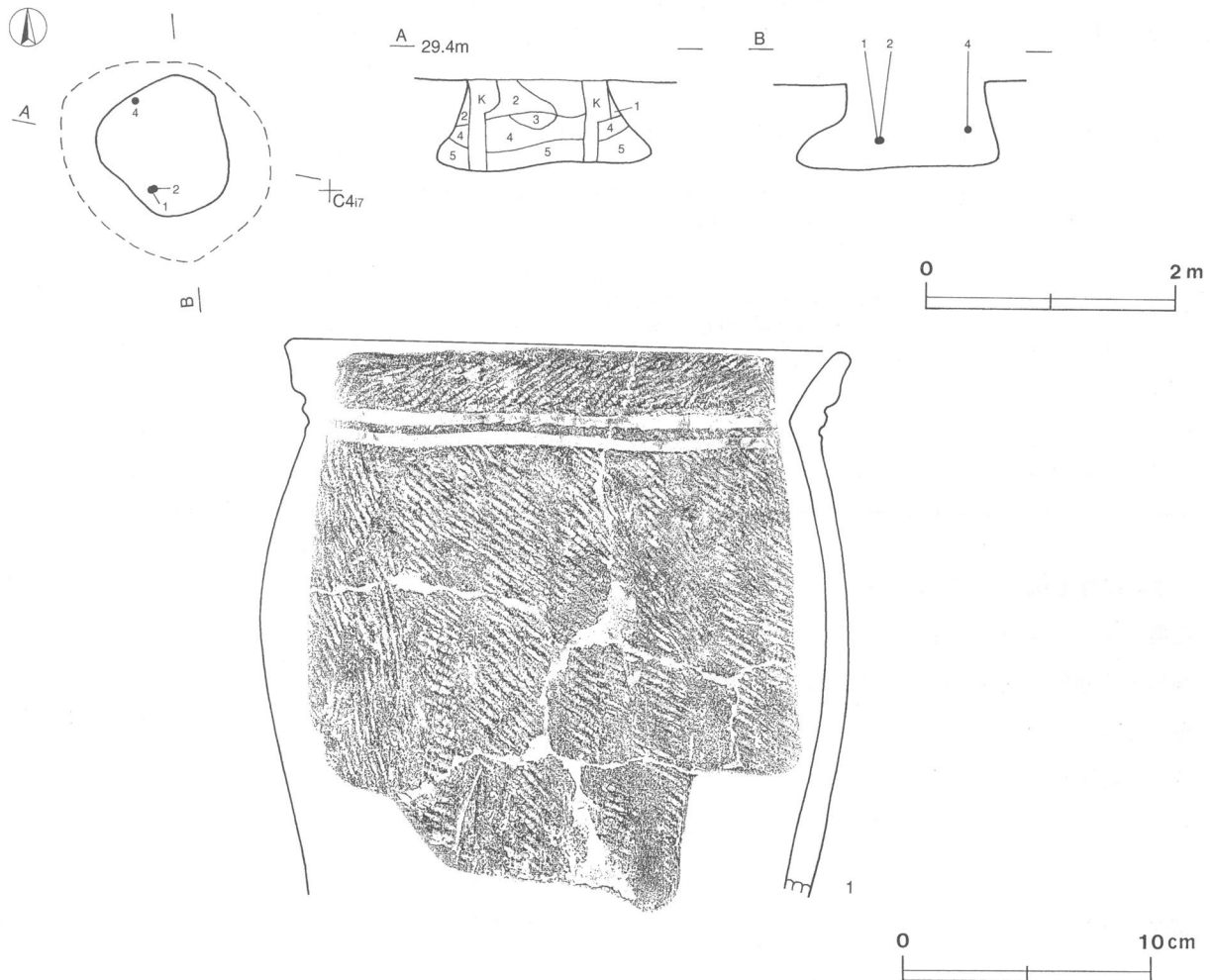
覆土 5層に分層され，レンズ状に堆積することから，自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量
- 3 極暗褐色 ローム粒子微量
- 4 極暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 5 黒褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量

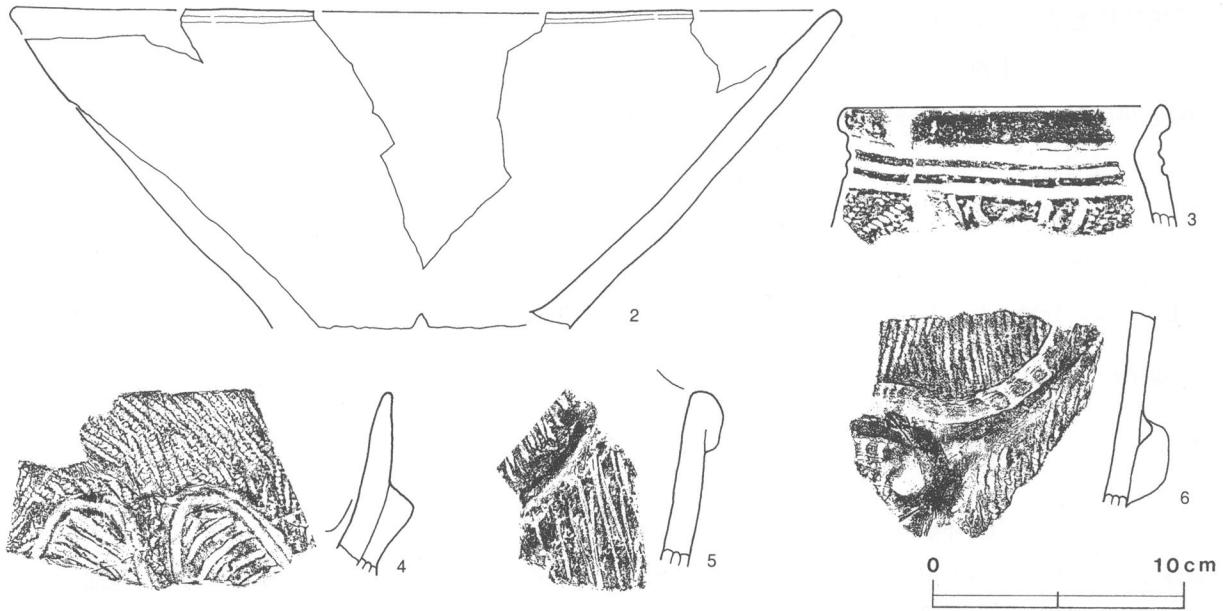
遺物 縄文土器片62点が出土している。そのうち縄文土器片6点を抽出・図示した。1は深鉢の口縁部から胴部にかけての破片，2は浅鉢の口縁部から胴部にかけての破片，4は大波状口縁を呈する深鉢の口縁部片で，いずれも覆土中層から出土している。3・5は深鉢の口縁部片，6は深鉢の胴部片で，いずれも覆土から出土している。

所見 時期は，出土土器から中期中葉(阿玉台Ⅲ・Ⅳ式期)と考えられる。



第465図 第645号土坑・出土遺物実測図





第466図 第645号土坑出土遺物実測図

第645号土坑出土遺物観察表（第465・466図）

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
1	深鉢 縄文土器	A 21.8 B (22.0)	口縁部から胴部にかけての破片。胴部はわずかに内彎して立ち上がり、口縁部は短く外傾する。口縁部と胴部の境に2条の結節沈線文を巡らしている。Lの単節縄文を口縁部は横方向に、胴部は縦方向に施している。	長石・石英・雲母 黒褐色 普通	P 1381 40% P L 41
2	浅鉢 縄文土器	A [32.1] B (12.7)	口縁部から胴部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部内面に稜を有する。無文。	長石・石英・雲母 灰褐色 普通	P 1382 20%
3	深鉢 縄文土器	A [12.4] B (4.9)	口縁部片。口縁部はわずかに内彎する。口縁部には沈線を巡らし、沈線により文様を描出している。地文はRLの単節縄文で、縦方向に施している。	長石・石英・雲母 灰褐色 普通	P 1383 5%
4	深鉢 縄文土器	B (7.3)	大波状口縁を呈する口縁部片。口縁部は外傾する。口縁部は隆帯により文様を描出し、隆帯に沿って沈線文を施している。区画文内には沈線を斜方向に施している。	長石・石英・雲母 暗赤褐色 普通	T P 1277 5%
5	深鉢 縄文土器	B (7.0)	大波状口縁を呈する口縁部片。口縁部はほぼ直立する。口縁に沿ってキザミを有する隆帯を巡らし、口縁部には条線文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 赤褐色 普通	T P 1278 5%
6	深鉢 縄文土器	B (7.6)	胴部片。胴部は直線的に立ち上がる。胴部には環状の突起を有する隆帯により文様を描出している。隆帯に沿って爪形文を施している。地文はLの無節縄文で、斜方向に施している。	長石・石英 黒褐色 普通	T P 1279 5%

### 第647号土坑（第467図）

**位置** 調査1区の南西部，C 4j7区。

**規模と平面形** 長径2.50m，短径2.48mの円形で，深さは20cmである。

**壁** ほぼ直立する。

**底** ほぼ平坦である。

**ピット** 2か所。P1は東壁際に位置し，長径27cm，短径18cmの楕円形で，深さは18cmである。P2は南西壁際に位置し，長径26cm，短径21cmの楕円形で，深さは15cmである。

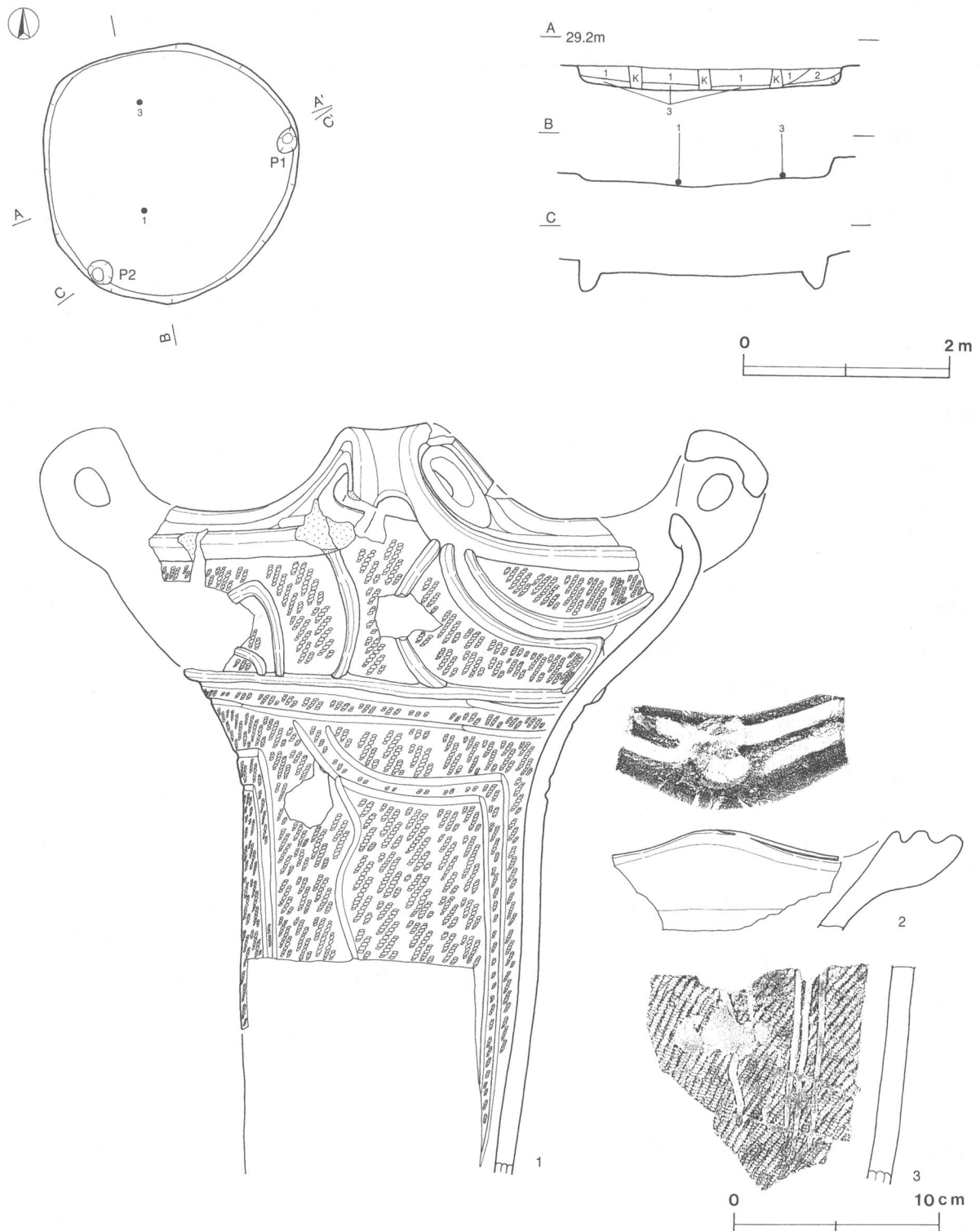
**覆土** 3層に分層され，レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 極暗褐色 ローム粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子中量

遺物 縄文土器片179点が出土している。そのうち縄文土器3点を抽出・図示した。1は口縁部の一部と底部が欠損する深鉢, 3は深鉢の胴部片で、いずれも覆土下層から出土している。2は波状口縁を呈する浅鉢の口縁部片で、覆土から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉(加曾利E I 式期)と考えられる。



第467図 第647号土坑・出土遺物実測図

第647号土坑出土遺物観察表（第467図）

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
1	深鉢 縄文土器	A [26.4] B (36.2)	口縁部の一部及び底部欠損。胴部は直線的に立ち上がり、頸部で屈曲して、口縁部は開きながら内彎する。口縁部には4単位の眼鏡状把手を有し、2本一組の隆帯による文様を描出している。胴部は沈線による文様を描出している。地文はRLの単節縄文で、縦方向に施している。	長石・石英・雲母 灰褐色（上半） にぶい赤褐色（下半） 普通	P 1385 50% P L 41
2	浅鉢 縄文土器	B (4.9)	波状口縁を呈する口縁部片。口唇部には隆帯による文様を描出し、波頂部には沈線に沿う隆帯により渦巻文を施している。無文。	長石・石英・雲母 にぶい赤褐色 普通	P 1386 5%
3	深鉢 縄文土器	B (10.4)	胴部片。胴部は直立する。沈線による3条一組の懸垂文と沈線による波状の懸垂文を施している。地文は0段多条で、RLの単節縄文を、縦方向に施している。	長石・石英・雲母 赤褐色 普通	T P 1281 5%

第649号土坑（第468・469図）

位置 調査1区の南西部，C 4 i7区。

規模と平面形 開口部は長径2.00m，短径1.96mの円形，底面は長径2.08m，短径1.86mの楕円形で，深さは40cmである。

壁 フラスコ状を呈するが，東壁はほぼ直立する。

底 ほぼ平坦である。

ピット 1か所。中央部に位置し，長径24cm，短径20cmの楕円形で，深さは24cmである。

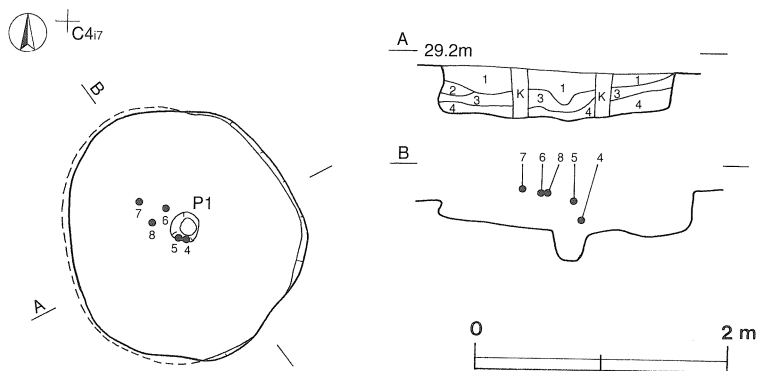
覆土 4層に分層され，レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説

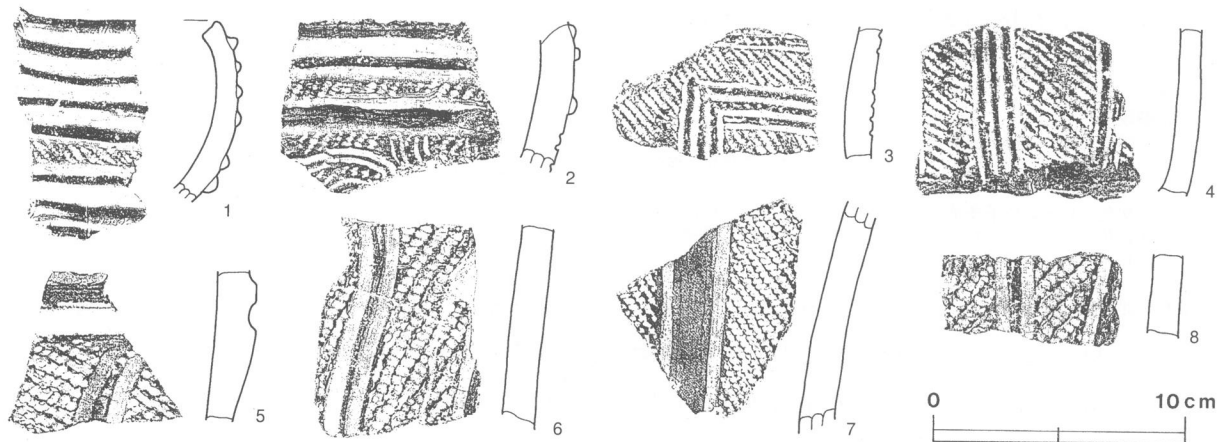
- 1 極暗褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量

遺物 縄文土器片100点が出土している。そのうち縄文土器片8点を抽出・図示した。4は深鉢の胴部片，5は深鉢の頸部片，6～8は深鉢の胴部片で，いずれも覆土上層から出土している。1は深鉢の口縁部片，2は深鉢の頸部片，3は深鉢の胴部片で，いずれも覆土から出土している。

所見 土器は中期後葉の加曽利E I・II式期のものが混在して出土していることから，本跡の廃絶時期は加曽利E II式期と考えられる。



第468図 第649号土坑実測図



第469図 第649号土坑出土遺物実測図

第649号土坑出土遺物観察表（第469図）

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
1	深鉢 縄文土器	B (7.0)	口縁部片。口縁部は内彎する。口縁部は隆帯により文様を描出している。地文はRLの単節縄文で、横方に施している。	長石・石英・雲母 黒褐色 普通	TP1282 5%
2	深鉢 縄文土器	B (6.0)	頸部片。頸部は外傾する。頸部には隆帯を巡らし、胴部は半截竹管による平行沈線文で文様を描出している。地文はRLの単節縄文で、縦方に施している。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	TP1283 5%
3	深鉢 縄文土器	B (5.2)	胴部片。胴部は直線的に立ち上がる。胴部は半截竹管による平行沈線文で文様を描出している。地文はLRの単節縄文で、縦方に施している。	長石・石英・雲母 灰褐色 普通	TP1284 5%
4	深鉢 縄文土器	B (6.5)	胴部片。胴部は直線的に立ち上がる。胴部は半截竹管による平行沈線文で文様を描出している。地文はLRの単節縄文で、縦方に施している。	長石・石英 橙色 普通	TP1285 5%
5	深鉢 縄文土器	B (6.0)	頸部片。頸部はほぼ直立する。頸部に沈線文を巡らし、胴部は2条一組の沈線文で文様を描出している。地文はLRの単節縄文で、縦方に施している。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	TP1286 5%
6	深鉢 縄文土器	B (7.7)	胴部片。胴部は直線的に立ち上がる。胴部は懸垂する沈線文間を磨り消している。地文はRLの単節縄文で、縦方に施している。	長石・石英・雲母 暗赤褐色 普通	TP1288 5%
7	深鉢 縄文土器	B (9.2)	胴部片。胴部はわずかに外反する。胴部は懸垂する沈線文間を磨り消している。地文はLRの単節縄文で、縦方に施している。	長石・石英・雲母 橙色 普通	TP1289 5%
8	深鉢 縄文土器	B (3.4)	胴部片。胴部は直線的に立ち上がる。胴部は懸垂する沈線文間を磨り消している。地文はRLの単節縄文で、縦方に施している。	長石・石英 にぶい橙色 普通	TP1287 5%

### 第650号土坑（第470図）

**位置** 調査1区の南西部，C4i6区。

**重複関係** 第1号堀に掘り込まれていることから，本跡が古い。

**規模と平面形** 第1号堀に掘り込まれているため，開口部の規模は不明であるが，底部は長径2.18m，短径は1.64mの楕円形と推定され，深さは56cmである。

**壁** フラスコ状を呈する。

**底** 平坦である。

**ピット** 2か所。P1は南壁寄りに位置し，長径54cm，短径48cmの楕円形で，深さ10cmである。P2は北壁

寄りに位置し、径18cmほどの円形で、深さ18cmである。

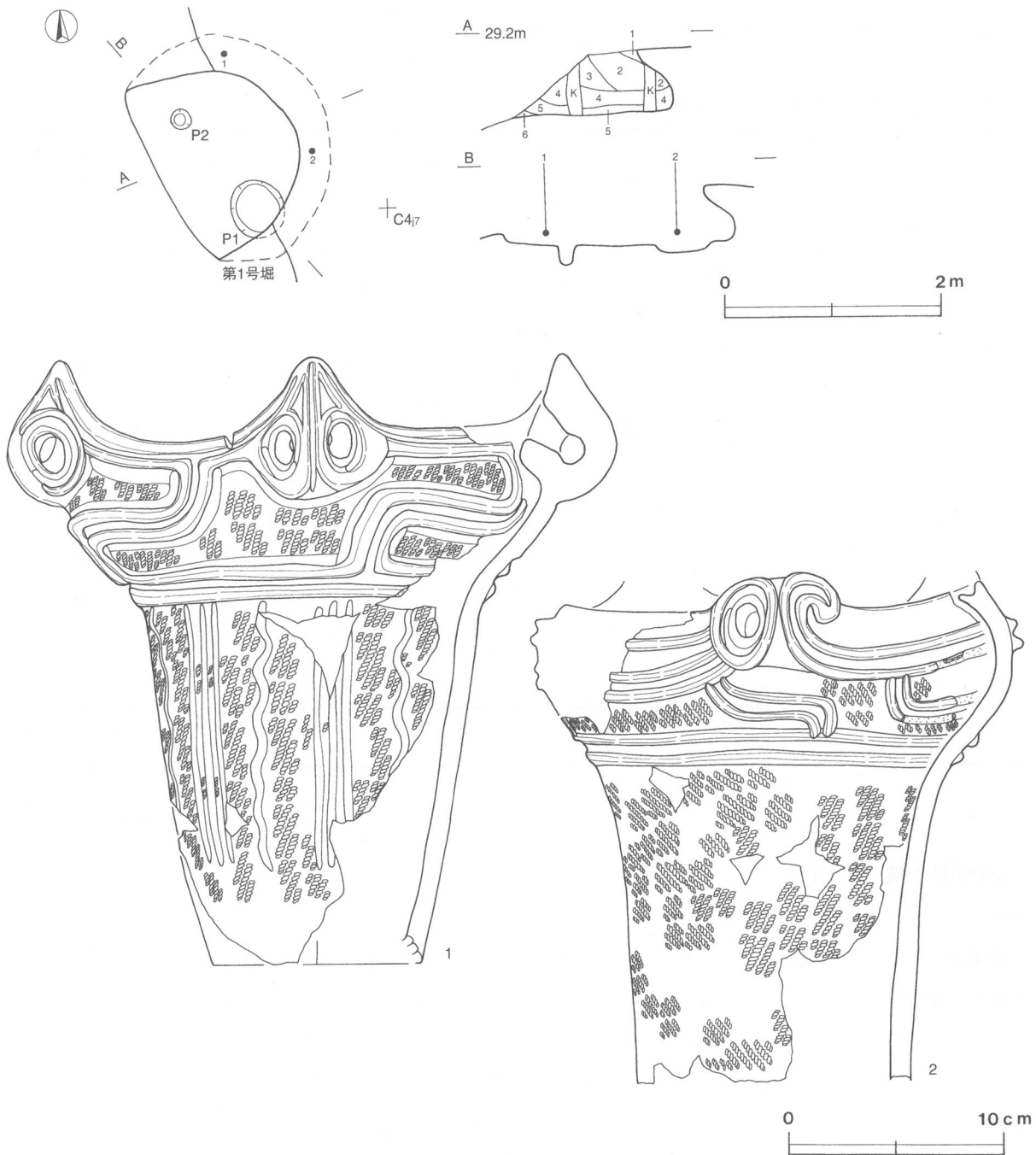
**覆土** 6層に分層され、レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

**土層解説**

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量
- 5 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ローム粒子微量

**遺物** 縄文土器片66点が出土している。そのうち縄文土器2点を抽出・図示した。1は4単位の眼鏡状把手を有する深鉢片, 2は3単位の眼鏡状把手を有する深鉢で、いずれも覆土下層から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から中期後葉(加曾利E I 式期)と考えられる。



第470図 第650号土坑・出土遺物実測図

第650号土坑出土遺物観察表 (第470図)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
1	深鉢 縄文土器	A [23.2] B 28.0 C [9.6]	口縁部から底部にかけての破片。胴部は直線的に立ち上がり、頸部で屈曲して、口縁部は開きながら内彎する。口縁部には4単位の眼鏡状把手を有し、2本一組の隆帯によるクランク文を施している。胴部には沈線による3条一組の懸垂文と沈線による波状の懸垂文を交互に施している。地文はRLの単節縄文で、縦方向に施している。	長石・石英・雲母 暗赤褐色 普通	P1388 40% P L41
2	深鉢 縄文土器	A [18.8] B (23.5)	口縁部の一部及び底部欠損。胴部は直線的に立ち上がり、頸部で屈曲して、口縁部は開きながら内彎する。口縁部には3単位の眼鏡状把手を有し、2本一組の隆帯による文様を描出している。地文はRLの単節縄文で、横及び縦方向に施している。	長石・石英・雲母 黒褐色 (上半) にぶい橙色 (下半) 普通	P1387 60% P L41

第658号土坑 (第471・472図)

位置 調査1区の南西部, C4f5区。

規模と平面形 開口部は長径1.62m, 短径1.26mの楕円形, 底面は長径1.52m, 短径1.42mのほぼ円形で, 深さは34cmである。

壁 フラスコ状を呈するが, 北壁と南壁は外傾して立ち上がる。

底 ほぼ平坦である。

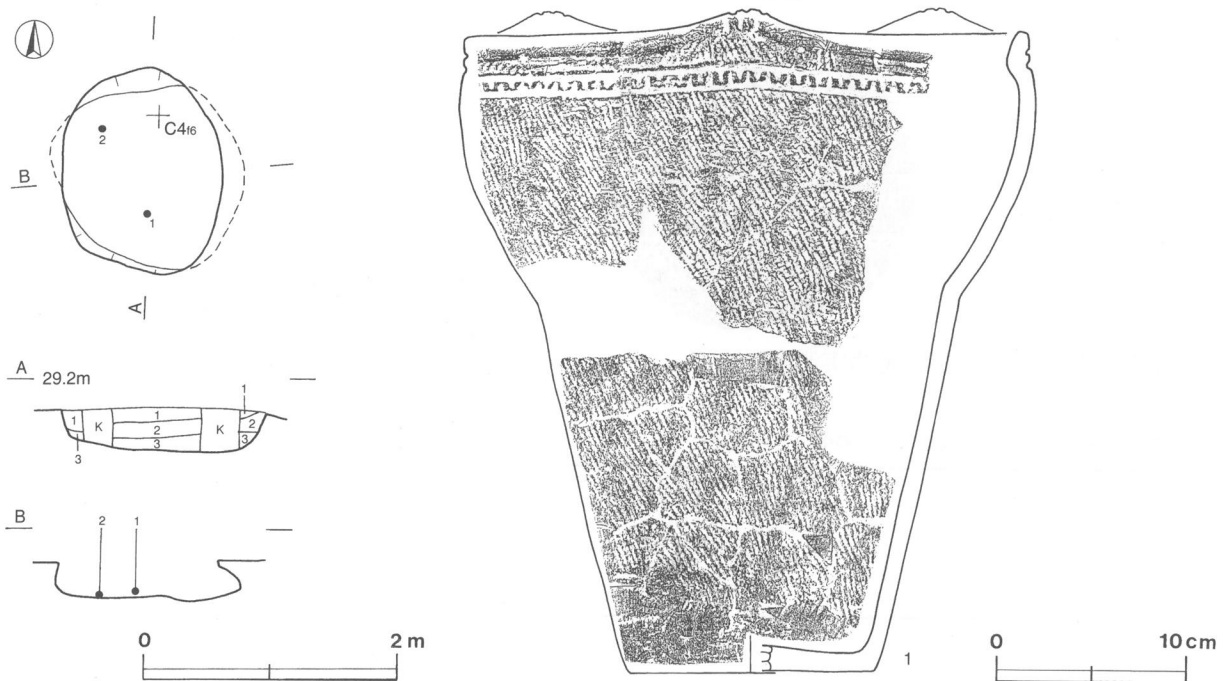
覆土 3層に分層され, レンズ状に堆積していることから, 自然堆積と考えられる。

土層解説

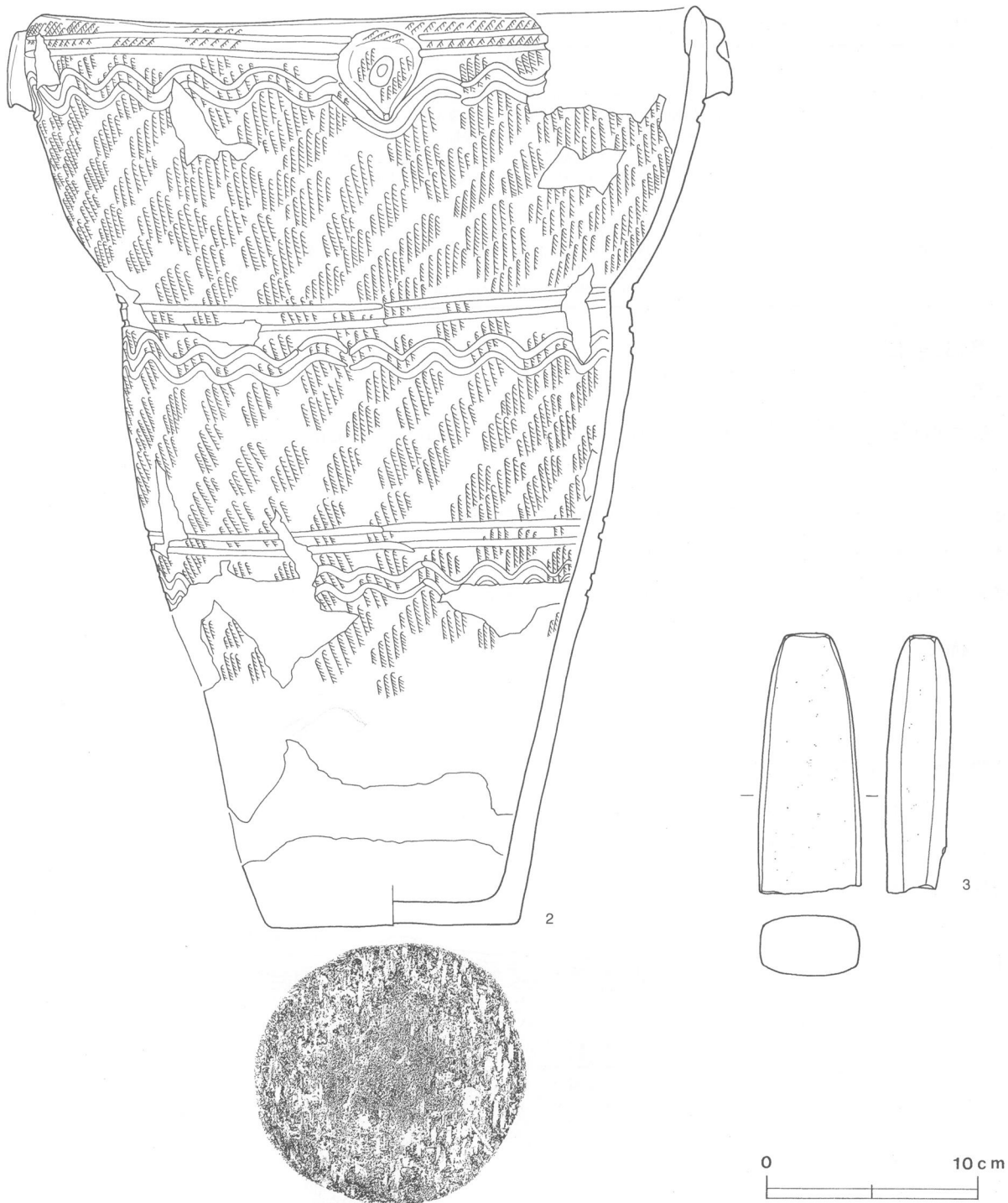
- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量

遺物 縄文土器片58点, 磨製石斧1点が出土している。そのうち縄文土器2点, 磨製石斧1点を抽出・図示した。1は深鉢の口縁部から胴部にかけての破片, 2は口縁部と胴部の一部が欠損する深鉢で, いずれも底面から出土している。3は磨製石斧で, 覆土から出土している。

所見 時期は, 出土土器から中期中葉(阿玉台Ⅲ式期)と考えられる。



第471図 第658号土坑・出土遺物実測図



第472図 第658号土坑出土遺物実測図

第658号土坑出土遺物観察表 (第471・472図)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
1	深鉢 縄文土器	A [28.8] B [45.0] C [12.0]	口縁部から胴部にかけての破片。胴部は直線的に立ち上がり、頸部で屈曲し、口縁部は開きながら内彎する。3単位の波状口縁を呈し、口唇部直下に交互刺突による連続コの字状文を巡らしている。Lの無節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 黒褐色 普通	P1390 25%

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
2	深鉢 縄文土器	A [30.9] B 43.0 C 11.8	口縁部・胴部の一部欠損。胴部は直線的に立ち上がり、頸部で屈曲し、口縁部は開きながら内彎する。口縁部に紡錘形状の突起を4単位施し、口唇部直下・頸部と胴部の境・胴部中位に半截竹管による平行沈線文を巡らしている。地文はLの無節縄文で、斜方向に施している。	長石・石英・雲母 黒褐色（上半） にぶい橙色（下半） 普通	P1389 80% P L 42 底部に網代痕

図版番号	器種	計測値				石質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
3	磨製石斧	(12.3)	4.9	3.1	(337.4)	緑色凝灰岩	刃部欠損。定角式。	Q1021 P L 45

### 第664号土坑（第473・474図）

**位置** 調査1区の南部，C 4 d9区。

**重複関係** 第1号堀に掘り込まれていることから，本跡が古い。

**規模と平面形** 第1号堀と第671号土坑に掘り込まれているため，開口部は長径1.54m，短径が推定で1.50mの円形，底面は長径1.92m，短径が推定で1.70mの楕円形で，深さは70cmである。

**壁** フラスコ状を呈するが，東壁はほぼ直立する。

**底** ほぼ平坦である。

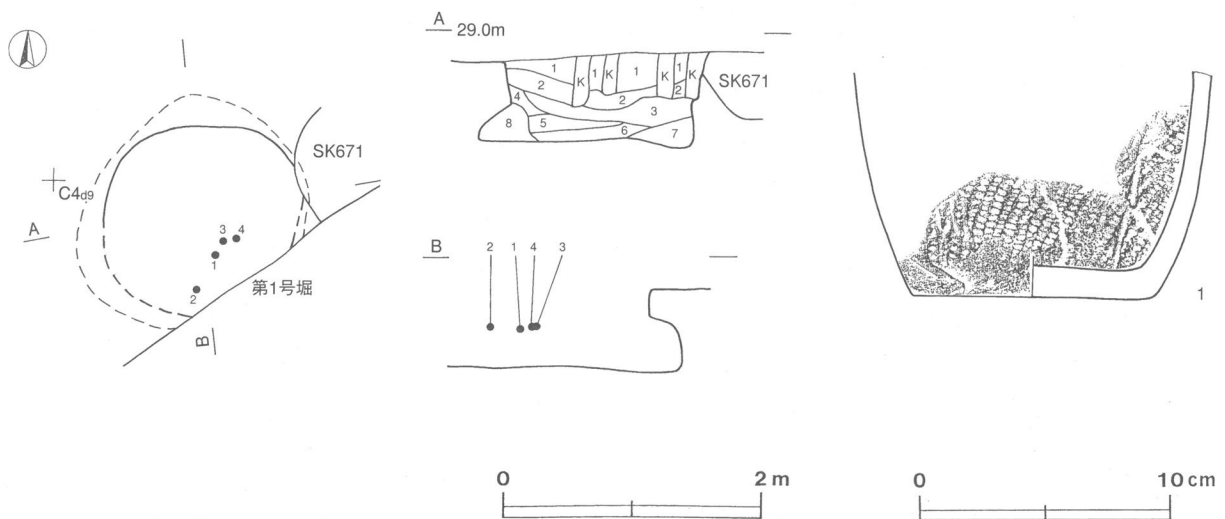
**覆土** 8層に分層され，レンズ状に堆積することから，自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量，焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・炭化物・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子多量，ローム小ブロック・焼土粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量，焼土粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・焼土粒子微量
- 6 褐色 ローム大ブロック少量
- 7 暗褐色 ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量
- 8 暗褐色 ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム中ブロック少量，焼土小ブロック・焼土粒子微量

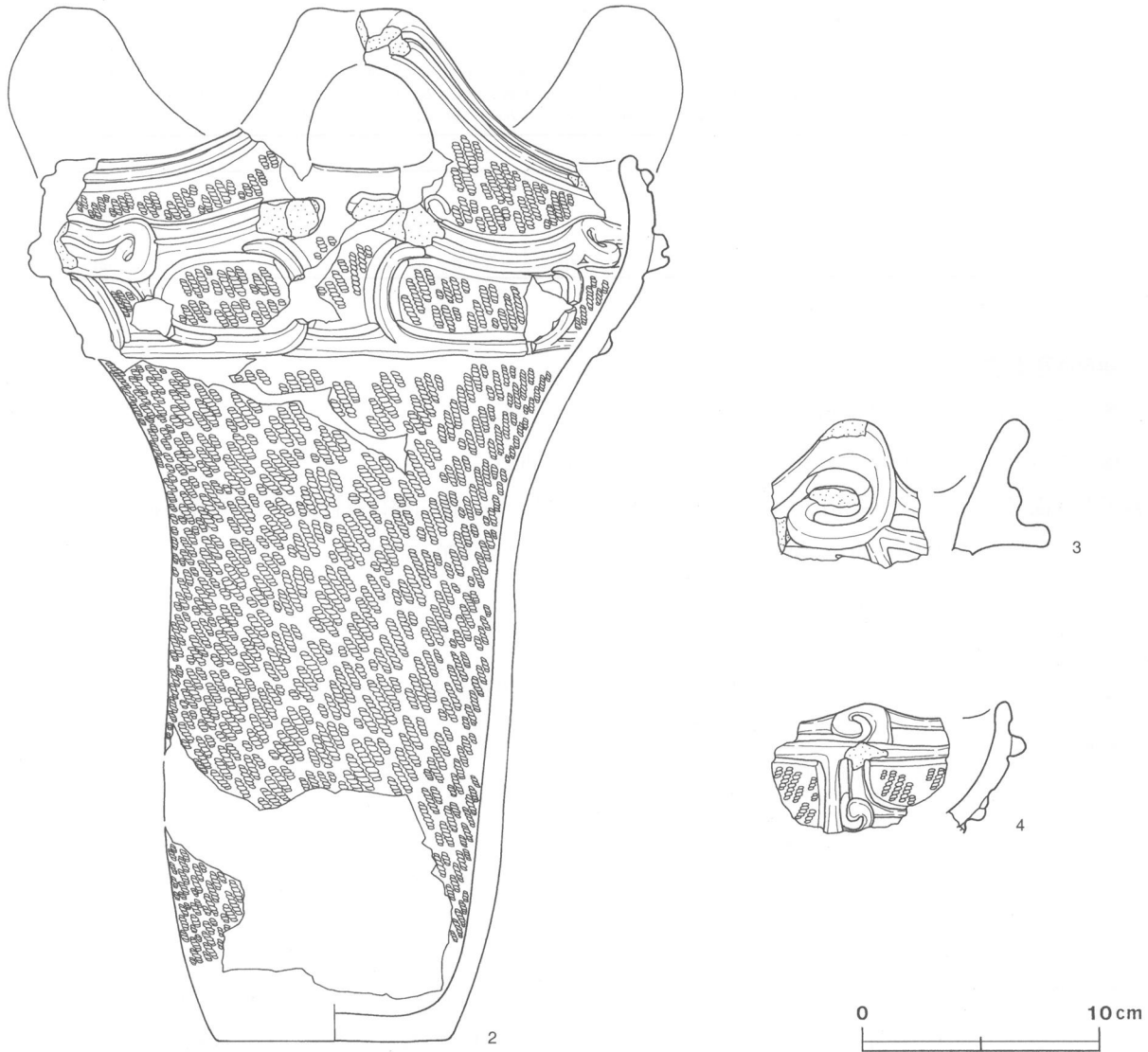
**遺物** 縄文土器片66点が出土している。そのうち縄文土器4点を抽出・図示した。1は深鉢の胴部から底部にかけての破片，2は口縁部の一部が欠損する深鉢，3・4は深鉢の口縁部片で，いずれも覆土中層から出土している。

**所見** 時期は，出土土器から中期後葉(加曾利E I 式期)と考えられる。



第473図 第664号土坑・出土遺物実測図





第474図 第664号土坑出土遺物実測図

第664号土坑出土遺物観察表（第473・474図）

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
1	深鉢 縄文土器	B (9.2) C 9.4	胴部から底部にかけての破片。胴部は直線的に立ち上がる。沈線による懸垂文を施している。地文はRLの単節縄文で、縦方向に施している。	長石・石英・雲母 赤褐色 普通	P 1392 10%
2	深鉢 縄文土器	A [23.8] B 43.0 C 9.8	口縁部・胴部の一部欠損。胴部はほぼ直線的に立ち上がり、頸部で外傾し、口縁部は開きながら内彎する。把手部の大半は欠損しているが、3単位の眼鏡状把手を有することが考えられる。口縁部には相対する環状の突起を3単位施し、背に沈線を有する隆帯により把手部と連結している。地文はLRの単節縄文で、縦方向に施している。	長石・石英 暗赤褐色 普通	P 1391 70% P L 42
3	深鉢 縄文土器	B (5.7)	波状口縁を呈する口縁部片。波頂部直下に隆帯により渦巻文を施している。	長石・石英 黒褐色 普通	P 1394 5%
4	深鉢 縄文土器	B (5.2)	小波状口縁を呈する口縁部片。口縁部は開きながら内彎する。口唇部直下に隆帯を巡らし、波頂部直下に隆帯による渦巻文を施している。口縁部には沈線に沿う隆帯により文様を描出している。地文はRLの単節縄文で、縦方向に施している。	長石・石英 黒褐色 普通	P 1396 5%

**第667号土坑**（第475・476図）

**位置** 調査1区の南部，C4d9区。

**重複関係** 第1号堀に掘り込まれていることから，本跡が古い。

**規模と平面形** 開口部は長径1.05m，短径0.86mの楕円形，底面は長径2.84m，短径は2.76の円形で，深さは162cmである。

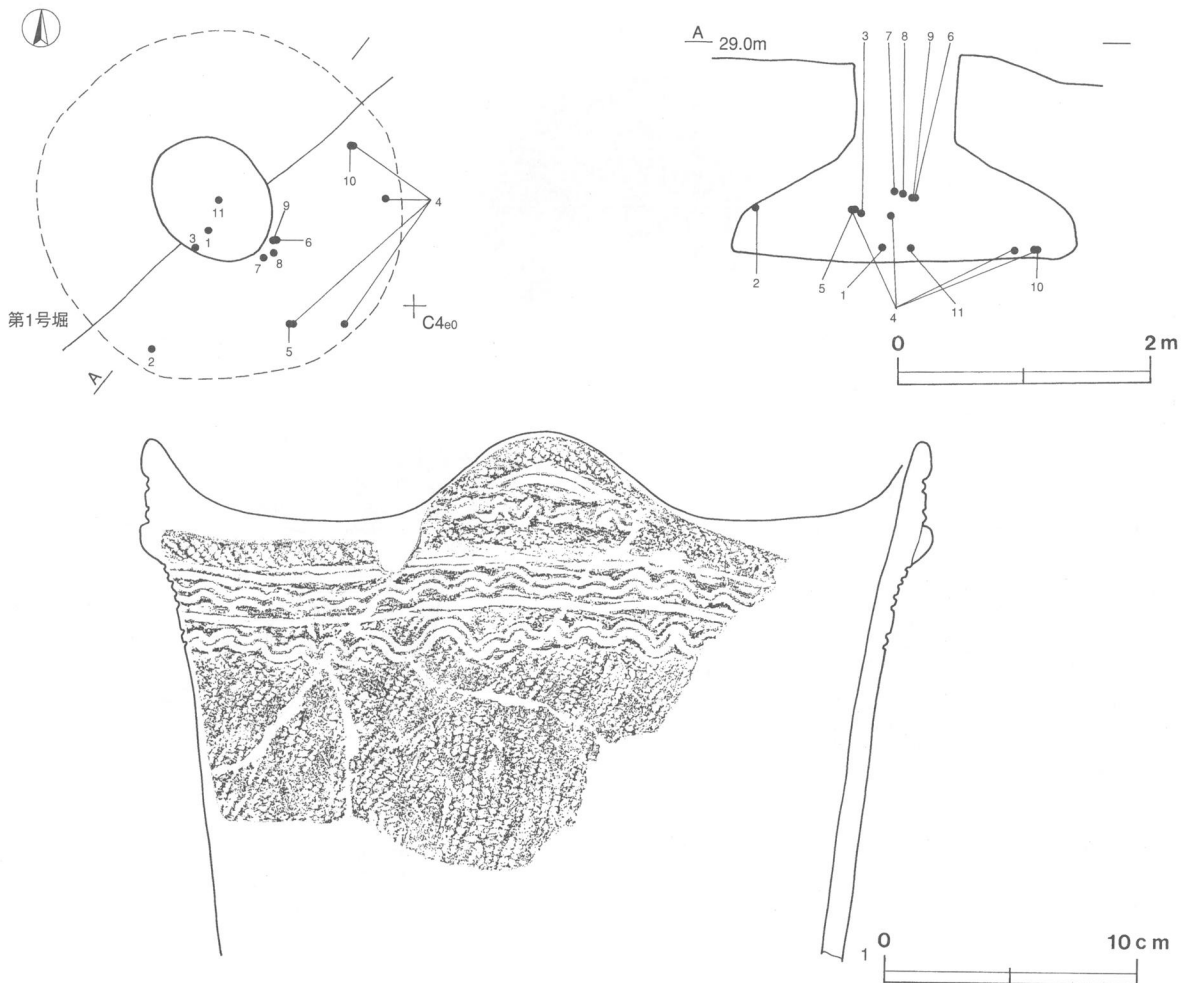
**壁** フラスコ状を呈する。

**底** 平坦である。

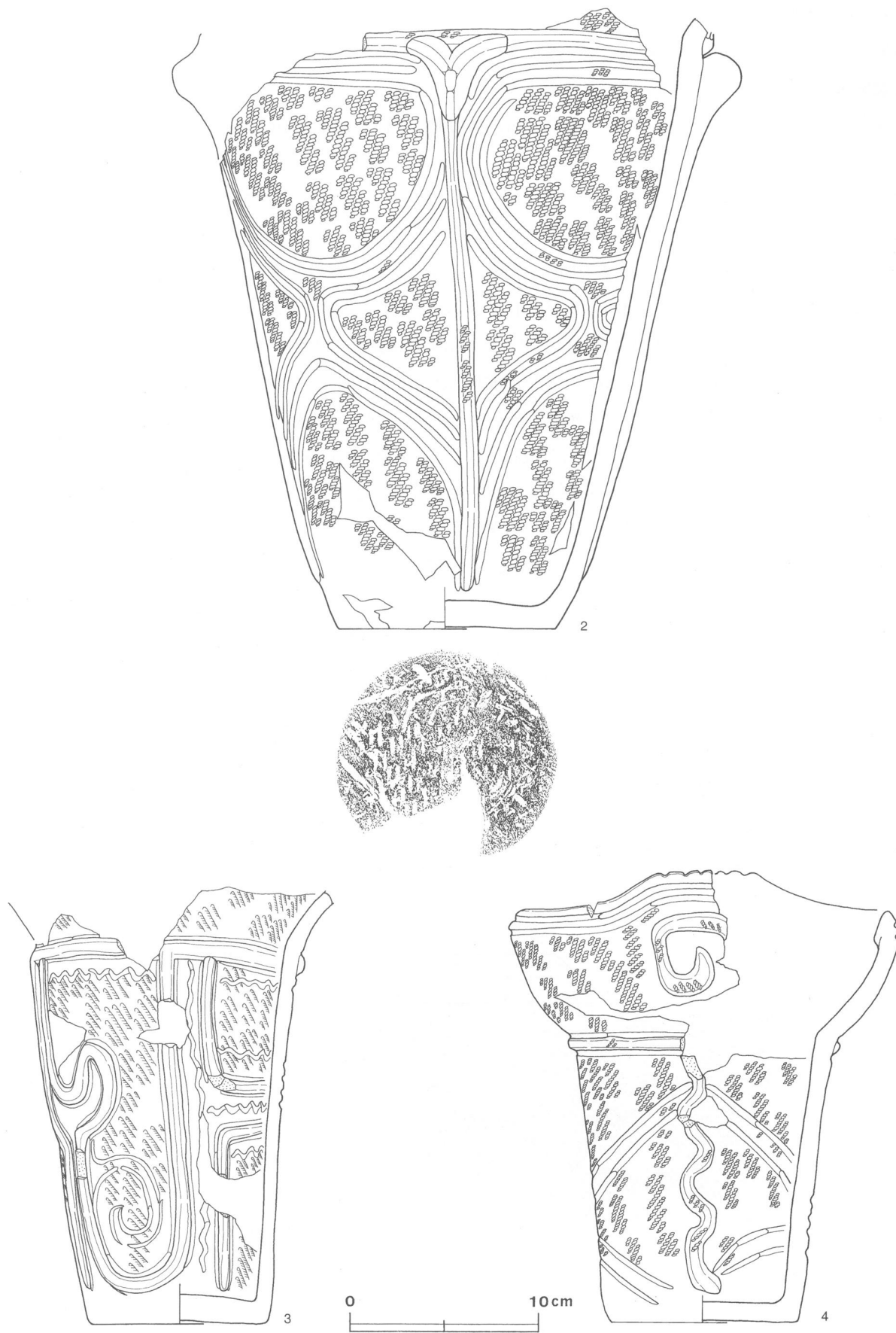
**覆土** 土層断面を観察するための調査を開始したが，崩落する危険性があったため調査できなかった。

**遺物** 大量の縄文土器片318点，磨石1点が出土している。そのうち縄文土器18点を抽出・図示した。1は深鉢の口縁部から胴部にかけての破片，2は上半部が欠損する深鉢，3は深鉢の頸部から底部にかけての破片，4は口縁部の一部が欠損する深鉢，5は4単位の波状口縁を有する深鉢，10は深鉢の胴部から底部にかけての破片，11は深鉢の口縁部片で，いずれも覆土下層から出土している。6は甕の口縁部から胴部にかけての破片，7は波状口縁を呈する深鉢の口縁部片，8は波状口縁を呈する深鉢の口縁部から胴部にかけての破片，9は深鉢の胴部から底部にかけての破片で，いずれも覆土中層から出土している。12・13は深鉢の口縁部片，14は深鉢の頸部片，15～18は深鉢の胴部片で，いずれも覆土から出土している。

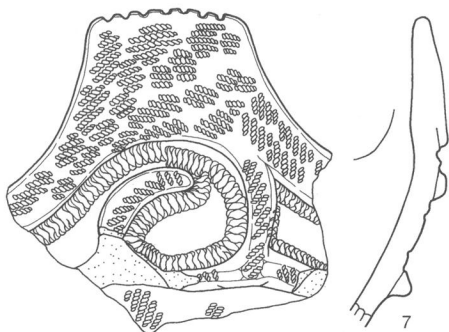
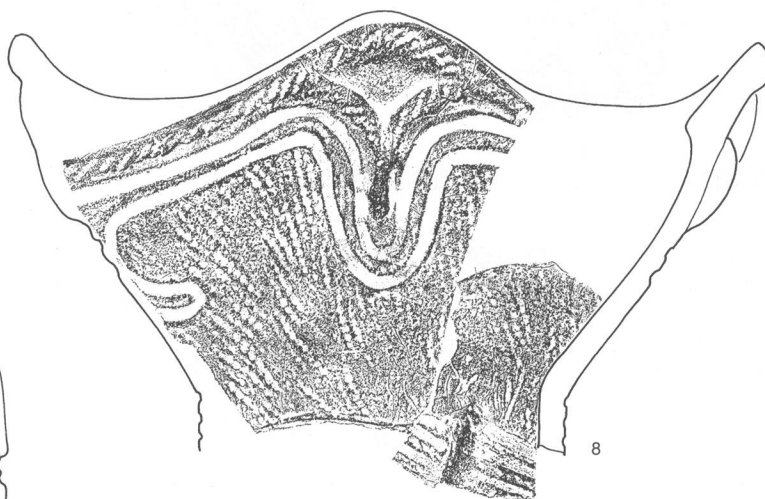
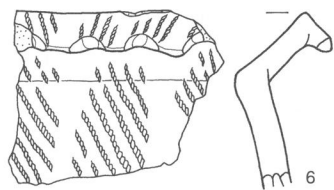
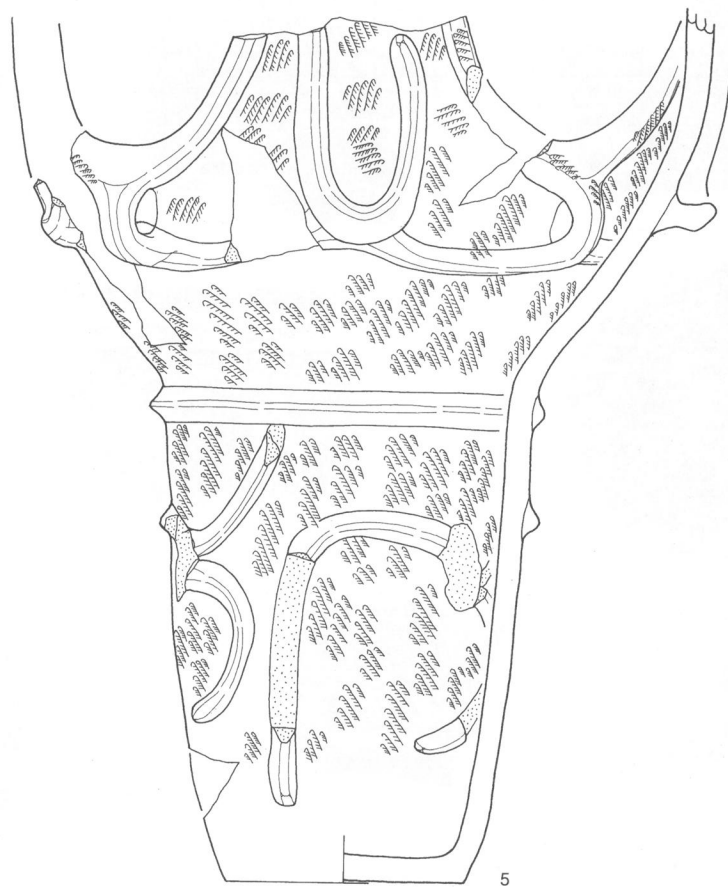
**所見** 時期は，出土土器から中期中葉(阿玉台Ⅲ式期)と考えられる。



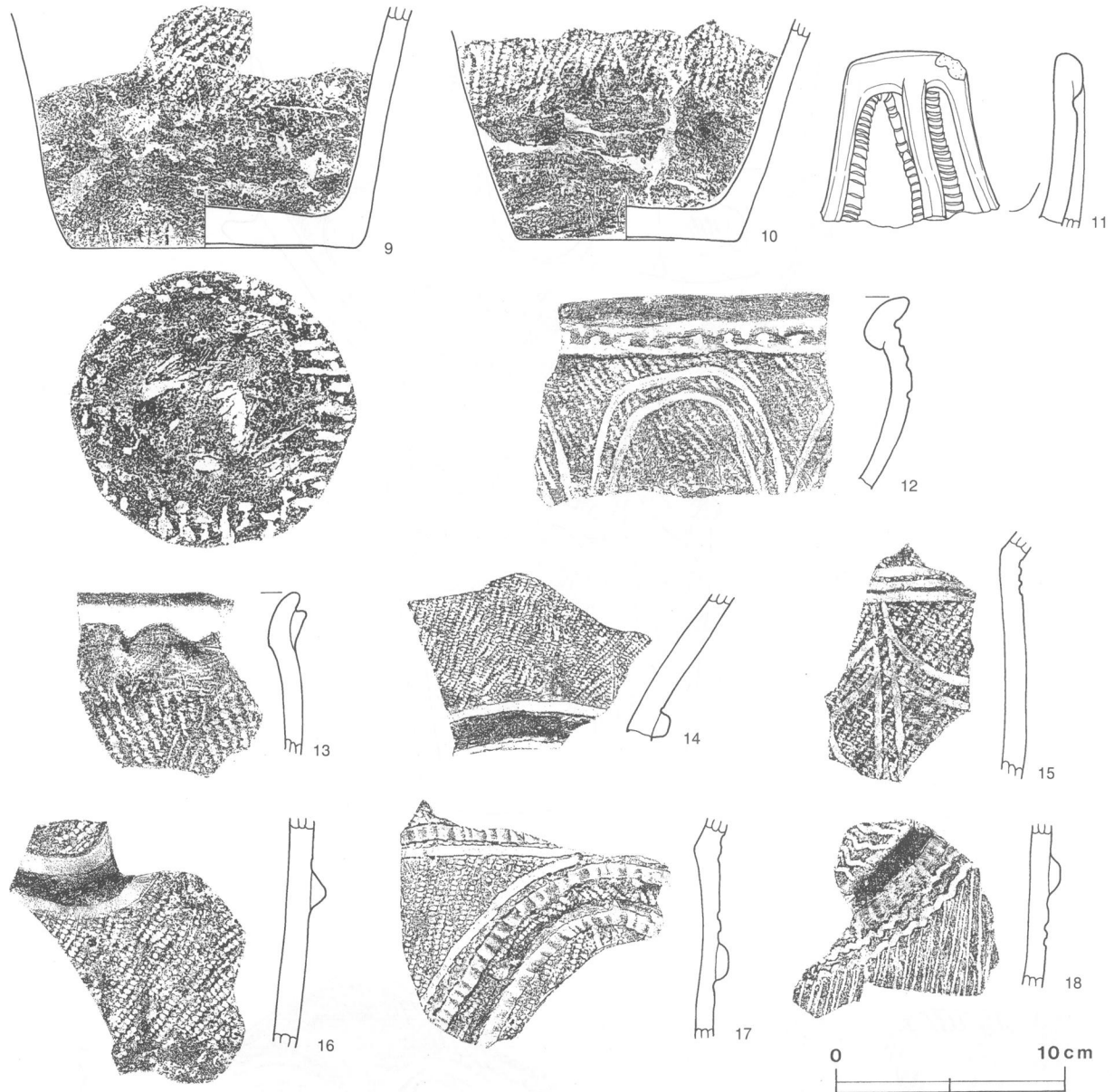
第475図 第667号土坑・出土遺物実測図



第476图 第667号土坑出土遺物実測図（1）



第477图 第667号土坑出土遗物实测图(2)



第478図 第667号土坑出土遺物実測図（3）

第667号土坑出土遺物観察表（第475～478図）

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
1	深鉢 縄文土器	A [30.0] B (20.6)	口縁部から胴部にかけての破片。胴部は直線的に立ち上がり、口縁部に至る。4単位の波状口縁を呈し、口唇部直下に隆帯を巡らしている。口縁部には半截竹管による波状の平行沈線文を巡らしている。RLの単節縄文を口唇部外面には横方向に、それ以下は縦方向に施している。	長石・石英・雲母 黒褐色 普通	P 1402 20%
2	深鉢 縄文土器	B (32.1) C 11.4	上半部欠損。胴部は直線的に立ち上がる。頸部と胴部に境に隆帯を巡らしている。胴部は隆帯によるY字状文を懸垂させて縦位に4分割し、その間を沈線で上下に対向する弧状の文様を施している。地文はRLの単節縄文で、縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい赤褐色 普通	P 1400 50% P L 42 底部に網代痕
3	深鉢 縄文土器	B (22.0) C 9.1	頸部から底部にかけての破片。胴部は直線的に立ち上がり、頸部で屈曲して外傾する。頸部と胴部の境に隆帯を巡らし、胴部は隆帯により文様を描出している。隆帯に沿って沈線文を施している。地文はLの無節縄文で、縦方向に施している。	長石・石英 黒褐色（上半） にぶい褐色（下半） 普通	P 1398 50% P L 42

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
4	深鉢 縄文土器	A [19.2] B 23.7 C 9.8	口縁部の一部欠損。胴部は直線的に立ち上がり、頸部で屈曲して外傾し、口縁部は開きながら内彎する。2単位の大波状口縁を呈し、波頂部にキザミを施している。波頂部直下に隆帯による渦巻文を施し、頸部と胴部の境に隆帯を巡らしている。胴部は波頂部下に波状の隆帯を懸垂させて縦位に2分割し、その間を沈線で上下に対向する弧状の文様を施している。地文はRLの単節縄文で、縦方向に施している。	長石・石英・雲母 黒褐色(上半) にぶい褐色(下半) 普通	P1399 70% P L42
5	深鉢 縄文土器	A [26.0] B (34.6) C 9.4	口縁部・胴部の一部欠損。胴部は直線的に立ち上がり、頸部で屈曲して外傾し、口縁部は開きながら内彎する。4単位の大波状口縁を呈する。口縁部には波頂部直下に隆帯によるU字状文を施し、波底部直下に橋状把手を有している。頸部と胴部の境に隆帯を巡らし、胴部には環状の突起を有する隆帯により3単位の文様を施している。Lの無節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 黒褐色(上半) にぶい褐色(下半) 普通	P1397 80% P L42
6	甕 縄文土器	B (6.9)	口縁部から胴部にかけての破片。胴部は内彎して立ち上がり、口縁部で屈曲して外傾する。口唇部外面に鐮状の隆帯を巡らし、押圧文を施している。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 良好	P1406 5%
7	深鉢 縄文土器	B (12.2)	大波状口縁を呈する口縁部片。口縁部は開きながら内彎する。口縁部は波頂部下に隆帯による渦巻文を施し、隆帯に沿って半截竹管による結節平行沈線文を施している。RLの単節縄文を主に横方向に施している。	長石・石英・雲母 黒褐色 普通	P1403 5%
8	深鉢 縄文土器	A [29.0] B (17.4)	口縁部から胴部にかけての破片。胴部は直線的に立ち上がり、頸部で屈曲して外傾し、口縁部は開きながら内彎する。4単位の大波状口縁を呈し、波頂部直下に隆帯によるV字状文を施している。隆帯に沿って沈線文を施している。頸部と胴部の境に沈線を巡らし、波底部下に隆帯を垂下させている。地文はLRの単節縄文で、縦方向に施している。	長石・石英・雲母 灰褐色 普通	P1404 15%
9	深鉢 縄文土器	B (10.5) C 12.4	胴部から底部にかけての破片。胴部は直線的に立ち上がる。RLの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P1407 10% 底部に網代痕
10	深鉢 縄文土器	B (9.7) C 9.8	胴部から底部にかけての破片。胴部は直線的に立ち上がる。RLの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P1408 10%
11	深鉢 縄文土器	B (9.7)	大波状口縁を呈する口縁部片。口縁部は直立する。口縁部は隆帯により文様を描出し、隆帯に沿って爪形文を施している。	長石・石英・雲母 灰褐色 普通	P1405 5%
12	深鉢 縄文土器	B (8.1)	口縁部片。口縁部は開きながら内彎する。口唇部直下に交互刺突による連続コの字状文を巡らし、口縁部には沈線により文様を施している。地文はLの無節縄文で、縦方向に施している。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	T P1290 5%
13	深鉢 縄文土器	B (7.0)	口縁部片。口縁部はわずかに内彎する。口唇部直下に押圧文を有する隆帯を巡らしている。Lの無節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 橙色 普通	T P1291 5%
14	深鉢 縄文土器	B (6.2)	頸部片。頸部は外傾する。頸部と胴部の境に隆帯を巡らしている。RLの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 灰褐色 普通	T P1292 5%
15	深鉢 縄文土器	B (11.1)	胴部片。胴部は直線的に立ち上がり、頸部で屈曲する。頸部と胴部の境に隆帯を巡らし、胴部は沈線により文様を描出している。地文はRLの単節縄文で、縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	T P1295 5%
16	深鉢 縄文土器	B (10.1)	胴部片。胴部は直線的に立ち上がる。胴部は隆帯により文様を描出し、隆帯に沿って沈線文を施している。RLの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	T P1296 5%
17	深鉢 縄文土器	B (9.6)	胴部片。胴部は直線的に立ち上がり、頸部で屈曲する。頸部と胴部の境に沈線文と爪形文を巡らしている。胴部は隆帯により文様を描出し、隆帯に沿って爪形文を施している。RLの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	T P1293 5%
18	深鉢 縄文土器	B (7.3)	胴部片。胴部は直線的に立ち上がる。胴部は隆帯により文様を描出し、隆帯に沿って爪形文と沈線による鋸歯状文を施している。地文は条線文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 黒褐色 普通	T P1294 5%

第669号土坑 ((第479図))

位置 調査1区の中央部, C 4 d0区。

重複関係 第1号堀と第668号土坑に掘り込まれていることから, 本跡が古い。

規模と平面形 第1号堀に掘り込まれているため径1.90mの円形と推定され, 深さは35cmである。

壁 直立する。

底 ほぼ平坦である。

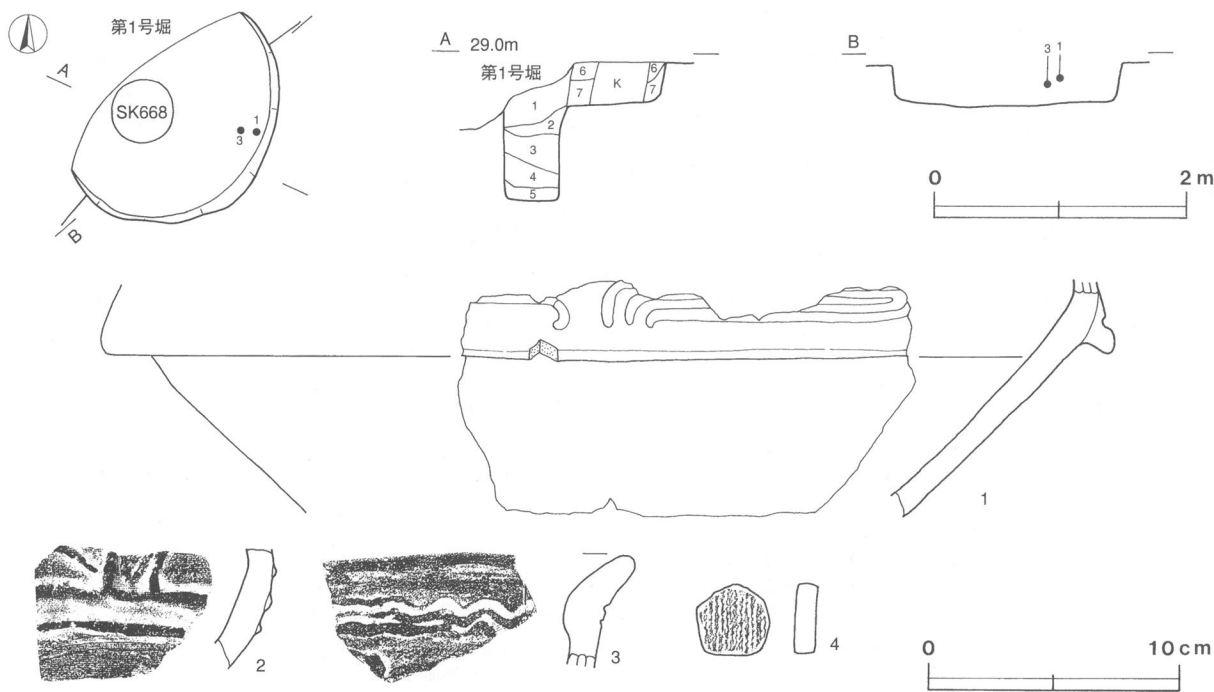
覆土 第1～5層は第668号土坑の覆土で, 第6・7層が本跡の覆土である。レンズ状に堆積していることから, 自然堆積と考えられる。

土層解説

- 6 黒褐色 ローム粒子・炭化物微量
- 7 極暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量

遺物 縄文土器片60点, 土器片円盤1点が出土している。そのうち縄文土器片3点, 土器片円盤1点を抽出・図示した。1は浅鉢の口縁部付近から胴部にかけての破片, 3は深鉢の口縁部片で, いずれも覆土下層から出土している。2は深鉢の口縁部片, 4は土器片円盤で, いずれも覆土から出土している。

所見 時期は, 出土土器から中期後葉(加曾利E I 式期)と考えられる。



第479図 第669号土坑・出土遺物実測図

第669号土坑出土遺物観察表 (第479図)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
1	浅鉢 縄文土器	B (9.5)	口縁部付近から胴部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がり, 口縁部は屈曲して直立する。口縁部の下端は鋤状に突出させ, 口縁部は沈線により文様を描出している。胴部は無文である。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P 1409 10%
2	深鉢 縄文土器	B (4.6)	口縁部付近の破片。口縁部は開きながら内彎する。口縁部は隆帯により文様を描出している。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	T P 1297 5%
3	深鉢 縄文土器	B (4.5)	口縁部片。口縁部は外反する。口唇部直下に半截竹管による波状の平行沈線文を巡らし, 口縁部は細い隆帯により文様を描出している。	長石・石英・雲母 にぶい赤褐色 普通	T P 1298 5%

図版番号	器種	計測値				石質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
4	土器片円盤	2.8	2.9	0.8	9.4	土製	中期土器片を素材。捺糸文。	DP1003

### 第670号土坑（第480図）

**位置** 調査1区の南西部，C4f5区。

**規模と平面形** 長径0.68m，短径0.48mの楕円形で，深さは10cmである。

**壁** 外傾して立ち上がる。

**底** ほぼ平坦である。

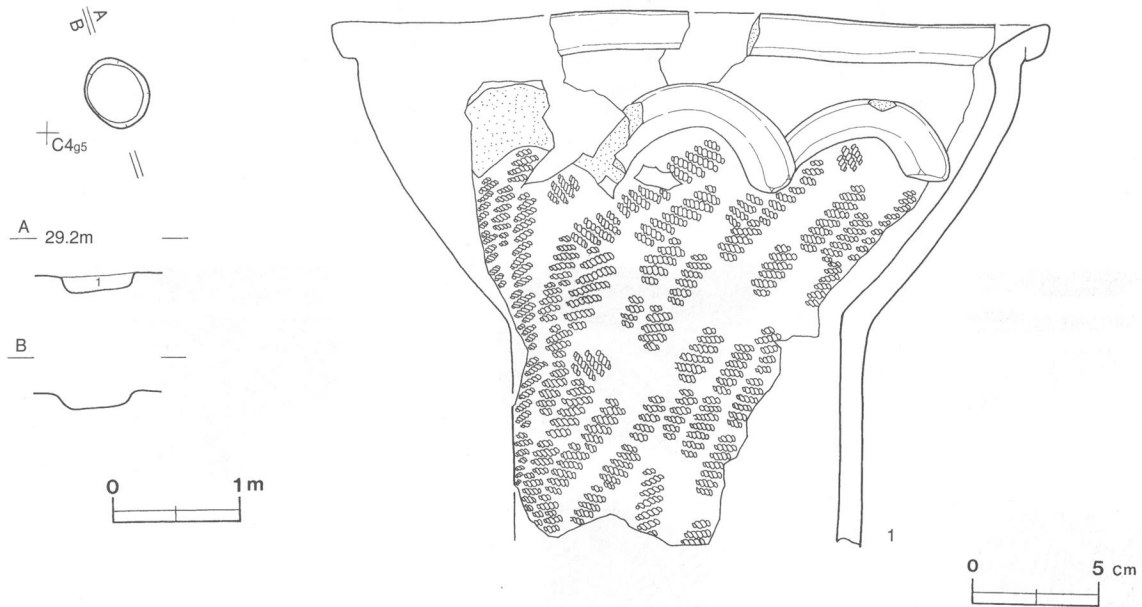
**覆土** 1層である。

#### 土層解説

1 黒褐色 ローム粒子微量

**遺物** 縄文土器片3点が出土している。そのうち縄文土器片1点を抽出・図示した。1は深鉢の口縁部から胴部にかけての破片で，覆土から出土している。

**所見** 時期は出土土器から中期中葉(阿玉台IV式期)と考えられる。



第480図 第670号土坑・出土遺物実測図

第670号土坑出土遺物観察表（第480図）

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
1	深鉢 縄文土器	A [28.0] B (20.5)	口縁部から胴部にかけての破片。胴部は直線的に立ち上がり，頭部で屈曲し，口縁部は開きながら内彎する。口縁部には突出した波状の隆帯文を施している。RLの単節縄文を斜方向に施している。	長石・石英 にぶい赤褐色 普通	P1410 20%

### 第672号土坑（第481図）

**位置** 調査1区の中央部，C5b1区。

**重複関係** 第1号堀と第673号土坑に掘り込まれていることから，本跡が古い。



**規模と平面形** 第1号堀に掘り込まれているため、長径1.84m、短径が推定で1.70mの楕円形で、深さは40cmである。

**壁** 外傾して立ち上がる。

**ピット** 1か所。P1は北壁際に位置し、長径22cm、短径18cmの楕円形で、深さは22cmである。

**底** ほぼ平坦である。

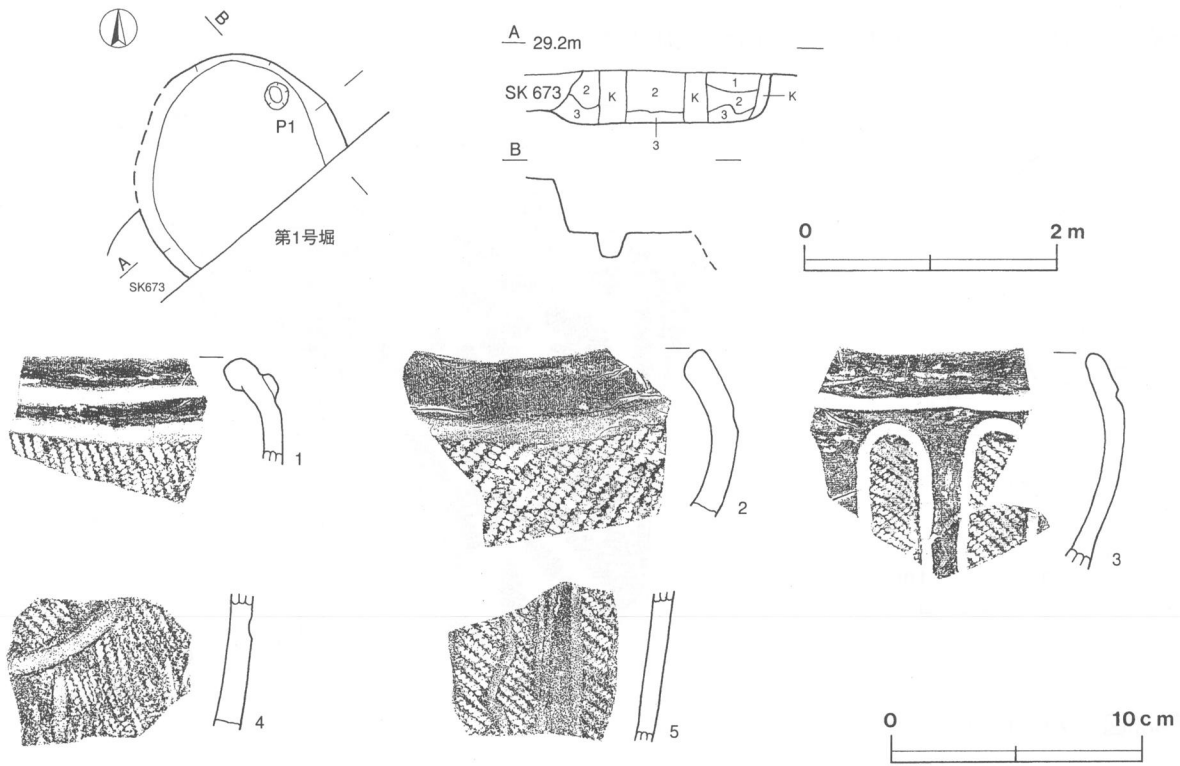
**覆土** 3層に分層され、レンズ状に堆積することから、自然堆積と考えられる。

**土層解説**

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子微量、第1層より色調が暗い

**遺物** 縄文土器片84点が出土している。そのうち縄文土器片5点を抽出・図示した。1～3は深鉢の口縁部片、4は深鉢の頸部片、5は深鉢の胴部片で、いずれも覆土から出土している。

**所見** 土器は中期後葉にわたる破片(加曾利EⅡ～Ⅳ式期)が混在しており、時期を明確に位置付けることはできないが、中期後葉と考えられる。



第481図 第672号土坑・出土遺物実測図

第672号土坑出土遺物観察表 (第481図)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
1	深鉢 縄文土器	B (4.2)	口縁部片。口縁部は内彎する。口唇部直下に沈線が沿う隆帯を巡らしている。RLの単節縄文を横方向に施している。	長石・石英・雲母 黒褐色 普通	T P 1299 5%
2	深鉢 縄文土器	B (6.7)	口縁部片。口縁部は内彎する。口唇部直下に沈線を巡らしている。RLの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英 にぶい橙色 普通	T P 1302 5%

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
3	深鉢 縄文土器	B (8.5)	口縁部片。口縁部は内彎する。口唇部直下に沈線を巡らし、口縁部には沈線により区画文を施している。区画文内にはLRの単節縄文を縦方向に充填している。	長石・石英にぶい 橙色普通	T P 1301 5%
4	深鉢 縄文土器	B (5.5)	頸部片。頸部はほぼ直立する。頸部は沈線により文様を描出している。	長石・石英・雲母にぶい 褐色普通	T P 1303 5%
5	深鉢 縄文土器	B (6.1)	胴部片。胴部は直線的に立ち上がる。懸垂する沈線文間を磨り消している。LRの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英にぶい 橙色普通	T P 1304 5%

### 第675号土坑 (第482・483図)

**位置** 調査1区の中央部, C 5b2区。

**重複関係** 本跡は第52号住居跡に掘り込まれていることから, 本跡が古い。

**規模と平面形** 開口部は長径1.54m, 短径1.30mの楕円形, 底面は長径1.84m, 短径1.60mのほぼ円形で, 深さは78cmである。

**壁** フラスコ状を呈する。

**底** ほぼ平坦である。

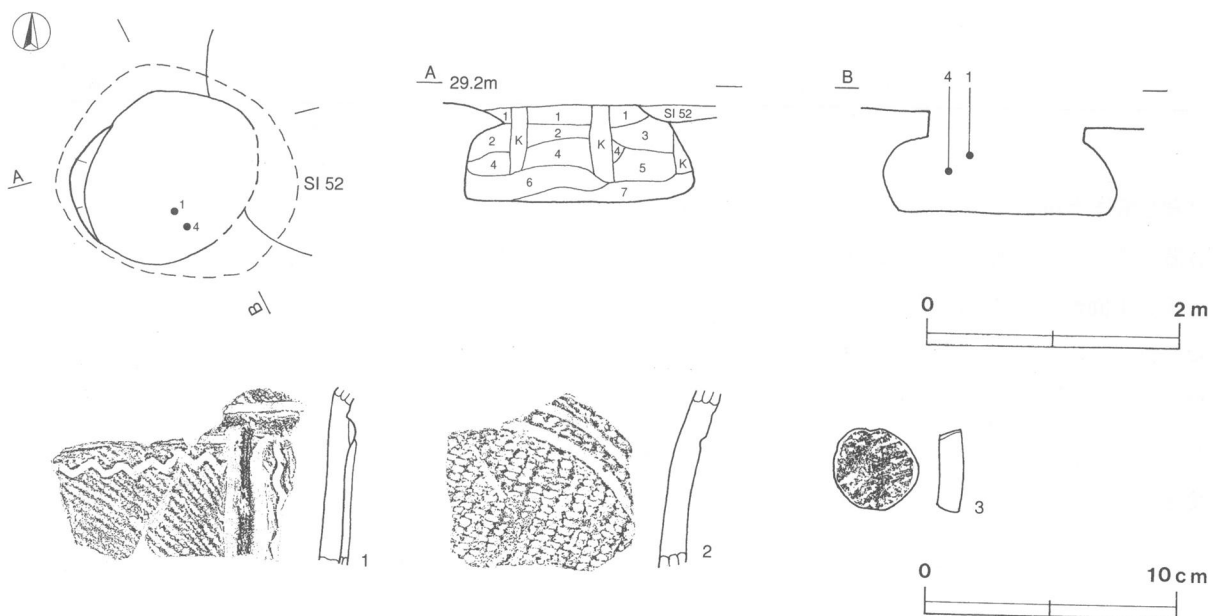
**覆土** 7層に分層され, レンズ状に堆積していることから, 自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

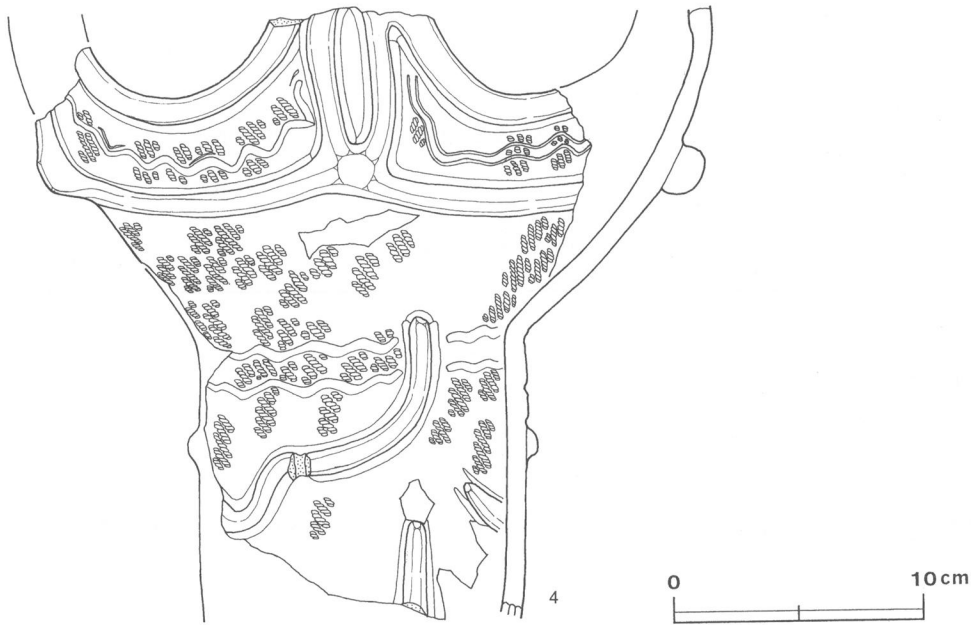
- 1 黒褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化物・炭化粒子・鹿沼パミス粒子・粘土小ブロック微量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック・焼土粒子微量
- 6 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム大ブロック・ローム中ブロック微量
- 7 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量

**遺物** 縄文土器片41点, 土器片錘1点が出土している。そのうち縄文土器片3点, 土器片錘1点を抽出・図示した。1は深鉢の胴部片, 4は波状口縁を呈する深鉢の口縁部から胴部にかけての破片で, いずれも覆土中層から出土している。2は深鉢の胴部片, 3は土器片錘で, いずれも覆土から出土している。

**所見** 時期は, 出土土器から中期中葉(阿玉台IV式期)と考えられる。



第482図 第675号土坑・出土遺物実測図



第483図 第675号土坑出土遺物実測図

第675号土坑出土遺物観察表 (第482・483図)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
1	深鉢 縄文土器	B (7.1)	胴部片。胴部は直線的に立ち上がる。頸部と胴部の境に隆帯を巡らし、胴部には隆帯を懸垂させている。隆帯に沿って沈線文を施している。地文はLの無節縄文で、縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	T P1305 5%
2	深鉢 縄文土器	B (7.0)	胴部片。胴部はわずかに外反して立ち上がる。沈線により文様を描出している。地文はRLの単節縄文で、縦方向に施している。	長石・石英・雲母 暗褐色 普通	T P1306 5%
4	深鉢 縄文土器	A [27.0] B (24.3)	口縁部から胴部にかけての破片。胴部は直線的に立ち上がり、頸部で屈曲し、口縁部は開きながら内彎する。4単位の大波状口縁を呈し、口縁部には波頂部直下に隆帯による楕円形区画文を施している。頸部と胴部の境には沈線による鋸歯状文を巡らしている。LRの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P 1411 25% P L 42

図版番号	器種	計測値				石質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
3	土器片錘	3.2	3.4	1.0	15.8	土製	中期土器片を素材。Lの無節縄文。	D P1004

第676号土坑 (第484図)

位置 調査1区の南部, C 4 d0区。

規模と平面形 長径1.48m, 短径1.34mの楕円形で、深さは34cmである。

壁 ほぼ直立する。

底 平坦である。

ピット 1か所。P 1は南壁際に位置し、長径88cm, 短径58cmの楕円形で、深さ58cmである。

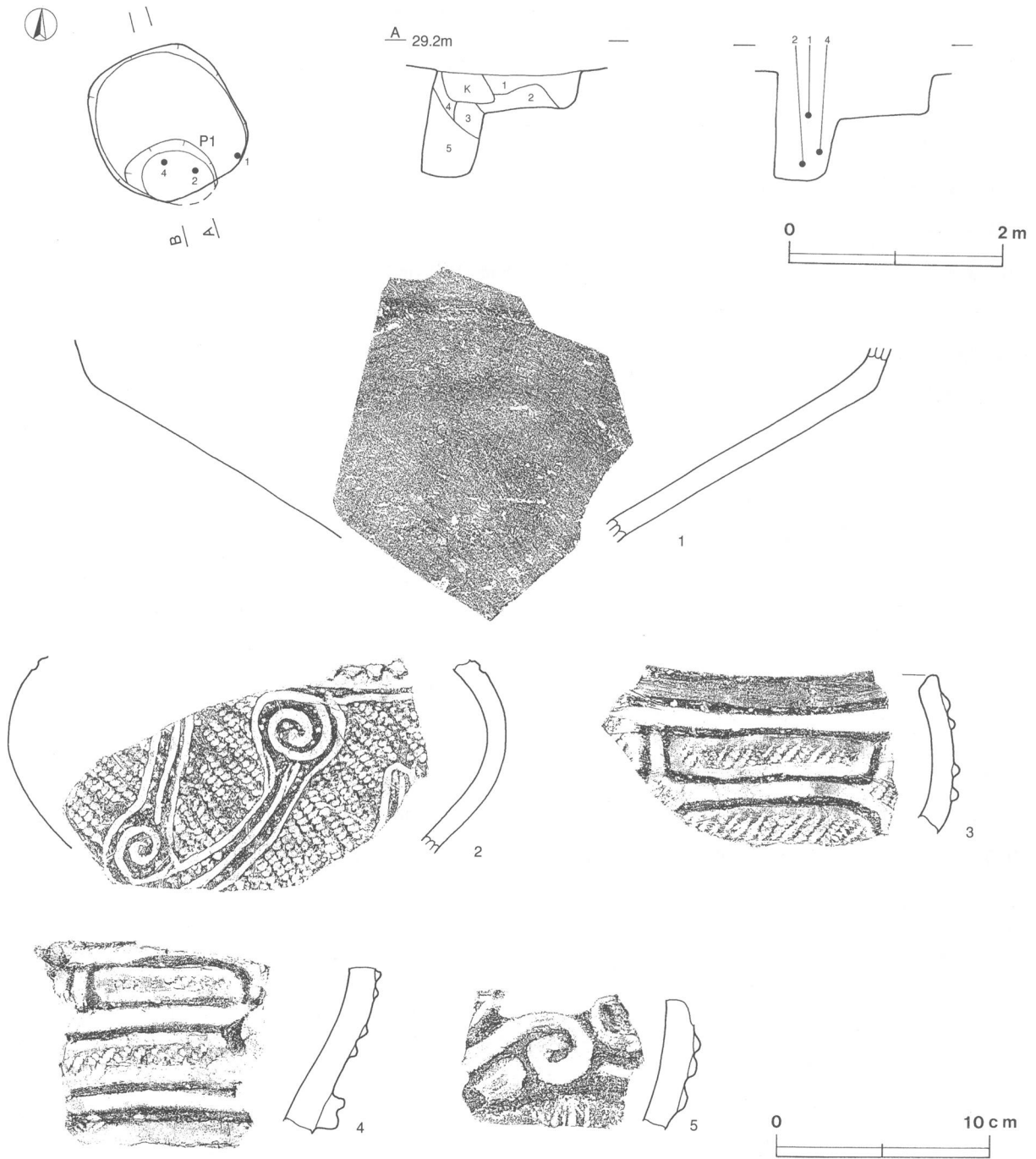
覆土 5層に分層され、第3～5層はP1の覆土である。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック・炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量, ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量

遺物 縄文土器片52点が出土している。そのうち縄文土器片5点を抽出・図示した。1は浅鉢の口縁部付近から胴部にかけての破片で覆土下層から出土している。2は鉢の口縁部付近から胴部にかけての破片, 4は深鉢の口縁部付近の破片で, いずれもP1の覆土から出土している。3は深鉢の口縁部片, 5は深鉢の口縁部付近の破片で, いずれも覆土から出土している。

所見 時期は, 出土土器から中期後葉(加曾利E I 式期)と考えられる。



第484図 第676号土坑・出土遺物実測図

第676号土坑出土遺物観察表（第484図）

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
1	浅鉢 縄文土器	B (9.4)	口縁部付近から胴部にかけての破片。胴部は緩やかに外傾して立ち上がり、口縁部との境で屈曲する。無文。	長石・石英 黒褐色 良好	P 1413 5%
2	鉢 縄文土器	B (9.0)	口縁部付近から胴部にかけての破片。胴部は開きながら内彎して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部には交互刺突による連続コの字状文を巡らし、胴部は沈線により文様を描出している。地文はLRの単節縄文で、縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P 1412 5%
3	深鉢 縄文土器	B (7.4)	口縁部片。口縁部は内彎する。口縁部には隆帯により文様を描出している。LRの単節縄文を横方向に施している。	長石・石英・雲母 赤褐色 普通	T P 1309 5%
4	深鉢 縄文土器	B (8.3)	口縁部付近の破片。口縁部は開きながら内彎する。口縁部と頸部の境に沈線を有する隆帯を巡らし、口縁部には隆帯により文様を描出している。LRの単節縄文を横方向に施している。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	T P 1308 5%
5	深鉢 縄文土器	B (5.2)	口縁部付近の破片。口縁部は内彎する。口縁部には沈線に沿う隆帯により渦巻文を施している。	長石・石英・雲母 灰褐色 普通	T P 1307 5%

第678号土坑（第485・486図）

位置 調査1区の南部，C 4 f9区。

確認状況 第47号住居跡の掘り方を調査中に確認する。本跡の開口部付近は第47号住居跡に掘り込まれており、くびれ部から底部にかけての部分が残存している。

重複関係 第47号住居跡に掘り込まれていることから、本跡が古い。

規模と平面形 くびれ部は長径1.68m，短径1.60mの円形，底面は長径2.14m，短径2.04mの円形で，深さは68cmである。

壁 フラスコ状を呈する。

底 ほぼ平坦である。

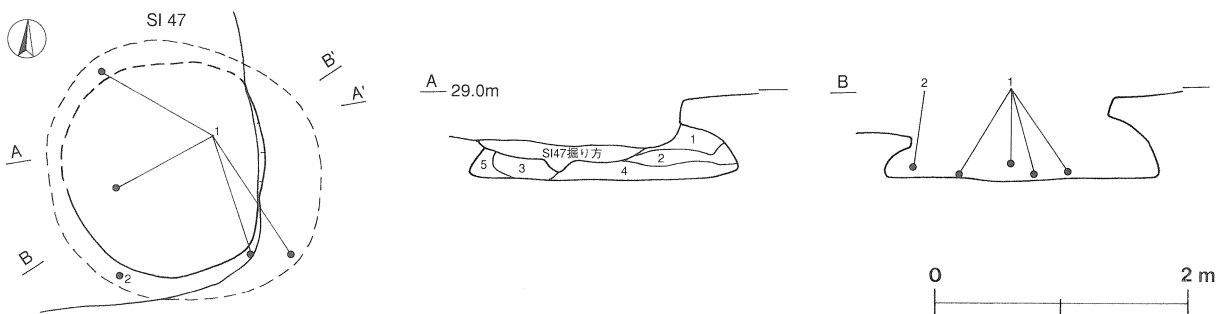
覆土 5層に分層され，レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説

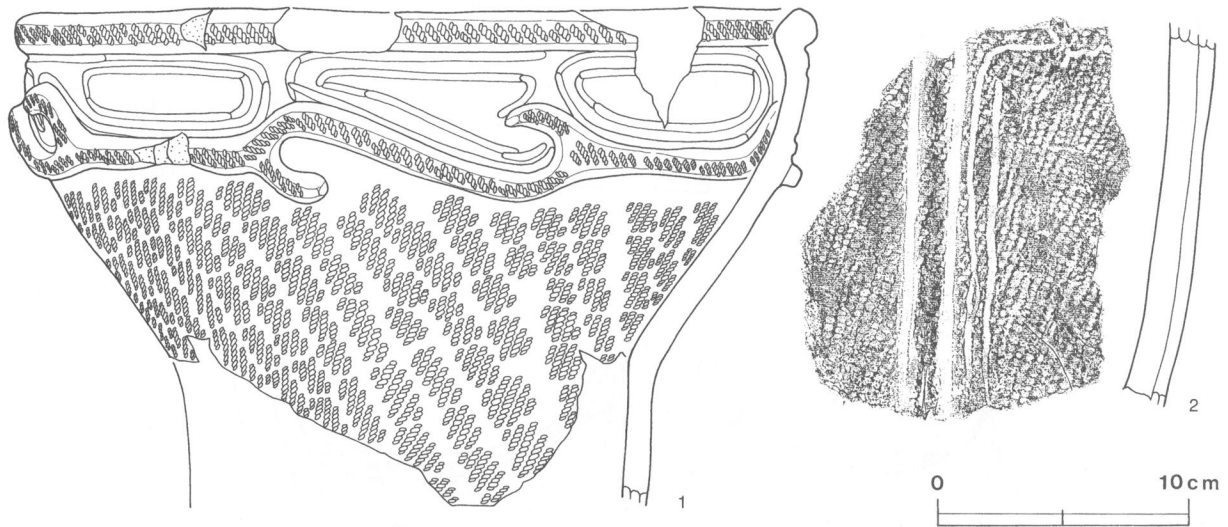
- 1 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子多量，ローム中ブロック少量，ローム大ブロック・ローム小ブロック微量
- 5 褐色 ローム粒子多量，炭化粒子微量

遺物 縄文土器片61点が出土している。そのうち縄文土器2点を抽出・図示した。1は下半部が欠損する深鉢で，覆土下層から廃棄されたような状態で出土している。2は深鉢の胴部片で，覆土下層から出土している。

所見 時期は，出土土器から中期中葉(阿玉台IV式期)と考えられる。



第485図 第678号土坑実測図



第486図 第678号土坑出土遺物実測図

第678号土坑出土遺物観察表（第486図）

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
1	深鉢 縄文土器	A [30.0] B (19.6)	胴下半部欠損。胴部は直線的に立ち上がり、頸部で屈曲し、口縁部は開きながら内彎する。口唇部は肥厚させ、内面に稜を有する。口縁部には隆帯による逆S字状文を4単位施し、その間を隆帯で連結している。隆帯に沿って沈線文を施している。R Lの単節縄文を、隆帯上を横方向に、それ以外を斜方向に施している。	長石・石英・雲母 黒褐色 普通	P 1414 60% P L 42
2	深鉢 縄文土器	B (15.3)	胴部片。胴部は直線的に立ち上がる。胴部には隆帯文を懸垂させ、隆帯に沿って沈線文を施している。地文はR Lの単節縄文で、縦方向に施している。	長石・石英・雲母 橙色 普通	T P 1310 5%

### 第679号土坑（第487図）

**位置** 調査1区の中央部，C 5 a3区。

**重複関係** 本跡と第636号土坑は重複するが，新旧関係は不明である。

**規模と平面形** 開口部は長径0.72m，短径0.62mの楕円形，底面は長径2.14m，短径1.70mの楕円形で，深さは80cmである。

**壁** フラスコ状を呈する。

**底** ほぼ平坦である。

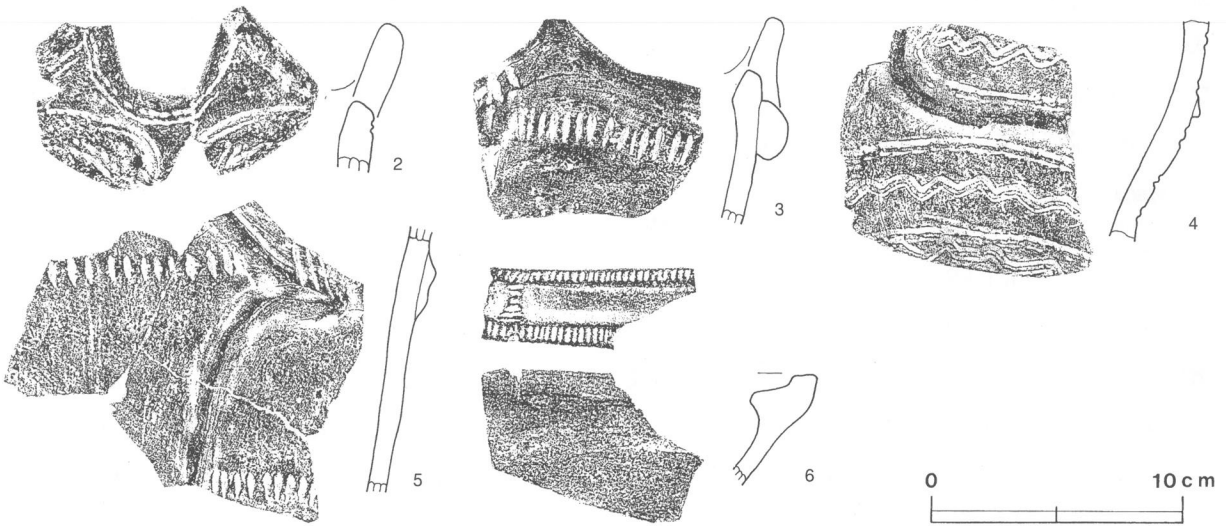
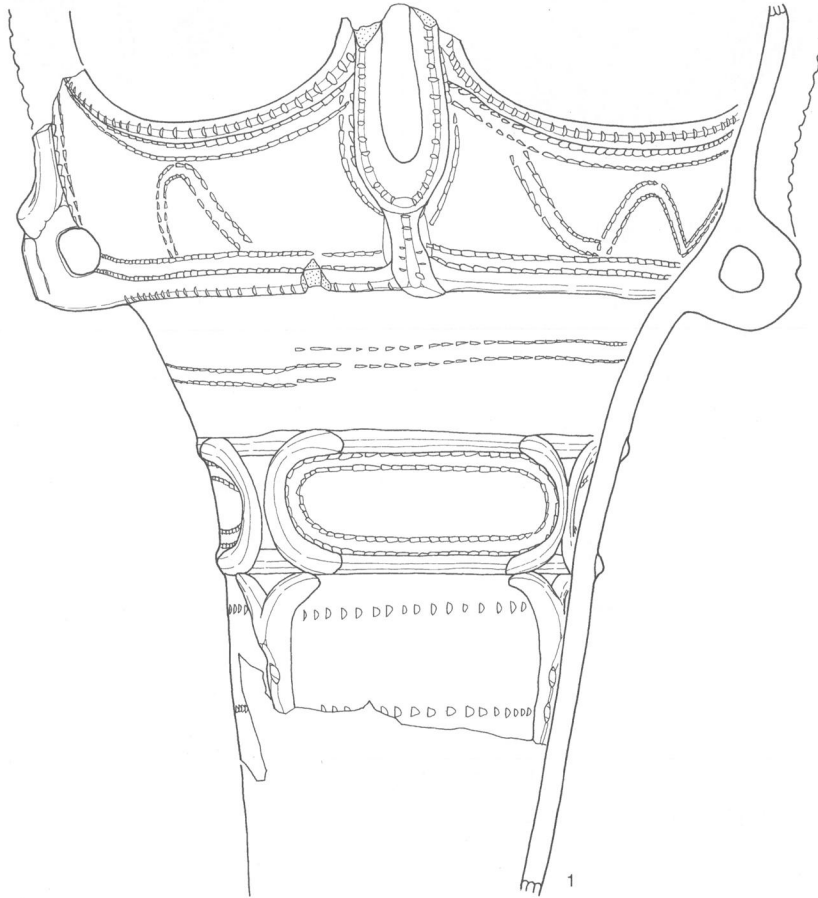
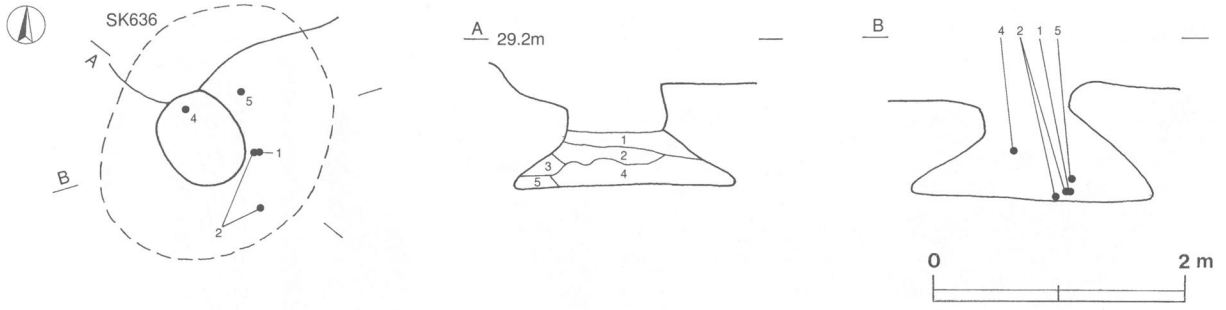
**覆土** 第636号土坑の調査時に本跡の上層を掘り込んでしまったため，中層以下を確認する。5層に分層され，レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子多量，炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量，焼土粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子中量
- 5 黒褐色 ローム粒子少量，焼土粒子微量

**遺物** 縄文土器片47点が出土している。そのうち縄文土器6点を抽出・図示した。1は4単位の波状口縁を呈する深鉢で，覆土下層から横位の状態で出土している。2は深鉢の口縁部片，5は深鉢の胴部片で，いずれも覆土下層から出土している。4は深鉢の口縁部付近の破片で，覆土中層から出土している。3は深鉢の口縁部片，6は浅鉢の口縁部片で，いずれも覆土から出土している。

**所見** 時期は，出土土器から中期中葉(阿玉台Ⅱ式期)と考えられる。



第487图 第679号土坑·出土遗物实测图

第679号土坑出土遺物観察表（第487図）

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
1	深鉢 縄文土器	A [30.2] B (35.2)	波頂部及び底部欠損。胴部は直線的に立ち上がり、頸部で外傾し、口縁部は開きながら内彎する。4単位の大波状口縁を呈し、波頂部直下に隆帯によるU字状文を施し、その下部に橋状把手を付けている。胴部上位には隆帯による楕円形区画文を巡らし、その下部に隆帯によるY字状文を懸垂させている。隆帯に沿って半截竹管による結節平行沈線文を施している。	長石・石英・雲母 灰褐色（上半） にぶい赤褐色（下半） 普通	P 1415 80% P L 42
2	深鉢 縄文土器	B (6.0)	双頭の波状口縁を呈する口縁部片。口縁部はわずかに外傾する。口縁部は隆帯により文様を描出し、隆帯に沿って半截竹管による結節平行沈線文を施している。	長石・石英・雲母 にぶい赤褐色 普通	T P 1311 5%
3	深鉢 縄文土器	B (7.3)	双頭の波状口縁を呈する口縁部片。口縁部はわずかに外傾する。口縁部には双頭の波底部直下に隆帯によるV字状文を施し、キザミ目列を巡らしている。	長石・石英・雲母 黒褐色 普通	T P 1312 5%
4	深鉢 縄文土器	B (8.7)	口縁部付近の破片。口縁部は開きながら内彎する。口縁部は隆帯により文様を描出し、半截竹管による波状の平行沈線文を施している。	長石・石英・雲母 黒褐色 普通	T P 1313 5%
5	深鉢 縄文土器	B (10.4)	胴部片。胴部は直線的に立ち上がる。胴部は隆帯により文様を描出し、キザミ目列を巡らしている。	長石・石英・雲母 にぶい赤褐色 普通	T P 1314 5%
6	浅鉢 縄文土器	B (4.3)	口縁部片。口縁部は外傾する。口唇部は内・外面を突出させ、キザミを有する隆帯により文様を描出している。口縁部は無文である。	長石・石英・雲母 にぶい赤褐色 普通	T P 1315 5% 口唇部及び外面赤彩

第719号土坑（第488・489図）

位置 調査3区の北西部，F 2 h5区。

規模と平面形 開口部は長径1.65m，短径1.38mの楕円形，底面は長径1.40m，短径1.13mの楕円形で，深さは150cmである。

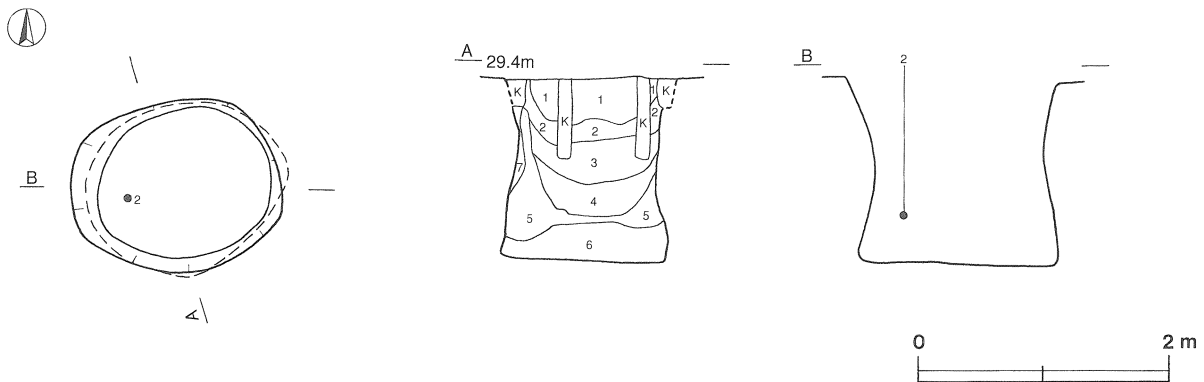
壁 円筒状を呈する。

底 ほぼ平坦である。

覆土 6層に分層され，ロームブロックや鹿沼パミスブロックを多く含んでいることから，人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・鹿沼パミス小ブロック微量
- 2 褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・鹿沼パミス小ブロック微量
- 3 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化物・炭化粒子・鹿沼パミス小ブロック微量
- 4 褐色 ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・鹿沼パミス小ブロック微量
- 5 褐色 ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・鹿沼パミス小ブロック微量
- 6 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量・鹿沼パミス小ブロック微量

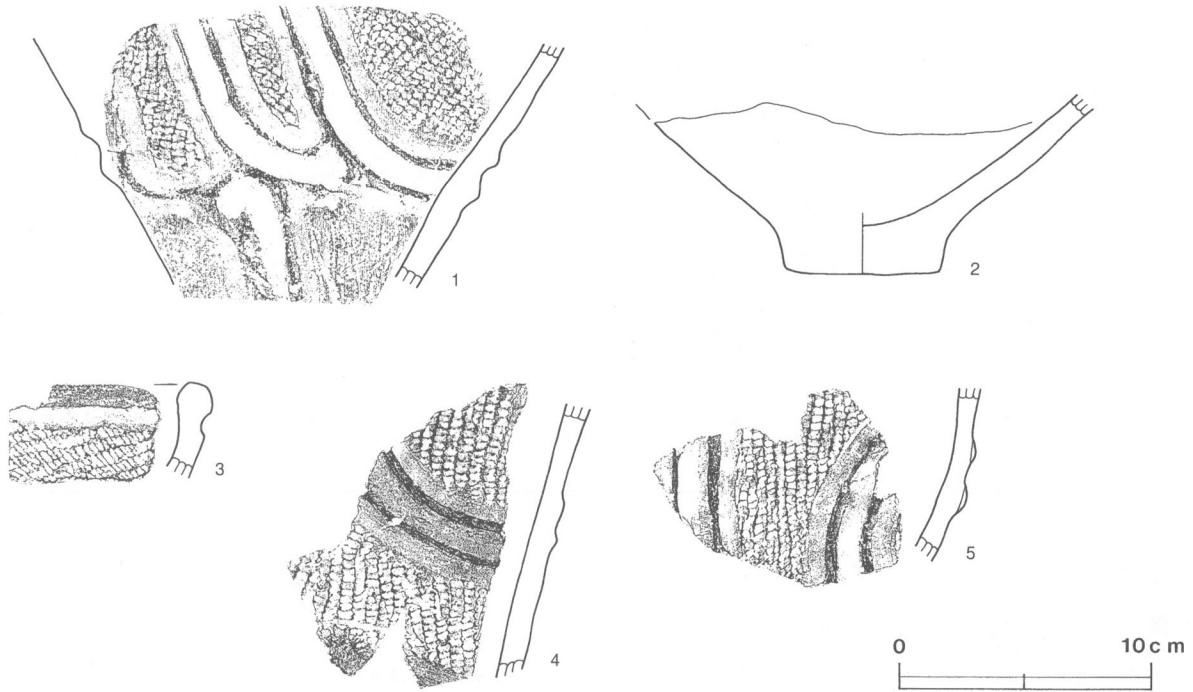


第488図 第719号土坑実測図



**遺物** 縄文土器片35点が出土している。そのうち縄文土器5点を抽出・図示した。2は浅鉢の底部片で、西部の覆土下層から出土している。1は深鉢の胴部片、3は深鉢の口縁部片、4・5は深鉢の胴部片で、いずれも覆土から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から中期後葉(加曾利EⅢ式期)と考えられる。



第489図 第719号土坑出土遺物実測図

第719号土坑出土遺物観察表 (第488・489図)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
1	深鉢 縄文土器	B (9.7)	胴部片。胴部は外傾して立ち上がる。胴部には上部を凹線でナデた隆帯で、楕円形状に区画している。沈線で渦巻状の文様を縦位に施している。楕円形状の区画内にはRLの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい赤褐色 普通	P 458 20%
2	浅鉢 縄文土器	B (7.3) C 6.2	口縁部から胴部の一部欠損。底部は直線的に立ち上がり、胴部は外傾する。胴部は無文で研磨している。	長石 灰褐色 良好	P 459 30% 胴部内・外面赤彩
3	深鉢 縄文土器	B (3.9)	口縁部片。口縁部は内彎して立ち上がる。隆帯が巡り、隆帯に平行して沈線を施している。地文はRLの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 灰褐色 普通	T P 246 5%
4	深鉢 縄文土器	B (10.8)	胴部片。胴部は外傾して立ち上がる。2本1組の微隆帯で文様を描出している。地文はRLの単節縄文を斜方向に施している。	長石・石英・雲母 灰褐色 普通	T P 248 5%
5	深鉢 縄文土器	B (7.0)	胴部片。胴部は内彎して立ち上がる。2本1組の微隆帯で渦巻状の文様を描出している。地文はRLの単節縄文を斜方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい赤褐色 普通	T P 247 5%

第756号土坑 (第490図)

**位置** 調査3区の北西部, F 2 i5区。

**規模と平面形** 開口部は長径1.12m, 短径1.03mの円形, 底面は径0.93mの円形で, 深さは48cmである。

**壁** 円筒状を呈する。

**底** ほぼ平坦である。

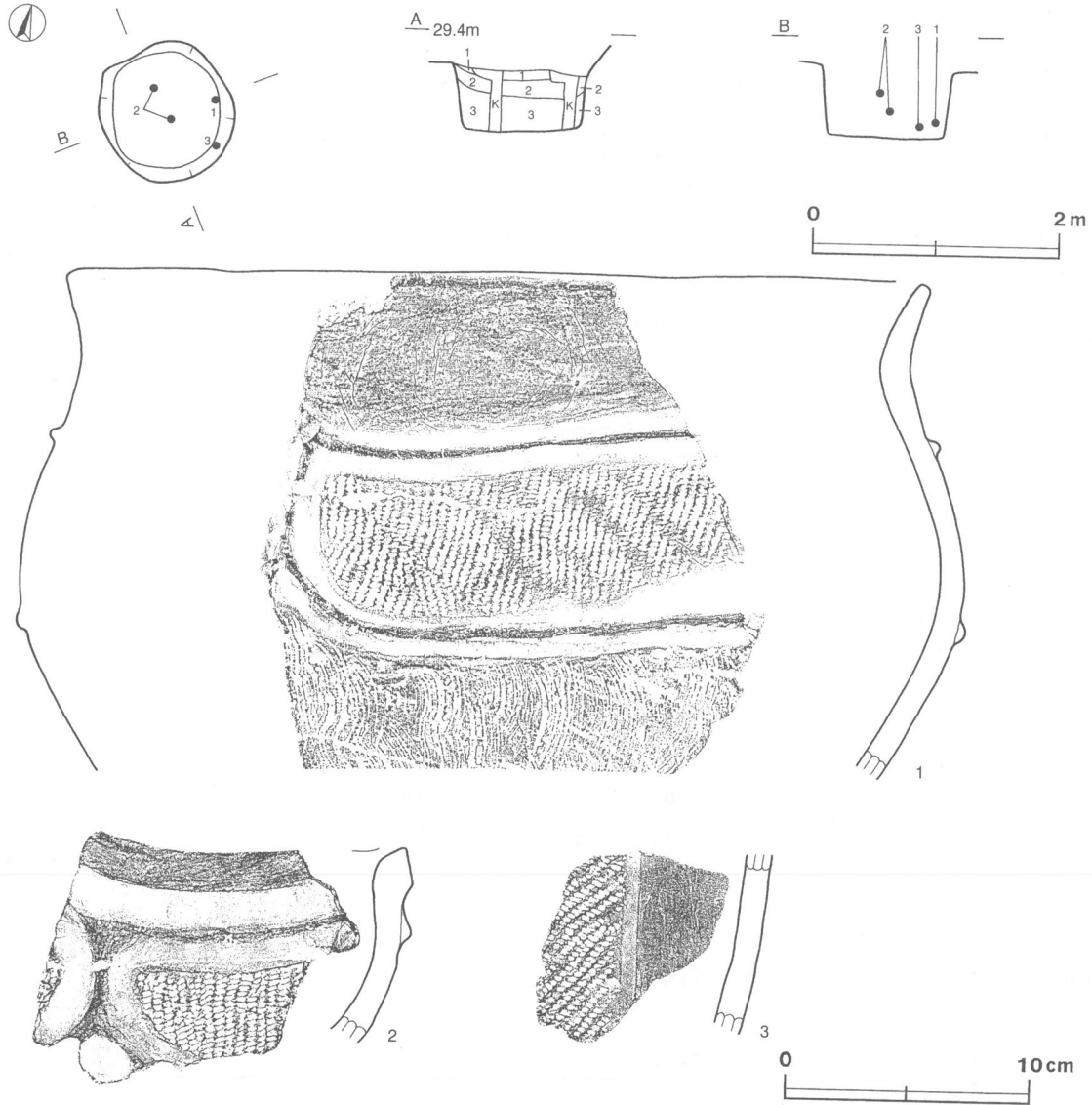
**覆土** 3層に分層され、レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

**土層解説**

- 1 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック少量, ローム粒子微量
- 3 褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量, 炭化粒子微量

**遺物** 縄文土器片11点が出土している。そのうち縄文土器3点を抽出・図示した。1は深鉢の口縁部から胴部にかけての破片で、東壁際の覆土下層から出土している。3は深鉢の胴部片で、南東部の覆土下層から出土している。2は深鉢の口縁部片で、中央部の覆土中層から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から中期後葉(加曽利EⅢ式期)と考えられる。



第490図 第756号土坑・出土遺物実測図

第756号土坑出土遺物観察表 (第490図)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
1	深鉢 縄文土器	A [34.4] B (20.1)	口縁部から胴部にかけての破片。口縁部は無文で、胴部との境に細い隆帯と沈線で区画文を施している。区画内にはRLの単節縄文を縦方向に施している。区画文の下には櫛歯状工具で条線文を施している。	長石・石英 にぶい褐色 普通	P460 5%
2	深鉢 縄文土器	B (7.9)	口縁部片。波状部は欠損しているが、波状口縁を呈すると思われる。太い沈線で楕円形状の区画文を施している。区画内にはRLの単節縄文を斜方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	TP249 5%

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
3	深鉢 縄文土器	B (7.2)	胴部片。胴部は外傾して立ち上がる。沈線による懸垂文を施し、沈線間を磨り消している。地文はRLの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 明褐色 普通	T P 250 5%

### 第765号土坑 (第491図)

**位置** 調査3区の北西部, G3e1区。

**規模と平面形** 開口部は径1.15mの円形, 底面は径1.04mの円形で、深さは45cmである。

**壁** 円筒状を呈する。

**底** ほぼ平坦である。

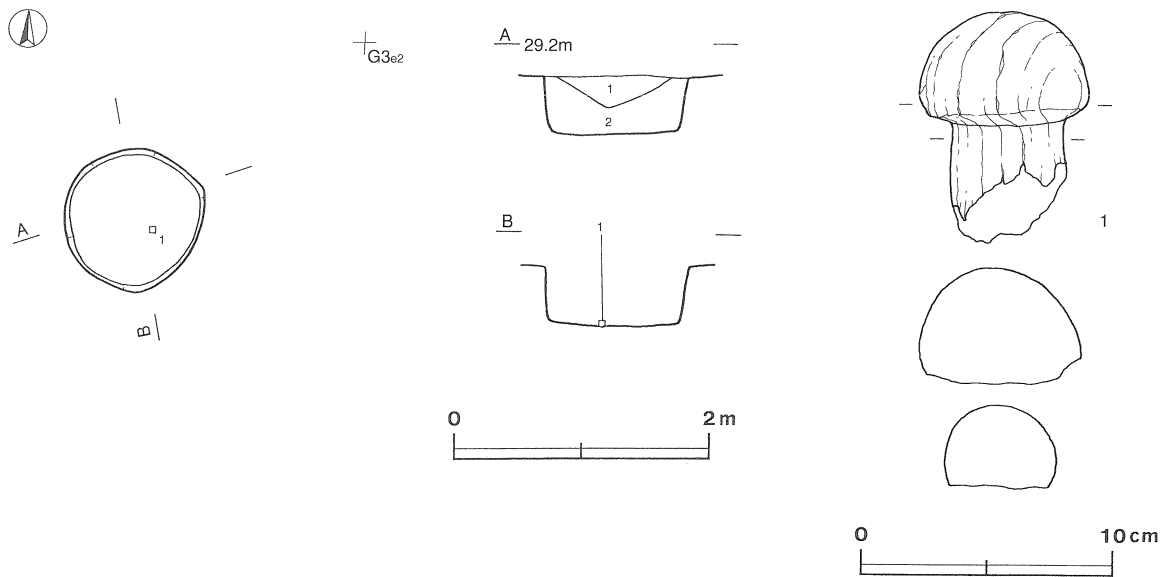
**覆土** 2層に分層され、レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

- 1 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物・炭化粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック少量

**遺物** 縄文土器片1点, 石棒1点が出土している。そのうち石棒1点を抽出・図示した。1は石棒で、南東部の底面から出土している。

**所見** 時期は、出土遺物や遺構の形態から中期と考えられる。



第491図 第765号土坑・出土遺物実測図

### 第765号土坑出土遺物観察表 (第491図)

図版番号	器種	計測値				石質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
1	石棒	(9.0)	6.7	4.7	(260.0)	緑泥片岩	頭部に強いくびれを有する。	Q105 P L 48

### 第826号土坑 (第492図)

**位置** 調査5区の中央部, F6g9区。

**規模と平面形** 開口部は長径1.90m, 短径1.80mの円形, 底面は径1.65mの円形で、深さは22cmである。

**壁** 外傾する。

**底** ほぼ平坦である。

**ピット** 3か所。P1は北壁際に位置し、長径50cm、短径40cmの楕円形で、深さは69cmである。P2はほぼ中央部に位置し、径38cmの円形で、深さは49cmである。P3は南壁寄りに位置し、長径30cm、短径22cmの楕円形で、深さは43cmである。

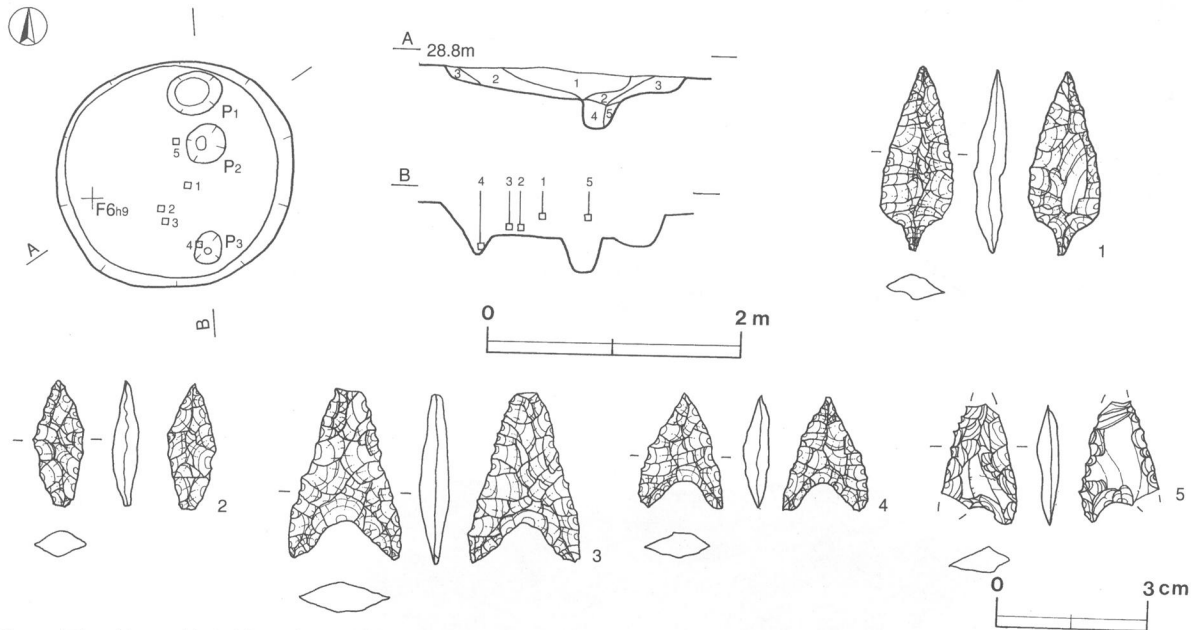
**覆土** 5層に分層され、レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

**土層解説**

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック中量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 5 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量

**遺物** 尖頭器2点石鏃3点が出土している。尖頭器2点石鏃3点を抽出・図示した。2・3は、それぞれ中央部の覆土下層から出土している。4はP3内の覆土から出土している。1・5は中央部の覆土中層から出土している。1の有茎尖頭器と2の尖頭器は、混入したものである。

**所見** 時期は、出土石器や遺構の形態から中期と考えられる。



第492図 第826号土坑・出土遺物実測図

第826号土坑出土遺物観察表 (第492図)

図版番号	器種	計測値				石質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
1	有茎尖頭器	3.8	1.4	0.5	2.1	チャート	逆刺は鈍角的である。	Q110
2	尖頭器	2.4	1.0	0.6	1.2	チャート	最大幅は先端部側にある。	Q106
3	石鏃	(3.3)	2.3	0.6	(3.1)	黒曜石	先端部は欠損。凹基である。	Q107
4	石鏃	2.2	1.7	0.5	1.2	チャート	基部にえぐりがある。	Q108
5	石鏃	(2.3)	1.5	0.5	(1.3)	チャート	先端部は欠損。	Q109

**第876号土坑 (第493図)**

**位置** 調査5区の中央部、G6a5区。

**規模と平面形** 開口部は長径1.90m、短径1.60mの楕円形、底面は長径1.25m、短径1.05mの楕円形で、深さは141cmである。

**壁** 円筒状を呈する。

**底** ほぼ平坦である。

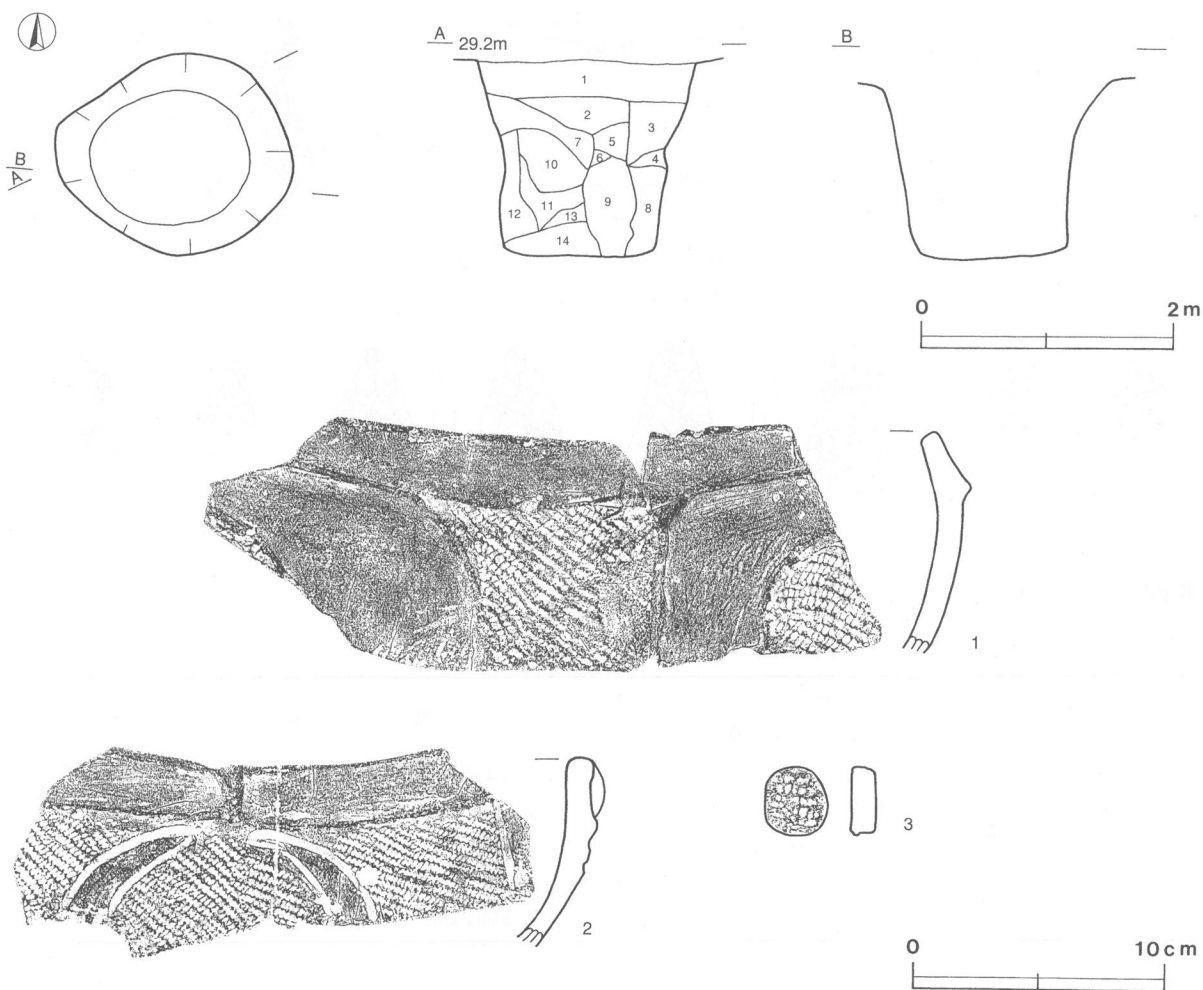
覆土 14層に分層され、不規則な堆積状況から、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 炭化粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 5 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 6 褐色 ローム中ブロック中量，ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 7 褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック中量，ローム粒子少量
- 8 褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 9 暗褐色 炭化粒子少量，ローム小ブロック微量
- 10 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 11 暗褐色 ローム粒子微量
- 12 褐色 ローム粒子少量
- 13 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 14 暗褐色 ローム中ブロック中量，ローム粒子少量

遺物 縄文土器片66点，土器片円盤1点が出土している。そのうち縄文土器2点，土器片円盤1点を抽出・図示した。1・2は深鉢の口縁部片，3は土器片円盤で，それぞれ覆土から出土している。

所見 時期は，出土土器から中期後葉(加曾利E IV式期)と考えられる。



第493図 第876号土坑・出土遺物実測図

第876号土坑出土遺物観察表 (第493図)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
1	深鉢 縄文土器	B (8.6)	口縁部片。口縁部は内彎して立ち上がる。沈線による懸垂文を施し、沈線間を磨り消している。地文はRLの単節縄文を横方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	TP251 5%

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
2	深鉢 縄文土器	B (7.5)	口縁部片。口縁部は内彎して立ち上がる。口唇部直下には隆帯で山形状の突出部を作出している。口縁部には沈線で楕円形状に文様を描出している。地文はLRの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	TP252 5%

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
3	土器片円盤	2.8	2.5	1.0	7.7	土製	ほぼ円形で、縄文を施している。	DP20

### 第879号土坑 (第494図)

**位置** 調査5区の中央部, G6b1区。

**重複関係** 上面を第127号住居跡に掘り込まれていることから, 第127号住居跡より古い。

**規模と平面形** 開口部は長径1.50m, 短径1.43mの円形, 底面は長径1.40m, 短径1.30mの円形で, 深さは79cmである。

**壁** 円筒状を呈する。

**底** ほぼ平坦である。

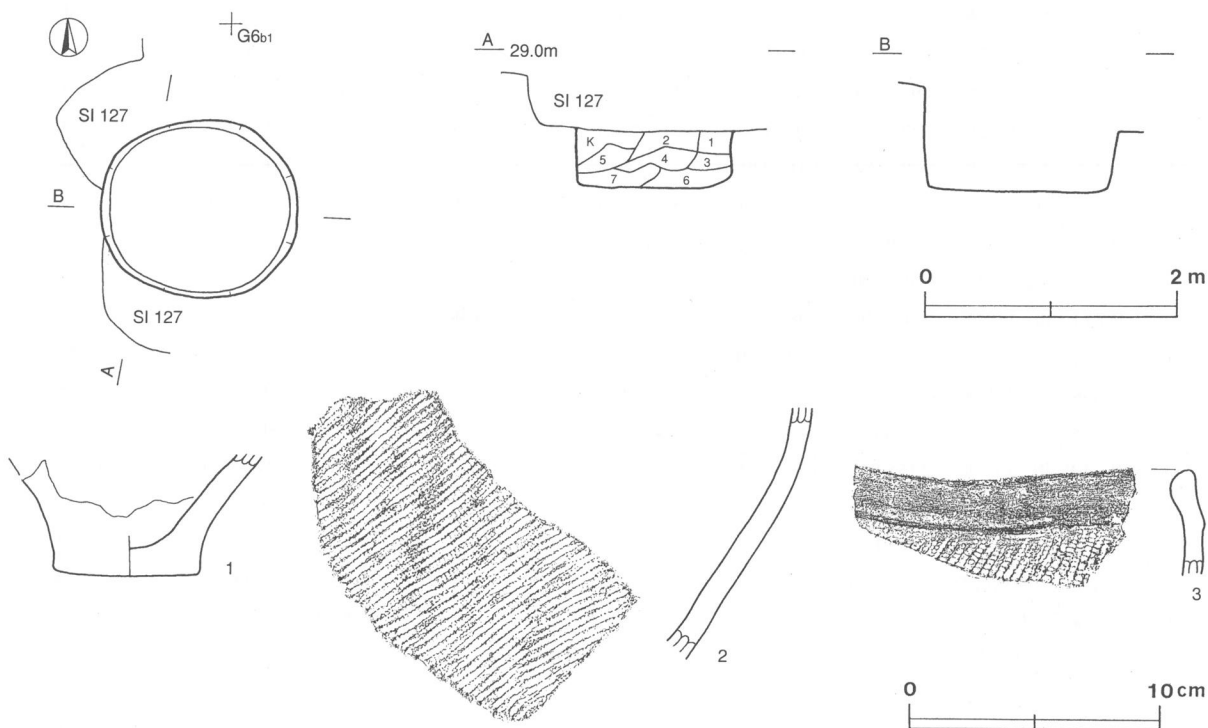
**覆土** 7層に分層され, 不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。

#### 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック・炭化粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック・ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
- 5 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量
- 6 黒褐色 ローム粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
- 7 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子微量

**遺物** 縄文土器片6点が出土している。そのうち縄文土器3点を抽出・図示した。第494図1は深鉢の底部片, 2は深鉢の胴部片, 3は深鉢の口縁部片で, それぞれ覆土から出土している。

**所見** 出土した土器が少なく時期を確定するのは困難であるが, 時期は, 出土土器や遺構の形態から中期後葉(加曾利E IV式期)と考えられる。



第494図 第879号土坑・出土遺物実測図

第879号土坑出土遺物観察表（第494図）

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
1	深鉢 縄文土器	B (4.7) C 5.7	胴部から底部にかけての破片。上部を有する底部は直線的に立ち上がり、胴部は外傾する。胴部は無文で、研磨している。	長石・石英 明赤褐色 普通	P 461 5%
2	鉢 縄文土器	B (10.0)	胴部片。胴部は内彎して立ち上がる。胴部にはR Lの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母・礫 にぶい赤褐色 普通	T P 254 5%
3	深鉢 縄文土器	B (4.2)	口縁部片。口縁部は内彎して立ち上がる。地文はR Lの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英 灰褐色 普通	T P 253 5%

フラスコ状土坑一覧表

土坑 番号	位置	開口部平面形	規 模			覆土	底面	壁面	ピット	出土遺物	重複関係 (旧→新)	発掘 番号
			開口部平面形(直径×径長cm)	底部平面形(直径×径長cm)	深さ(cm)							
1	A 4 j2	楕円形	1.85×1.25	2.85×2.50	102	自然	平坦	フラスコ	1	深鉢, 打製石斧		SK 1
2	A 4 i4	円形	2.04	2.40×2.00	73	人為	平坦	フラスコ	2	深鉢, 浅鉢		SK 2
3	A 4 j5	楕円形	2.20×1.70	2.66×2.20	92	人為	平坦	フラスコ	3	深鉢, 凹石	SK20→本跡	SK 3
4	B 5 a4	不整円形	2.30×2.10	2.55×2.30	60	人為	平坦	フラスコ	0	深鉢	SK233→本跡	SK 4
5	B 5 a3	円形	2.15	2.43×1.90	41	自然	平坦	フラスコ	0	深鉢		SK 5
6	B 4 a0	円形	2.25	2.47×2.27	60	自然	平坦	フラスコ	0	深鉢, 磨製石斧		SK 6
8	B 4 d0	円形	1.98	2.50×2.40	110	自然	平坦	フラスコ	0	深鉢	SK15,34	SK 8
9	B 5 d6	不整楕円形	1.88×1.61	2.05×1.90	58	自然	平坦	フラスコ	0	深鉢		SK 9
10	B 5 f6	不整円形	2.76×2.60	—	78	自然	平坦	外傾	0			SK10
11	B 5 d1	不整円形	2.20×2.10	2.30×2.07	86	人為	平坦	フラスコ	0	深鉢, 有孔鍔付土器		SK12
14	B 4 c0	楕円形	1.60×1.28	1.56×1.18	45	人為	平坦	フラスコ	0			SK16
15	B 4 d0	不整楕円形	1.80×1.57	—	110	自然	平坦	外傾	0		SK 8	SK17
20	A 4 j5	不整楕円形	1.76×1.28	1.80×1.60	84	人為	平坦	フラスコ	2		SK 3 ,26,80	SK23
21	B 4 e9	円形	2.05	2.10×1.75	50	人為	平坦	フラスコ	1	深鉢		SK24
22	B 4 c5	[楕円形]	[2.50]×1.70	2.20×1.50	44	自然	平坦	フラスコ	1		SK46	SK25
23	A 4 i7	楕円形	1.95×1.65	1.90×1.70	82	人為	平坦	フラスコ	3	深鉢		SK26
24	A 4 j2	不整楕円形	2.50×1.37	2.20×1.80	100	自然	平坦	フラスコ	1	土器片円盤	SK25→本跡	SK27
25	A 4 j1	不整円形	2.90×2.84	3.33×3.01	77	人為	平坦	フラスコ	3		SK24	SK28
26	A 4 j5	[楕円形]	[2.26]×1.98	2.26×2.04	55	人為	平坦	フラスコ	0	深鉢	本跡→SK20	SK29
28	B 3 j8	円形	2.04	—	56	人為	平坦	外傾	0	深鉢, 敲石		SK31
29	B 4 a9	不整楕円形	2.30×2.00	2.20×1.95	52	人為	平坦	フラスコ	0			SK32
30	B 5 b1	楕円形	2.40×2.04	2.48×2.08	56	自然	平坦	フラスコ	1	深鉢		SK33
31	B 5 c1	不整円形	1.35×1.25	1.20×1.10	47	人為	平坦	フラスコ	0			SK34
32	A 4 i6	不整楕円形	2.30×1.75	2.15×1.76	63	自然	平坦	フラスコ	0		SK 3	SK35
34	B 4 c8	円形	2.08	—	74	自然	平坦	外傾	2		SK282	SK37
35	B 5 b4	楕円形	2.15×1.75	1.80×1.65	53	人為	平坦	フラスコ	0			SK38
36	B 4 c6	不整楕円形	2.20×1.90	2.40×2.06	77	自然	平坦	フラスコ	1	深鉢, 鉢	SK37	SK40
37	B 4 c6	楕円形	2.12×1.80	2.10×1.77	32	人為	平坦	フラスコ	0	深鉢, 凹石	SK36	SK41
38	B 4 b6	不整楕円形	1.68×1.20	1.65×1.36	62	人為	平坦	フラスコ	2	深鉢	SK39→本跡	SK42
39	B 4 b6	不整楕円形	2.30×1.88	—	38	自然	平坦	外傾	1	深鉢, 土器片円盤	本跡→SK38,60	SK43
40	B 4 a9	不整円形	2.30×2.10	—	44	人為	平坦	外傾	2			SK44
41	B 4 c7	円形	2.00	2.10×2.05	50	自然	平坦	フラスコ	0	深鉢, 磨石	SK279	SK45
42	B 5 e2	不整楕円形	1.90×1.77	1.75×1.65	77	自然	平坦	フラスコ	0	深鉢		SK46

土坑 番号	位置	開口部平面形	規 模			覆土	底面	壁面	ピット	出土遺物	重複関係 (旧→新)	発掘 番号
			開口部平面形(直径×直径m)	底部平面形(直径×直径m)	深さ(cm)							
43	B 4 b3	不定形	2.00×1.90	2.38×2.05	95	自然	平坦	外傾	2		SK78,101,109,132	SK47
45	B 4 c5	不整楕円形	2.15×1.75	—	45	自然	平坦	外傾	1			SK49
46	B 4 c5	不整楕円形	1.88×1.10	1.90×1.70	63	自然	平坦	外傾	1	深鉢, 敲石, 凹石	本跡→SK22	SK50
49	B 4 e8	不整楕円形	2.65×1.85	1.95×1.23	82	自然	平坦	外傾	1		SK50,97	SK54
50	B 4 e9	円形	1.33	1.98×1.05	80	自然	平坦	外傾	1		SK49,157	SK55
51	B 4 c4	不整楕円形	2.24×1.88	2.44×2.34	77	自然	平坦	外傾	1	深鉢	SK47,SK78→本跡	SK56
52	B 4 c3	不整楕円形	2.60×1.80	2.30×1.93	75	自然	平坦	外傾	1	深鉢	SK75	SK57
53	B 4 c3	不整円形	2.12×1.95	1.84×1.05	54	自然	平坦	外傾	1	深鉢	SK75	SK58
60	B 4 b5	[円形]	[1.45]	1.50×1.20	78	自然	平坦	外傾	0		SK39,81	SK65
61	B 4 d8	不整楕円形	2.45×1.95	3.04×2.44	103	人為	平坦	外傾	1	深鉢, 浅鉢	SK99	SK66
63	B 4 e7	不整楕円形	2.55×2.10	2.60×2.04	63	人為	平坦	外傾	3	深鉢, 浅鉢, 礫石	SK114→本跡	SK68
64	C 4 b9	不整楕円形	2.65×[1.85]	2.35×1.98	58	自然	平坦	外傾	4	深鉢, 凹石	本跡→SD 9	SK69
65	B 4 b4	不整楕円形	1.64×1.04	2.34×1.86	109	人為	平坦	外傾	0	深鉢	SK109,273→本跡	SK70
66	B 4 h2	楕円形	1.28×1.14	1.94×1.80	57	人為	平坦	外傾	0	深鉢, 浅鉢		SK71
68	B 4 d2	楕円形	2.38×2.15	2.10×2.00	38	自然	平坦	外傾	0			SK74
69	B 4 d3	楕円形	2.17×1.58	—	40	自然	平坦	外傾	2	深鉢, 土器片円盤	SK82,196	SK76
71	B 4 e3	[楕円形]	1.77×(0.79)	1.58×(1.09)	44	人為	平坦	外傾	0	深鉢	本跡→SK76	SK78
75	B 4 c3	楕円形	2.55×1.85	1.98×1.46	45	不明	平坦	外傾	1		SK44,52,53	SK82
77	B 4 e4	[円形]	[1.15]	—	45	不明	平坦	外傾	0	深鉢	本跡→SK106	SK83b
79	A 4 g0	[楕円形]	2.04×(1.60)	2.00×(1.58)	38	人為	平坦	外傾	1	深鉢	第1号遺物包含層	SK85
80	A 4 j5	楕円形	2.50×1.70	2.87×2.70	107	人為	平坦	外傾	0	深鉢, 甕, 浅鉢	本跡→SK20,26	SK86
87	B 4 e4	楕円形	2.09×1.48	3.07×2.85	130	人為	平坦	外傾	0	深鉢, 甕, 浅鉢	本跡→SK76,77	SK95
89	B 4 b5	楕円形	2.12×1.76	2.40×2.15	83	自然	平坦	外傾	1	深鉢, 浅鉢, 敲石	SK81	SK97
91	B 4 c6	[楕円形]	[2.33]×2.08	2.30×2.22	40	人為	平坦	外傾	2	深鉢	本跡→SI 3	SK99
95	B 4 d8	円形	1.98	2.10	54	人為	平坦	外傾	0	深鉢, 石棒, 凹石		SK103
96	B 4 d6	楕円形	1.10×0.98	2.00×1.98	68	人為	平坦	外傾	1	深鉢, 浅鉢, 凹石		SK104
99	B 4 d8	[楕円形]	2.08×(1.20)	—	25	自然	平坦	外傾	0		SK61,107	SK107
100	B 5 h1	楕円形	1.70×1.42	2.65×2.32	102	自然	平坦	外傾	0		SK66	SK108
102	A 4 j3	楕円形	1.20×0.90	2.80×2.60	102	人為	平坦	外傾	0	深鉢, 磨製石斧	SK271	SK110
103	B 4 d7	円形	2.05	(2.05)×1.85	38	自然	平坦	外傾	1		SI 3	SK111
104	B 4 d5	円形	1.78	—	56	自然	平坦	外傾	4			SK112
107	B 4 d7	円形	2.55	2.72×2.36	38	人為	平坦	外傾	5	深鉢, 磨製石斧	SK99, 屋外炉	SK115
108	B 4 d6	楕円形	2.30×2.05	2.10×1.95	55	人為	平坦	外傾	1	鉢	本跡→SI 3	SK116
109	B 4 b4	[不整楕円形]	2.15×(1.65)	2.13×1.50	72	自然	平坦	外傾	0		SK43,65,78,120,132	SK117
112	B 4 f7	円形	2.30	2.05×1.94	72	人為	平坦	外傾	1	深鉢, 土器片円盤	SI10,SK114	SK120
114	B 4 e6	不整楕円形	2.46×1.92	2.15×1.70	36	自然	平坦	外傾	2		SK63,112	SK122
120	B 4 b4	[楕円形]	[1.80]×1.40	1.98×1.40	40	不明	平坦	外傾	0		SK65,109,132	SK128
121	B 4 e6	楕円形	2.05×1.75	—	10	自然	平坦	外傾	2	深鉢		SK129
125	B 4 e7	楕円形	1.77×1.35	1.71×1.57	137	人為	平坦	外傾	1	深鉢, 磨製石斧	SK63,126	SK133
131	B 4 h6	円形	1.90	1.84×1.74	38	自然	平坦	外傾	2		SK130	SK139
132	B 4 b4	[楕円形]	(2.00×0.65)	(1.70×0.57)	37	自然	平坦	外傾	0		SK43,65,109,120	SK140
139	B 4 j7	楕円形	2.40×2.12	2.12×2.00	90	人為	平坦	外傾	0		SK143	SK152
141	B 4 i5	円形	2.00	2.75×2.50	94	人為	平坦	外傾	0	深鉢, 石皿, 凹石	SK159→本跡	SK155
143	B 4 j6	円形	1.40	2.11	78	人為	平坦	外傾	0	深鉢, 磨製石斧	SK139→本跡	SK157
144	B 4 f9	楕円形	2.80×2.30	—	72	人為	平坦	外傾	2	深鉢	SK145,162,250	SK158
145	B 4 f0	楕円形	2.53×2.20	2.35×1.86	83	人為	平坦	外傾	0	深鉢	SK144	SK159



土坑 番号	位置	開口部平面形	規 模			覆土	底面	壁面	ピット	出土遺物	重複関係 (旧→新)	発掘 番号
			開口部平面形(直径×直径)	底部平面形(直径×直径)	深さ(cm)							
146	B 4 j8	円形	1.45	1.45×1.44	84	自然	平坦	円錐	0		SK225	SK160
148	B 4 i5	楕円形	1.75×1.51	2.28×2.04	111	人為	平坦	円錐	0	深鉢, 浅鉢, 凹石	SK142,168	SK163
150	B 4 i7	楕円形	1.84×1.60	2.32×1.94	85	人為	平坦	円錐	0	深鉢	SK154→本跡	SK165
151	B 4 i7	楕円形	1.46×1.11	2.47×2.20	78	人為	平坦	円錐	0	深鉢	本跡→SK152	SK167
153	B 4 j6	楕円形	1.88×1.05	2.10×2.05	77	人為	平坦	円錐	0		SK71,152,166	SK169
155	B 4 b5	楕円形	2.15×1.70	—	65	自然	平坦	外傾	3		SK374,429	SK171
157	B 4 e9	楕円形	0.96×0.77	1.91×1.75	128	自然	平坦	円錐	0	深鉢	SK50,61→本跡	SK173
158	B 4 j7	楕円形	1.65×1.30	1.88×1.75	74	自然	平坦	円錐	0	深鉢, 打製石斧	SK166	SK174
160	B 4 d9	楕円形	1.90×1.48	1.88×1.77	65	人為	平坦	円錐	0	深鉢, 磨製石斧		SK176
162	B 4 f9	円形	1.86	2.75×2.60	102	人為	平坦	円錐	3	深鉢, 浅鉢, 石斧	SK144	SK178
163	B 4 h6	円形	2.44	—	67	自然	平坦	外傾	0		SK214	SK179
164	B 4 h6	楕円形	2.15×1.83	2.40×2.14	32	人為	平坦	円錐	0	深鉢	本跡→SK167	SK180
165	B 3 i7	楕円形	2.10×1.24	2.00×1.45	72	人為	平坦	円錐	0	深鉢, 浅鉢		SK181
166	B 4 i6	不整楕円形	1.70×1.28	—	43	自然	平坦	外傾	0		SK153,158	SK182
172	B 4 j3	[円形]	[2.25]	—	88	自然	平坦	外傾	4	深鉢, 磨製石斧	SK209	SK188
173	B 4 i4	楕円形	2.11×1.83	2.04×1.94	41	自然	平坦	円錐	4		SK357	SK189
177	C 4 a6	楕円形	0.88×0.64	3.06×2.95	145	自然	平坦	円錐	2	深鉢, 土器片円盤	SK189,169,308,	SK193
178	B 4 e7	楕円形	1.88×1.64	2.00×1.90	47	自然	平坦	円錐	0		SK63	SK194
181	B 4 g7	円形	1.47	1.55×1.40	34	人為	平坦	円錐	2	深鉢	SK199	SK197
186	B 4 e4	円形	1.61	1.70×1.68	82	自然	平坦	円錐	0		SK180,198	SK202
187	C 4 c6	楕円形	1.92×1.57	2.20×1.92	102	人為	平坦	円錐	0	深鉢, 浅鉢, 凹石	SK191,211	SK203
188	C 4 c5	楕円形	1.87×1.45	2.40	88	人為	平坦	円錐	0	深鉢, ミニチュア土器	SK191,211	SK204
189	C 4 b5	楕円形	2.47×2.02	2.55	85	人為	平坦	円錐	4	深鉢, 凹石	SK169	SK205
192	C 4 a3	楕円形	2.40×1.97	2.40×2.25	86	自然	平坦	円錐	6	深鉢, 有孔鏝付土器	SK193→本跡	SK209
200	B 4 f3	楕円形	2.57×2.30	2.35	70	自然	平坦	円錐	4	深鉢, 鉢		SK218
204	B 4 i4	楕円形	1.88×1.70	2.40×2.13	93	人為	平坦	円錐	3	深鉢, 凹石, 敲石	本跡→SK205 SK208	SK222
205	B 4 j4	円形	2.35	3.25×2.80	94	人為	平坦	円錐	1	深鉢	SK204→本跡	SK223
213	C 4 b4	[円形]	[2.57]	—	41	自然	平坦	外傾	0	深鉢, 凹石, 敲石	SK212	SK231
219	B 4 j7	楕円形	1.90×1.30	1.82	53	自然	平坦	円錐	0	深鉢, 凹石		SK237
221	B 4 b7	[円形]	[1.65]	[2.50]	90	人為	平坦	円錐	3	深鉢, ミニチュア土器	SK282	SK239
222	B 4 a5	楕円形	1.22×1.10	2.25×2.20	90	人為	平坦	円錐	0	深鉢, 浅鉢		SK240
223	C 4 d1	楕円形	(2.35)×1.70	(1.95)	70	自然	平坦	円錐	2	深鉢, 磨製石斧	SK232→本跡	SK241
227	B 4 h8	楕円形	1.57×1.25	1.96×1.61	75	自然	平坦	円錐	0	深鉢, 浅鉢	SK228	SK245
228	B 4 g8	楕円形	(2.17)×2.08	2.10×(1.97)	40	自然	平坦	円錐	0	深鉢	SK227	SK246
229	B 4 g7	楕円形	1.68×1.20	—	20	自然	平坦	外傾	1	深鉢, 浅鉢		SK247
232	C 4 d1	楕円形	1.66×(0.80)	1.80×(0.78)	68	自然	平坦	円錐	0			SK251
236	B 4 a4	円形	1.18	2.00×1.90	122	自然	平坦	円錐	0	深鉢, 浅鉢, 磨石	SK176,240	SK257
238	B 4 i7	楕円形	1.24×1.10	2.20×2.04	120	人為	平坦	円錐	0	深鉢, 浅鉢, 鉢	本跡→第4号竪穴状遺構	SK259
239	B 4 f4	楕円形	2.21×(1.43)	—	65	自然	平坦	外傾	0	深鉢, 浅鉢	本跡→SK240	SK260
241	C 4 d2	楕円形	1.75×1.30	2.34	110	人為	平坦	円錐	0	深鉢, 浅鉢	SK230,231	SK262
242	B 4 g8	楕円形	1.82×1.41	1.98×1.73	55	自然	平坦	円錐	0	深鉢		SK263
249	A 4 j4	[円形]	1.10×[1.07]	1.88×1.42	85	自然	平坦	円錐	0	深鉢, 台付鉢, 石錘		SK270
250	B 4 g9	[円形]	1.50×[1.42]	2.00	93	自然	平坦	円錐	0	深鉢, 浅鉢, 石錘	SK144,347	SK272
251	B 4 h8	円形	1.25	2.31	80	自然	平坦	円錐	2	深鉢, 鉢		SK273
256	C 4 c4	楕円形	3.10×2.80	3.55×2.90	55	人為	平坦	円錐	1	深鉢, 鉢	SK213,258,262,264	SK278
257	B 4 h9	楕円形	1.72×1.15	2.12×[1.75]	85	自然	平坦	円錐	0			SK279

土坑 番号	位置	開口部平面形	規 模			覆土	底面	壁面	ピット	出土遺物	重複関係 (旧→新)	発掘 番号
			開口部平面形(直径×短径)m	底部平面形(直径×短径)m	深さ(cm)							
258	C 4 c4	橢円形	2.30×[2.05]	—	52	人為	平坦	外傾	4	深鉢, 土器片円盤	SK264→本跡	SK280
260	C 4 e2	橢円形	2.10×1.90	—	60	自然	平坦	外傾	5	深鉢, 磨製石斧	SK261→本跡	SK282
264	C 4 c4	橢円形	2.45×1.50	—	35	自然	平坦	外傾	2	深鉢	SK259→本跡→SK258	SK286
267	C 4 c3	橢円形	2.63×[1.88]	—	40	自然	平坦	外傾	1	深鉢, 石皿	SK243	SK289
269	C 4 e2	円形	2.30	—	40	人為	平坦	外傾	4	深鉢, 磨製石斧	SK268→本跡	SK291
270	A 4 j4	橢円形	1.60×1.42	2.20×1.95	93	自然	平坦	フラツ	0	深鉢, 石鏃		SK292
272	B 4 a3	橢円形	2.14×1.75	2.05×1.90	65	自然	平坦	フラツ	0			SK294
273	B 4 b4	円形	1.70	1.70×1.65	75	自然	平坦	フラツ	1		SK65	SK295
278	B 4 a3	橢円形	0.93×0.84	1.50×1.38	85	人為	平坦	フラツ	0	深鉢	SK236, 277	SK300
279	B 4 c7	橢円形	1.80×(1.00)	1.75×1.00	37	自然	平坦	フラツ	0			SK302
280	B 4 a6	円形	1.70	2.17×1.95	67	人為	平坦	フラツ	0	深鉢, ミニチュア土器		SK303
282	B 4 b7	円形	1.94	1.92	44	人為	平坦	フラツ	1	深鉢	SK221	SK305
287	B 4 j5	橢円形	2.15×1.87	2.04×1.78	55	不明	平坦	フラツ	0	鉢	本跡→SK286, 306	SK310
290	B 4 a5	橢円形	1.15×1.02	2.23	85	人為	平坦	フラツ	0	深鉢, スタンプ状石器	SK236, 274	SK313
292	C 4 f4	[円形]	[1.15]	1.47×1.32	92	自然	平坦	フラツ	0			SK315
293	C 4 f3	円形	2.05	—	35	自然	平坦	外傾	1	深鉢, 石皿(凹石)	SK294→本跡	SK316
295	B 4 i8	円形	0.85	1.02×0.97	60	人為	平坦	フラツ	0	深鉢		SK318
297	C 4 d3	橢円形	1.50×1.15	2.73×2.48	77	人為	平坦	フラツ	2	深鉢, 浅鉢	本跡→SK289	SK320
300	C 4 f3	円形	1.48	2.08×2.02	63	自然	平坦	フラツ	1		SK294	SK324
303	B 4 g6	橢円形	2.23×1.76	2.75×2.62	100	人為	平坦	フラツ	1	深鉢, 浅鉢, 大珠	本跡→SK319	SK328
305	B 4 b6	橢円形	1.60×1.07	2.75×2.43	100	人為	平坦	フラツ	0	深鉢, 浅鉢		SK330
308	C 4 b6	橢円形	2.00×[1.77]	2.15×[1.72]	38	自然	平坦	フラツ	1			SK334
309	C 4 a5	橢円形	1.33×1.08	2.07	72	人為	平坦	フラツ	0	深鉢, 土器片円盤		SK335
312	C 4 d3	橢円形	1.54×1.30	2.84×2.70	90	自然	平坦	フラツ	1	深鉢, 浅鉢, 甕	SK267	SK338
314	C 4 e2	橢円形	1.93×1.62	2.50×2.06	68	自然	平坦	フラツ	1		SK289, 297, 310, 311	SK340
315	B 4 g6	橢円形	2.30×1.78	2.73×2.10	83	自然	平坦	フラツ	1	深鉢	SK316→本跡	SK341A
316	B 4 g6	橢円形	1.32×0.75	1.40×1.04	83	自然	平坦	フラツ	0	深鉢	本跡→SK315	SK341B
318	C 4 a6	円形	1.30	2.65	90	自然	平坦	フラツ	0	深鉢, 浅鉢,	本跡→SK311	SK343
321	C 4 a8	橢円形	1.93×1.22	2.85×2.57	105	人為	平坦	フラツ	0	深鉢, 浅鉢, 石皿	本跡→SK320	SK346
322	C 4 a8	円形	1.63	2.50×2.38	85	人為	平坦	フラツ	0	深鉢	本跡→SK320	SK347
325	B 4 g0	橢円形	2.10×1.73	2.18×2.08	80	自然	平坦	フラツ	2	深鉢		SK350
326	B 4 h0	橢円形	1.50×1.30	1.80×1.70	43	人為	平坦	フラツ	0	深鉢, 磨製石斧		SK351
327	B 5 g1	円形	1.54	2.30×2.02	50	自然	平坦	フラツ	0	深鉢		SK352
329	B 4 h0	円形	0.90	2.30	130	人為	平坦	フラツ	0	深鉢浅鉢	SK330	SK354
330	B 4 h0	橢円形	1.74×1.45	2.10×1.92	58	自然	平坦	フラツ	1	深鉢	SK329	SK355
334	A 4 i5	橢円形	2.18×1.75	2.00×1.75	140	自然	平坦	フラツ	2	深鉢, 石皿(凹石)		SK359
335	B 5 h1	橢円形	1.68×1.50	1.85×1.60	62	人為	平坦	フラツ	0	深鉢, 器台		SK360
336	C 4 c6	橢円形	1.85×1.40	1.80×1.72	58	自然	平坦	フラツ	0			SK361
337	B 5 f2	橢円形	1.80×1.60	2.35×2.10	95	人為	平坦	フラツ	0	深鉢, 浅鉢		SK362
338	B 5 g2	円形	1.47	2.00×1.62	42	自然	平坦	フラツ	0			SK364
339	C 4 d6	円形	2.00	2.00×1.88	37	自然	平坦	フラツ	0			SK365
340	C 4 e6	円形	1.25	2.54×2.15	110	人為	平坦	フラツ	0	深鉢		SK366
341	C 4 c5	橢円形	1.94×(1.45)	1.92×(1.48)	45	自然	平坦	フラツ	0		SK345	SK367
345	C 4 c5	橢円形	1.75×(1.50)	1.80×(1.50)	50	自然	平坦	フラツ	3		SK341, 346	SK371
346	C 4 c5	橢円形	2.35×1.64	2.50×2.40	70	自然	平坦	フラツ	1		SK345	SK372
352	C 4 a7	橢円形	[1.13]×0.87	1.13×1.00	50	自然	平坦	フラツ	3		SK320, 322	SK380

土坑 番号	位置	開口部平面形	規 模			覆土	底面	壁面	ピット	出土遺物	重複関係 (旧→新)	発掘 番号
			開口部平面形(直径×直径m)	底部平面形(直径×直径m)	深さ(cm)							
353	B 4 g5	楕円形	1.93×[1.50]	—	14	人為	平坦	外傾	0			SK381
354	B 4 g5	円形	2.25	—	48	人為	平坦	外傾	4			SK382
355	B 4 g4	円形	2.34	—	30	自然	平坦	外傾	2			SK383
356	B 4 h4	楕円形	2.46×1.97	—	55	自然	平坦	外傾	2	深鉢	SK149,374	SK384
357	B 4 g4	[長楕円形]	[2.24]×1.33	—	19	自然	平坦	外傾	0		SK173,208	SK385
358	C 4 a4	円形	1.24	2.26×2.11	71	自然	平坦	フラスコ	0	深鉢		SK386
359	C 4 a5	楕円形	1.54×1.07	1.78×1.28	68	人為	平坦	フラスコ	0			SK387
361	C 3 j4	円形	1.14	—	43	自然	平坦	外傾	0			SK389
362	B 4 d9	楕円形	1.52×1.26	2.48×2.28	92	自然	平坦	フラスコ	0	深鉢		SK390
363	B 4 g6	[楕円形]	[1.76]×1.06	—	30	自然	平坦	外傾	0		SK364	SK391
364	B 4 g6	[円形]	[1.74]	—	26	自然	平坦	外傾	0	深鉢	SK315,316,354,363	SK392
365	C 4 b6	楕円形	1.24×0.68	—	34	自然	平坦	外傾	0			SK393
366	C 4 d4	[円形]	[0.98]	2.76×2.42	96	自然	平坦	フラスコ	0	深鉢		SK395
367	C 4 d3	[楕円形]	1.70×[1.20]	—	66	人為	丸底	外傾	0	深鉢	SK368	SK396
368	C 4 d3	楕円形	1.60×1.10	1.66×1.10	24	自然	平坦	フラスコ	0	深鉢	SK367	SK397
369	B 4 i9	円形	1.10	—	36	自然	平坦	外傾	2	深鉢		SK398
370	B 4 g0	[円形]	[1.10]	2.12×2.04	104	自然	平坦	フラスコ	1	深鉢	SK347	SK399
371	B 4 f3	円形	1.74	—	54	自然	平坦	外傾	1	深鉢	SK240,372→本跡	SK400
372	B 4 f2	円形	1.94	—	28	自然	平坦	外傾	1	深鉢		SK401
373	B 4 g4	円形	1.24	—	35	自然	平坦	外傾	0			SK402
374	B 4 h4	楕円形	2.46×2.14	—	58	自然	平坦	直立	4	深鉢	SK155,356	SK403
375	C 4 a6	[円形]	[1.46]	1.64×1.62	23	自然	平坦	フラスコ	2	深鉢	SK311	SK404
377	C 4 d7	[円形]	[1.79]	1.78×1.75	54	人為	平坦	直立	1	深鉢	SK447	SK406
378	B 4 i9	円形	1.52	2.10×1.94	100	自然	平坦	フラスコ	0	深鉢, 石皿	SI13,15	SK407
379	B 5 i9	楕円形	1.60×1.40	—	60	自然	平坦	外傾	2		SK384	SK409
380	C 4 e6	円形	1.80	—	20	自然	平坦	外傾	2			SK410
381	C 4 e5	円形	1.63	—	18	自然	平坦	外傾	2			SK411
382	C 4 a7	円形	2.13	—	30	自然	平坦	外傾	1		SK383	SK412
383	C 4 a7	円形	1.30	2.68×2.48	86	人為	平坦	フラスコ	0	深鉢, 浅鉢, 注口土器	SI18,19,SK382	SK413
384	B 5 i1	[円形]	[0.73]	1.73×1.52	78	自然	平坦	フラスコ	0	深鉢, 浅鉢	本跡→SK379	SK414
385	B 5 j2	楕円形	1.37×0.84	—	9	自然	平坦	外傾	0			SK415
386	B 5 h2	円形	1.76	1.94×1.90	68	自然	平坦	フラスコ	0	深鉢	SI23,24,SK387	SK416A
387	B 5 h2	[円形]	[1.44]	1.60×1.34	59	人為	平坦	フラスコ	0		SI23,24,SK386	SK416B
388	B 5 j2	[楕円形]	[1.60×1.26]	2.11×1.92	85	—	平坦	フラスコ	0	深鉢, 鉢		SK417
389	B 5 i3	不整楕円形	2.04×1.30	—	38	自然	平坦	フラスコ	0			SK418
390	C 4 d5	円形	1.68	1.82×1.80	66	自然	平坦	フラスコ	2	深鉢, 浅鉢		SK419
391	C 4 d5	円形	2.10	—	20	自然	平坦	外傾	0			SK420
392	C 4 g4	[円形]	[1.20]	—	36	自然	平坦	外傾	0	深鉢	SK393,404	SK421
393	C 4 g4	[円形]	[1.28]	2.08×1.50	136	—	平坦	フラスコ	0	深鉢	SI9,SK392,404	SK422
394	C 4 b8	[円形]	[1.78]	2.26×[2.12]	24	自然	平坦	フラスコ	1		SI41,SK398	SK424
395	C 4 e5	[円形]	[1.54]	2.04×2.02	62	自然	平坦	フラスコ	1	深鉢	本跡→SK381	SK425
396	B 5 j4	[円形]	—	[2.28×2.20]	50	—	平坦	フラスコ	0	深鉢, 敲石	本跡→堀1	SK426
397	C 4 h4	円形	1.84	—	40	自然	平坦	直立	2			SK427
398	C 4 b8	不整楕円形	1.98×1.54	—	28	自然	凹凸	外傾	2		SK394	SK428
399	C 4 i5	円形	1.54	2.74×2.58	102	人為	平坦	フラスコ	0	深鉢, 浅鉢		SK429
400	C 4 a9	楕円形	2.80×2.10	—	36	人為	平坦	外傾	3		SI28	SK430

土坑 番号	位置	開口部平面形	規 模			覆土	底面	壁面	ピット	出土遺物	重複関係 (旧→新)	発掘 番号
			開口部平面形(直径×径径m)	底部平面形(直径×径径m)	深さ(cm)							
401	C 4 a8	円形	1.12	—	48	人為	平坦	外傾	0			SK431
402	B 4 j8	[円形]	[1.06×0.94]	2.14×1.76	80	人為	平坦	75°	2	深鉢, 浅鉢		SK432
403	B 4 h3	楕円形	2.98×2.46	—	68	人為	平坦	直立	7	深鉢		SK433
404	C 4 g4	[円形]	[0.86]	1.46×1.38	73	自然	平坦	75°	0		SK392,393	SK434
405	B 5 i2	[円形]	[1.11]	1.56×1.39	94	人為	平坦	75°	0			SK435
408	C 5 b9	不整楕円形	1.12×0.89	—	32	自然	平坦	外傾	0		SD7	SK439
409	B 6 j2	円形	0.96	—	12	自然	平坦	外傾	0			SK440
410	B 6 j2	円形	0.90	—	10	自然	平坦	外傾	0			SK441
412	B 6 j2	円形	0.94	—	13	自然	平坦	外傾	0			SK443
414	C 4 c2	円形	1.68	—	28	自然	平坦	外傾	0			SK445
415	B 4 j2	円形	0.92	—	58	自然	平坦	外傾	0			SK446
417	B 5 j5	円形	1.75	—	24	自然	平坦	外傾	0			SK448
418	C 4 e4	楕円形	3.02×2.12	—	35	自然	平坦	外傾	3	深鉢		SK449
419	C 4 g3	不整円形	1.64×1.58	—	58	不明	平坦	外傾	0			SK450
420	C 4 c3	[楕円形]	2.24×[2.00]	—	36	自然	平坦	直立	3		SK426	SK451
421	C 4 j1	円形	2.10	—	53	自然	平坦	直立	3		SK444	SK453
422	C 4 a0	楕円形	1.94×1.58	1.84×1.72	64	自然	平坦	75°	2			SK454
423	B 5 j1	円形	1.84	2.48×2.42	100	自然	平坦	75°	0	深鉢	本跡→SK424	SK455
424	B 5 j1	楕円形	[2.00]×1.51	—	44	自然	平坦	外傾	0		SK423→本跡	SK456
426	C 4 c3	[楕円形]	[2.30]×1.96	—	38	自然	平坦	直立	2		SK420,SE5	SK458
427	C 5 a0	[円形]	[2.14]	—	43	自然	平坦	外傾	2			SK460
429	C 5 b6	円形	1.42	—	46	自然	平坦	直立	0		SK449	SK463
431	C 6 d3	円形	1.58	1.74×1.62	98	人為	平坦	75°	0			SK466
434	C 4 b6	[円形]	[1.16]	2.24×2.04	60	自然	平坦	75°	0	深鉢	SI18,本跡→SI19,SK446	SK469
435	C 4 b7	楕円形	1.82×1.52	—	26	自然	平坦	外傾	1		SK436,446	SK470
436	C 4 b7	楕円形	[1.75]×1.46	2.22×2.12	44	自然	平坦	75°	1	深鉢, 鉢	SI18,19,SK435	SK471
437	C 6 b1	円形	0.90	—	26	自然	平坦	外傾	0			SK472
441	C 4 d8	楕円形	2.32×1.80	—	26	自然	平坦	外傾	4		SK510	SK476
443	C 5 d0	円形	2.07	—	62	自然	平坦	外傾	0			SK479
444	C 5 a1	[楕円形]	[1.04×0.98]	1.30×1.20	74	自然	平坦	75°	1	深鉢	本跡→SK421	SK480
445	C 4 c7	[円形]	[0.70]	[0.86]×0.82	42	自然	平坦	75°	0		SK512	SK481
446	C 4 b6	円形	0.96×0.90	—	84	自然	平坦	75°	0	深鉢	SK434→本跡	SK483
447	C 4 c7	[円形]	[1.08]	[1.08]×1.02	46	自然	平坦	75°	0		SK377	SK484
448	B 5 j2	円形	1.13	2.18×1.90	106	人為	平坦	75°	0	深鉢, 石皿		SK485
449	C 5 b0	円形	1.16	—	40	不明	平坦	外傾	0		SK429	SK486
450	C 6 b4	円形	1.72	—	106	自然	平坦	直立	0		SK475	SK488
456	C 4 h5	[楕円形]	[2.24×1.78]	2.92×2.60	44	人為	平坦	75°	0	深鉢	本跡→堀 1	SK495
457	C 4 e4	円形	2.38	2.60×2.40	60	自然	平坦	75°	1	深鉢, 磨製石斧	本跡→SK458,459	SK496
458	C 4 f5	楕円形	2.06×1.78	—	28	自然	平坦	外傾	0		SK457,459,460	SK497A
459	C 4 f5	[楕円形]	[2.38]×1.92	—	16	自然	平坦	外傾	1	深鉢	SK458	SK497B
460	C 4 e5	[楕円形]	[1.42]×1.14	1.58×1.42	42	自然	平坦	75°	1	深鉢	本跡→SK458	SK498
461	C 4 b9	円形	1.46	1.90×1.68	72	自然	平坦	75°	0	深鉢	SK398,663	SK499
462	C 6 d4	楕円形	1.65×1.42	—	20	自然	平坦	外傾	0			SK500
463	C 6 e4	円形	1.40	—	15	自然	平坦	外傾	1			SK501
464	C 6 e5	円形	1.73	—	50	自然	平坦	外傾	0			SK503
465	C 6 e6	円形	1.40	—	25	自然	平坦	外傾	0			SK504

土坑 番号	位置	開口部平面形	規 模			覆土	底面	壁面	ピット	出土遺物	重複関係 (旧→新)	発掘 番号
			開口部平面形(直径×短径)	底部平面形(直径×短径)	深さ(cm)							
467	C 6 e6	円形	1.68	—	46	自然	平坦	外傾	0			SK506
474	C 6 e7	楕円形	1.70×1.54	1.66×1.56	103	人為	平坦	直立	1	深鉢		SK515
475	C 6 b4	楕円形	1.70×1.30	—	34	自然	平坦	外傾	1	深鉢		SK516
509	C 4 d8	[円形]	[2.12]	—	81	自然	平坦	直立	2	深鉢	SK510,511,堀1	SK551
510	C 4 d8	円形	1.08	2.62×2.40	132	人為	平坦	円弧	0	深鉢	SK457,509	SK552
511	C 4 d8	[円形]	—	2.84×2.74	142	—	平坦	円弧	0	深鉢, 浅鉢, 鉢	堀1,SK509	SK553
512	C 4 c7	円形	1.28	2.08×1.94	98	人為	平坦	円弧	0		SK513	SK554
513	C 4 c7	楕円形	[2.00×1.60]	—	30	自然	平坦	外傾	0		SK512	SK555
516	B 4 j0	円形	1.28	1.74×1.64	79	人為	平坦	円弧	0	深鉢, 磨製石斧		SK559
517	C 4 c7	[円形]	[1.84]	—	30	人為	平坦	外傾	0			SK561
518	C 4 b7	楕円形	1.95×1.62	—	26	人為	平坦	外傾	5		SK517,519	SK562
519	C 4 b7	楕円形	2.50×[2.04]	—	27	自然	平坦	外傾	3	深鉢, 磨製石斧	本跡→SK518	SK563
523	C 4 j6	円形	0.94	—	96	自然	平坦	外傾	0		SK657	SK569
528	C 5 b5	楕円形	2.06×1.74	—	18	自然	平坦	外傾	2		SK561,568	SK576
530	C 5 e7	楕円形	2.52×2.20	—	54	自然	平坦	外傾	5	深鉢	SK542,596	SK578
532	C 5 d6	楕円形	2.64×1.98	—	56	自然	平坦	直立	0			SK580
533	C 5 d7	楕円形	2.04×1.76	—	40	自然	平坦	外傾	1		SK542	SK581
534	C 5 C3	円形	0.98	1.40×1.16	62	人為	平坦	円弧	0	深鉢, 浅鉢		SK582
542	C 5 d7	円形	1.52	—	34	自然	平坦	外傾	1		SK533,548	SK591
547	C 5 f4	円形	1.80	—	46	自然	平坦	外傾	0			SK597
550	C 5 g7	円形	1.96	—	36	自然	平坦	外傾	1			SK602
552	C 4 h0	円形	2.16	—	32	自然	平坦	外傾	1	深鉢	第3号屋外炉	SK605
553	C 5 i1	円形	1.56	—	76	自然	平坦	直立	2	深鉢	SK554	SK606
554	C 5 j1	円形	2.04	—	26	自然	平坦	外傾	3		SK553	SK607
557	C 5 d1	楕円形	2.08×1.80	—	48	自然	平坦	外傾	0			SK610
558	C 5 C1	楕円形	1.70×1.39	2.88×2.68	75	人為	平坦	円弧	0	深鉢, 土器片円盤		SK611
559	C 5 d2	円形	1.83	—	35	自然	平坦	外傾	0			SK612
560	C 5 d1	楕円形	1.94×1.68	1.96×1.66	60	自然	平坦	直立	0	深鉢		SK613
561	C 5 c5	円形	2.72×[2.46]	—	14	自然	平坦	外傾	0	深鉢	本跡→SK528	SK614
563	C 4 d8	円形	1.08	2.62×2.40	132	人為	平坦	円弧	0			SK618
564	C 4 j9	円形	0.98	—	12	自然	平坦	外傾	0			SK620
565	C 4 j0	円形	1.54	—	30	自然	平坦	外傾	3			SK621
568	C 5 b5	円形	2.38	—	17	自然	平坦	外傾	4		SK528	SK625
569	C 5 C3	楕円形	2.00×[1.36]	1.80×1.76	120	自然	平坦	円弧	0	深鉢	本跡→SK570	SK626
570	C 5 d3	楕円形	2.00×1.58	—	40	自然	平坦	外傾	1		本跡→SK569	SK627
571	C 5 b2	円形	1.36	1.48×1.44	68	自然	平坦	円弧	0	深鉢		SK628
572	C 4 f5	円形	[1.62]	2.68×2.53	100	人為	平坦	円弧	0	深鉢, 鉢, 磨製石斧	本跡→SK578,堀1	SK629
574	C 5 c2	不整円形	2.14×2.06	—	50	自然	平坦	外傾	1	深鉢		SK631
575	C 5 c2	楕円形	1.32×0.98	2.72×2.35	108	自然	平坦	円弧	0	深鉢, 石皿	本跡→SK576	SK632
576	C 5 c2	楕円形	2.28×1.88	—	40	自然	平坦	外傾	1	深鉢	SK575,577→本跡	SK633
577	C 5 c1	楕円形	1.60×[1.32]	2.86×2.30	94	—	平坦	円弧	0	深鉢, 鉢, 打製石斧, 磨製石斧	本跡→SK576	SK634
578	C 4 f5	[楕円形]	2.90×[2.46]	—	32	自然	平坦	外傾	5	深鉢	SK572→本跡→堀1	SK635
582	C 5 e0	円形	1.86	—	90	人為	平坦	直立	0	深鉢	本跡→SK599,SD5	SK640
585	B 5 j6	円形	0.86	—	88	自然	平坦	直立	0			SK643
590	B 5 j1	楕円形	1.66×1.43	—	38	自然	平坦	外傾	2	深鉢, 凹石, 土器片錘	SK424	SK648
591	C 4 c8	[楕円形]	1.64×[1.34]	—	26	自然	平坦	外傾	5		SK612→本跡	SK650

土坑 番号	位置	開口部平面形	規 模			覆土	底面	壁面	ピット	出土遺物	重複関係 (旧→新)	発掘 番号
			開口部平面形(直径×直径m)	底部平面形(直径×直径m)	深さ(cm)							
592	C 5 c4	円形	1.94	—	24	自然	平坦	外傾	0			SK652
600	C 4 e6	円形	1.92	—	34	自然	平坦	直立	0	深鉢, 鉢		SK663
601	C 4 j0	楕円形	2.02×1.74	2.26×1.92	100	人為	平坦	フラスコ	0	深鉢, 凹石, 石鏃	本跡→SK602	SK665
602	C 4 j0	楕円形	2.30×1.87	—	40	自然	平坦	直立	5	深鉢, 浅鉢	SK601→本跡	SK666
606	C 6 d1	円形	1.84	—	92	自然	平坦	直立	0	深鉢	本跡→SI38	SK670
608	C 5 d4	円形	1.24	1.64×1.62	82	自然	平坦	フラスコ	0			SK672
609	C 5 a2	[円形]	—	[2.68×1.22]	64	自然	平坦	フラスコ	0		堀1	SK673
610	C 4 g6	[円形]	[2.16]	2.40×[2.14]	58	自然	平坦	フラスコ	0	深鉢, 浅鉢, 磨製石斧	本跡→堀1,SD9	SK676
611	C 5 c9	楕円形	0.98×0.86	—	26	自然	平坦	直立	0	深鉢, 浅鉢, 磨石		SK677
612	C 4 c7	[楕円形]	1.70×[1.52]	1.90×[1.72]	54	自然	平坦	フラスコ	2	深鉢	本跡→SK591	SK678
613	C 4 e6	楕円形	2.42×2.00	2.78×2.56	78	人為	平坦	フラスコ	1	深鉢, 石匙	SK629, 本跡→堀1	SK679
614	C 6 d1	楕円形	1.36×1.12	—	44	自然	平坦	外傾	1			SK680
615	C 4 e7	[円形]	[1.84]	—	14	自然	平坦	外傾	0		SK624	SK681
616	B 5 i3	円形	1.00	2.24×2.08	114	自然	平坦	フラスコ	0	深鉢	SI23, 本跡→SI24	SK682
617	C 5 a1	[円形]	[1.32]	2.62×[1.78]	78	自然	平坦	フラスコ	0	深鉢	本跡→SK618	SK684A
618	C 4 a0	[円形]	[1.05]	—	78	自然	平坦	直立	0	深鉢	SK617→本跡	SK684B
619	C 5 a1	楕円形	1.78×1.24	—	68	自然	平坦	外傾	0		SK620,621	SK685
620	C 4 a2	楕円形	1.90×1.30	—	76	自然	平坦	外傾	0		SK621	SK686A
621	C 4 a2	楕円形	[1.90]×1.44	—	87	自然	平坦	外傾	0		SK620	SK686B
622	C 4 f7	円形	1.82	2.80×2.64	80	自然	平坦	フラスコ	0	深鉢, 甕	本跡→SD9	SK688
624	C 4 e7	[円形]	[2.60]	—	40	自然	平坦	外傾	1		SK625	SK690
625	C 4 e7	円形	1.05	—	52	自然	平坦	外傾	0		SK624	SK691
629	C 4 e7	円形	[1.72]	—	28	不明	平坦	外傾	0		SK613	SK696
630	C 4 h6	楕円形	1.42×1.14	1.58×1.26	74	自然	平坦	フラスコ	0	深鉢	本跡→堀1	SK697
631	C 4 g6	楕円形	1.12×0.96	2.12×2.00	66	自然	平坦	フラスコ	0	深鉢, 浅鉢		SK698
632	C 4 h8	円形	2.30	—	34	自然	平坦	外傾	0	深鉢	SK638→本跡	SK699
633	C 4 f0	楕円形	2.18×1.70	2.70×2.46	96	自然	平坦	フラスコ	0	深鉢	本跡→SD9	SK701
634	C 4 h7	円形	1.56	—	14	自然	平坦	外傾	0			SK702
636	C 5 a3	不整楕円形	2.06×1.30	—	36	自然	平坦	外傾	0		SI45	SK704
637	C 4 g0	楕円形	2.50×1.88	2.64×2.40	92	自然	平坦	フラスコ	0	深鉢	本跡→SD9	SK705
638	C 4 g8	[楕円形]	2.58×[1.96]	—	35	自然	平坦	外傾	0	深鉢	本跡→SK632	SK706
639	B 5 j3	不整楕円形	1.44×1.08	—	40	自然	平坦	外傾	1			SK708
640	C 5 b4	円形	1.10	—	66	自然	平坦	外傾	0			SK709
641	C 5 e1	楕円形	1.40×1.18	2.64×2.60	108	自然	平坦	フラスコ	0	深鉢, 壺, 磨石, 凹石		SK710
642	C 5 f1	円形	2.04	2.44×2.32	68	自然	平坦	フラスコ	0	深鉢, 浅鉢, 磨製石斧		SK711
643	C 4 h7	円形	2.56	2.62×2.48	48	自然	平坦	フラスコ	0	深鉢	SK644	SK712
644	C 4 h7	円形	0.86	—	60	自然	平坦	外傾	0		SK643	SK713
645	C 4 h6	円形	1.08	1.68×1.48	74	自然	平坦	フラスコ	0	深鉢, 浅鉢		SK714
646	C 4 i6	楕円形	1.60×1.32	—	10	自然	平坦	外傾	1			SK715
647	C 4 j7	円形	2.50	—	20	自然	平坦	直立	2	深鉢, 浅鉢		SK716
648	C 4 g7	円形	1.40	—	24	自然	平坦	外傾	0			SK717
649	C 4 i7	円形	2.00	2.08×1.86	40	自然	平坦	フラスコ	1	深鉢		SK718
650	C 4 i6	[円形]	—	2.18×[1.64]	56	自然	平坦	フラスコ	2	深鉢	本跡→堀1	SK719
651	C 5 c4	[円形]	[0.98]	—	64	自然	平坦	外傾	0		SK656	SK720
652	C 4 f8	楕円形	1.34×1.08	—	32	自然	平坦	外傾	0			SK728
656	C 5 c4	円形	[1.34]	—	56	自然	平坦	外傾	0			SK734

土坑 番号	位置	開口部平面形	規 模			覆土	底面	壁面	ピット	出土遺物	重複関係 (旧→新)	発掘 番号
			開口部平面形(直径×短径m)	底部平面形(直径×短径m)	深さ(cm)							
658	C 4 f5	楕円形	1.62×1.26	1.52×1.42	34	自然	平坦	フラスコ	0	深鉢, 磨製石斧		SK737
659	C 4 d7	円形	0.78	1.02×0.96	48	自然	平坦	フラスコ	2			SK738
662	C 5 i8	円形	1.20	—	15	自然	平坦	外傾	0		SK655	SK741
663	C 4 b9	不整形円形	1.70×[1.60]	2.10×[1.76]	54	自然	平坦	フラスコ	1		SK461	SK742
664	C 4 d9	[円形]	[1.54]	1.92×[1.70]	70	自然	平坦	フラスコ	0	深鉢	本跡→堀1	SK745
665	C 4 d8	楕円形	1.42×1.26	—	23	自然	平坦	外傾	3			SK747
666	C 4 c8	円形	1.36	—	26	自然	丸底	外傾	1			SK749
667	C 4 d9	楕円形	1.05×0.86	2.84×2.76	162	—	平坦	フラスコ	0	深鉢, 甕	本跡→堀1	SK750
668	C 4 d0	円形	1.05	—	106	人為	平坦	外傾	0		SK669,堀1→本跡	SK751A
669	C 4 d0	[円形]	[1.90]	—	35	自然	平坦	直立	0	深鉢, 浅鉢, 土器片円盤	SK668	SK751B
670	C 4 f5	楕円形	0.68×0.48	—	10	—	平坦	外傾	0	深鉢		SK752
672	C 5 b1	[楕円形]	1.84×[1.70]	—	40	自然	平坦	外傾	1	深鉢	本跡→SK673,堀1	SK755A
673	C 5 b1	[円形]	[0.64]	—	35	自然	丸底	外傾	0		SK672→本跡	SK755B
674	C 5 b3	[円形]	[1.06]	—	24	自然	平坦	外傾	0		SK570	SK756
675	C 5 b2	楕円形	1.54×1.30	1.84×1.60	78	自然	平坦	フラスコ	0	深鉢, 土器片錘	本跡→SI51	SK757
676	C 4 d0	楕円形	1.48×1.34	—	34	自然	平坦	直立	1	深鉢, 浅鉢, 鉢		SK758
678	C 4 f9	円形	1.68	2.14×2.04	68	自然	平坦	フラスコ	0	深鉢	本跡→SI47	SK761
679	C 5 a3	楕円形	0.72×0.62	2.14×1.70	80	自然	平坦	フラスコ	0	深鉢, 浅鉢	SK636	SK762
682	C 5 b2	[楕円形]	1.43×[1.20]	1.68×[1.40]	40	不明	平坦	フラスコ	0		堀1	SK767
719	F 2 h5	楕円形	1.65×1.38	1.40×1.13	150	人為	平坦	円筒状	0	深鉢, 浅鉢		SK3040
756	F 2 i5	円形	1.12	0.93	48	自然	平坦	円筒状	0	深鉢		SK3081
765	G 3 e1	円形	1.15	1.04	45	自然	平坦	円筒状	0	石棒		SK3091
826	F 6 g9	円形	1.90	1.65	22	自然	平坦	外傾	3	石器		SK5004
876	G 6 a5	楕円形	1.90×1.60	1.25×1.05	141	人為	平坦	円筒状	0	深鉢, 土器片円盤		SK5070
879	G 6 b1	円形	1.50	1.40×1.30	79	人為	平坦	円筒状	0	深鉢, 浅鉢	本跡→SI127	SK5074

## (2) 土坑墓

### 第1号土坑墓 (第495・496図)

位置 調査1区の北西部, B 3 e7区。

規模と平面形 長径2.70m, 短径1.75mの楕円形で, 深さは32cmである。

長径方向 N-83°-W

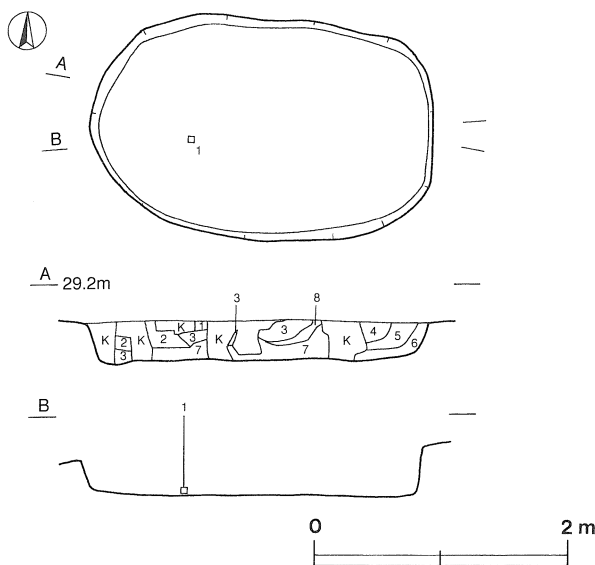
壁 外傾して緩やかに立ち上がる。

底 ほぼ平坦である。

覆土 8層に分層され, 不規則な堆積状況やロームブロックを含んでいることから, 人為堆積と考えられる。

#### 土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック・鹿沼パミス小ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子多量・ローム小ブロック少量, 炭化粒子・鹿沼パミス小ブロック微量

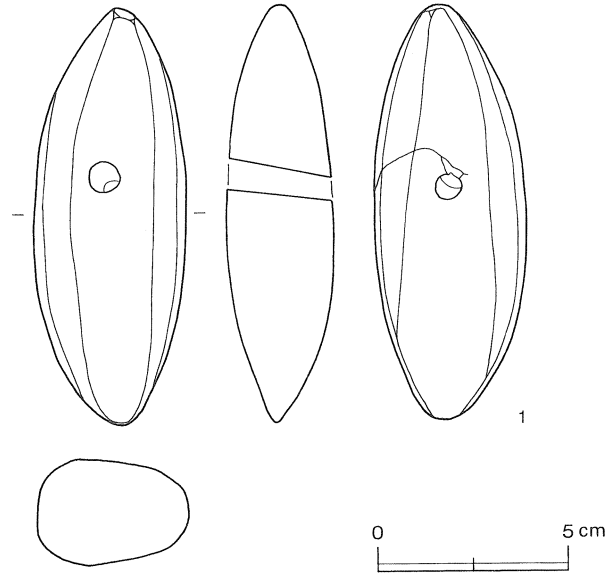


第495図 第1号土坑墓実測図

- 4 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック中量, ローム粒子少量
- 6 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量
- 7 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・鹿沼パミス小ブロック少量
- 8 暗褐色 ローム粒子中量・ローム小ブロック少量, 鹿沼パミス小ブロック微量

**遺物** 完形である石製品1点が出土している。第496図1は穿孔のある翡翠の大珠で、西部の底面から出土している。

**所見** 時期は、出土石製品や周辺の遺構状況から中期の土坑墓と考えられる。



第496図 第1号土坑墓出土遺物実測図

第1号土坑墓出土遺物観察表 (第496図)

図版番号	器種	計測値				石質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
1	大珠	11.1	4.0	2.8	20.0	翡翠	鯉節形。ほぼ中央部に1か所穿孔。	Q39 P L44

土坑墓一覧表

土坑番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な遺物	重複関係	発掘番号
				長径×短径(m)	深さ(cm)						
1	B 3e7	N-83°-W	楕円形	2.70×1.75	32	外傾	平坦	自然	大珠		SK144

(3) 陥し穴

第1号陥し穴 (第497図)

**位置** 調査1区南東部, C 6e4区。

**規模と平面形** 長径1.59m, 短径0.90mの不整楕円形で、深さは1.50mである。

**長径方向** N-38° - E

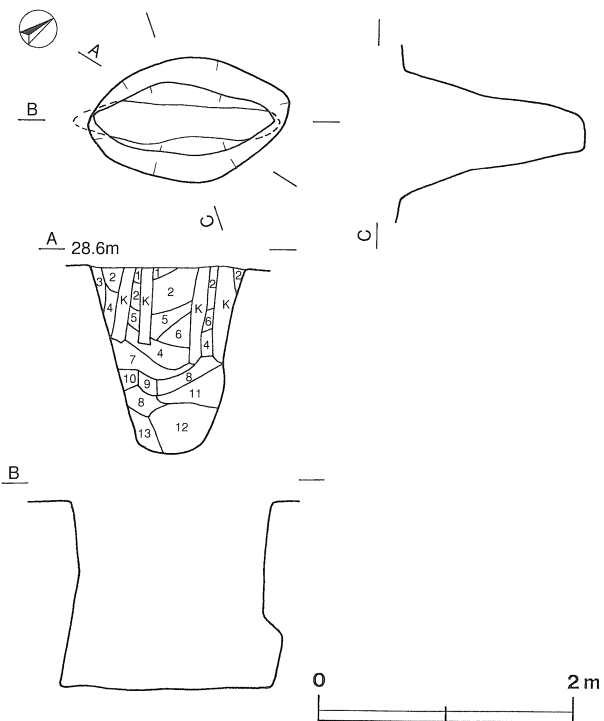
**壁面** ほぼ直立する。短径方向の断面形は「U」字状で、長径方向の断面形は袋状を呈している。

**底面** 平坦である。

**覆土** 13層からなり、不規則な堆積状況を示していることから人為堆積である。

**土層解説**

- 1 暗褐色 ローム小ブロック微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子微量
- 7 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量



第497図 第1号陥し穴実測図

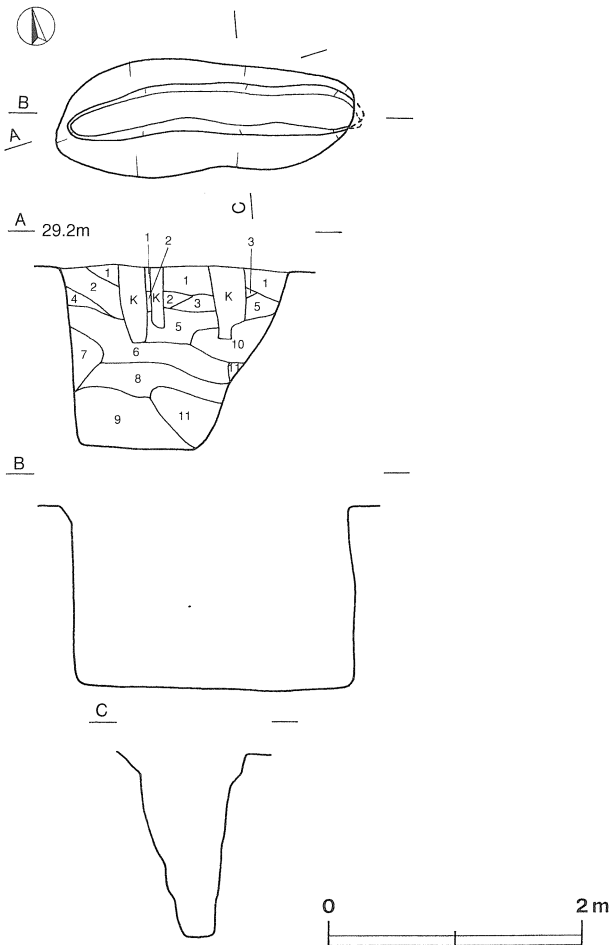


- 8 暗褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子少量, ローム中ブロック微量
- 9 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
- 10 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・鹿沼パミス粒子微量

- 11 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子・鹿沼パミス粒子微量
- 12 暗褐色 ローム小ブロック少量
- 13 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量

遺物 出土していない。

所見 本跡は、遺構の形態から縄文時代の陥し穴と思われる。



第498図 第2号陥し穴実測図

### 第2号陥し穴 (第498図)

位置 調査1区東部, C 5 c5区。

規模と平面形 長径2.29m, 短径0.95mの不整楕円形で, 深さは1.45mである。

長径方向 N-74° -W

壁面 垂直に立ち上がる。短径方向の断面形は「U」字状である。

底面 平坦である。

覆土 11層からなり, 不規則な堆積状況を示していることから人為堆積である。

#### 土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化物・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム中ブロック中量, ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック・炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 7 褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム大ブロック少量
- 8 暗褐色 ローム粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
- 9 黒褐色 鹿沼パミス粒子少量, ローム小ブロック・ローム粒子・鹿沼パミス中ブロック微量
- 10 褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 11 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・鹿沼パミス中ブロック・鹿沼パミス小ブロック中量, 鹿沼パミス小ブロック微量

遺物 出土していない。

所見 本跡は、遺構の形態から縄文時代の陥し穴と思われる。

### 第3号陥し穴 (第499図)

位置 調査1区東部, C 5 c4区。

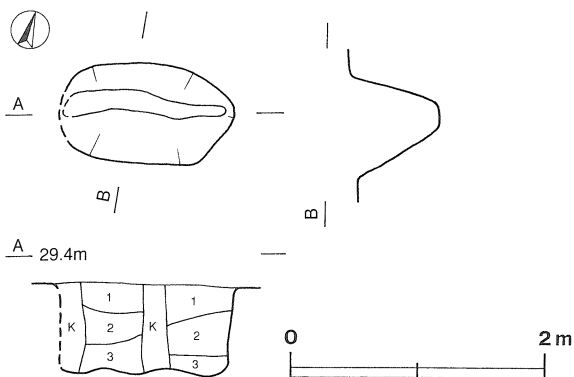
規模と平面形 長径1.65m, 短径0.80mの不整楕円形で, 深さは0.70mである。

長径方向 N-80° -E

壁面 ほぼ垂直に立ち上がる。短径方向の断面形は「V」字状である。

底面 ほぼ平坦である。

覆土 3層からなり, 不規則な堆積状況を示していることから人為堆積である。



第499図 第3号陥し穴実測図

#### 土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子微量

遺物 出土していない。

所見 本跡は、遺構の形態から縄文時代の陥し穴と思われる。

#### 第4号土坑陥し穴 (第500図)

位置 調査3区南東部, G 3 e2区。

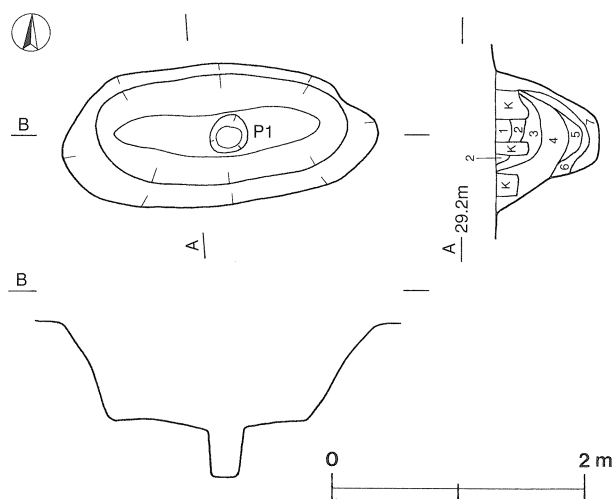
規模と平面形 長径2.59m, 短径1.45mの不整楕円形で、深さは0.86mである。

長径方向 N-83° - E

壁面 外傾して立ち上がる。

底面 ほぼ平坦である。底面に近いほど長径方向と平行に狭くなる。逆木を立てたと考えられるピットが1か所検出された。P1は長径35cm, 短径28cmの楕円形で、底面からの深さは49cmである。

覆土 7層からなり、レンズ状に堆積することから自然堆積である。



第500図 第4号陥し穴実測図

#### 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 2 極暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子・砂微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 砂少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・砂少量, ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子・砂少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 6 暗褐色 砂中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 7 褐色 鹿沼パミス粒子中量, ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量

遺物 出土していない。

所見 本跡は、遺構の形態から縄文時代の陥し穴と思われる。

#### 第5号土坑陥し穴 (第501図)

位置 調査5区北東部, G 7 a5区。

規模と平面形 長径1.95m, 短径1.10mの不整楕円形で、深さは0.93mである。

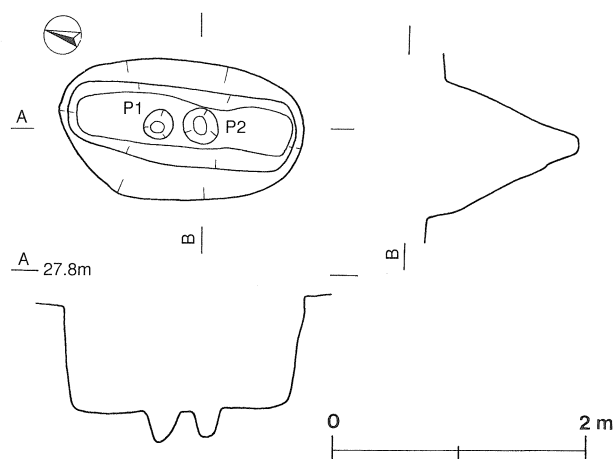
長径方向 N-10° - W

壁面 垂直に立ち上がる。短径方向の断面形は「V」字状である。

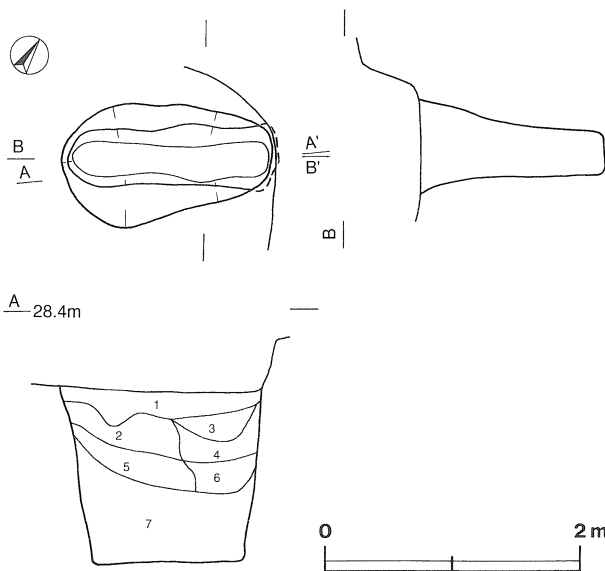
底面 平坦である。逆木を立てたと考えられるピットが2か所検出された。P1は長径24cm, 短径21cmの楕円形で、底面からの深さは22cm, P2は径28cmの円形で、底面からの深さは25cmである。

遺物 出土していない。

所見 本跡は、遺構の形態から縄文時代の陥し穴と思われる。



第501図 第5号陥し穴実測図



第502図 第6号陥し穴実測図

- 3 暗褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量
- 4 褐色 ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量
- 5 暗褐色 ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量，ローム大ブロック微量
- 6 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，ローム大ブロック・鹿沼パミス粒子微量
- 7 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化物・炭化粒子・鹿沼パミス粒子微量

遺物 出土していない。

所見 本跡は，遺構の形態から縄文時代の陥し穴と思われる。

第6号陥し穴（第502図）

位置 調査5区北東部，F7e1区。

重複関係 第104号住居跡に掘り込まれていることから，本跡が古い。

規模と平面形 長径1.66m，短径0.97mの不整楕円形で，深さは1.98mである。

長径方向 N-58°-E

壁面 垂直に立ち上がる。短径方向の断面形は「U」字状である。

底面 平坦である。

覆土 7層からなり，不規則な堆積状況を示していることから人為堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量，ローム中ブロック・ローム小ブロック微量

陥し穴一覧表

陥し穴番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	ピット	出土遺物	重複関係 (旧→新)	発掘番号
				長径×短径(m)	深さ(cm)							
1	C6e4	N-38°-E	不整楕円形	1.59×0.90	1.50	直立	平坦	人為				SK502
2	C5c5	N-74°-W	不整楕円形	2.29×0.95	1.45	直立	平坦	人為				SK653
3	C5c4	N-80°-E	不整楕円形	1.65×0.80	0.70	直立	平坦	人為				SK733
4	G3e2	N-83°-E	不整楕円形	2.59×1.45	0.86	外傾	平坦	自然	底面に1			SK3072
5	G7a5	N-10°-W	不整楕円形	1.95×1.10	0.93	直立	平坦	—	底面に2			SK5018
6	F7e1	N-58°-E	不整楕円形	1.66×0.97	1.98	直立	平坦	人為				SK5020

(4) その他の土坑

縄文時代と考えられる土坑の中で，フラスコ状土坑，土坑墓，陥し穴以外のものをその他の土坑とし，一覧表として掲載した。

その他の土坑一覧表

土坑番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な遺物	重複関係 (旧→新)	発掘番号
				長径×短径(m)	深さ(cm)						
7	B5d0	N-40°-E	不整楕円形	[2.50]×1.60	36	緩斜	平坦	自然	深鉢		SK7
12	A5j7	N-34°-E	[不整円形]	[1.73]×1.60	76	外傾	丸底	人為	深鉢		SK13
16	A5e9	N-60°-E	不定形	1.75×1.17	35	緩斜	丸底	自然			SK19
17	A5f7	N-43°-E	不定形	1.35×1.10	55	外傾	丸底	自然			SK20

土坑 番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	主 な 遺 物	重 複 関 係 (旧→新)	発掘番号
				長径×短径(m)	深さ(cm)						
18	A5f7	—	円 形	0.90	14	緩斜	平坦	自然	深鉢		SK21
19	A5f7	N-26°-E	不整楕円形	1.32×0.60	23	緩斜	凹凸	人為			SK22
27	B4a6	N-42°-W	不 定 形	1.74×1.47	25	外傾	平坦	人為		屋外炉	SK30
33	A4i6	N-42°-W	不整楕円形	1.95×1.65	72	緩斜	平坦	自然			SK36
44	B4b3	N-67°-E	[楕円形]	2.00×(1.30)	65	緩斜	平坦	自然		SK75	SK48
47	B4c3	N-36°-W	[楕円形]	1.52×(0.95)	35	外傾	平坦	自然		SK51,78	SK52
48	B5g1	N-47°-E	楕 円 形	1.72×0.86	54	外傾	平坦	自然			SK53
54	B4c2	—	円 形	2.80	64	外傾	平坦	自然			SK59
55	B5g2	—	円 形	0.82	12	外傾	平坦	自然			SK60
56	B5g3	—	円 形	1.10	28	外傾	平坦	自然			SK61
57	B5g4	—	円 形	1.33	33	外傾	平坦	自然			SK62
58	B5h1	N-21°-W	楕 円 形	[1.47]×1.23	33	外傾	平坦	自然		SK100	SK63
59	B5g3	—	円 形	0.65	60	外傾	丸底	自然			SK64
62	B4c6	N-40°-W	楕 円 形	1.04×0.80	47	外傾	凹凸	人為			SK67
67	B5g3	N-75°-E	不整楕円形	0.68×0.36	96	外傾	自然	平坦			SK72
70	B4d2	N-70°-W	楕 円 形	1.40×0.86	33	外傾	平坦	自然			SK77
72	B4d3	N-33°-W	不整楕円形	1.85×1.52	28	外傾	平坦	自然			SK79
73	B4e2	—	円 形	0.50	76	外傾	凹凸	人為	深鉢		SK80
74	B4a2	N-55°-W	楕 円 形	1.40×0.85	16	緩斜	平坦	自然		SI 2	SK81
78	B4c4	N-30°-E	[楕円形]	[1.80×0.65]	45	不明	平坦	不明		SK43,51,109	SK84
81	B4b5	N-35°-W	楕 円 形	2.60×2.25	62	外傾	平坦	自然		SK60,89	SK87
82	B4d3	—	円 形	0.90	30	外傾	平坦	自然		SK69,196	SK90
83	B4e1	N-10°-E	不整楕円形	2.20×1.33	25	外傾	平坦	人為			SK91
84	B4f2	N-8°-W	不整楕円形	1.75×1.15	24	外傾	平坦	自然			SK92
85	B3f0	N-20°-E	不整楕円形	1.86×1.53	26	外傾	平坦	不明		SK43,51,109	SK93
86	B4h1	N-40°-W	不整楕円形	1.28×0.75	20	外傾	平坦	自然			SK94
88	B4d1	N-40°-E	不整楕円形	1.00×0.70	34	外傾	凹凸	人為			SK96
90	B4c5	N-5°-E	不整楕円形	1.66×1.35	7	外傾	平坦	自然		SK69,196	SK98
92	B4g4	N-25°-W	不整楕円形	2.16×1.45	27	外傾	凹凸	人為			SK100
93	B3f9	N-40°-W	不整楕円形	2.34×1.75	77	外傾	平坦	自然			SK101
94	B4d6	—	円 形	1.60	36	外傾	平坦	自然			SK102
97	B4e8	N-18°-E	楕 円 形	1.02×0.54	13	外傾	平坦	不明		本跡→SK49	SK105
98	B3b9	N-75°-E	不整楕円形	2.28×1.59	45	外傾	平坦	人為			SK106
101	B4b3	N-70°-W	不整楕円形	0.85×(0.45)	38	外傾	丸底	人為			SK109
105	B4c5	—	円 形	1.18	50	外傾	平坦	人為		SK106,119	SK113
106	B4e4	N-18°-E	楕 円 形	2.22×1.88	58	外傾	平坦	自然		SK77,105,119	SK114
110	B3a0	N-50°-E	不整楕円形	1.05×0.88	18	緩斜	丸底	自然			SK118
111	B3a9	N-50°-W	不整楕円形	1.16×0.84	9	緩斜	丸底	人為			SK119
113	B4e5	N-37°-E	不整楕円形	2.62×(0.85)	42	外傾	平坦	人為		SK121	SK121
115	B4e5	N-7°-E	不整楕円形	2.35×1.95	54	外傾	平坦	人為			SK123
116	B3b7	N-18°-W	不整楕円形	1.58×1.36	13	緩斜	丸底	自然			SK124
117	B3d5	—	円 形	1.57	20	外傾	平坦	人為			SK125
118	B3c7	N-37°-E	[楕円形]	[1.43×1.26]	33	外傾	平坦	自然			SK126
119	B4c4	N-20°-W	[楕円形]	[2.25]×1.85	47	外傾	平坦	自然		SK106	SK127
122	B4g6	N-70°-W	楕 円 形	1.65×1.30	25	外傾	平坦	自然		SK123	SK130
123	B4f6	N-55°-E	[楕円形]	[2.90×2.35]	44	外傾	平坦	自然		SK124,131	SK131

土坑 番号	位 置	長径方向 (長軸方向)	平 面 形	規 模		壁面	底面	覆土	主 な 遺 物	重 複 関 係 (旧→新)	発掘番号
				長径×短径(m)	深さ(cm)						
124	B4g7	N-5°-E	楕円形	2.35×2.18	37	外傾	平坦	自然		SK123,199	SK132
126	B4g7	N-10°-E	楕円形	1.35×0.15	不明	外傾	平坦	自然			SK134
127	B3b8	N-70°-W	不整楕円形	2.83×2.05	16	緩斜	丸底	人為			SK135
128	B4b2	N-60°-W	[不整楕円形]	(1.66)×1.65	40	外傾	平坦	自然		SK130	SK136
129	B4b2	—	円形	2.70	不明	外傾	平坦	自然		SI2	SK137
130	B4b3	—	円形	2.05	36	外傾	平坦	自然		SK128,SI2	SK138
133	B3d8	N-4°-W	楕円形	2.15×1.30	18	外傾	平坦	自然			SK142
134	B3c6	N-36°-W	[楕円形]	[1.55]×1.31	38	外傾	平坦	人為		SK118	SK143
135	B3f6	N-8°-W	不整楕円形	3.12×2.55	25	緩斜	丸底	自然			SK145
136	B3d7	N-5°-W	楕円形	1.76×1.15	22	緩斜	丸底	自然			SK146
137	B3d0	N-30°-W	不整楕円形	1.70×1.47	20	緩斜	丸底	自然			SK150
138	B3e0	N-38°-E	楕円形	1.93×1.47	18	外傾	凹凸	自然			SK151
140	B4g8	N-35°-W	楕円形	1.82×1.32	48	外傾	凹凸	自然		SK14,28	SK153
142	B4i5	N-50°-W	不整楕円形	1.68×0.88	87	外傾	平坦	人為		SK148	SK156
147	B4h7	N-36°-W	楕円形	1.85×1.25	48	外傾	平坦	人為		本跡→SI7	SK161
149	B4g4	—	円形	2.73	64	外傾	平坦	自然		SK356	SK164
152	B4i7	N-45°-W	楕円形	2.22×1.68	48	外傾	平坦	自然		SK150,151,153	SK168
154	B4j7	N-27°-E	楕円形	1.77×1.45	22	外傾	平坦	人為		SK150→本跡	SK170
156	B4h7	N-55°-W	楕円形	2.62×[2.12]	27	外傾	平坦	自然		SK167	SK172
159	B4i4	—	円形	1.02	23	外傾	凹凸	人為		SK141,148	SK175
161	B4d8	—	円形	1.84	39	外傾	平坦	自然			SK177
167	B4h7	N-32°-W	楕円形	2.34×(2.12)	36	外傾	平坦	自然		SK156,164	SK183
168	B4j5	N-55°-W	楕円形	2.14×1.95	53	外傾	平坦	自然		SK148	SK184
169	C4b6	—	円形	1.44	54	外傾	平坦	自然		SK177,189,308	SK185
170	B4f5	N-5°-W	楕円形	2.40×[2.10]	34	外傾	平坦	自然		SK176	SK186
171	C4a4	N-35°-W	楕円形	2.48×1.85	40	外傾	平坦	自然			SK187
174	B4i2	N-20°-W	楕円形	2.62×2.20	84	外傾	平坦	自然			SK190
175	B4j6	N-6°-E	不整楕円形	2.48×1.80	28	外傾	平坦	自然		SK342	SK191
176	B4f5	N-40°-W	楕円形	2.15×[1.82]	42	外傾	平坦	自然		SK170,198,239	SK192
179	B4d5	—	円形	1.90	52	外傾	凹凸	人為			SK195
180	B4e5	—	円形	1.82	38	外傾	平坦	自然		SK186	SK196
182	B4c4	—	円形	1.46	40	外傾	凹凸	自然			SK198
183	B4f8	N-40°-W	楕円形	0.80×0.46	28	緩斜	平坦	自然			SK199
184	B3i8	N-4°-E	不整楕円形	(3.55)×2.10	34	外傾	平坦	人為			SK200
185	B3g7	—	円形	2.75	38	外傾	平坦	自然			SK201
190	B3e8	N-7°-E	楕円形	2.63×(1.40)	30	緩斜	平坦	人為		SK653	SK207
191	C4c6	N-60°-E	不整楕円形	(1.45×0.95)	33	外傾	平坦	人為		SK187,188,211	SK208
193	C4a3	—	円形	2.10	53	外傾	平坦	人為		SK192	SK210
194	A5h1	—	円形	1.00	38	外傾	平坦	自然			SK212
195	B4e4	N-3°-E	楕円形	[2.50]×2.10	30	外傾	平坦	自然		SK196	SK213
196	B4e4	—	円形	2.10	45	外傾	平坦	自然		SK195	SK214
197	B3e8	—	円形	1.37	40	外傾	凹凸	人為			SK215
198	B4f4	N-63°-E	不整楕円形	2.63×(0.84)	28	外傾	平坦	自然		SK176,185	SK216
199	B4g7	—	円形	0.95	24	外傾	平坦	自然		SK124,181	SK217
201	B3e9	N-53°-W	楕円形	1.14×0.92	25	外傾	平坦	自然			SK219
202	B4f2	—	円形	1.32	20	外傾	平坦	自然			SK220

土坑 番号	位 置	長径方向 (長軸方向)	平 面 形	規 模		壁面	底面	覆土	主 な 遺 物	重 複 関 係 (旧→新)	発掘番号
				長径×短径(m)	深さ(cm)						
203	B3e9	N-26°-E	楕 円 形	1.96×1.50	30	外傾	平坦	自然			SK221
206	B4j4	—	円 形	2.15	85	外傾	平坦	人為		SK204,205,207,208	SK224
207	B4j4	N-50°-E	楕 円 形	1.47×1.18	37	外傾	平坦	人為		SK206,208	SK225
208	B4j4	N-45°-E	楕 円 形	2.57×2.20	70	直立	平坦	人為		SK204,206,207,357	SK226
209	B4g3	N-58°-E	不整楕円形	2.12×0.90	64	外傾	平坦	自然		SK172	SK227
210	B3e8	N-28°-E	楕 円 形	1.67×1.16	37	外傾	平坦	人為			SK228
211	C4c6	N-10°-E	(楕円形)	(0.98×0.50)	60	外傾	平坦	自然			SK229
212	C4b3	—	円 形	2.39	30	外傾	平坦	自然		SK213,262	SK230
214	B4i5	N-25°-E	楕 円 形	2.18×(0.76)	25	外傾	平坦	自然		SK212,256,262	SK232
215	B3j0	N-25°-W	楕 円 形	2.07×1.65	40	外傾	平坦	自然		SK237	SK233
216	C4a1	N-80°-W	楕 円 形	2.20×1.30	36	外傾	平坦	自然		SK217	SK234
217	C4a1	N-5°-W	不整楕円形	2.68×2.05	15	外傾	平坦	人為		SK216	SK235
220	B4b8	—	円 形	1.90	38	外傾	平坦	人為			SK238
224	B4g5	N-44°-W	不整楕円形	3.10×2.45	38	外傾	平坦	自然		SK353,354	SK242
225	B4j7	N-50°-W	不整楕円形	2.55×2.08	30	外傾	平坦	自然		SK146,S111	SK243
226	C4c2	N-45°-E	楕 円 形	1.35×0.93	12	外傾	平坦	人為			SK244
230	C4d2	N-30°-W	楕 円 形	2.67×(2.30)	60	外傾	平坦	自然		SK231,241,289	SK249
231	C4d2	[N-65°-W]	[楕円形]	[2.25]×(0.95)	60	外傾	平坦	人為		SK2230,241,289	SK250
233	B5a4	N-42°-W	楕 円 形	2.30×1.55	55	外傾	平坦	自然		SK 4	SK253
234	A4j4	—	円 形	1.88	44	外傾	平坦	自然		SK235,249	SK255
235	A4j4	—	円 形	1.53	45	外傾	平坦	自然		SK234	SK256
237	B3j0	—	円 形	[1.80]	32	緩斜	丸底	自然		SK215	SK258
240	B4f4	—	円 形	2.30	61	外傾	平坦	自然		SK239,355,371	SK261
243	C4d3	—	円 形	2.50	42	外傾	平坦	自然		SK244,267,288,312	SK264
244	C4c3	—	円 形	[2.22]	34	外傾	平坦	自然		SK243,245,266	SK265
245	C4b3	—	円 形	2.10	59	直立	平坦	人為		SK244,266	SK266
246	B4i6	N-60°-W	楕 円 形	[1.40]×1.20	18	外傾	平坦	人為		SK247	SK267
247	B4i6	—	不 定 形	2.04×1.80	35	外傾	平坦	人為		SK246,248	SK268
248	B4i6	N-69°-W	楕 円 形	1.45×0.90	32	外傾	平坦	自然		SK247	SK269
252	B4h8	—	円 形	1.90	70	外傾	平坦	人為		SK251,257	SK274
253	B4e4	N-28°-E	楕 円 形	2.35×2.12	50	外傾	平坦	人為		SK196	SK275
254	C4b1	—	円 形	1.10	30	外傾	平坦	人為			SK276
255	B4g9	N-40°-W	楕 円 形	1.96×1.56	34	外傾	平坦	人為			SK277
259	C4c4	—	円 形	2.17	38	外傾	平坦	自然		SK265,274,288	SK281
261	C4e2	—	円 形	1.95	30	外傾	平坦	自然		SK260,263	SK283
262	C4b4	N-47°-W	楕 円 形	2.25×2.00	42	外傾	平坦	自然		SK212,213	SK284
263	C4e2	N-7°-E	楕 円 形	(1.20×1.03)	65	外傾	平坦	自然		SK261	SK285
265	C4d4	N-26°-E	不整楕円形	2.45×(1.85)	33	外傾	平坦	人為		SK259,288,299	SK287
266	C4b2	—	円 形	1.85	43	外傾	平坦	人為		SK244,245	SK288
268	C4f2	N-48°-W	楕 円 形	2.21×(1.00)	30	外傾	平坦	自然		SK269	SK290
271	A4j3	N-50°-E	楕 円 形	1.52×(0.66)	50	外傾	平坦	自然		SK102	SK293
274	B4a4	N-28°-E	不整楕円形	1.75×1.28	23	外傾	平坦	自然			SK296
275	B4a5	—	円 形	0.65	37	外傾	平坦	自然			SK297
276	A4j3	N-83°-E	不整楕円形	1.98×1.68	13	外傾	平坦	人為			SK298
277	B4a3	—	円 形	0.95	41	外傾	平坦	自然		SK278	SK299
281	B4b6	—	円 形	1.62	17	外傾	平坦	自然		SK34,221	SK304

土坑 番号	位 置	長径方向 (長軸方向)	平 面 形	規 模		壁傾	底面	覆土	主 な 遺 物	重 複 関 係 (旧→新)	発掘番号
				長径×短径(m)	深さ(cm)						
283	B4a8	—	円形	2.04	35	外傾	平坦	人為			SK306
284	B4b6	—	円形	1.55	30	外傾	平坦	自然			SK307
285	B4j5	N-45°-E	楕円形	2.40×(0.72)	45	外傾	平坦	人為		SK205,301	SK308
286	B4j5	N-62°-E	不整楕円形	1.82×1.52	47	外傾	平坦	人為		SK287,306	SK309
288	C4d4	—	円形	2.83	40	外傾	平坦	自然		SK243,299	SK311
289	C4d2	[N-10°-E]	不整楕円形	2.52×[1.98]	60	外傾	平坦	不明		SK230,231,297,314	SK312
291	B4a5	—	円形	1.10	35	外傾	平坦	自然			SK314
294	C4f3	N-30°-W	楕円形	1.91×[1.35]	34	外傾	平坦	自然		SK293,300	SK317
296	B4i8	N-8°-E	楕円形	1.43×1.09	53	外傾	平坦	自然			SK319
298	B4g7	N-40°-W	楕円形	1.42×0.97	23	外傾	平坦	自然			SK322
299	C4d4	—	不整楕円形	1.36×1.07	33	緩斜	平坦	人為		SK265,288	SK323
301	C4a5	—	円形	2.00	40	外傾	平坦	人為		SK285	SK325
304	B4g6	N-5°-W	楕円形	1.60×(0.92)	25	外傾	平坦	人為		SK315,363,364	SK329
306	B4i5	[N-55°-E]	楕円形	1.50×(0.60)	40	外傾	平坦	自然		SK286,287	SK331
307	C4f3	N-42°-E	楕円形	1.20×(1.05)	55	外傾	平坦	自然		SK269	SK332
310	C4a6	N-8°-W	楕円形	1.92×[1.70]	25	外傾	平坦	自然		SK311	SK336
311	C4a6	—	円形	1.57	45	直立	平坦	自然		SK310,342,375	SK337
313	C4c4	N-46°-W	不整楕円形	1.76×1.40	30	外傾	平坦	人為		SK258	SK339
317	C4e2	N-57°-E	楕円形	1.78×(0.44)	32	外傾	平坦	自然		SK269	SK342
319	B4f6	—	円形	1.85	50	外傾	平坦	自然		SK303	SK344
320	C4a8	N-46°-E	不整楕円形	2.76×2.50	35	外傾	凹凸	人為		SK321,322,323,352	SK345
323	C4a8	—	円形	1.40	42	外傾	平坦	人為		SK320,322	SK348
324	B4i9	—	円形	1.06	25	外傾	平坦	自然		SI13,15	SK349
328	C4f3	N-9°-E	不整楕円形	1.62×1.33	19	外傾	平坦	自然			SK353
331	B4h9	—	円形	1.51	76	直立	平坦	自然		SK332	SK356
332	B4h9	—	[円形]	[1.11]	36	外傾	凹凸	人為		SK331,333	SK357
333	B4h9	—	[円形]	[1.24]	35	外傾	凹凸	人為		SK257,332	SK358
342	C4a6	—	円形	0.82	23	外傾	平坦	人為		SK175,310,311	SK368
347	B4g0	—	円形	1.72	34	直立	平坦	人為		SK250,370	SK375
348	C4g4	N-71°-E	不整楕円形	1.49×1.23	35	直立	平坦	自然			SK376
349	C4g4	—	円形	1.51	34	外傾	平坦	自然			SK377
350	B4i0	—	円形	1.30	39	外傾	平坦	自然			SK378
351	B4d9	N-55°-E	楕円形	2.38×1.96	58	外傾	平坦	人為		SK 8	SK379
696	G3a1	N-69°-W	楕円形	2.10×1.85	65	外傾	平坦	自然		SK718	SK3017
698	F2j0	N-40°-W	楕円形	1.63×1.45	28	緩斜	平坦	人為			SK3019
702	F2j7	—	円形	2.45	70	外傾	平坦	自然			SK3023
706	F2e0	—	円形	1.75	83	直立	平坦	自然			SK3027
720	F2h4	N-32°-W	楕円形	2.10×1.90	45	外傾	平坦	自然			SK3041
721	F2g4	—	円形	2.00	33	外傾	平坦	自然			SK3042
724	F2e1	—	円形	1.50	62	外傾	平坦	自然			SK3045
726	F2g6	N-2°-W	不整楕円形	2.35×1.73	50	緩斜	平坦	人為			SK3047
728	F2h9	N-50°-W	不整楕円形	2.60×1.98	60	緩斜	丸底	自然			SK3049
731	F2i9	N-23°-W	楕円形	1.90×1.20	47	緩斜	丸底	人為			SK3052
732	F2i3	—	円形	1.52	55	緩斜	平坦	人為			SK3053
734	F2i9	—	円形	1.87	20	緩斜	丸底	人為			SK3055
738	F2i8	—	円形	1.40	100	直立	平坦	自然			SK3059

土坑 番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	主 な 遺 物	重 複 関 係 (旧→新)	発掘番号
				長径×短径(m)	深さ(cm)						
739	F2e7	—	円形	1.30	52	緩斜	平坦	人為		SI74	SK3060
750	F2e4	N-45°-W	楕円形	1.70×1.45	16	緩斜	丸底	人為			SK3076
763	F2j0	—	円形	1.30	58	直立	平坦	自然		SI77	SK3088
817	G3b9	—	円形	1.68	80	緩斜	平坦	人為			SK4057
827	F6g7	N-45°-W	楕円形	1.35×1.08	42	外傾	平坦	自然		SK841	SK5005
829	F6e8	—	円形	1.49	55	外傾	平坦	自然			SK5007
834	F6h8	—	円形	1.74	8	外傾	平坦	自然			SK5012
835	F6e8	N-25°-W	不定形	(1.04)×0.95	44	外傾	丸底	自然		SK829	SK5013
836	G7j4	—	円形	2.50	46	緩斜	平坦	人為		SK837	SK5014
837	G7j4	N-25°-W	楕円形	2.56×2.17	49	緩斜	平坦	人為		SK836	SK5015
841	F6g7	—	[円形]	[1.90×1.87]	17	緩斜	平坦	人為		SK827,SI106	SK5021
878	G6b4	—	[円形]	[0.87]	64	外傾	平坦	自然			SK5072
881	G6g7	—	円形	1.54	49	外傾	平坦	自然		SB 4	SK5076
883	G6e4	—	円形	1.40	50	緩斜	平坦	人為		SI124,P76	SK5078
884	G5a0	N-78°-E	楕円形	1.69×1.42	77	緩斜	平坦	人為		SI127	SK5079
888	G5b0	N-63°-E	不定形	[1.49×0.55]	110	直立	平坦	自然			SK5085
903	G5C0	N-55°-E	不定形	1.27×0.64	72	緩斜	平坦	人為		SD 2	SK5101
904	G5f4	N-45°-E	楕円形	1.15×0.79	62	外傾	丸底	自然		SK913	SK5104
913	G5f4	N-51°-E	楕円形	1.14×0.83	19	緩斜	丸底	人為		SK904	SK5117
938	G5i4	—	円形	1.58	58	外傾	平坦	自然		P70	SK5179

#### 4 遺物包含層

##### 第1号遺物包含層 (第503～515図)

**位置** 調査1区の北東部、A5区に位置する。

**確認状況** 本跡は埋没谷に堆積している遺物包含層である。大部分は調査区域外にあり、南部だけを確認する。本跡の南側にある台地上面には、縄文時代中期の遺構が集中して分布している。

**重複関係** 第1号井戸に掘り込まれていることから本跡が古く、第79号土坑の上面に堆積していることから本跡が新しい。

**規模** 確認できた堆積範囲は、東西44m、南北24mに及んでいる。地表面から基底面までの厚さは1.90mで、包含層の厚さは1.70mである。

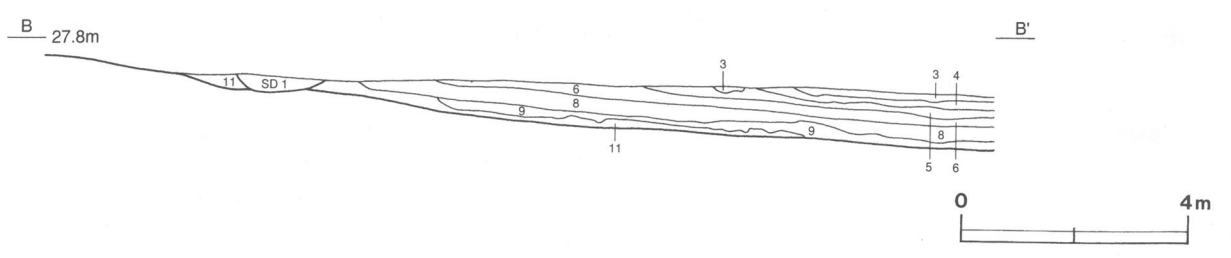
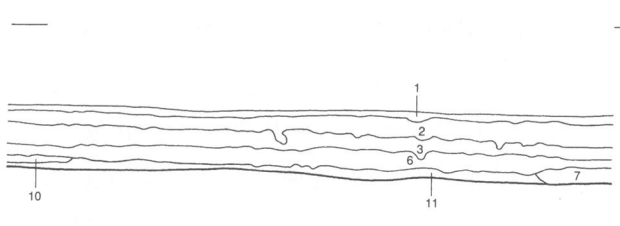
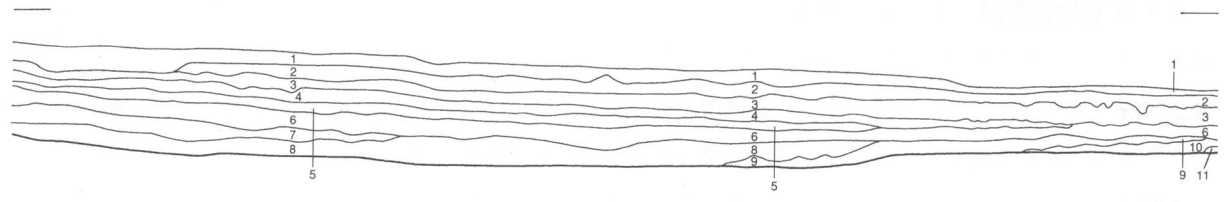
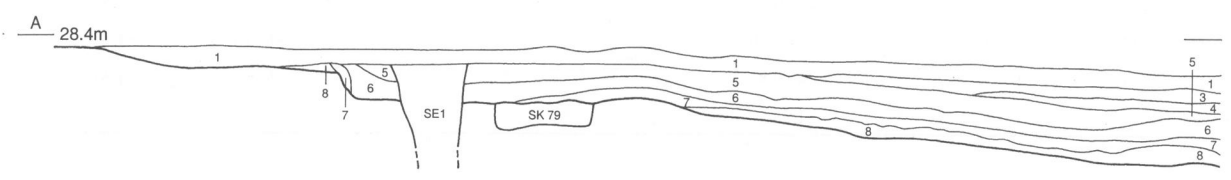
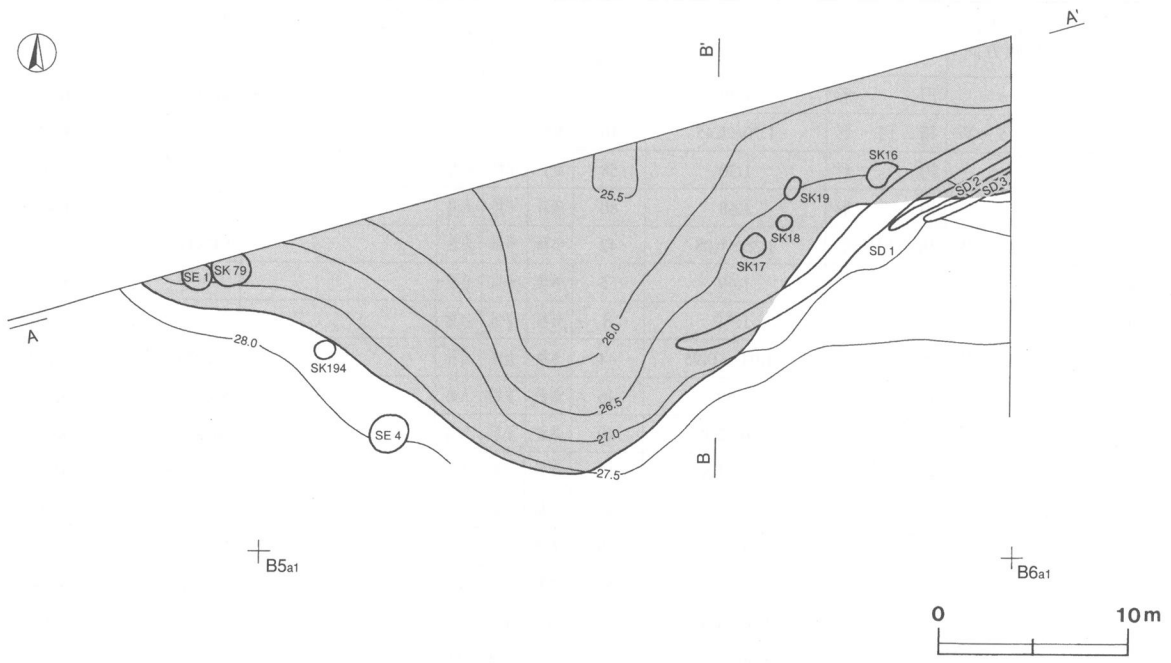
**調査経過** 埋没谷は地形から東に開口することが推定できることから、東西方向の土層観察を調査区域の境で行い、それに直交するように南北方向の土層観察用のベルト5本を設定して調査を開始した。大形の遺物については原位置を記録することに努めた。遺物包含層が堆積していた埋没谷については、基底面において地形測量図を作成した。

**土層** 第1層は表土で、遺物包含層は第2層から第11層までの10層に分層される。埋没谷の最深部に堆積しているのは第8層で、第9～11層は本跡の東部に堆積している。

##### 土層解説

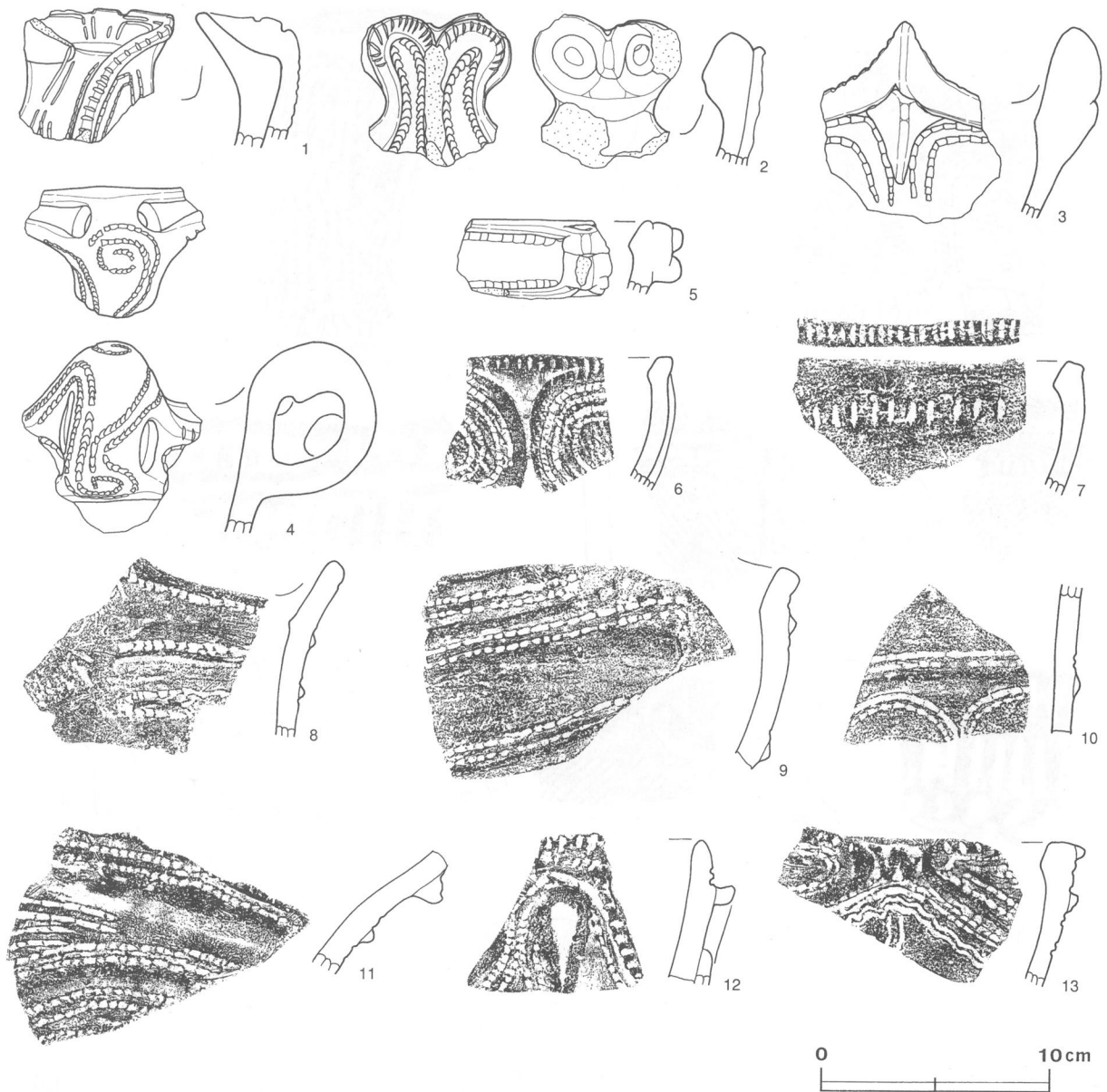
- |       |                     |       |                  |
|-------|---------------------|-------|------------------|
| 2 黒褐色 | ローム粒子微量             | 7 黒褐色 | 炭化物・炭化粒子微量       |
| 3 黒褐色 | ローム粒子微量、第2層より粘性がある。 | 8 褐灰色 | 白色粘土粒子中量、ローム粒子微量 |
| 4 黒色  | ローム粒子微量             | 9 灰褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量     |
| 5 黒褐色 | 炭化粒子微量              | 10 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子微量 |
| 6 黒褐色 | 焼土粒子微量              | 11 褐色 | ローム粒子多量          |



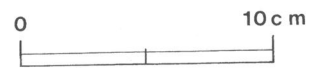
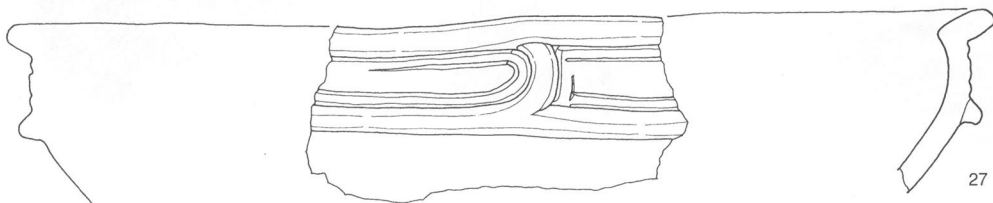
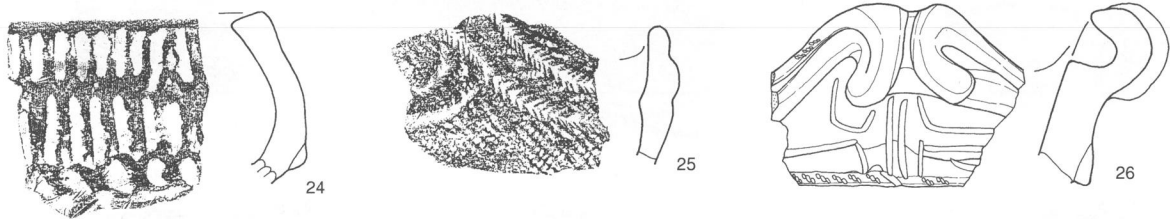
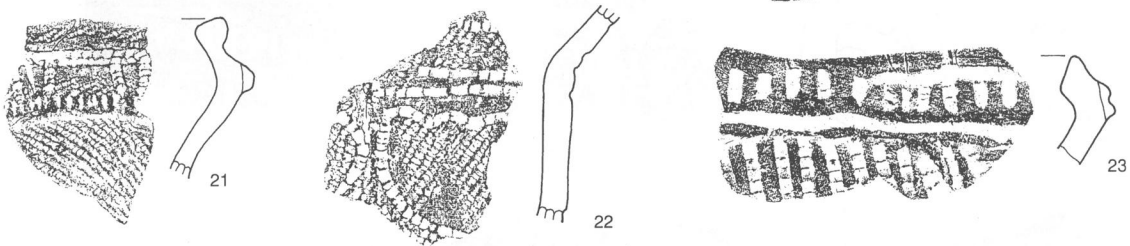
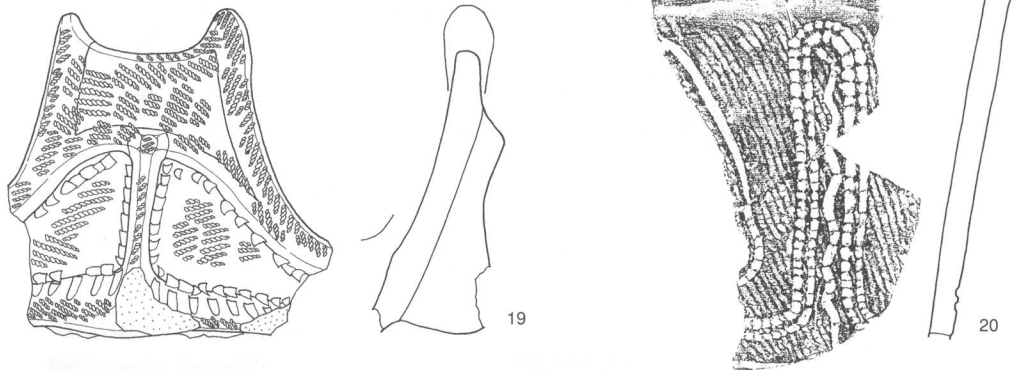
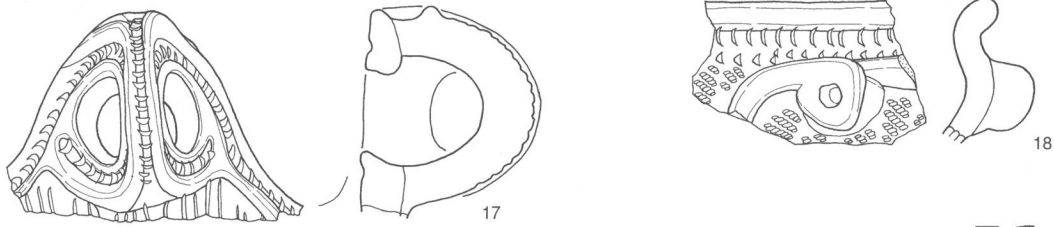
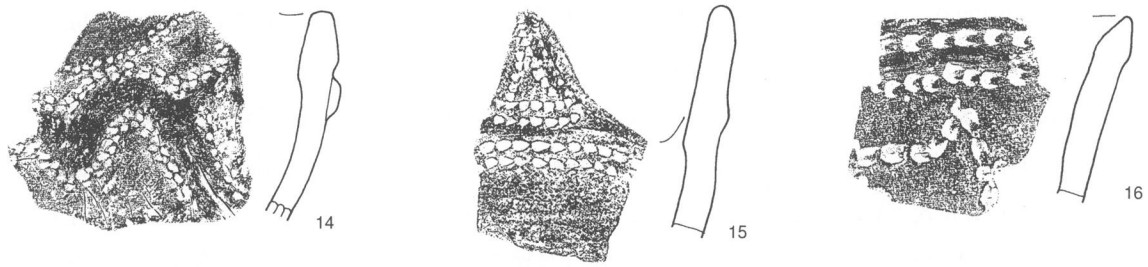


第503図 第1号遺物包含層実測図

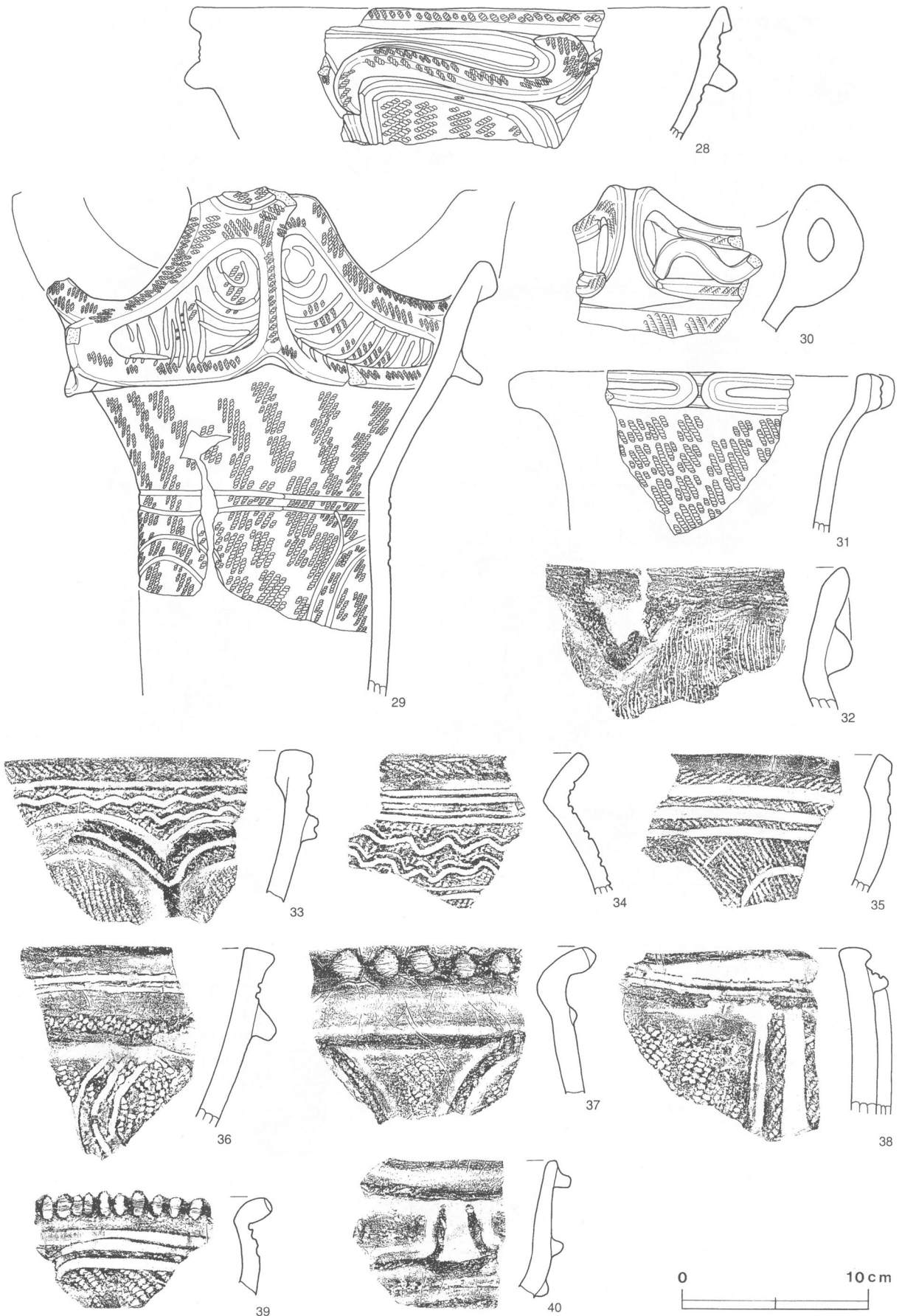
遺物 縄文土器59,422点, 土師器153点, 須恵器71点, 土師質土器62点, 陶器30点, 磁器4点, 土製品44点, 剥片を含む石器347点が出土した。縄文土器については, 前期が2点, 中期59,304点, 後期116点であり, さらに中期の土器は, 阿玉台Ⅱ式土器5,235点, 阿玉台Ⅲ式土器2,195点, 阿玉台Ⅳ式土器7,741点, 中峠式土器18点, 勝坂Ⅲ式土器30点, 大木8a式土器5点, 加曾利EⅠ式土器5,084点, 加曾利EⅡ式土器1,811点, 加曾利EⅢ式土器776点, 加曾利EⅣ式土器776点, 曾利式土器54点, 型式不明土器35,579点に分類される。主体は阿玉台Ⅱ式期から加曾利EⅠ式期までである。これらの遺物の大半は層ごとに取り上げることができなかったため, 原位置を記録した阿玉台Ⅱ式土器から加曾利EⅠ式土器までの主なものの出土状況を時期別に図化(第514・515図)した。平面分布は阿玉台Ⅱ式期と阿玉台Ⅲ式期が本跡の中央部に, 阿玉台Ⅳ式期と加曾利EⅠ式期は本跡の西部に集中している。垂直分布は時期別に異なる傾向はなかったが, 出土遺物の大半は第2～7層から出土している。



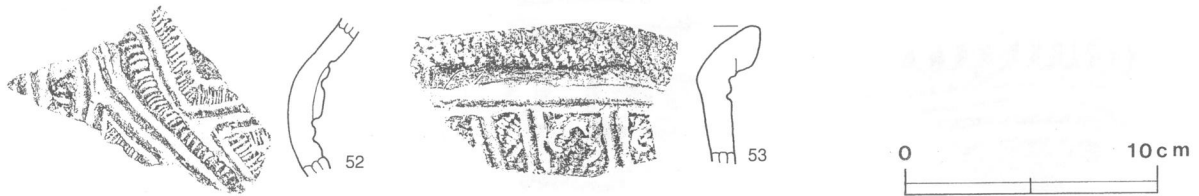
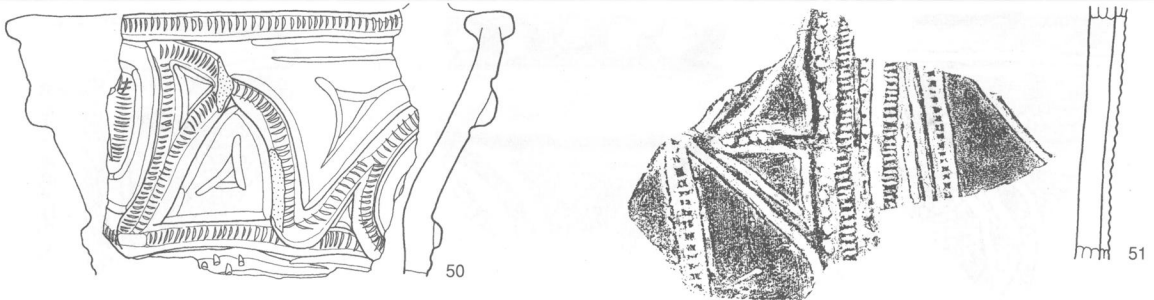
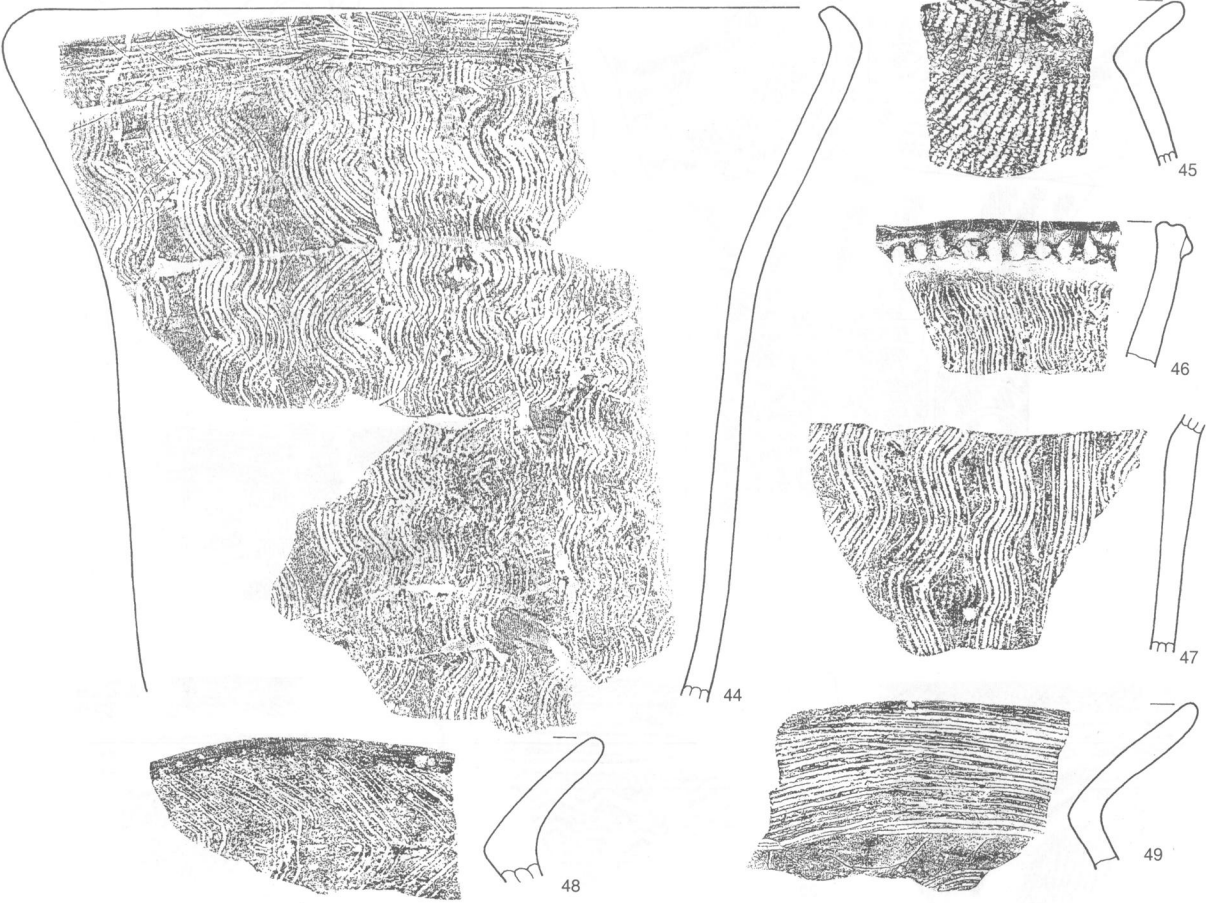
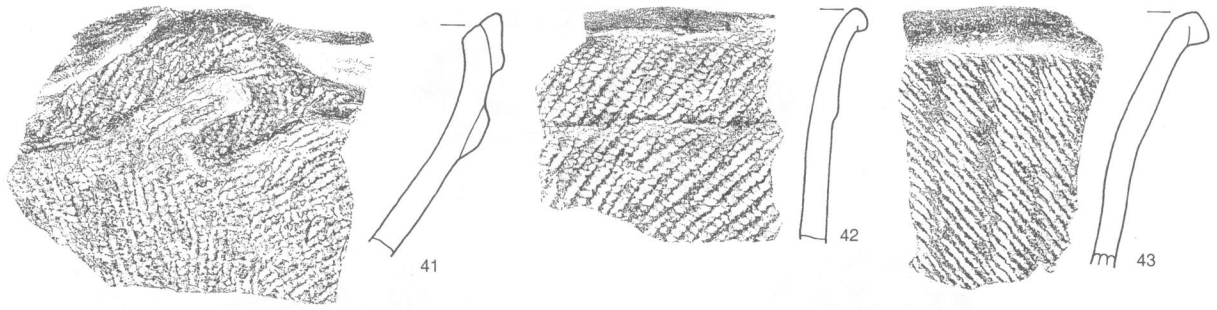
第504図 第1号遺物包含層出土遺物実測図(1)



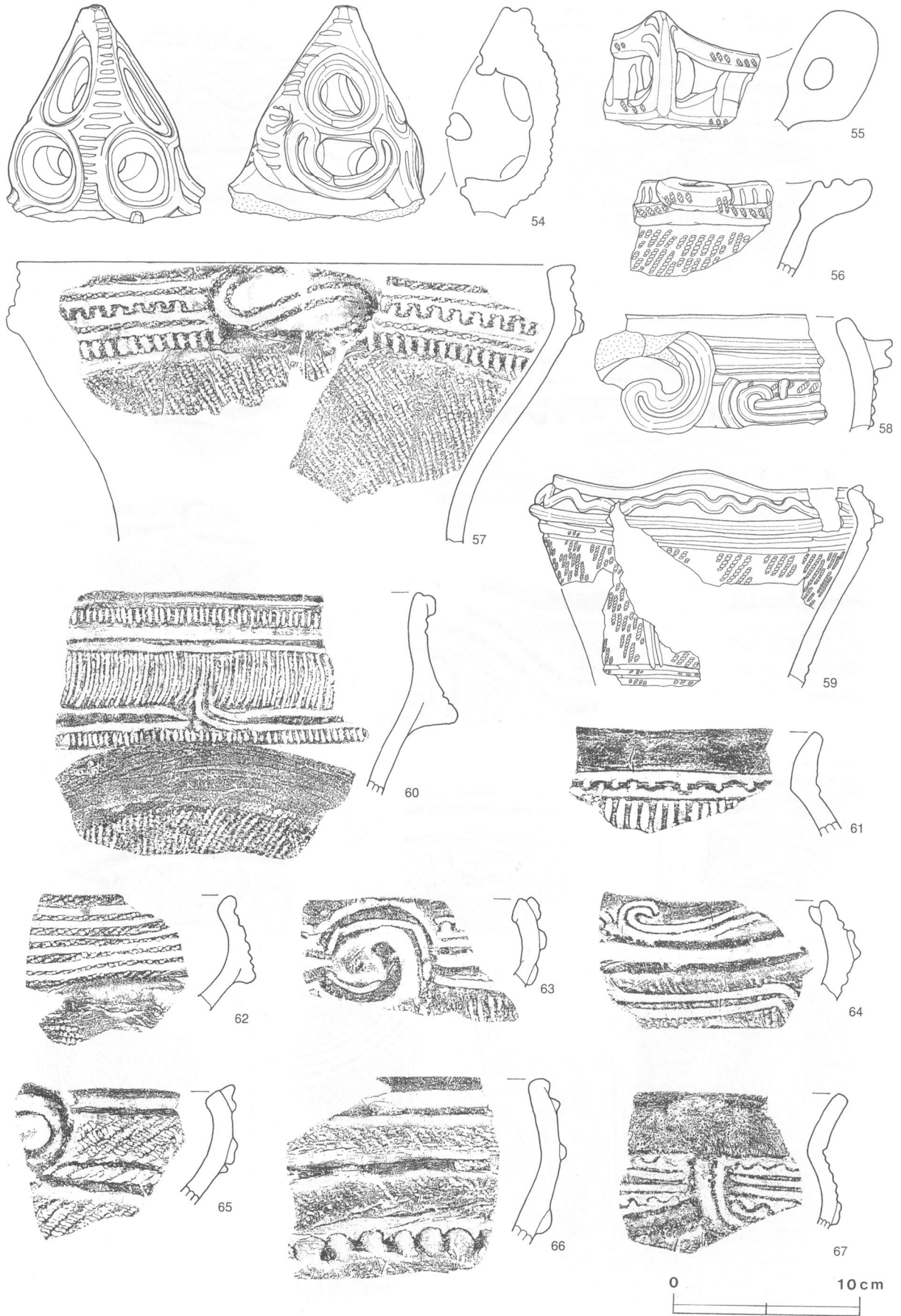
第505图 第1号遺物包含層出土遺物実測図(2)



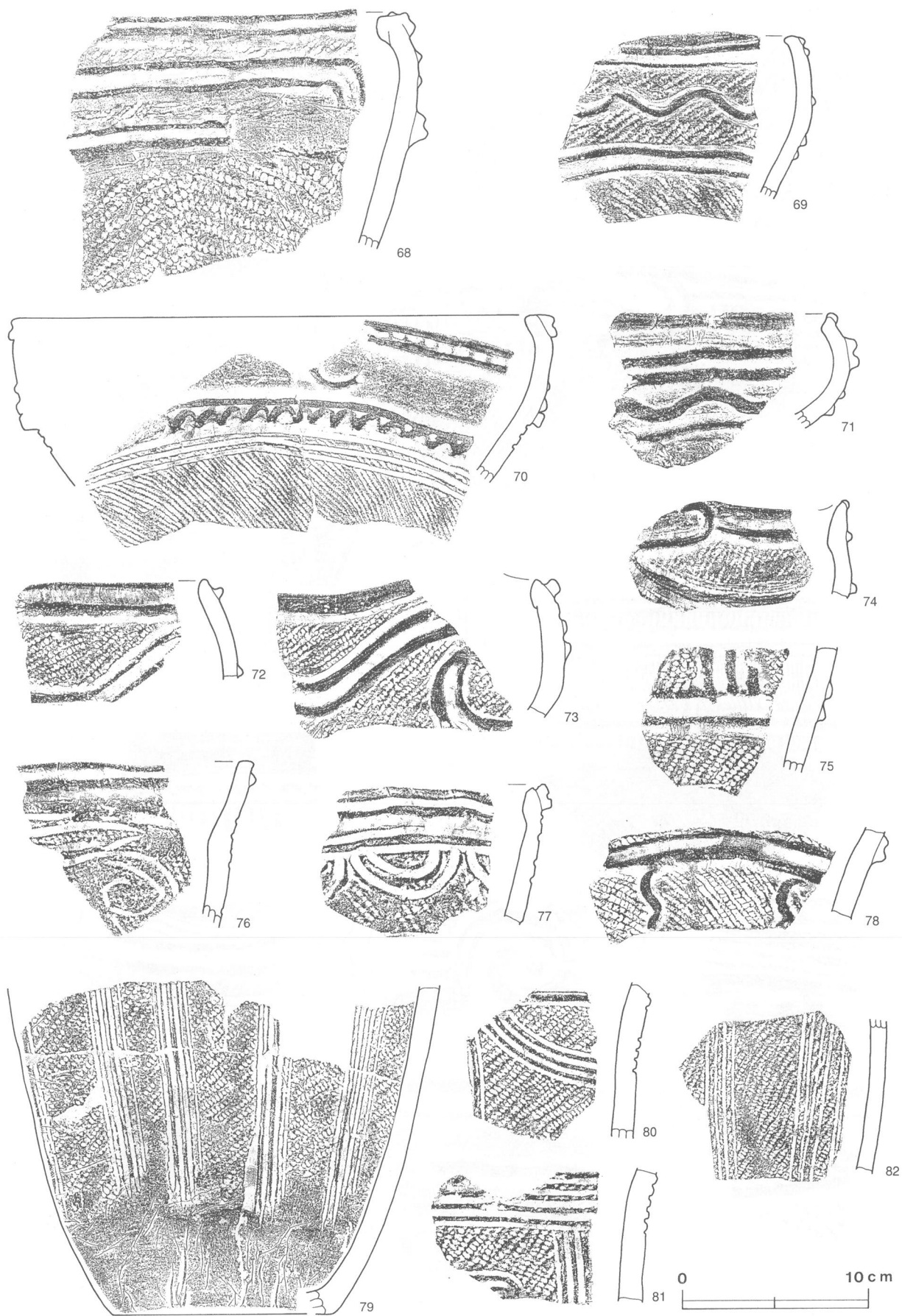
第506图 第1号遺物包含層出土遺物実測图(3)



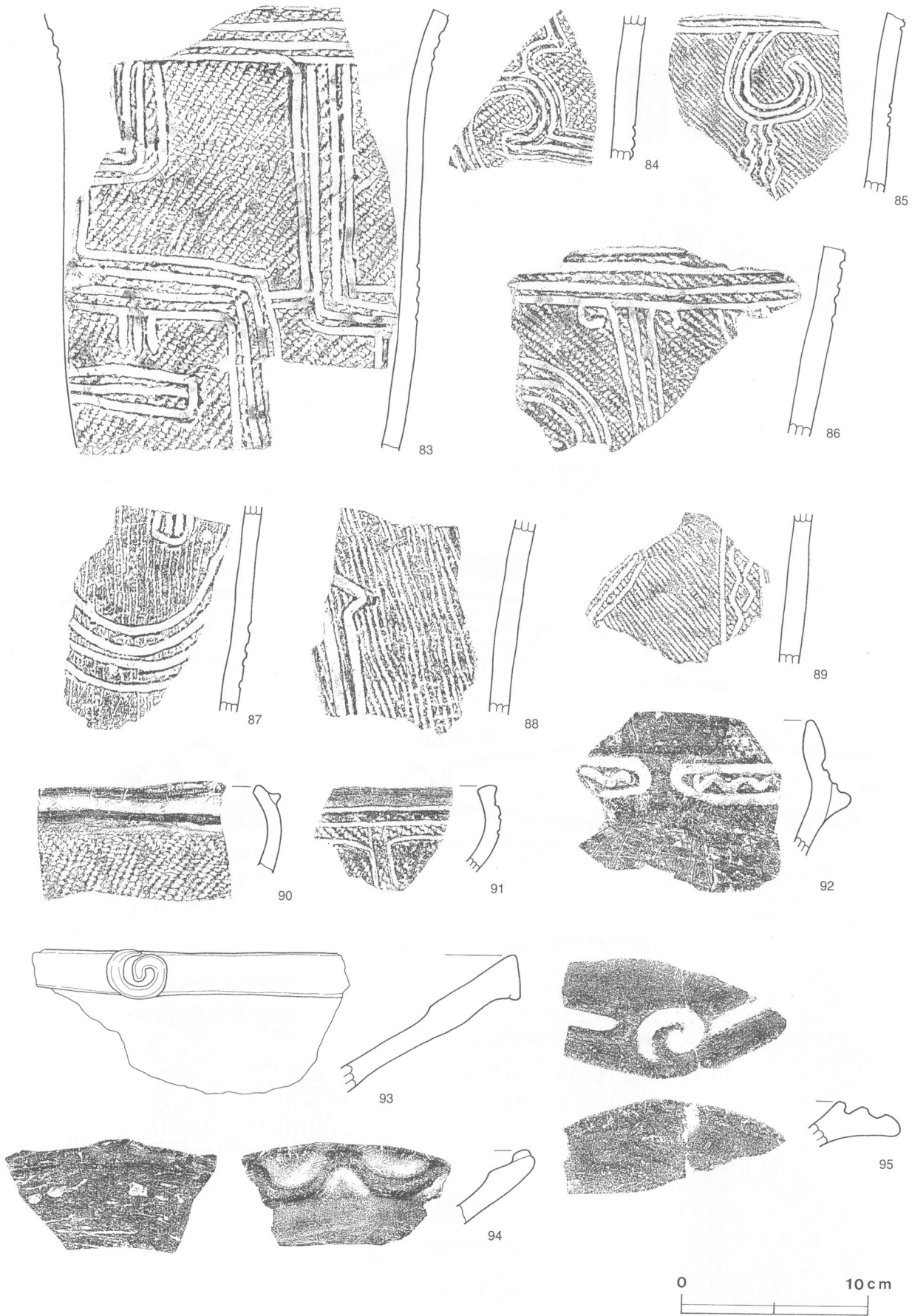
第507图 第1号遺物包含層出土遺物実測图(4)



第508图 第1号遺物包含層出土遺物実測図(5)

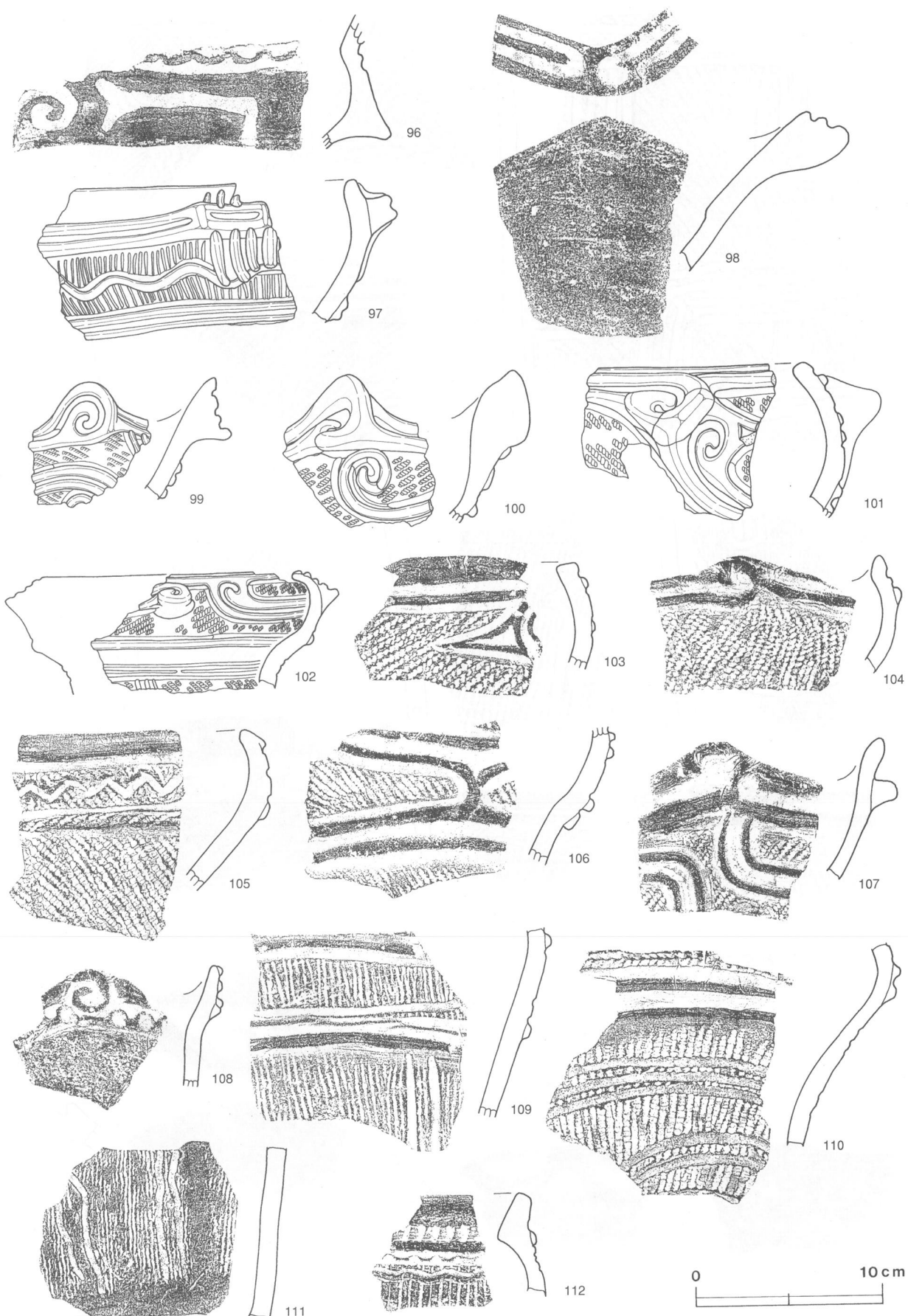


第509图 第1号遺物包含層出土遺物実測図(6)

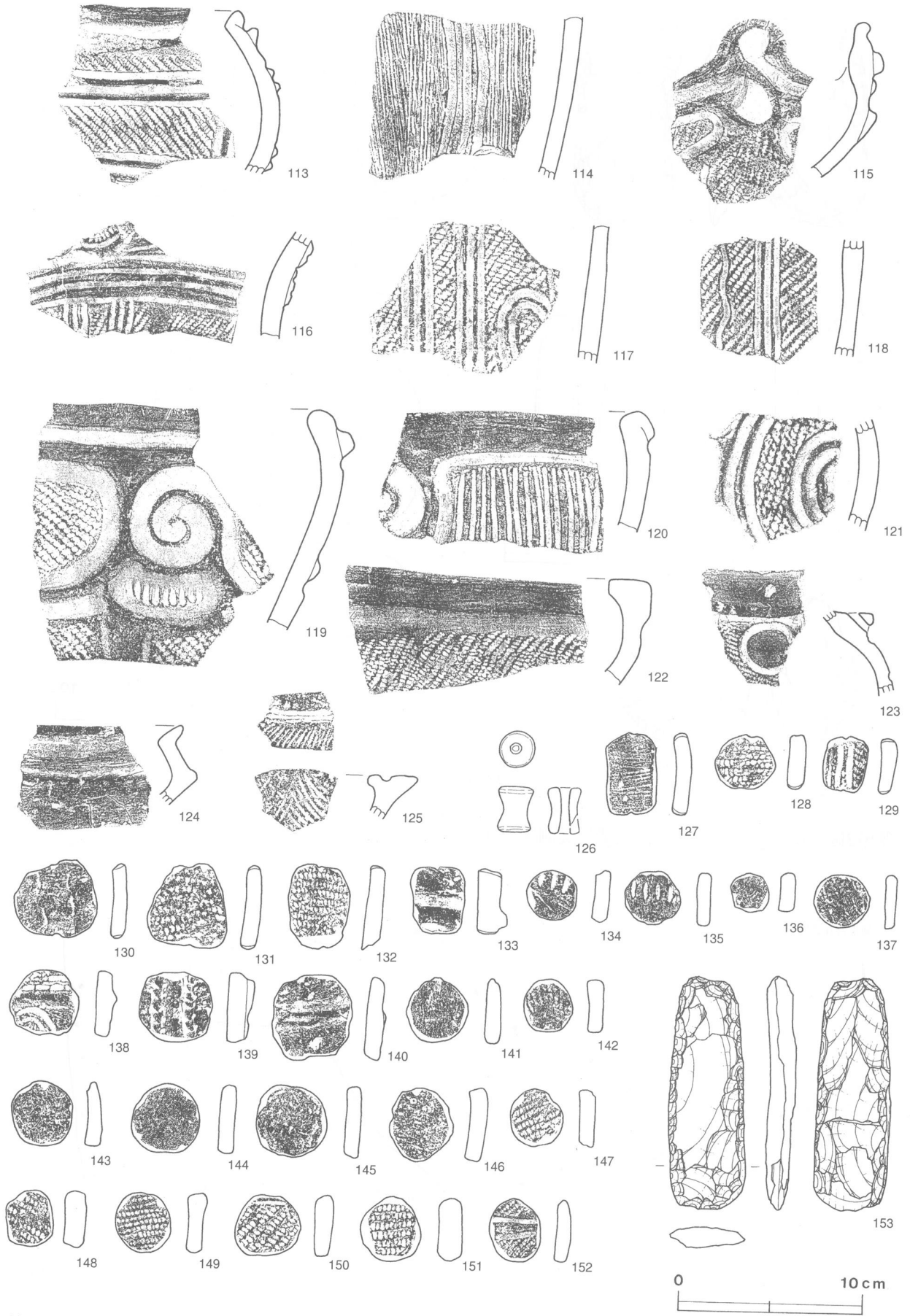


第510图 第1号遺物包含層出土遺物実測图(7)

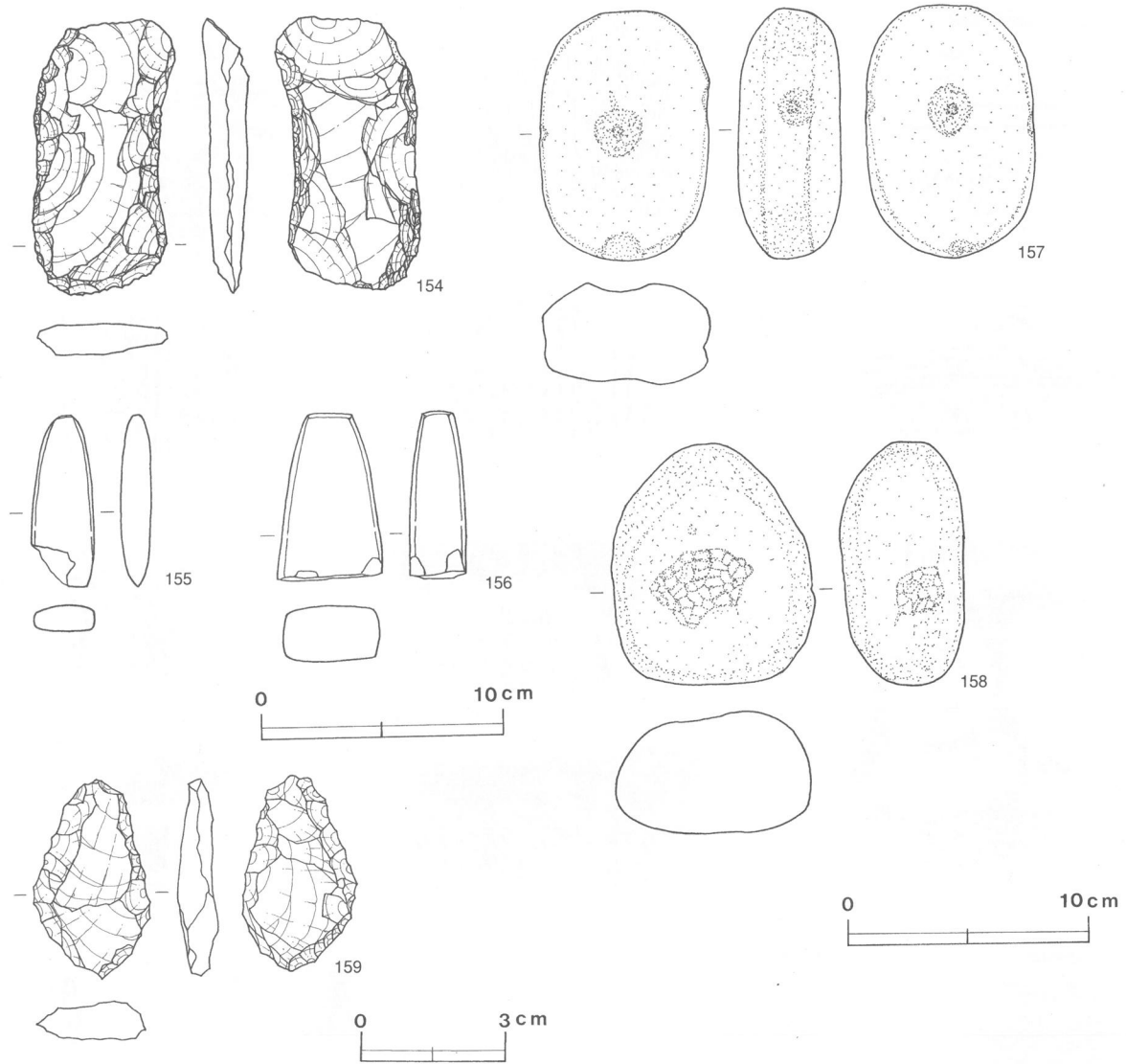




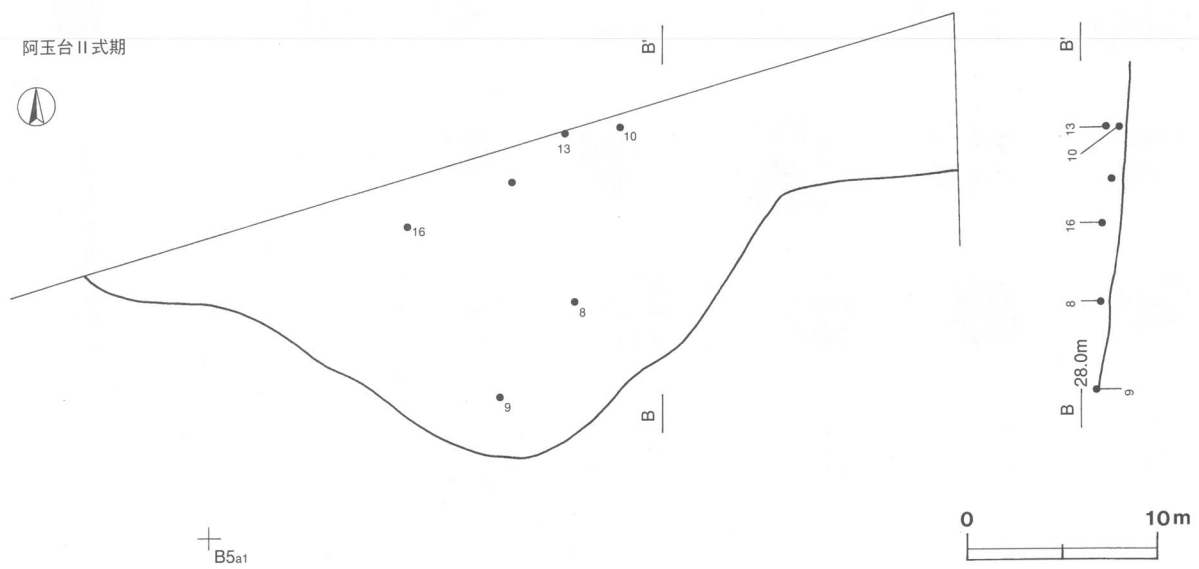
第511图 第1号遺物包含層出土遺物実測図(8)



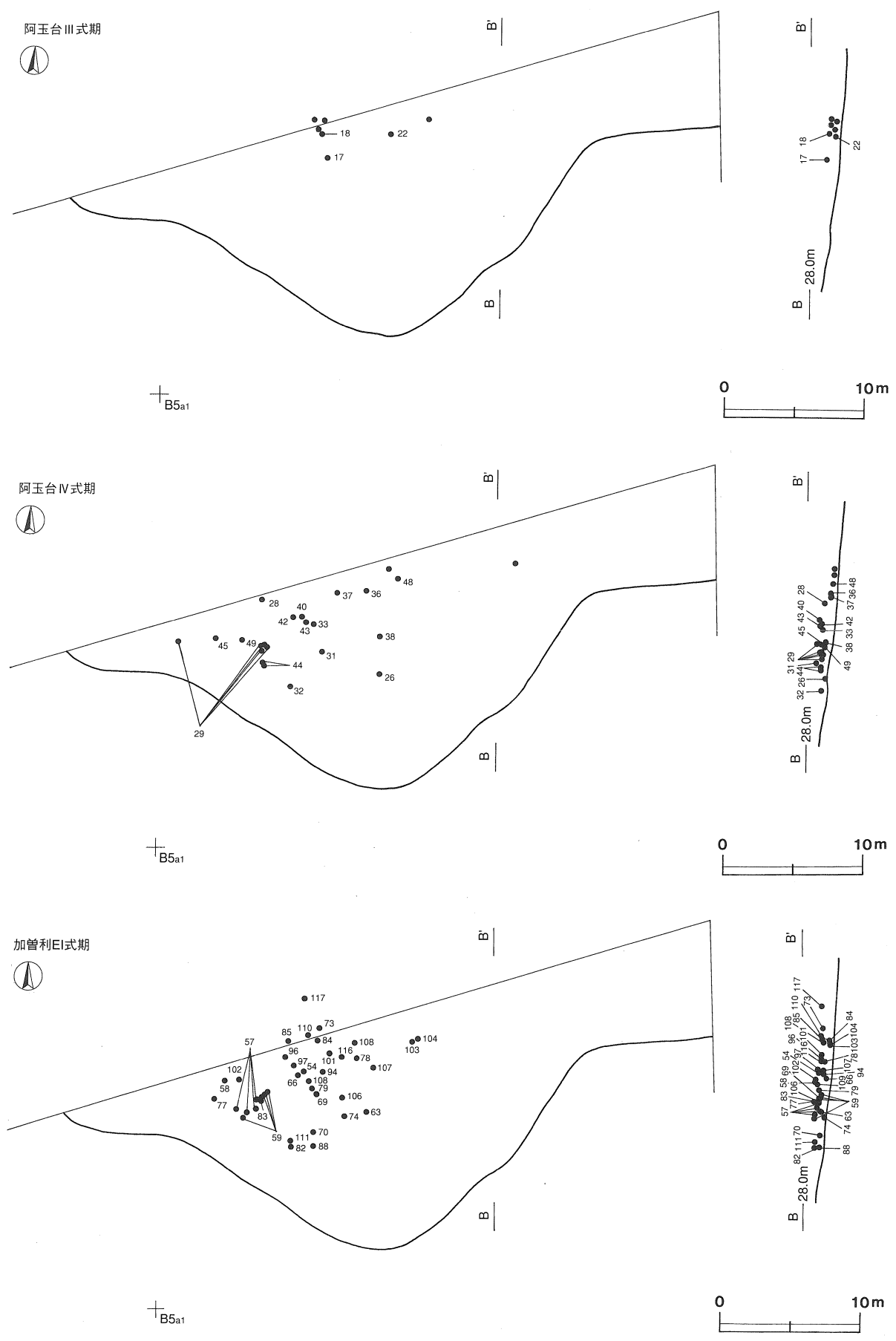
第512図 第1号遺物包含層出土遺物実測図(9)



第513图 第1号遺物包含層出土遺物実測図 (10)



第514图 第1号遺物包含層遺物出土狀況図 (1)



第515图 第1号遺物包含層遺物出土狀況图(2)

所見 第8～11層の堆積時期については、その堆積範囲が阿玉台Ⅱ式期と阿玉台Ⅲ式期の遺物の分布範囲とほぼ一致するものの、阿玉台Ⅳ式期と加曾利EⅠ式期の遺物も出土していることから、それ以降と考えられる。第2～7層については縄文時代中期中葉の加曾利EⅠ式期に比定される第79号土坑上面に堆積しているが、第79号土坑の上部は流出していること、縄文時代以降の遺物を含む遺物の大半が第2～7層から出土していることから、時期は特定できないながらも再堆積層の可能性がある。

第1号遺物包含層出土遺物観察表（第504～第513図）

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
1	深鉢 縄文土器	B(6.2)	大波状口縁を呈する口縁部片。口縁部は直立する。波頂部に扇状の把手を有し、キザミを有する隆帯を垂下させている。隆帯に沿って半截竹管による結節平行沈線文を施している。	長石・石英・雲母 暗赤褐色 普通	P1416 5%
2	深鉢 縄文土器	B(6.8)	大波状口縁を呈する口縁部片。口縁部は直立する。波頂部には内面を向く獣面把手を有する。口縁部にはキザミを有する隆帯で文様を描出し、隆帯に沿ってペン先状工具により結節沈線文を施している。	長石・石英・雲母 暗赤褐色 普通	P1420 5%
3	深鉢 縄文土器	B(8.7)	波状口縁を呈する口縁部片。口縁部はわずかに外傾する。波頂部直下に突起を有し、口唇部外面に隆帯を巡らしている。隆帯に沿って複列の結節沈線文を施している。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P1417 5%
4	深鉢 縄文土器	B(8.7)	橋状の把手を有する口縁部片。口縁部はわずかに外傾する。把手部にはペン先状工具により渦巻状の結節沈線文を施している。口縁部には把手を起点にキザミを有する隆帯を巡らしている。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P1421 5%
5	深鉢 縄文土器	B(3.3)	口縁部片。口縁部はわずかに外傾する。粘土棒を芯とした紐状突起を起点に隆帯による区画文を施している。隆帯に沿って結節沈線文を施している。	長石・石英 にぶい褐色 普通	P1458 5%
6	深鉢 縄文土器	B(5.7)	口縁部片。口縁部は内彎する。口縁部には隆帯による区画文を施し、隆帯に沿って結節平行沈線文を施している。	長石・石英・雲母 黒褐色 普通	T P1318 5%
7	深鉢 縄文土器	B(5.7)	口縁部片。口縁部は内彎する。口唇部にキザミを施し、口縁部にキザミ目列を巡らしている。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	T P1317 5%
8	深鉢 縄文土器	B(7.4)	波状口縁を呈する口縁部片。口縁部は外傾する。口縁部は断面形状が三角形の隆帯を巡らし、隆帯に沿って結節沈線文を施している。	長石・石英・雲母 黒褐色 普通	T P1319 5%
9	深鉢 縄文土器	B(8.7)	波状口縁を呈する口縁部片。口縁部は開きながら内彎する。口縁部は断面形状が三角形の隆帯を巡らし、隆帯に沿って半截竹管による結節平行沈線文を施している。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	T P1320 5%
10	深鉢 縄文土器	B(7.0)	胴部片。胴部は直線的に立ち上がる。胴部は断面形状が三角形の隆帯を巡らし、隆帯に沿って半截竹管による結節平行沈線文を施している。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	T P1321 5%
11	深鉢 縄文土器	B(8.3)	頸部片。頸部は外傾する。頸部は隆帯により文様を描出し、隆帯に沿って半截竹管による結節平行沈線文を施している。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	T P1324 5%
12	深鉢 縄文土器	B(6.4)	大波状口縁を呈する口縁部片。口縁部はわずかに外傾する。口縁部は隆帯により文様を描出し、隆帯に沿って半截竹管による結節平行沈線文を施している。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	T P1322 5%
13	深鉢 縄文土器	B(6.4)	口縁部片。口縁部はわずかに外傾する。口縁部は隆帯により区画文を形成し、区画文間は隆帯による短い波状文で連結している。隆帯に沿って半截竹管による結節平行沈線文を施している。	長石・石英・雲母 黒褐色 普通	T P1323 5%
14	深鉢 縄文土器	B(8.4)	波状口縁を呈する口縁部片。口縁部は開きながら内彎する。口縁部は隆帯により文様を描出し、隆帯に沿って複列の角押文を施している。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	T P1326 5%
15	深鉢 縄文土器	B(9.2)	山形状の把手を有する口縁部片。把手部と口縁部に複列の角押文を施している。	長石・石英・雲母 黒褐色 普通	T P1327 5%
16	深鉢 縄文土器	B(7.4)	口縁部片。口縁部はわずかに外傾する。半截竹管による刺突文を施している。	長石・石英・雲母 黒褐色 普通	T P1328 5%

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
17	深鉢縄文土器	B (8.4)	眼鏡状把手を有する口縁部片。口縁部は直立する。把手の孔に沿って爪形文を施している。口縁部には半截竹管による平行沈線文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P 1424 5%
18	深鉢縄文土器	B (5.7)	口縁部片。口縁部は内彎する。口縁部には環状の突起を有する隆帯により文様を描出している。口唇部直下に爪形文を巡らしている。LRの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P 1425 5%
19	深鉢縄文土器	B (13.0)	双頭の大波状口縁を呈する口縁部片。口縁部には波頂部直下に端部を突出させた隆帯を垂下させて区画文を形成し、隆帯に沿って爪形文を施している。RLの単節縄文を施している。	長石・石英・雲母 灰褐色 普通	P 1423 5%
20	深鉢縄文土器	B (14.7)	口縁部片。口縁部は外傾する。口縁部は半截竹管による結節平行沈線文により文様を描出している。地文はLの無節縄文で縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	T P 1329 5%
21	深鉢縄文土器	B (5.6)	口縁部から頸部にかけての破片。口縁部は開きながら内彎する。口縁部と頸部の境にキザミを有する隆帯を巡らし、口縁部には結節沈線文により文様を描出している。頸部はLRの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい赤褐色 普通	T P 1330 5%
22	深鉢縄文土器	B (5.6)	頸部から胴部にかけての破片。胴部は直線的に立ち上がり、頸部で屈曲する。頸部と胴部の境に結節沈線文を巡らし、胴部は結節沈線文で文様を描出している。地文はRLの単節縄文で縦方向に施している。	長石・石英・雲母 灰褐色 普通	T P 1331 5%
23	深鉢縄文土器	B (4.2)	口縁部片。口縁部は内彎する。口縁部には背に沈線文を有する隆帯により文様を描出し、結節沈線文を連続して縦方向に施している。	長石・石英・雲母 暗赤褐色 普通	T P 1332 5%
24	深鉢縄文土器	B (6.6)	口縁部片。口縁部は内彎する。口縁部と頸部の境には押圧文を有する隆帯を巡らし、沈線文を連続して縦方向に施している。	長石・石英・雲母 黒褐色 普通	T P 1333 5%
25	深鉢縄文土器	B (5.4)	波状口縁を呈する口縁部片。口縁部はわずかに外傾する。口唇部直下にペン先状工具による結節沈線文を巡らしている。地文はLRの単節縄文で、縦方向に施している。	長石・石英・雲母 灰褐色 普通	T P 1334 5%
26	深鉢縄文土器	B (7.2)	双頭の波状口縁を呈する口縁部片。口縁部は外傾する。口唇部外面には双頭の波頂部が炭手状となる隆帯を、口縁部と頸部の境には段となる隆帯を巡らしている。隆帯にRLの単節縄文を横方向に施している。	長石・石英 にぶい黄褐色 普通	P 1439 5%
27	鉢縄文土器	A [38.4] B (6.9)	口縁部片。口縁部は開きながら内彎する。口縁部は隆帯により文様を描出し、隆帯に沿って半截竹管による平行沈線文を施している。	長石・石英・雲母 にぶい赤褐色 普通	P 1427 5%
28	深鉢縄文土器	A [28.0] B (7.3)	口縁部片。口縁部は外傾する。口縁部には隆帯により横S字状文を連続させて巡らし、隆帯に沿って沈線文を施している。RLの単節縄文を口唇部外面には横方向に、それ以下は縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい赤褐色 良好	P 1428 5%
29	深鉢縄文土器	A [22.2] B (23.3)	口縁部の一部及び底部欠損。胴部は直線的に立ち上がり、頸部で外傾して口縁部に至る。3単位の大波状口縁を呈し、波頂部は欠損するが、円盤状の把手を有することが考えられる。口縁部には波頂部直下と波底部直下に端部が突出する隆帯を垂下させて区画文を形成し、沈線による半同心円状の文様を施している。胴部は沈線により文様を描出している。地文はRLの単節縄文で、口縁部は主に横方向に、頸部以下は縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P 1436 60% P L 42
30	深鉢縄文土器	B (8.2)	眼鏡状把手を有する口縁部片。口縁部は内彎する。口縁部には隆帯による波状文を施している。Lの無節縄文を口縁部には横方向に、頸部以下には縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P 1440 5%
31	深鉢縄文土器	A [18.7] B (8.5)	口縁部から頸部にかけての破片。頸部は外反し、口縁部は開きながら内彎する。口縁部には口唇部直下に長楕円形区画文を形成している。頸部以下にはLRの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 黒褐色 普通	P 1431 5%
32	深鉢縄文土器	B (6.8)	口縁部片。口縁部は外反する。口縁部には隆帯によるV字状文を施し、クシ状工具による波状の条線文を施している。	長石・石英・雲母 にぶい赤褐色 普通	T P 1336 5%
33	深鉢縄文土器	B (7.9)	口縁部片。口縁部はわずかに外傾する。口縁部には背に沈線文を有する隆帯により波状文を巡らしている。隆帯に沿って沈線文を施している。地文はRLの単節縄文で主に横方向に施している。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	T P 1335 5%
34	深鉢縄文土器	B (7.6)	口縁部から胴部にかけての破片。胴部は内彎し、口縁部は短く外傾する。半截竹管による波状の平行沈線文を巡らしている。地文はRLの単節縄文で口唇部外面は横方向に、それ以下は縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	T P 1337 5%
35	深鉢縄文土器	B (7.4)	口縁部片。口縁部はわずかに内彎する。口唇部直下に沈線文を巡らしている。地文はLの無節縄文で口唇部外面は横方向に、それ以下は縦方向に施している。	長石・石英・雲母 黒褐色 普通	T P 1341 5%

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
36	深鉢 縄文土器	B (9.6)	口縁部片。口縁部は外傾する。口縁部には隆帯を巡らし、隆帯に沿って半截竹管による平行沈線文を施している。頸部には沈線により文様を描出している。地文はRLの単節縄文で、頸部には斜方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 良好	TP1338 5%
37	深鉢 縄文土器	B (7.7)	口縁部から胴部にかけての破片。胴部は内彎し、口縁部は短く外傾する。口唇部外面には押圧文を施し、口縁部は隆帯により文様を描出している。LRの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい赤褐色 良好	TP1339 5%
38	深鉢 縄文土器	B (7.3)	口縁部片。口縁部はわずかに内彎する。口唇部直下に隆帯文を巡らし、口縁部には隆帯文を懸垂させている。隆帯に沿って半截竹管による平行沈線文を施している。RLの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	TP1340 5%
39	深鉢 縄文土器	B (5.3)	口縁部から胴部にかけての破片。胴部は内彎し、口縁部は短く外傾する。口唇部外面には押圧文を施し、口縁部は沈線により文様を描出している。地文はLRの単節縄文で縦方向に施している。	長石・石英・針状鉱物 にぶい褐色 普通	TP1342 5%
40	深鉢 縄文土器	B (7.4)	口縁部片。口縁部はわずかに外傾する。口縁部は隆帯で文様を描出している。Lの無節縄文を横方向に施している。	長石・石英・雲母 赤褐色 普通	TP1344 5%
41	深鉢 縄文土器	B (10.4)	口縁部片。口縁部は開きながら内彎する。口縁部には隆帯により横S字状文を施し、隆帯により連結している。LRの単節縄文を隆帯には横方向に、頸部以下には縦方向に施している。	長石・石英・雲母 灰褐色 普通	TP1345 5%
42	深鉢 縄文土器	B (9.3)	口縁部片。口縁部はわずかに外傾する。口唇部外面は肥厚し、口縁部に段を有する。RLの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 暗褐色 普通	TP1346 5%
43	深鉢 縄文土器	B (10.0)	口縁部片。口縁部は外反する。口唇部外面に隆帯を巡らしている。Lの無節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 黒褐色 普通	TP1348 5%
44	深鉢 縄文土器	A [31.5] B (27.5)	口縁部から胴部にかけての破片。胴部は直線的に立ち上がり、頸部で外傾し、口縁部はわずかに内彎する。クシ状工具による波状の条線文を口唇部外面は横方向に、それ以下は縦方向に施している。	長石・石英・雲母 灰褐色 普通	P1437 20%
45	深鉢 縄文土器	B (6.3)	口縁部から胴部にかけての破片。胴部は内彎し、口縁部は短く外傾する。RLの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	TP1347 5%
46	深鉢 縄文土器	B (5.8)	口縁部片。口縁部はわずかに外傾する。口唇部外面には押圧文を有する隆帯を巡らしている。クシ状工具による波状の条線文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 黒褐色 普通	TP1343 5%
47	深鉢 縄文土器	B (8.8)	胴部片。胴部は直線的に立ち上がる。クシ状工具による波状の条線文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 黒褐色 普通	TP1351 5%
48	甕 縄文土器	B (5.6)	口縁部から頸部にかけての破片。頸部で屈曲し、口縁部は外傾する。クシ状工具による波状の条線文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	TP1350 5%
49	甕 縄文土器	B (6.3)	口縁部から頸部にかけての破片。頸部で屈曲し、口縁部は外傾する。クシ状工具による条線文を横方向に施している。	長石・石英・雲母 黒褐色 普通	TP1349 5%
50	深鉢 縄文土器	A [20.0] B (10.3)	口縁部片。口縁部と胴部の境に交互刺突による連続コの字状文とキザミを有する隆帯を巡らし、口縁部はキザミを有する隆帯により区画文を形成している。区画文内には沈線による三叉文を施している。	長石・石英・雲母 灰黄褐色 普通	P1335 5%
51	深鉢 縄文土器	B (9.3)	胴部片。胴部は直立する。キザミを有する隆帯を懸垂させて縦位に分割し、沈線間にキザミや刺突文を有する文様で描出している。	長石・石英・雲母 灰褐色 普通	TP1354 5%
52	深鉢 縄文土器	B (6.2)	頸部から胴部にかけての破片。頸部と胴部の境で屈曲し、頸部は外反する。キザミを有する隆帯により区画文を形成し、隆帯に沿って半截竹管による平行沈線文を施している。	長石・石英・雲母 にぶい赤褐色 普通	TP1352 5%
53	深鉢 縄文土器	B (5.4)	口縁部片。口縁部は直立し、口唇部は肥厚して外傾する。口縁部には半截竹管による平行沈線文により文様を描出している。	長石・石英・雲母 にぶい赤褐色 普通	TP1353 5%
54	深鉢 縄文土器	B (11.6)	眼鏡状の把手部片。眼鏡状の孔は二段となり、表面には4か所、裏面には2か所の孔を有する。孔に沿って沈線文を巡らしている。	長石・石英・雲母 灰褐色 普通	P1442 5%

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
55	深鉢縄文土器	B (6.4)	眼鏡状把手を有する口縁部片。口縁部はわずかに外傾する。口縁部には沈線文を縦方向に施している。R Lの単節縄文を横方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P 1443 5%
56	深鉢縄文土器	B (5.2)	口縁部片。口縁部は外傾する。口唇部直下に隆帯を巡らし、縦位の沈線文を連続して施している。口唇部には隆帯により渦巻文を施している。R Lの単節縄文を隆帯には横方向に、それ以下には縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P 1445 5%
57	深鉢縄文土器	A [28.2] B (15.0)	口縁部から頸部にかけての破片。頸部は外傾し、口縁部は内彎する。口縁部と頸部の境に背に沈線とキザミを有する隆帯を巡らしている。口縁部には背に沈線を有する隆帯により横S字状文を施し、その間には交互刺突による連続コの字状文を巡らしている。地文はL Rの単節縄文で、口縁部には横方向に、頸部以下には縦方向に施している。	長石・石英 にぶい褐色 普通	P 1446 20% P L 42
58	深鉢縄文土器	B (6.5)	口縁部片。口縁部は内彎する。口唇部直下に背に沈線を有する隆帯を巡らし、背に沈線を有する隆帯で渦巻文を施している。口縁部には細い隆帯により文様を描出している。地文はL Rの単節縄文で、縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P 1447 5%
59	深鉢縄文土器	A 15.5 B (11.5)	口縁部から頸部にかけての破片。頸部は外傾し、口縁部は内彎する。口縁部と頸部の境に隆帯を巡らし、口縁部には隆帯による波状文を巡らしている。頸部には2条一組の沈線により文様を描出している。地文はR Lの単節縄文で、縦方向に施している。	長石・石英・雲母 灰褐色 普通	P 1448 30% P L 42
60	深鉢縄文土器	B (10.8)	口縁部から頸部にかけての破片。頸部は外傾し、口縁部は内彎する。口縁部と頸部の境にはキザミを有する突出した隆帯を巡らし、口縁部には半截竹管による平行沈線文を縦方向に連続させて施している。頸部以下にはR Lの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	T P 1355 5%
61	深鉢縄文土器	B (5.2)	口縁部片。口縁部は内彎し、口縁端部は短く外傾する。口唇部直下には交互刺突による連続コの字状文を巡らし、口縁部には沈線文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 褐色 普通	T P 1359 5%
62	深鉢縄文土器	B (6.0)	口縁部片。口縁部は内彎する。口縁部と頸部の境には突出した隆帯を巡らし、口縁部には沈線文を巡らしている。地文はL Rの単節縄文で、口縁部は横方向に、頸部以下は縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい黄橙色 普通	T P 1356 5%
63	深鉢縄文土器	B (5.0)	口縁部片。口縁部は内彎する。口縁部と頸部の境には背に沈線を有する隆帯を巡らしている。口縁部には背に沈線を有する隆帯により渦巻文を施し、交互刺突による連続コの字状文を施している。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	T P 1358 5%
64	深鉢縄文土器	B (5.6)	口縁部片。口縁部は内彎する。口縁部には2本一組の隆帯を巡らし、半截竹管による平行沈線文により文様を描出している。地文はLの無節縄文で、縦方向に施している。	長石・石英・雲母 明褐色 普通	T P 1361 5%
65	深鉢縄文土器	B (6.4)	口縁部片。口縁部は内彎する。口縁部と頸部の境には背に沈線を有する隆帯を巡らし、口縁部には背に沈線を有する隆帯により渦巻文を施している。R Lの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 黒褐色 普通	T P 1357 5%
66	深鉢縄文土器	B (9.3)	口縁部片。口縁部は内彎する。口縁部と頸部の境には押圧文を有する隆帯を巡らし、口縁部には隆帯文を巡らしている。地文はLの単節縄文で、縦方向に施している。	長石・石英・雲母 橙色 普通	T P 1363 5%
67	深鉢縄文土器	B (7.2)	口縁部片。口縁部は内彎し、口縁端部は短く外傾する。口縁部は背に沈線を有する隆帯により文様を描出し、交互刺突による連続コの字状文を施している。	長石・石英・雲母 にぶい赤褐色 普通	T P 1360 5%
68	深鉢縄文土器	B (12.8)	口縁部から頸部にかけての破片。頸部は外傾し、口縁部は内彎する。口縁部と頸部の境には背に沈線を有する隆帯を巡らし、口縁部には2本一組の隆帯により文様を描出している。R Lの単節縄文を口縁部には縦方向に、頸部では一部横方向に施している。	長石・石英 にぶい橙色 普通	T P 1362 5%
69	深鉢縄文土器	B (8.7)	口縁部から頸部にかけての破片。頸部は外傾し、口縁部は内彎する。口縁部と頸部の境には2本一組の隆帯を巡らし、口縁部には隆帯による波状文を巡らしている。地文はR Lの単節縄文で、口縁部には横方向に、頸部には縦方向に施している。	長石・石英・雲母 黒褐色 普通	T P 1366 5%
70	深鉢縄文土器	A [27.4] B (9.0)	口縁部から頸部にかけての破片。頸部は外傾し、口縁部は内彎する。口縁部と頸部の境には背に沈線と下端に押圧文を有する隆帯を巡らし、口縁部には剥落しているが、隆帯による波状文を巡らしている。頸部の地文はLの無節縄文で、縦方向に施している。	長石・石英・雲母 黒褐色 普通	T P 1364 10%
71	深鉢縄文土器	B (6.1)	口縁部片。口縁部は内彎する。口縁部と頸部の境には隆帯を巡らし、沈線を有する隆帯文と波状の隆帯文を巡らしている。	長石・石英・雲母 灰褐色 普通	T P 1365 10%



図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
72	深鉢 縄文土器	B (5.4)	口縁部片。口縁部は内彎する。口縁部は2本一組の隆帯により文様を描出している。地文はRLの単節縄文で、縦方向に施している。	長石・石英・雲母 黒褐色 普通	T P 1367 5%
73	深鉢 縄文土器	B (7.4)	口縁部片。口縁部は内彎する。口縁部は2本一組の隆帯により文様を描出している。地文はRLの単節縄文で、縦方向に施している。	長石・石英・雲母 灰褐色 普通	T P 1369 5%
74	深鉢 縄文土器	B (5.3)	小波状口縁を呈する口縁部片。口縁部はわずかに内彎する。口縁部には波頂部を起点に細い隆帯により文様を描出している。地文はLの単節縄文で、横方向に施している。	長石・石英・雲母 灰褐色 普通	T P 1368 5%
75	深鉢 縄文土器	B (6.6)	頸部片。頸部は外傾する。口縁部と頸部の境には2本一組の隆帯を巡らしている。地文はRLの単節縄文で、縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	T P 1372 5%
76	深鉢 縄文土器	B (9.0)	口縁部から胴部にかけての破片。胴部は直線的に立ち上がり、口縁部は外傾する。口唇部直下に隆帯を巡らし、口縁部から頸部にかけては沈線により文様を描出している。地文はLRの単節縄文で、縦方向に施している。	長石・石英 橙色 普通	T P 1371 5%
77	深鉢 縄文土器	B (7.5)	口縁部片。口縁部はわずかに外傾する。口唇部外面に背に沈線を有する隆帯を巡らし、口縁部には沈線により文様を描出している。地文はLRの単節縄文で、縦方向に施している。	長石・石英・雲母・針状鉱物 灰褐色 普通	T P 1370 5%
78	深鉢 縄文土器	B (4.6)	頸部片。頸部は外傾する。口縁部と頸部の境には背に沈線を有する隆帯を巡らし、頸部以下には波状の隆帯文を懸垂させている。地文はLRの単節縄文で、縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい赤褐色 普通	T P 1373 5%
79	深鉢 縄文土器	B (17.6) C [11.8]	胴部から底部にかけての破片。胴部は直線的に立ち上がる。半截竹管による平行沈線文で懸垂文を施している。地文はRLの単節縄文で、縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P 1450 15%
80	深鉢 縄文土器	B (8.7)	胴部片。胴部は外反する。半截竹管による平行沈線文により文様を描出している。地文はRLの単節縄文で、縦方向に施している。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	T P 1375 5%
81	深鉢 縄文土器	B (7.2)	胴部片。胴部は外反する。半截竹管による平行沈線文により文様を描出している。地文はRLの単節縄文で、縦方向に施している。	長石・石英・雲母 橙色 普通	T P 1374 5%
82	深鉢 縄文土器	B (8.6)	胴部片。胴部は直線的に立ち上がる。半截竹管による平行沈線文で懸垂文を施している。地文はRLの単節縄文で、縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	T P 1377 5%
83	深鉢 縄文土器	B (23.5)	胴部片。胴部は直線的に立ち上がる。4条一組の直線的な沈線文により文様を描出している。地文はRLの単節縄文で、縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P 1449 10%
84	深鉢 縄文土器	B (8.0)	胴部片。胴部は直線的に立ち上がる。半截竹管による曲線的な平行沈線文により文様を描出している。地文はRLの単節縄文で、縦方向に施している。	長石・石英・雲母 橙色 普通	T P 1376 5%
85	深鉢 縄文土器	B (9.8)	胴部片。胴部は直線的に立ち上がる。3条一組の沈線文により文様を描出している。地文はLRの単節縄文で、縦方向に施している。	長石・石英・雲母 褐灰色 普通	T P 1378 5%
86	深鉢 縄文土器	B (9.9)	胴部片。胴部は直線的に立ち上がる。3条一組の沈線文により文様を描出している。地文はLRの単節縄文で、縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	T P 1380 5%
87	深鉢 縄文土器	B (11.2)	胴部片。胴部は直線的に立ち上がる。4条一組の沈線文により曲線的な文様を描出している。地文は撚糸文である。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	T P 1381 5%
88	深鉢 縄文土器	B (10.3)	胴部片。胴部は直線的に立ち上がる。沈線文により文様を描出している。地文は撚糸文で、縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい赤褐色 普通	T P 1382 5%
89	深鉢 縄文土器	B (8.1)	胴部片。胴部は直線的に立ち上がる。沈線文により文様を描出している。地文はLの無節縄文で、縦方向に施している。	長石・石英・雲母 橙色 普通	T P 1379 5%
90	深鉢 縄文土器	B (4.7)	口縁部片。口縁部は内彎する。口唇部直下に隆帯を巡らしている。RLの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	T P 1383 5%

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
91	深鉢 縄文土器	B (4.7)	口縁部片。口縁部は内彎する。沈線文により文様を描出している。地文はRLの単節縄文で、横方向に施している。	長石・石英 赤褐色 普通	T P 1384 5%
92	鉢 縄文土器	B (7.4)	口縁部から頸部にかけての破片。頸部は外傾し、口縁部は内彎する。口縁部と頸部の境に鋸状の隆帯を巡らし、口縁部には沈線による区画文を施している。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	T P 1385 5%
93	浅鉢 縄文土器	B (7.5)	口縁部から胴部にかけての破片。胴部は緩やかに立ち上がり、口縁部に至る。口唇部は角頭状で、口唇部に隆帯による渦巻文を施している。無文。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P 1434 5%
94	浅鉢 縄文土器	B (5.0)	口縁部片。口縁部は緩やかに外傾する。内面に隆帯による波状文を巡らしている。無文。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	T P 1388 5% 口唇部及び内面赤彩
95	深鉢 縄文土器	B (2.5)	小波状口縁を呈する口縁部片。口縁部は緩やかに外傾する。波頂部直下の内面には沈線による渦巻文を施している。	長石・石英・雲母 にぶい赤褐色 普通	T P 1387 5%
96	鉢 縄文土器	B (7.3)	口縁部付近から頸部にかけての破片。頸部は外傾し、口縁部と頸部の境で屈曲して、口縁部は内傾する。口縁部には沈線により文様を描出している。	長石・石英・雲母 にぶい赤褐色 普通	T P 1386 5%
97	深鉢 縄文土器	B (8.1)	口縁部片。口縁部は内彎する。口唇部直下及び口縁部と頸部の境に沈線を有する隆帯を巡らしている。口縁部には隆帯による波状文を巡らし、条線文を縦方向に充填している。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P 1451 5%
98	浅鉢 縄文土器	B (6.0)	小波状口縁を呈する口縁部片。口縁部は緩やかに外傾する。波頂部直下の内面には沈線による渦巻文を施している。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	T P 1413 5%
99	深鉢 縄文土器	B (6.8)	小波状口縁を呈する口縁部片。口縁部は外傾する。波頂部直下には沈線に沿う隆帯により渦巻文を施している。口縁部には2本一組の隆帯により文様を描出している。地文はLの無節縄文で、縦方向に施している。	長石・石英・雲母 灰褐色 普通	P 1453 5%
100	深鉢 縄文土器	B (8.6)	小波状口縁を呈する口縁部片。口縁部は内彎する。波頂部直下には沈線に沿う隆帯により渦巻文を施している。口縁部には隆帯により文様を描出している。地文はRLの単節縄文で、縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P 1454 5%
101	深鉢 縄文土器	B (8.3)	口縁部片。口縁部は内彎する。相対する隆帯による渦巻文を起点に、2本一組の隆帯により文様を描出している。地文はRLの単節縄文で、横方向に施している。	長石・石英 にぶい橙色 普通	P 1455 5%
102	深鉢 縄文土器	A [13.8] B (6.4)	口縁部から胴部にかけての破片。胴部は直線的に立ち上がり、頸部で外傾し、口縁部は内彎する。口縁部には端部を渦巻文とする2本一組の隆帯により文様を描出している。頸部は無文である。地文はLRの単節縄文で、口縁部は横方向に、胴部は縦方向に施している。	長石・石英・雲母 赤褐色 普通	P 1456 10%
103	深鉢 縄文土器	B (5.6)	口縁部片。口縁部は内彎する。口縁部には沈線に沿う隆帯により文様を描出している。地文はLRLの複節縄文で、横方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	T P 1390 5%
104	深鉢 縄文土器	B (6.4)	小波状口縁を呈する口縁部片。口縁部は内彎する。波頂部直下には沈線に沿う隆帯により渦巻文を施している。RLの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	T P 1392 5%
105	深鉢 縄文土器	B (8.6)	口縁部から頸部にかけての破片。頸部は外傾し、口縁部は内彎する。口縁部と頸部の境に隆帯を巡らし、口縁部には沈線による鋸歯状文を巡らしている。地文はLRの単節縄文で、縦方向に施している。	長石・石英・雲母 灰褐色 普通	T P 1389 5%
106	深鉢 縄文土器	B (7.3)	口縁部から頸部にかけての破片。頸部は外傾し、口縁部は内彎する。口縁部と頸部の境に2本一組の隆帯を巡らし、口縁部は沈線に沿う隆帯により文様を描出している。地文はLRの単節縄文で、縦方向に施している。	長石・石英・雲母 灰褐色 普通	T P 1394 5%
107	深鉢 縄文土器	B (7.3)	小波状口縁を呈する口縁部片。口縁部は内彎する。波頂部直下には沈線に沿う隆帯により渦巻文を施している。口縁部には2本一組の隆帯により文様を描出している。地文はLRの単節縄文で、横方向に施している。	長石・石英 橙色 普通	T P 1391 5%
108	深鉢 縄文土器	B (6.7)	小波状口縁を呈する口縁部から胴部にかけての破片。胴部は直立し、口縁部は外傾する。波頂部直下には隆帯による渦巻文を施し、口縁部と頸部の境には押圧文を有する隆帯を巡らしている。胴部は無文である。	長石・石英 にぶい褐色 普通	T P 1393 5%
109	深鉢 縄文土器	B (10.7)	口縁部付近から頸部にかけての破片。頸部は外傾し、口縁部はわずかに内彎する。口縁部と頸部の境に隆帯を巡らし、頸部以下には2本一組の沈線文を懸垂させている。地文は撚糸文である。	長石・石英・雲母 褐灰色 普通	T P 1395 5%

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
110	深鉢縄文土器	B (11.0)	口縁部付近から頸部にかけての破片。頸部は外反し、口縁部は内彎する。口縁部と頸部の境に2本一組の隆帯を巡らし、頸部には沈線により文様を描出している。地文はRLの単節縄文で、斜方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	TP1396 5%
111	深鉢縄文土器	B (9.3)	胴部片。胴部は直線的に立ち上がる。2条一組の沈線文を懸垂させている。地文は撚糸文で、縦方向に施している。	長石・石英 にぶい橙色 普通	TP1398 5%
112	深鉢縄文土器	B (5.6)	口縁部片。口縁部は内彎し、内面に稜を有する。口唇部直下に隆帯を巡らし、その上部に半截竹管による刺突文を施している。口縁部は半截竹管による平行沈線文により文様を描出している。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	TP1400 5%
113	深鉢縄文土器	B (8.8)	口縁部片。口縁部は内彎する。口縁部には2本一組の隆帯により文様を描出している。地文はLRの単節縄文で、横方向に施している。	長石・石英・雲母 黒褐色 普通	TP1399 5%
114	深鉢縄文土器	B (8.8)	胴部片。胴部は直線的に立ち上がる。胴部には3条一組の沈線文を懸垂させている。地文は櫛歯状工具による条線文で、縦方向に施している。	長石・石英・雲母 黒褐色 普通	TP1404 5%
115	深鉢縄文土器	B (8.5)	波状口縁を呈する口縁部片。口縁部は内彎する。波頂部直下には沈線に沿う隆帯により渦巻文を上下二段に施し、口縁部には沈線に沿う隆帯により区画文を施している。地文はRLの単節縄文で、縦方向に施している。	長石・石英・雲母 黒褐色 普通	TP1405 5%
116	深鉢縄文土器	B (5.8)	頸部から胴部にかけての破片。頸部は外反する。頸部と胴部の境に沈線を有する隆帯を巡らしている。胴部には3本一組の沈線文を懸垂させている。地文はRLの単節縄文で、縦方向に施している。	長石・石英・雲母 黒褐色 普通	TP1401 5%
117	深鉢縄文土器	B (7.4)	胴部片。胴部は直線的に立ち上がる。胴部には3条一組の沈線文により文様を描出している。地文はRLの単節縄文で、縦方向に施している。	長石・石英・雲母 灰褐色 普通	TP1403 5%
118	深鉢縄文土器	B (6.3)	胴部片。胴部は直線的に立ち上がる。胴部には3条一組の沈線文を懸垂させている。地文はRLの単節縄文で、縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	TP1402 5%
119	深鉢縄文土器	B (12.2)	口縁部から頸部にかけての破片。頸部は外傾し、口縁部は内彎する。口縁部には沈線に沿う隆帯により渦巻文と区画文を施している。頸部以下には懸垂する沈線文間を磨り消している。地文はLRの単節縄文で、縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	TP1406 5%
120	深鉢縄文土器	B (6.6)	口縁部片。口縁部は内彎する。口縁部には沈線に沿う隆帯により渦巻文と区画文を施し、区画文内には沈線文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 黒褐色 普通	TP1407 5%
121	深鉢縄文土器	B (6.2)	胴部片。胴部は内彎する。胴部には2本一組の沈線文により文様を描出している。地文はLRLの複節縄文で、横方向に施している。	長石・石英 橙色 普通	TP1409 5%
122	深鉢縄文土器	B (5.8)	口縁部片。口縁部は内彎する。口唇部は角頭状で、内面が肥厚する。口唇部直下に浅い沈線文を巡らしている。RLの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい赤褐色 普通	TP1408 5%
123	有孔罎付土器縄文土器	B (4.8)	胴部片。胴部は内彎する。口縁部と胴部の境に孔を有する罎状の隆帯を巡らし、胴部は沈線により文様を描出している。地文はLRの単節縄文で、縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	TP1410 5%
124	鉢縄文土器	B (4.5)	口縁部から胴部にかけての破片。胴部は外傾し、口縁部は内傾して、口縁端部は外反する。無文。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	TP1411 5% 外面赤彩
125	深鉢縄文土器	B (2.7)	口縁部片。口縁部は外傾する。口唇部は平坦で、口唇部内面は罎状に突出する。口唇部に沈線を巡らし、口縁部は半截竹管による平行沈線文により文様を描出している。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	TP1412 5%

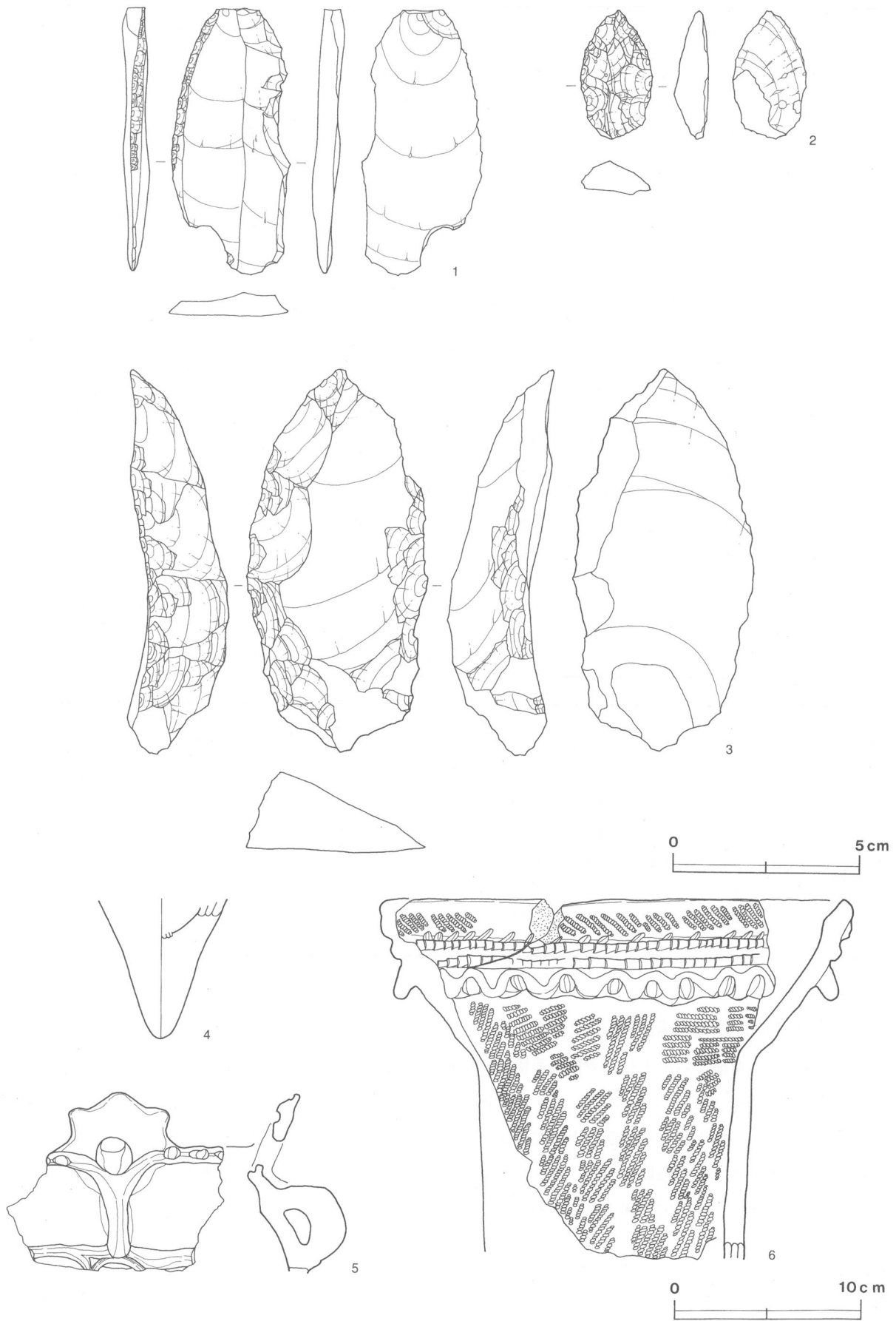
図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
126	耳飾り	2.5	1.8	1.8	(7.4)	土製	滑車形。中央部がせん孔されている。無文。	DP1005
127	土器片錘	4.5	2.9	0.9	16.4	土製	長軸両端に抉り入り部を作出。条線文。	DP1008
128	土器片錘	2.9	3.3	0.9	10.9	土製	1か所に抉り入り部を作出。LRの単節縄文。	DP1009
129	土器片錘	2.9	2.4	0.9	8.6	土製	長軸両端に抉り入り部を作出。LRの単節縄文。	DP1011
130	土器片錘	4.1	4.5	0.8	20.5	土製	短軸両端に抉り入り部を作出。無文。	DP1006

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
131	土器片錘	4.4	4.3	1.1	28.2	土製	短軸両端に抉り入り部を作出。R Lの単節縄文。	D P 1007
132	土器片錘	4.6	3.3	0.9	19.5	土製	長軸両端に抉り入り部を作出。R Lの単節縄文。	D P 1010
133	土器片錘	3.6	3.0	1.7	21.0	土製	長軸両端に抉り入り部を作出。隆帯文。	D P 1012
134	土器片円盤	2.7	2.7	0.9	9.1	土製	キザミ目列。	D P 1013
135	土器片円盤	2.9	3.0	0.7	9.3	土製	キザミ目列。	D P 1014
136	土器片円盤	2.1	2.0	0.9	4.8	土製	無文。	D P 1018
137	土器片円盤	3.4	3.0	0.7	7.1	土製	無文。	D P 1019
138	土器片円盤	3.6	3.7	1.2	17.1	土製	隆帯文。半截竹管による平行沈線文。	D P 1015
139	土器片円盤	3.7	3.9	1.4	19.0	土製	隆帯文に沿った爪形文。	D P 1016
140	土器片円盤	4.6	4.3	1.2	23.6	土製	隆帯文。	D P 1017
141	土器片円盤	3.5	3.3	0.9	12.3	土製	無文。	D P 1020
142	土器片円盤	2.8	2.7	0.9	8.0	土製	Lの無節縄文。	D P 1025
143	土器片円盤	3.5	3.2	0.8	11.7	土製	無文。	D P 1021
144	土器片円盤	3.7	3.7	0.9	18.1	土製	無文。	D P 1022
145	土器片円盤	3.9	3.7	0.8	16.1	土製	無文。	D P 1023
146	土器片円盤	4.0	3.5	0.9	16.7	土製	無文。	D P 1024
147	土器片円盤	3.1	2.7	0.8	8.7	土製	L Rの単節縄文。	D P 1026
148	土器片円盤	3.0	2.5	1.2	10.2	土製	R Lの単節縄文。	D P 1027
149	土器片円盤	3.2	3.0	1.0	11.6	土製	R Lの単節縄文。	D P 1028
150	土器片円盤	3.0	3.5	1.0	14.0	土製	R Lの単節縄文。	D P 1029
151	土器片円盤	3.5	3.3	1.3	17.3	土製	L Rの単節縄文。	D P 1030
152	土器片円盤	3.3	2.3	0.8	7.9	土製	L Rの単節縄文。	D P 1031

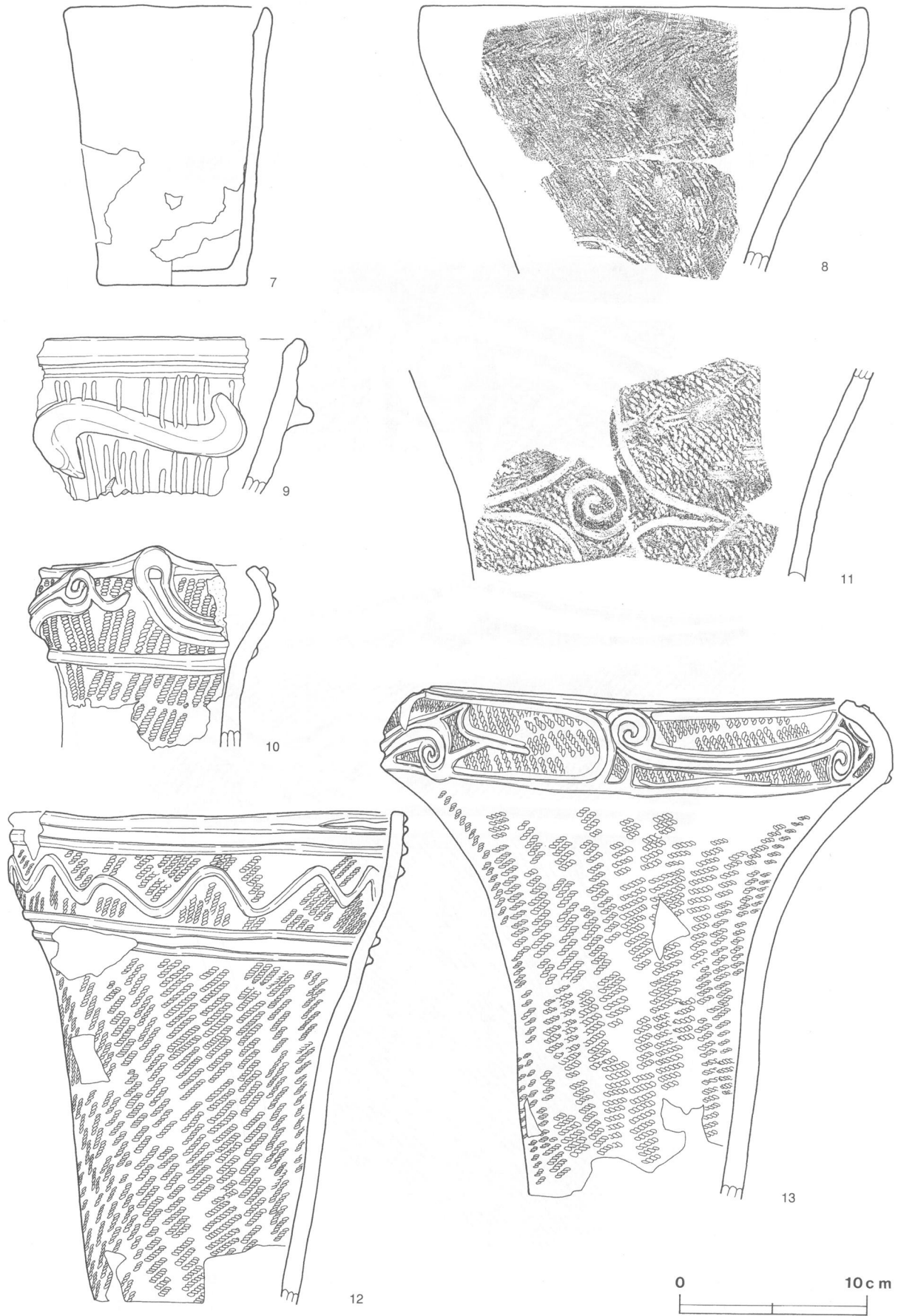
図版番号	器種	計測値				石質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
153	磨製石斧	12.6	4.1	1.7	117.5	粘板岩	短冊形。刃部のみを研磨により作出。	Q 1022
154	打製石斧	11.3	5.7	1.7	131.4	凝灰岩	短冊形。基部にタール付着。	Q 1023
155	磨製石斧	7.0	2.6	1.3	(35.5)	蛇文岩	定角式。刃部の一部欠損。	Q 1024
156	磨製石斧	(6.9)	4.6	2.4	(122.3)	緑色凝灰岩	定角式。刃部欠損。	Q 1025
157	磨石	10.2	6.9	4.3	499.9	安山岩	自然礫を素材。凹石兼用。	Q 1027
158	凹石	10.0	8.4	5.1	630.6	安山岩	自然礫を素材。	Q 1026
159	石鏃未製品	4.1	2.4	0.8	7.8	チャート	剥片を素材。基部が鈍角。	Q 1028

## 5 遺構外出土遺物（第516～527図）

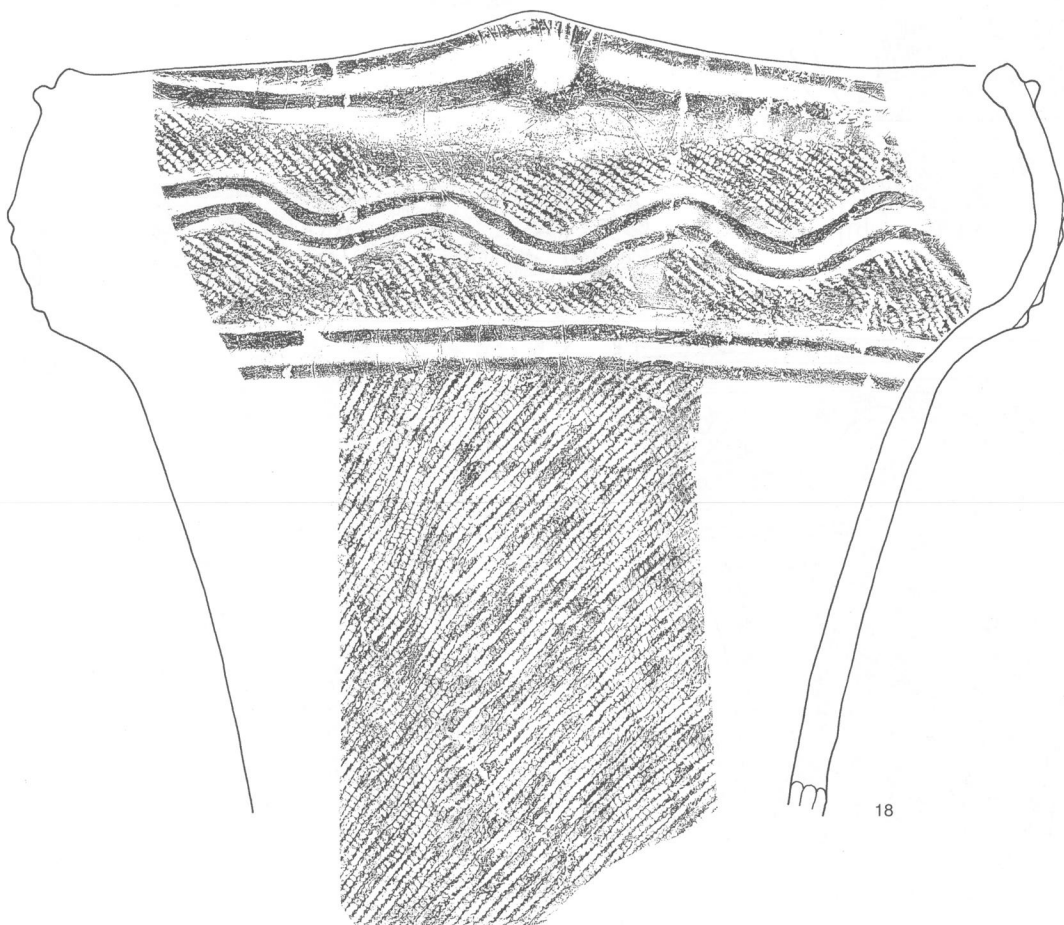
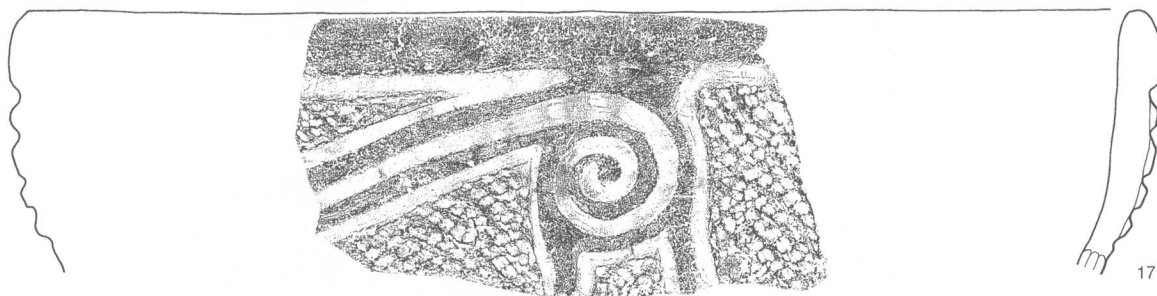
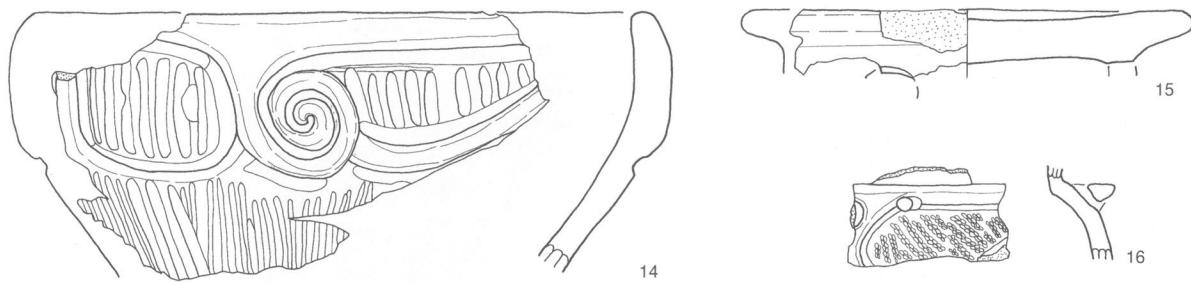
表土と他時期の遺構から出土した多量の遺構外出土遺物の内、旧石器時代から縄文時代に属し、完形に近いものを抽出して掲載（第516～527図）した。1は旧石器時代の削器、2は旧石器時代終末期の尖頭器、3は旧石器時代終末期から縄文時代草創期にかけての尖頭搔器である。4は縄文時代早期の土器、5～27は縄文時代中期の土器、28は縄文時代後期の土器、29～37は縄文時代中期の土製品、38～92は縄文時代の石器、93は縄文時代草創期の尖頭器、94・95は縄文時代の石製品である。解説は一覧表で示した。



第516図 遺構外出土遺物実測図(1)

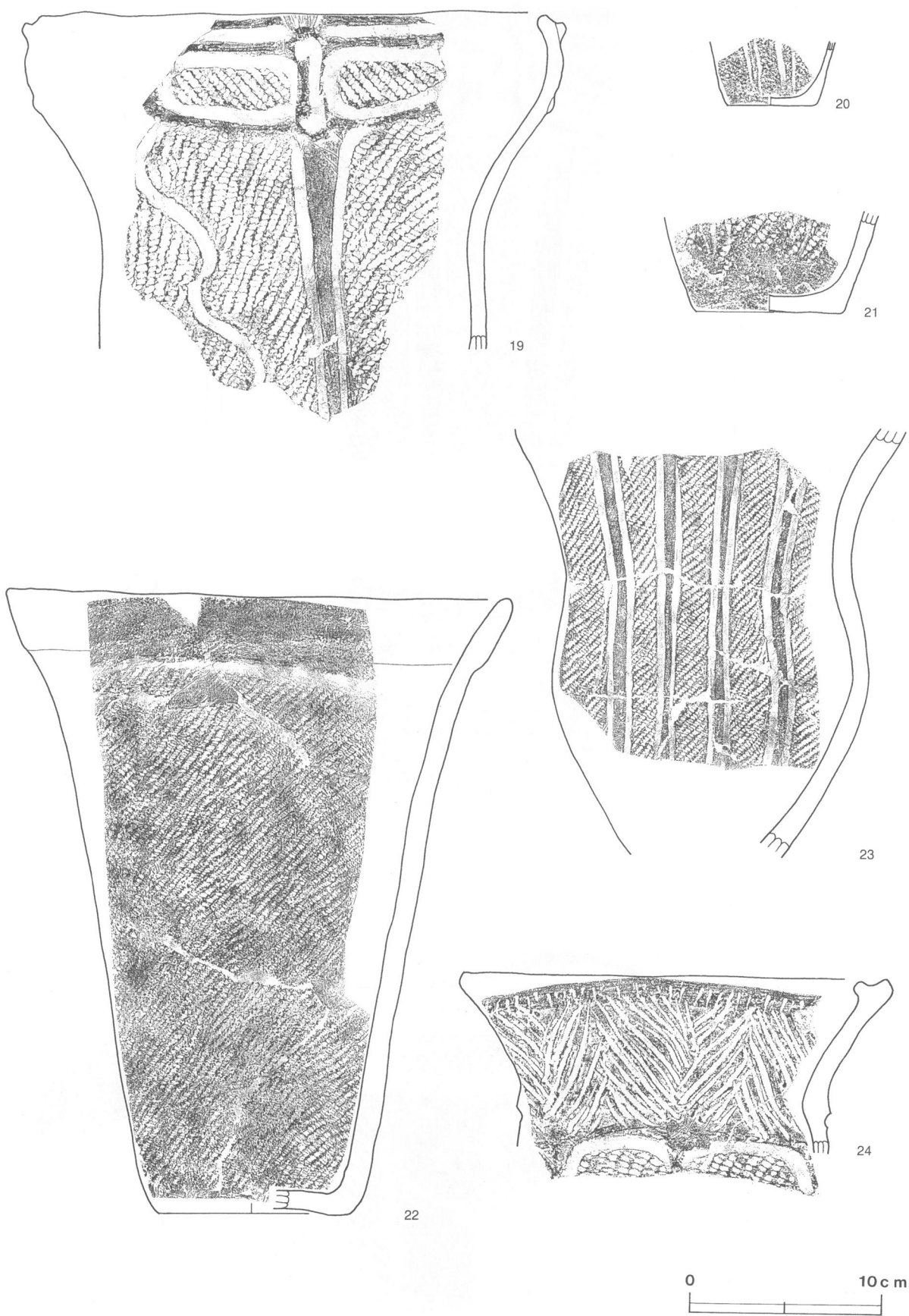


第517图 遺構外出土遺物実測図(2)



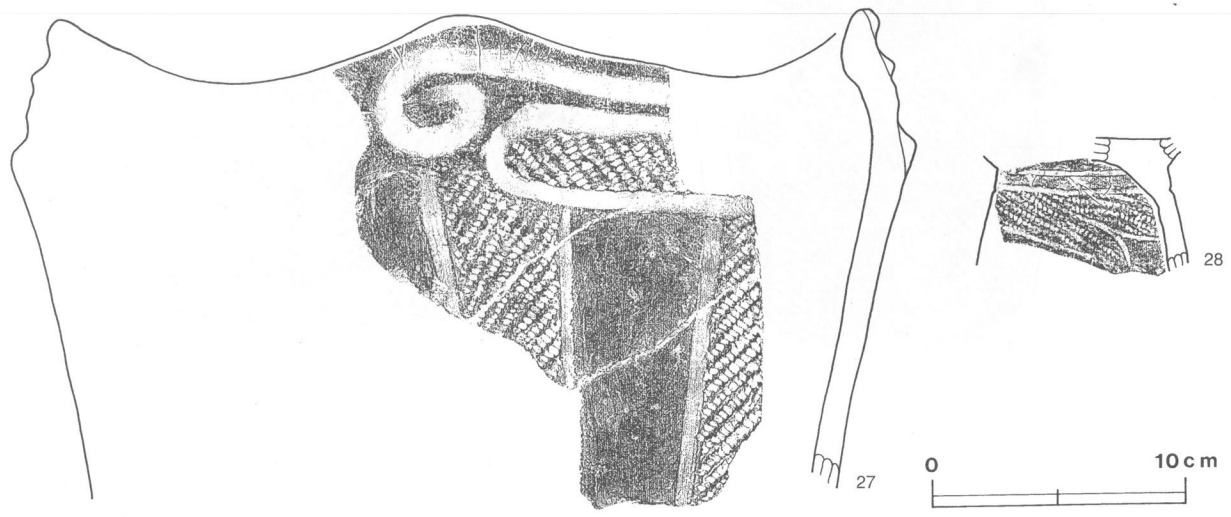
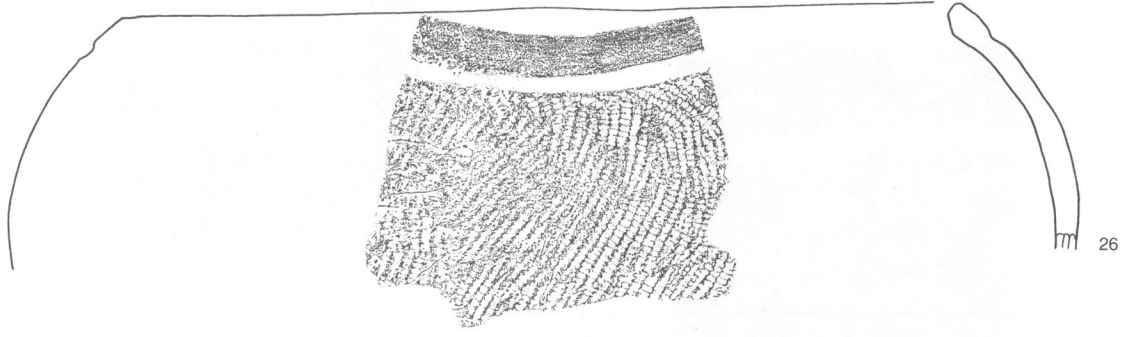
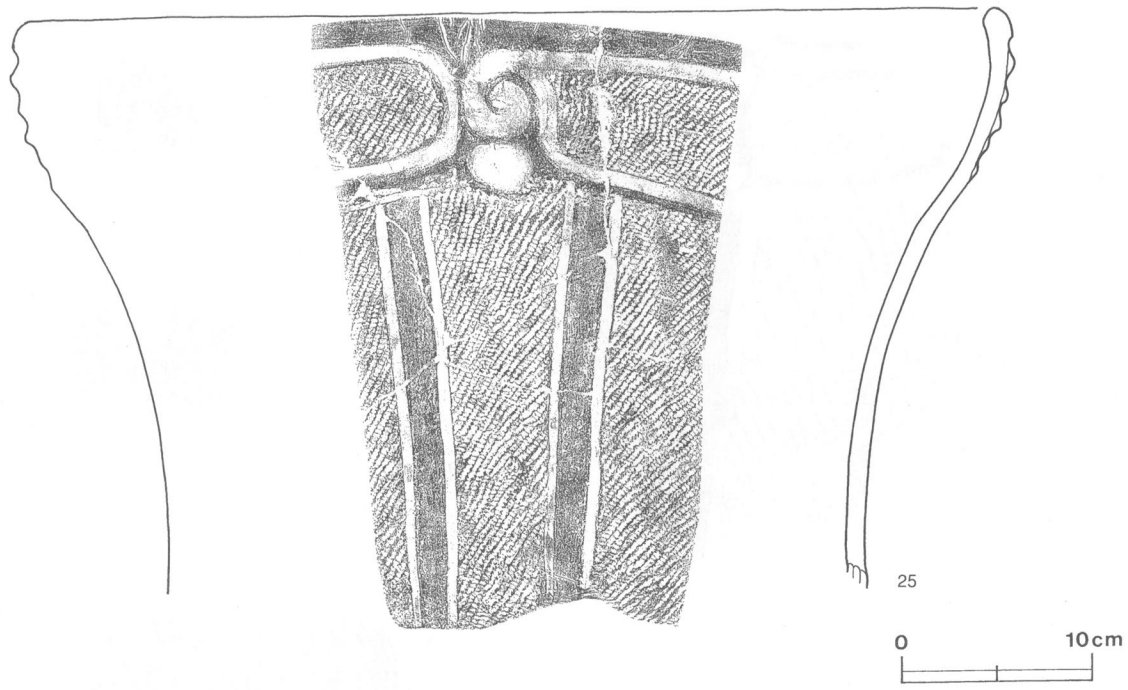
0 10 cm

第518図 遺構外出土遺物実測図(3)



第519図 遺構外出土遺物実測図（4）

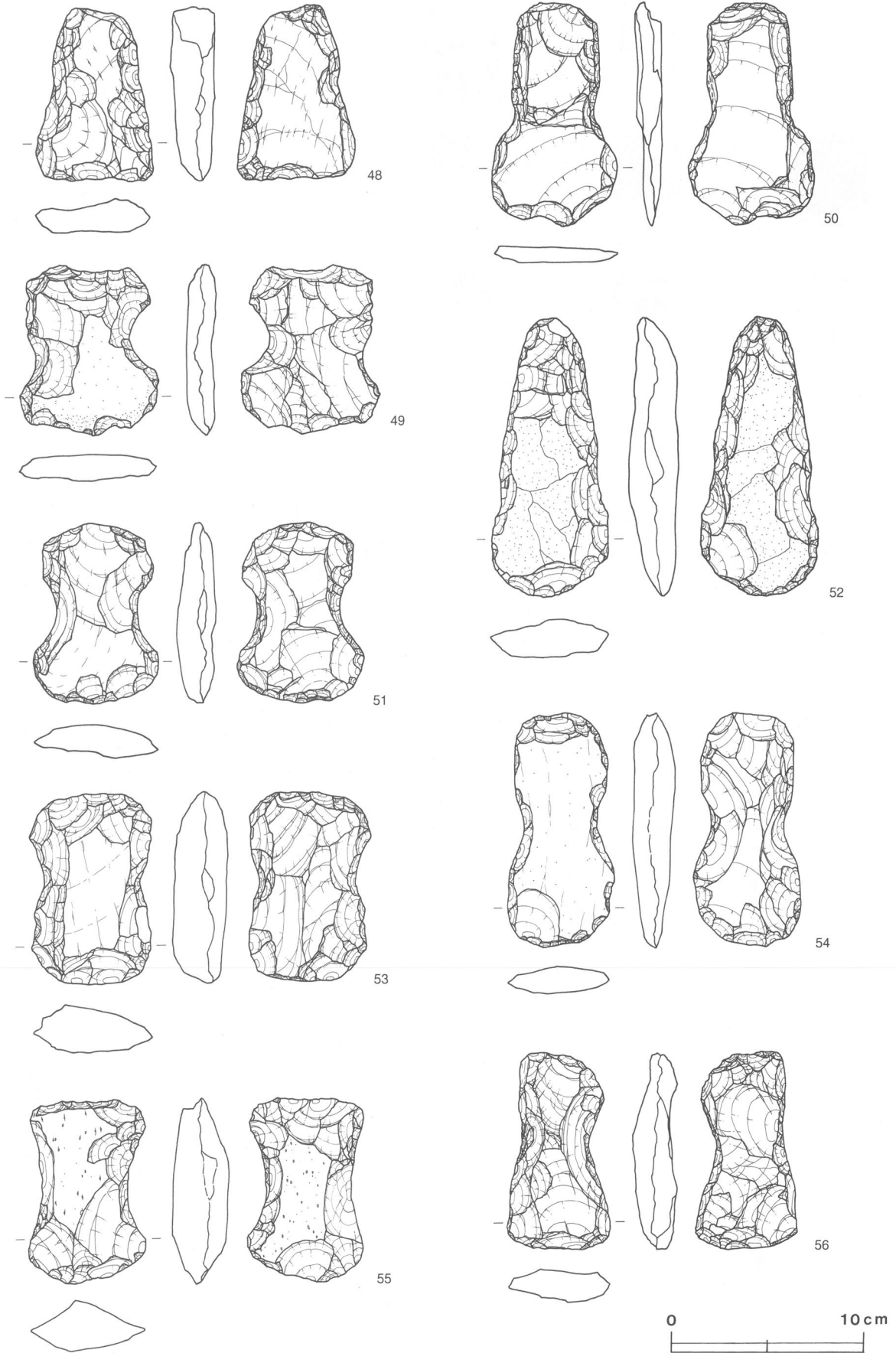




第520図 遺構外出土遺物実測図 (5)



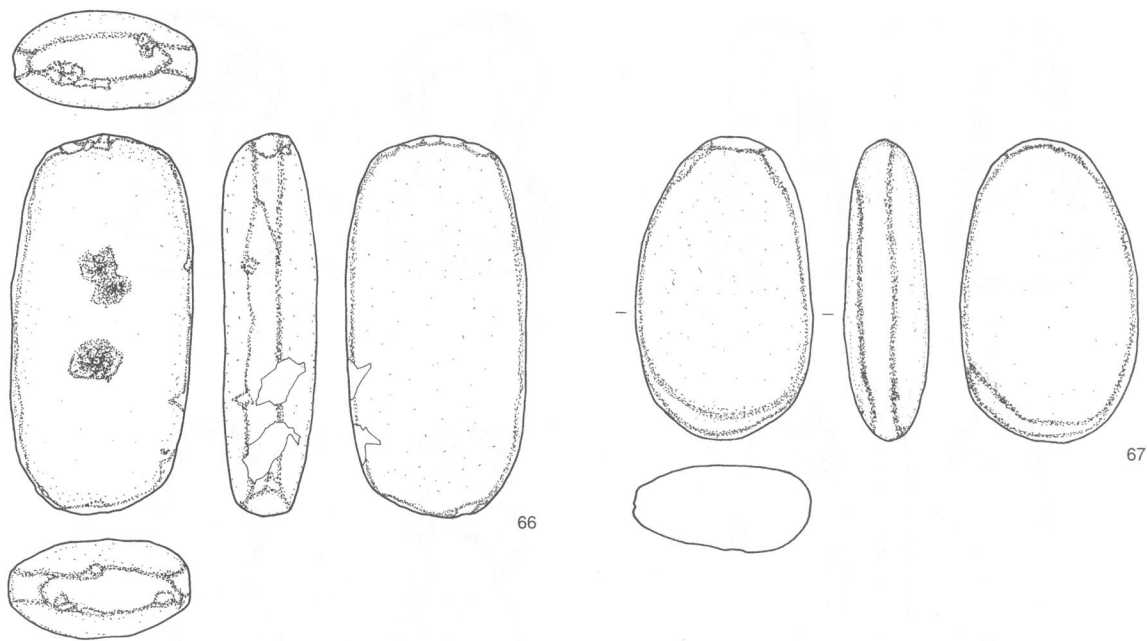
第521图 遺構外出土遺物実測図(6)



第522図 遺構外出土遺物実測図(7)

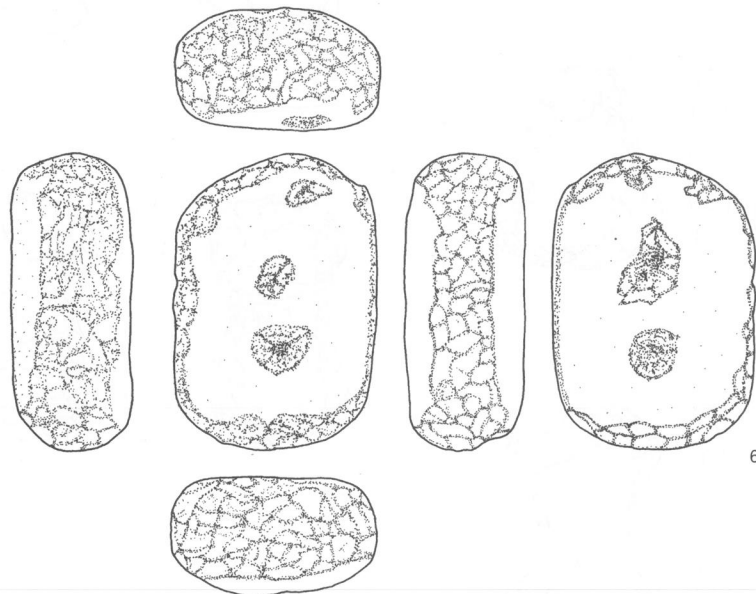


第523図 遺構外出土遺物実測図(8)

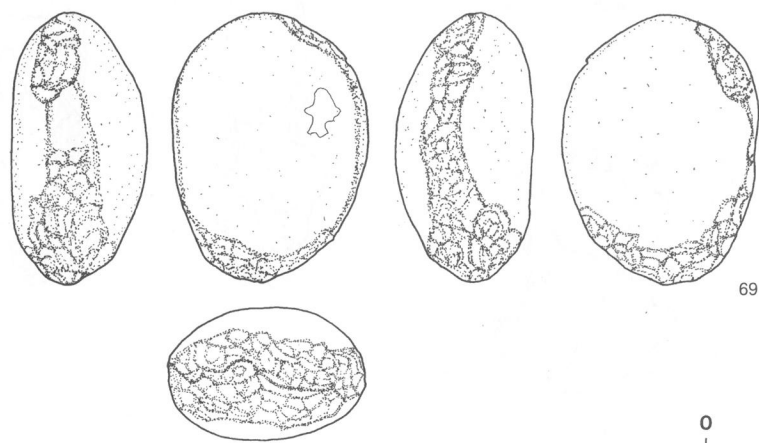


66

67



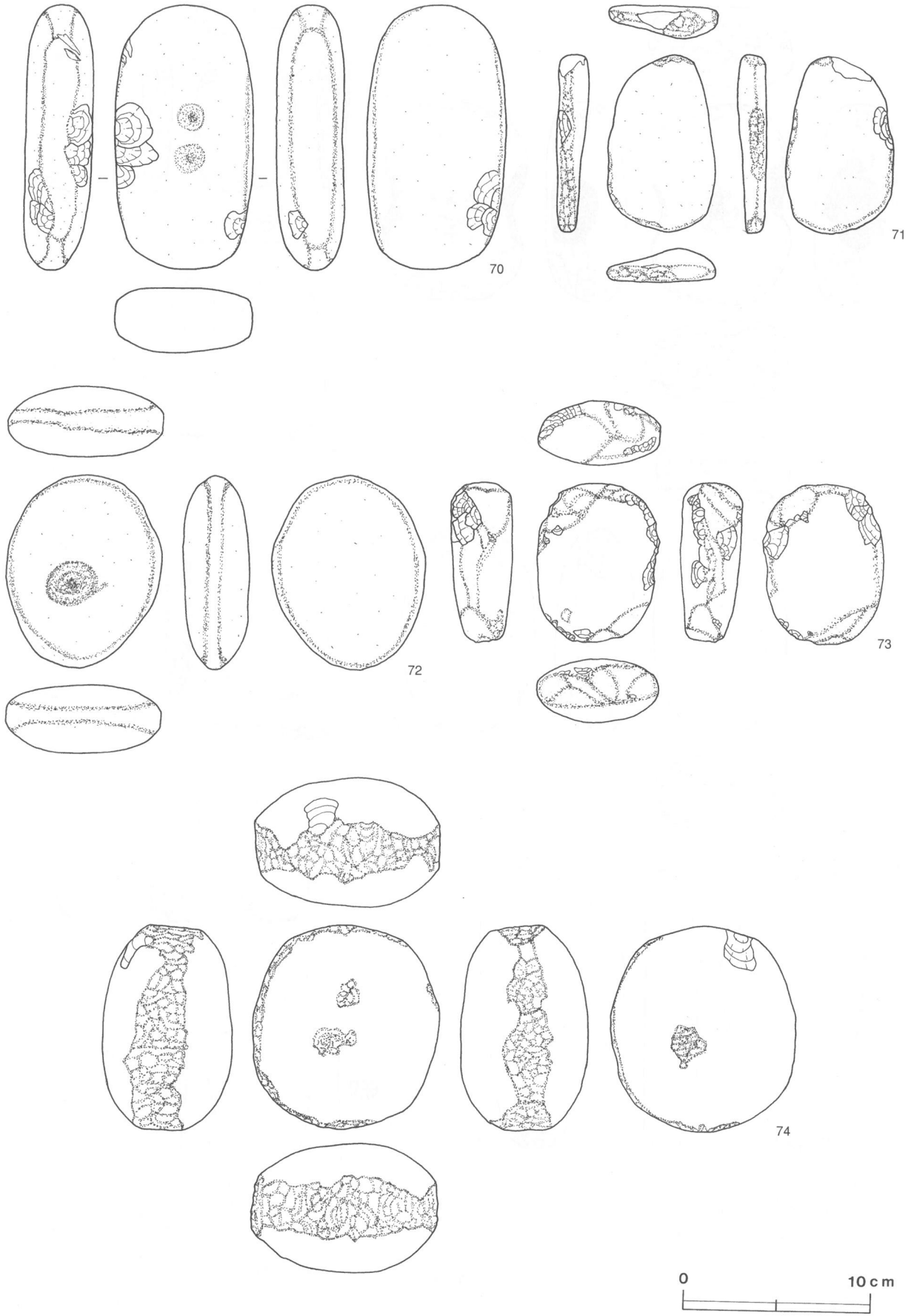
68



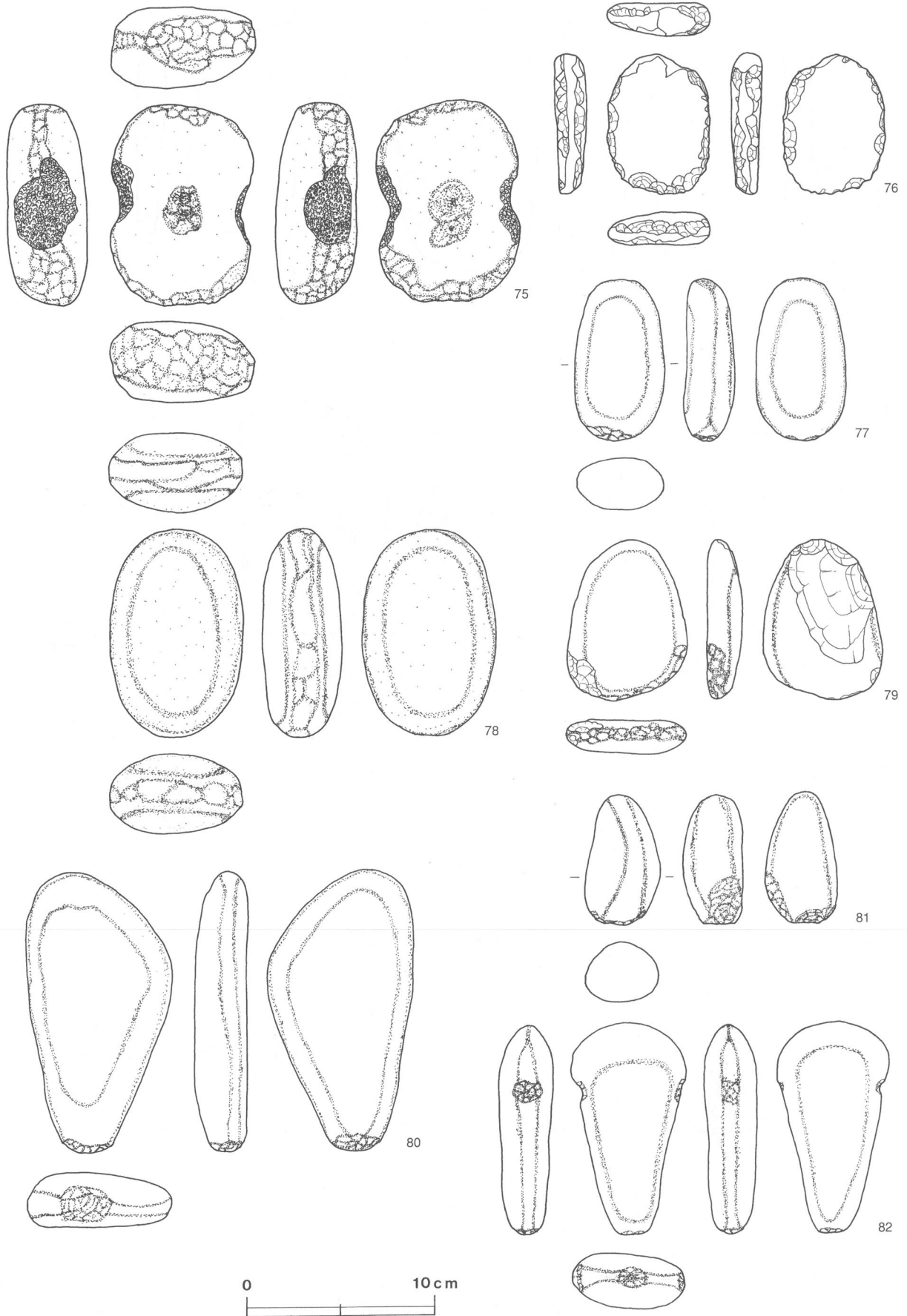
69



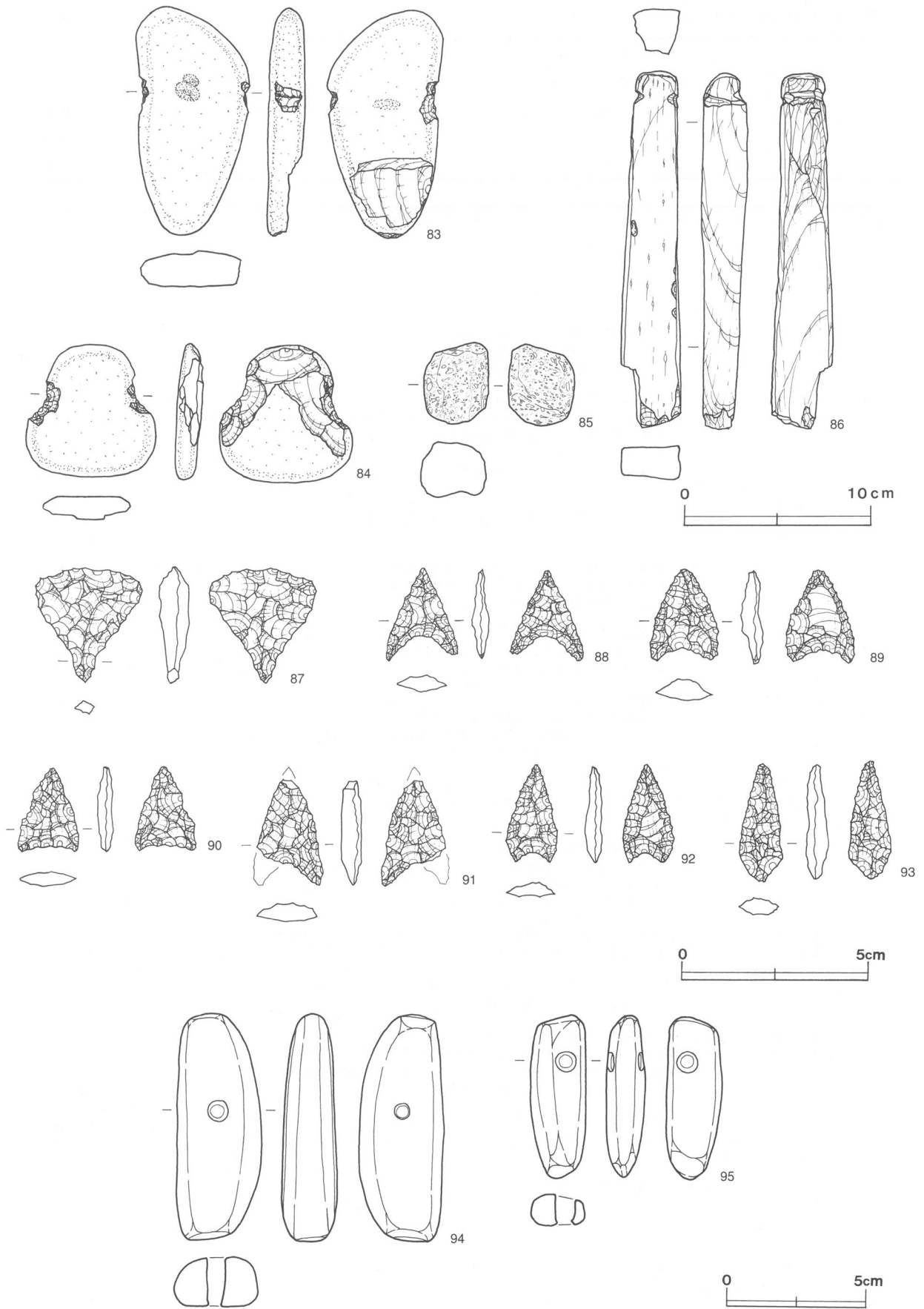
第524図 遺構外出土遺物実測図(9)



第525図 遺構外出土遺物実測図 (10)



第526図 遺構外出土遺物実測図 (11)



第527図 遺構外出土遺物実測図 (12)



遺物外出土遺物観察表（第516～527図）

図版番号	器種	計測値				石質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
1	削器	7.1	3.2	0.8	13.6	メノウ	左側縁に裏面から急角度の調整を施している。	Q2023 PL48
2	槍先形頭器	3.4	2.0	0.9	5.0	黒曜石	横長剥片を素材。片面加工。	Q2025 PL48
3	尖頭搔器	10.1	4.8	2.2	97.0	流紋岩	打面側を刃部に加工している。	Q2024 PL48

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
4	尖底土器 縄文土器	B (7.5)	尖底部片。無文。	長石・石英・赤色粒子 にぶい黄橙色 普通	P2057 5%
5	深鉢 縄文土器	B (9.6)	把手部及び口縁部片。口縁部は内傾する。口唇部には孔を有する把手を、口縁部には橋状把手を施している。口唇部外面直下及び口縁部と頸部の境に隆帯を巡らしている。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P2065 5%
6	深鉢 縄文土器	A [24.0] B (19.2)	口縁部から胴部にかけての破片。胴部は直線的に立ち上がり、頸部で外反し、口縁部は開きながらわずかに内彎する。口縁部内面に稜をもつ。口唇部外面直下に隆帯を、口縁部には押圧文を有する隆帯を巡らし、幅狭の口縁部文様帯を構成している。口縁部文様帯内には2条の結節沈線文を施している。	長石・雲母・礫 にぶい黄褐色 普通	P2078 10%
7	深鉢 縄文土器	A 10.7 B 14.9 C 7.7	口縁部及び胴部の一部欠損。胴部は直線的に立ち上がり、口縁部に至る。口縁部内面に稜をもつ。胴部及び底部無文。	長石・石英・雲母 極暗褐色 普通	P2083 80% 外面煤付着 P L43
8	深鉢 縄文土器	A [23.7] B (14.2)	口縁部から胴部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がり、口縁部は直立する。口縁部にはLの無節縄文を横方向に、胴部にはLの無節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P2069 20%
9	深鉢 縄文土器	B (8.7)	口縁部片。口縁部は外傾する。口唇部外面直下に半截竹管による平行沈線を巡らせている。口縁部には条線文を縦方向に施し、横S字状の隆帯を貼り付けている。	石英・雲母 灰褐色 普通	P2070 5%
10	深鉢 縄文土器	A [12.0] B (10.8)	口縁部から胴部にかけての破片。胴部は直線的に立ち上がり、口縁部は内彎する。口唇部外面直下及び胴部との境に隆帯を巡らせている。口縁部には2条一組の隆帯により文様を描出している。地文はRLの単節縄文を縦方向に施している。	石英・雲母 にぶい褐色 普通	P2076 15% P L43
11	深鉢 縄文土器	B (11.3)	胴部片。胴部は外傾して立ち上がる。胴部には沈線により文様を描出している。地文は撚糸文を縦方向に施している。	長石 黒褐色 普通	P2063 10%
12	深鉢 縄文土器	A 21.4 B (26.3)	口縁部及び胴部の一部、底部欠損。胴部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。口唇部外面直下及び口縁部と胴部の境に2条一組の隆帯を、口縁部には波状の隆帯を巡らしている。地文はRLの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英 橙色 普通	P2067 80% P L43
13	深鉢 縄文土器	A 22.3 B (27.2)	底部欠損。胴部は直線的に立ち上がり、頸部で外反し、口縁部は内彎する。口唇部外面直下及び口縁部と頸部の境に隆帯と沈線を巡らしている。口縁部には隆帯と沈線により区画文、渦巻文を施している。地文はRLの単節縄文を、口縁部には横方向に、頸部以下には縦方向に施している。	長石・石英・雲母 浅黄橙色 普通	P2075 90% P L43
14	深鉢 縄文土器	A [24.2] B (10.2)	口縁部から胴部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに内彎する。口縁部には隆帯と沈線により、区画文、渦巻文を施している。胴部には3条一組の沈線を垂下させている。地文として沈線が縦方向に施されている。	長石・石英 にぶい黄褐色 普通	P2072 5%
15	器台 縄文土器	A 17.0 B (2.5)	脚部欠損。台部はほぼ平坦であり、よく研磨されている。脚部には3孔が確認され、それ以上の穿孔が推測される。	石英・雲母 明褐灰色 普通	P2061 30% 台部一部煤付着
16	有孔罎付土器 縄文土器	B (4.3)	胴部は内彎して罎部に至る。口縁部は直立する。罎部には径5mm程度の小孔が穿たれている。LRLの複節縄文を縦方向に施している。	長石・雲母 灰黄褐色 普通	P2079 5%
17	深鉢 縄文土器	A [44.0] B (10.4)	口縁部片。口縁部はわずかに内彎する。口縁部には隆帯により区画文、渦巻文が描出されている。地文はLRLの複節縄文を縦に施している。	長石・石英 にぶい褐色	P2059 10%

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
18	深鉢 縄文土器	A [37.0] B (31.9)	口縁部の一部及び底部欠損。胴部は直線的に立ち上がり、頸部で外反し、口縁部は内彎する。小波状口縁を呈する。口唇部外面直下及び口縁部と頸部の境に2本一組の隆帯を巡らせ、波頂部直下には隆帯による渦巻文を施している。口縁部には2本一組の隆帯により波状文を施している。地文はRLの単節縄文を口縁部には横方向に、頸部以下には縦方向に施している。	長石・石英 灰褐色 普通	P2077 50% P L43
19	深鉢 縄文土器	A [26.4] B (17.5)	口縁部から胴部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がり、口縁部は内彎する。口唇部直下及び口縁部と胴部の境に隆帯を巡らし、口縁部には隆帯と沈線により区画文を施している。地文は口縁部にはRLの単節縄文を横方向に、胴部にはRLの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P2068 20%
20	ミユチア土器 縄文土器	B (3.4) C 4.5	底部から胴部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がる。胴部には2条一組の沈線を垂下させている。底部無文。	長石・石英・針状鈹物 にぶい褐色 普通	P2060 40%
21	深鉢 縄文土器	B (5.4) C 7.6	底部から胴部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がる。胴部にはRLの単節縄文を縦方向に施している。底部無文。	石英 にぶい赤褐色 普通	P2073 10% 内面炭化物付着
22	深鉢 縄文土器	A 26.2 B 32.2 C [10.0]	口縁部及び胴部、底部一部欠損。胴部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は無文。地文はRLの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英 にぶい褐色 普通	P2074 80% P L43
23	深鉢 縄文土器	B (22.2)	胴部片。胴部下位は内彎して立ち上がり、胴部上位で外反する。胴部には2条一組の沈線を垂下させ、沈線間を磨り消している。地文はRLの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい黄橙色 普通	P2080 40% P L43
24	深鉢 縄文土器	A [21.8] B (9.1)	口縁部片。口縁部下位は内傾し、屈曲して口縁部上位で外傾する。口唇部内面直下に隆帯を巡らせている。口唇部にキザミを、口縁部上位には矢羽状の集合沈線を、口縁部下位には隆帯と沈線により区画文を施している。区画内には地文としてRLの単節縄文を縦方向に施している。	長石・雲母 明赤褐色 普通	P2071 5%
25	深鉢 縄文土器	A [51.0] B (36.0)	口縁部から胴部の破片。胴部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに内彎する。口縁部には沈線により、区画文、渦巻文を施している。胴部には2条一組の沈線を垂下させ、沈線間を磨り消している。地文はRLの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P2082 30%
26	深鉢 縄文土器	A [32.9] B (9.9)	口縁部片。口縁部は内彎する。口唇部外面直下に沈線を巡らしている。地文はRLの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい黄褐色 普通	P2066 5%
27	深鉢 縄文土器	A [32.0] B (18.9)	口縁部から胴部にかけての破片。波状口縁を呈する。胴部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに内彎する。口縁部には沈線により楕円形の区画文及び波頂部直下の渦巻文を施している。胴部には垂下させた沈線間を幅広く磨り消している。地文は口縁部区画内にRLの単節縄文を横方向に、胴部にはRLの単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい黄褐色 普通	P2064 10%
28	台付鉢 縄文土器	B (5.3)	台部片。台部は内傾して立ち上がる。台部にはRLの単節縄文を施し、沈線により区画された区画内を磨り消している。	長石 橙色 普通	P2062 10%

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
29	土器片鉢	1.8	2.9	1.0	6.4	土製	楕円形でRLの単節縄文を施している。	DP2004
30	土器片鉢	3.9	3.2	0.9	15.3	土製	楕円形でLRの単節縄文を施している。	DP2005
31	土器片円盤	5.5	5.0	1.3	1.3	土製	円形でLRの単節縄文と沈線を施している。	DP2006
32	土器片円盤	5.2	4.5	0.8	30.2	土製	円形で無文である。	DP2007
33	土器片円盤	4.3	4.0	0.7	15.3	土製	円形でRLの単節縄文を施している。	DP2008
34	土器片円盤	2.5	2.5	0.9	5.3	土製	円形でRLの単節縄文を施している。	DP2009
35	土器片円盤	4.3	4.2	1.1	27.6	土製	円形でRLの単節縄文を施している。	DP2010
36	土器片円盤	3.1	3.0	1.1	12.7	土製	円形で縄文と沈線を施している。	DP2011
37	土器片円盤	3.2	3.1	1.1	14.8	土製	円形でRLの単節縄文を施している。	DP2012

図版番号	器種	計測値				石質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
38	磨製石斧	11.1	5.6	2.3	279.2	閃緑岩	定角式磨製石斧。刃部一部欠損。	Q2035 PL45
39	磨製石斧	10.9	3.9	1.8	100.7	粘板岩	刃部及び両側面に剥離痕を残す。	Q2034 PL46
40	磨製石斧	(10.4)	4.9	2.6	(228.8)	緑色凝灰岩	定角式磨製石斧。刃部一部欠損。	Q2036 PL45
41	磨製石斧	8.7	5.3	2.6	183.7	閃緑岩	定角式磨製石斧。刃部一部欠損。	Q2037
42	磨製石斧	12.4	5.9	1.5	171.3	粘板岩	刃部及び両側面に剥離痕を残す。	Q2038 PL46
43	磨製石斧	(8.3)	4.3	1.3	(78.4)	ホルンフェルス	刃部一部欠損。	Q2039
44	磨製石斧	7.9	4.5	2.9	153.5	砂岩	基部及び刃部の一部欠損。	Q2041
45	磨製石斧	12.7	6.9	2.0	225.3	粘板岩	刃部及び両側面に剥離痕を残す。	Q2040
46	磨製石斧	6.7	3.8	1.1	46.2	結晶片岩	基部一部欠損。	Q2042 PL45
47	磨製石斧	6.8	3.6	1.1	41.8	粘板岩	刃部及び両側面に剥離痕を残す。	Q2043
48	打製石斧	9.0	6.1	2.2	136.1	凝灰岩	撥型。刃部は表裏に加撃して作り出す。	Q2052 PL46
49	打製石斧	8.8	7.2	1.6	114.4	砂岩	分銅型。右側面の抉入部が深い。	Q2048
50	打製石斧	11.6	6.5	1.2	107.4	粘板岩	分銅型。抉入部は浅い。	Q2044 PL45
51	打製石斧	9.3	6.5	2.1	133.4	粘板岩	分銅型。抉入部は深い。	Q2049 PL45
52	打製石斧	14.4	6.1	2.6	240.7	安山岩	撥型。刃部は表裏に加撃して作り出す。	Q2045 PL46
53	打製石斧	9.9	6.3	2.8	225.9	粘板岩	分銅型。抉入部は深い。	Q2050
54	打製石斧	12.1	5.5	2.3	179.2	粘板岩	分銅型。抉入部は浅い。	Q2046 PL45
55	打製石斧	9.5	6.0	2.9	206.1	流紋岩	分銅型。抉入部は浅い。	Q2047
56	打製石斧	10.2	5.3	2.4	145.3	粘板岩	分銅型。抉入部は浅い。	Q2051
57	磨製石斧	10.9	5.6	2.4	125.2	粘板岩	撥型。両側縁に剥離痕を残す。	Q2053
58	打製石斧	10.6	6.6	1.7	142.6	粘板岩	分銅型。抉入部は深い。	Q2054 PL45
59	磨製石斧	9.5	4.9	1.5	109.5	緑泥片岩	撥型。両側縁に剥離痕を残す。	Q2055
60	打製石斧	12.1	5.7	1.6	114.3	粘板岩	分銅型。抉入部は浅い。	Q2058
61	打製石斧	8.1	6.8	1.6	101.7	粘板岩	撥型。刃部は表裏に加撃して作り出す。	Q2056
62	打製石斧	9.8	6.2	1.5	115.3	粘板岩	分銅型。抉入部は深い。	Q2057
63	打製石斧	9.9	5.6	2.1	165.3	粘板岩	分銅型。抉入部は浅い。	Q2059 PL45
64	打製石斧	9.8	7.2	1.3	138.4	粘板岩	分銅型。抉入部は深い。	Q2060
65	打製石斧	12.7	4.8	2.0	140.0	粘板岩	分銅型。抉入部は深い。	Q2092 PL44
66	磨石	15.0	7.2	3.9	697.7	安山岩	使用面は全側面。表面2孔。	Q2062
67	磨石	12.0	7.1	3.5	407.6	安山岩	使用面は全側面。	Q2061 PL47
68	磨石	11.7	8.1	4.7	831.9	安山岩	使用面は全側面。表裏各2孔。	Q2063 PL47
69	磨石	10.7	7.8	5.3	599.5	粘板岩	使用面は全側面。加熱により赤変。	Q2065
70	磨石	14.1	7.5	3.6	608.0	砂岩	使用面は両側面。表面2孔。	Q2067
71	磨石	9.4	5.9	1.6	117.2	砂岩	全側面に敲打痕。	Q2071
72	磨石	10.3	8.3	3.6	439.1	安山岩	使用面は全側面。表面1孔。	Q2069 PL47
73	磨石	8.5	6.5	3.3	284.3	閃緑岩	使用面は全側面。	Q2070
74	磨石	11.5	9.9	6.8	1042.7	安山岩	使用面は全側面。	Q2075 PL47
75	磨石	10.7	7.7	4.3	548.5	花崗岩	全側面使用。表面1孔。裏面2孔。両側縁に抉り。	Q2072 PL47
76	敲石	7.5	5.5	1.7	100.5	砂岩	使用面は全側面。	Q2064
77	敲石	8.6	4.7	2.7	156.5	砂岩	長軸方向の両端に敲打痕。	Q2066
78	磨石	11.0	7.1	4.2	470.5	安山岩	使用面は全側面。	Q2073 PL47
79	敲石	8.5	6.4	1.9	137.0	砂岩	長軸方向の一端に敲打痕。	Q2074
80	敲石	15.0	7.9	2.9	464.3	砂岩	長軸方向の一端に敲打痕。	Q2078 PL47
81	敲石	7.0	4.0	3.3	116.3	砂岩	長軸方向の一端に敲打痕。	Q2077
82	敲石	11.2	6.1	2.9	255.5	安山岩	長軸方向の一端に敲打痕。両側縁に抉り。	Q2076
83	敲石	12.1	5.8	1.9	199.2	砂岩	上下に切り込みを施している。	Q2082 PL48

図版番号	器種	計測値				石質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
84	石錘カ	7.2	6.9	1.4	87.6	砂岩	両側縁に抉り有り。	Q2083
85	浮子	4.4	3.6	3.0	2.5	軽石	断面はほぼ円筒状を呈する。	Q2090 PL48
86	不明石製品	19.1	(3.2)	2.4	228.6	粘板岩	断面長方形。先端部に溝状の切れ込みが入る。	Q2091
87	石錐	3.1	2.8	0.8	5.0	赤色チャート	逆三角形状を呈し、先端部やや突出。	Q2033 PL48
88	石鏃	2.5	1.9	0.4	1.1	チャート	基部に抉り有り。	Q2085 PL48
89	石鏃	2.5	1.9	0.6	2.2	チャート	基部に抉り有り。	Q2086 PL48
90	石鏃	2.3	1.7	0.4	1.1	黒曜石	基部はほぼ直線的。	Q2084
91	石鏃	(2.9)	(1.8)	0.5	(2.2)	黒曜石	基部に抉り有り。	Q2087 PL48
92	石鏃	2.6	1.4	0.5	1.2	チャート	基部に抉り有り。	Q2088 PL48
93	尖頭器	3.1	0.6	0.6	1.8	メノウ	茎部欠損。	Q2089 PL48
94	大珠	8.2	3.0	2.0	98.0	翡翠	一側縁が弧状を呈する。ほぼ中央部に穿孔。	Q2093 PL44
95	大珠	5.8	2.0	1.4	22.0	翡翠	一側縁が弧状を呈する。上半部に穿孔。	Q2094 PL44

## 第4節 ま と め

宮後遺跡は縄文時代から中・近世にかけての複合遺跡である。今回の整理作業は、調査2区を除いた調査1・3～5区における縄文時代の遺構と遺物について実施した。縄文時代の遺構は前述したように調査1・2区にその主体があり、中期中葉から中期後葉にかけては環状集落を形成している。宮後遺跡における縄文時代中期集落の変遷や構造等を明らかにすることは今後の整理に譲るとして、今回は縄文時代中期中葉の土器の様相と土坑墓から出土した大珠について検討していきたい。

### 1 縄文時代中期中葉の土器について

#### 研究略史

茨城県における縄文時代中期中葉の土器研究は、1977年に開始された石岡市東大橋原遺跡<sup>1)</sup>と1975年に実施された日立市諏訪遺跡<sup>2)</sup>の調査を契機に本格的に開始された。1970年代後半から1980年代前半にかけての研究は両遺跡出土土器の分析を中心に行われ、諏訪遺跡出土土器の検討は鈴木裕芳氏と海老澤稔氏に、東大橋原遺跡出土土器の検討は横山仁氏等より進められた。

鈴木裕芳氏は、胴部を懸垂する隆帯により区画するものを第6群土器、有節沈線文(結節沈線文)が胴部まで及んで羊歯状文や渦巻文等を施すものを第7群土器と分類し、特に第6群土器を既存の型式に当てはまらないこと、茨城県北部・栃木県東部・福島県南部に分布することからスワタイプと仮称した。そしてスワタイプは大木7b式から大木8a式の古い段階にかけての時期と位置付け、さらに第7群土器へ変遷することを指摘している。1987年には諏訪遺跡出土土器群と関連資料をスワタイプ系統と七郎内系統と沈線文系統と原体圧痕文系統に分け、阿玉台式の編年を基軸に5段階に区分して各系統別の変遷案<sup>4)</sup>を提出している。

海老澤稔氏は諏訪式土器を提唱し、4段階の変遷案を提示している。その中で、諏訪式土器は口縁部が内彎して胴部が直線的となる器形が主体となり、それが大木7b式や阿玉台式と異なること、胴部の隆帯間に施される上下対称弧線文やX字状文は大木7b式や阿玉台式にみられないことから、諏訪式土器は大木7b式と阿玉台式の融合により成立したのではなく、その系譜は竹ノ下式土器に求められることを指摘している。

横山仁氏は東大橋原遺跡から出土した土器を位置付けるために、把手の形状と有無、口縁部文様帯の形状と施文方法、胴部磨消懸垂文の有無、文様帯の区分を分類基準として取り上げ、加曾利E式土器を4段階に分けている。論文は完結していないながらも、加曾利E I式土器の成立を最初に課題としたことで評価できる<sup>6)</sup>。

また、橋本勉氏は田木谷遺跡出土土器を報告する中で、阿玉台式から加曾利E I式土器への移行について論じており<sup>7)</sup>、瓦吹堅氏と鴨志田篤二氏は日本考古学協会昭和56年度大会のシンポジウムにおいて県北部と県南部では地域差があるとする編年案を提出している<sup>8)</sup>。

福島県では、1981年に石川町七郎内C遺跡が調査され、松本茂氏が細い隆帯と有節沈線文によって文様を表出するものを七郎内II群土器<sup>9)</sup>とした。そして、七郎内II群土器は大木7b式と阿玉台式の融合により成立したこと、北関東と東北南端部に分布圏を持つこと、大木7b式のある段階から大木8a式のある段階まで存続していることから既存の型式とは分離されるべきであると指摘している。

1980年代後半から1990年代前半にかけては資料の増加も少なく、研究も低迷していたが、茨城県教育財団が1991年から実施したつくば市中台遺跡の調査と1992年から開始された谷和原村前田村遺跡の調査成果により、県南部域の研究が活発化してきた。1990年代後半の研究としては鈴木素行氏と吹野富美夫等が行っている。

鈴木素行氏は玉里村部室貝塚で採集した資料を位置付ける作業の中で、栃木県における研究の動向を整理し、

茨城県における阿玉台Ⅲ式から加曾利EⅠ式古段階までの標本資料を提示した<sup>10)</sup>。

吹野富美夫は前田村遺跡における該期の様相を明らかにするための基礎作業として、阿玉台Ⅳ式土器と加曾利EⅠ式土器を細分した段階を時間軸とし、それぞれの段階の土器組成を検討した<sup>11)</sup>。

栃木県において該期の土器研究を進めている塚本師也氏は、茨城県の土器様相について次のような見解を示している。すなわち、茨城県域では阿玉台式はⅠa式からⅣ式まで存続していること、茨城県北部では海老澤氏が設定した諏訪式土器とはほぼ同概念の七郎内Ⅱ群土器が阿玉台式に併行して存続すること、福島県から栃木県域に分布する火炎系土器が茨城県域では分布しないこと、中峠式土器は筑波山と霞ヶ浦を結んだラインより南部では分布するが、その北部では分布しないと予測していること等である。また、茨城県北部の様相は宮後遺跡の調査成果によって判明するとし、多くの課題を提案している<sup>12)</sup>。

以上のように茨城県における該期の研究動向とそれに関連する研究をまとめてみた。塚本氏が指摘するように宮後遺跡における土器様相を明らかにすることは茨城県北部域の様相を解明するために不可欠であることは言うまでもない。さらに、それを県南部域の様相と対比しながら体系化していけば、茨城県域における該期の土器様相は解明されることになるだろう。

### 編年と組成

宮後遺跡では阿玉台Ⅰb式から加曾利EⅣ式までの縄文中期土器が出土している。ここでは、宮後遺跡Ⅰ区で主体となる阿玉台Ⅰb式から加曾利EⅠ式古段階までの縄文中期土器を取り上げ、縄文時代中期における宮後遺跡を復元するための基礎研究として該期の土器様相を明らかにしていきたい。

時間軸は阿玉台式の編年を基準とし、一括土器と捉えられる共伴関係から、同時期の組成を明らかにしていく。縄文地に有節(結節)沈線文を施す土器については、スワタイプ、七郎内Ⅱ群土器、諏訪式土器、スワタイプ系統と七郎内系統、湯坂タイプと諏訪タイプ<sup>13)</sup>のように様々な捉え方がされている。その名称については、最初の調査遺跡名を冠して諏訪式土器という名称を用いたところではあるが、塚本氏が指摘するように現段階では型式内容の把握が十分でないことから、七郎内Ⅱ群土器の名称を使用する<sup>14)</sup>。また、その概念については、今回は胴部に懸垂する4単位の隆帯間に、沈線で上下対称弧線文やX字状文を施すものも含めて考えている。

### 阿玉台Ⅰb・Ⅱ式期 (第528・529図)

第616号土坑出土土器(10・11)を指標とし、第24・151・278・358号土坑出土土器等が相当する。本期は阿玉台Ⅱ式土器に七郎内Ⅱ群土器と微量の勝坂Ⅰ～Ⅱ式土器が伴出している。第151号土坑からは、6の阿玉台Ⅱ式土器と5の七郎内Ⅱ群土器が出土しており、それらが共伴する好例である。第396号土坑資料については、14が阿玉台Ⅰb式土器であるが、量的に少ないため便宜的に本期に含めた。今後の整理で阿玉台Ⅰb式土器の資料が増加すれば、阿玉台Ⅰb式期として独立した段階として捉えなければならないであろう。7・9・18の七郎内Ⅱ群土器については、阿玉台Ⅱ式土器と共伴関係にないが、次のような理由から本期とした。7と9を本期とする根拠は、7のような顔面状の表現は本期に多いこと、9は口縁部の文様が簡素で、区画文が連続して展開せずに独立していること、双頭の波状口縁が3と13のように左右非対称であることである。第558号土坑から出土した17と18を本期とする根拠は、17のような無文土器は品川台遺跡<sup>15)</sup>で阿玉台Ⅱ式期のものがあること、18の胴部に縦位の楕円形区画文を施す手法は第41号土坑の1(第112図)と共通性があり、法正尻遺跡<sup>16)</sup>第327号出土土器のように大木7b式土器の特徴のひとつであることである。勝坂Ⅰ～Ⅱ式土器については、第383号土坑の10(第320図)が好例である。阿玉台Ⅱ式土器の特徴となる文様には、複列の角押文(半截竹管による結節平行沈線文)の他に、クシ状工具による結節平行沈線文、半截竹管による平行沈線文がある。また、16のようにキザミ目列を巡らすことも、量的に少ないながらも阿玉台Ⅱ式土器の特徴となる文様要素である。また、

本期には、諏訪遺跡出土土器のように胴部に懸垂する隆帯間に上下対称弧線文やX字状文が施しているもの、4・5・7のように口縁の外面や15のように把手の内面に獣面を表現するものが多い。

#### 阿玉台Ⅲ式期（第530図）

第387号土坑出土土器(24・25・26)を指標とし、第65・362・575号土坑出土土器等が相当する。本期は隆帯に沿って爪形文を施す阿玉台Ⅲ式土器が主体で、七郎内Ⅱ群土器と大木8a式土器が客体的に伴出する。阿玉台Ⅲ式土器における区画文内の文様は、沈線による数条の鋸歯状文と縦位の沈線文がある。19の第575号土坑から出土した隆帯に沿って爪形文を施す阿玉台Ⅲ式土器にはキザミ目を巡らしており、阿玉台Ⅱ式土器の特徴が残存している。七郎内Ⅱ群土器の割合は前時期と比較して少なくなるが、第362号土坑で良好な一括資料が出土している。本期の七郎内Ⅱ群土器は、口縁部に波頂部直下の把手を起点に隆帯による区画文を形成する。大木8a式土器は、第387号土坑で良好な共伴関係にある。26は口唇部直下に爪形文を施していることが大木8a式土器から逸脱しているが、口縁部に横S字状文を施していること、胴部に沈線文を多用していることから、大木8a式土器に分類できる。また、阿玉台Ⅲ式土器との共伴関係にはないが、39の第516号土坑出土土器も本期のものと考えられる。

#### 阿玉台Ⅳ式期（第531図）

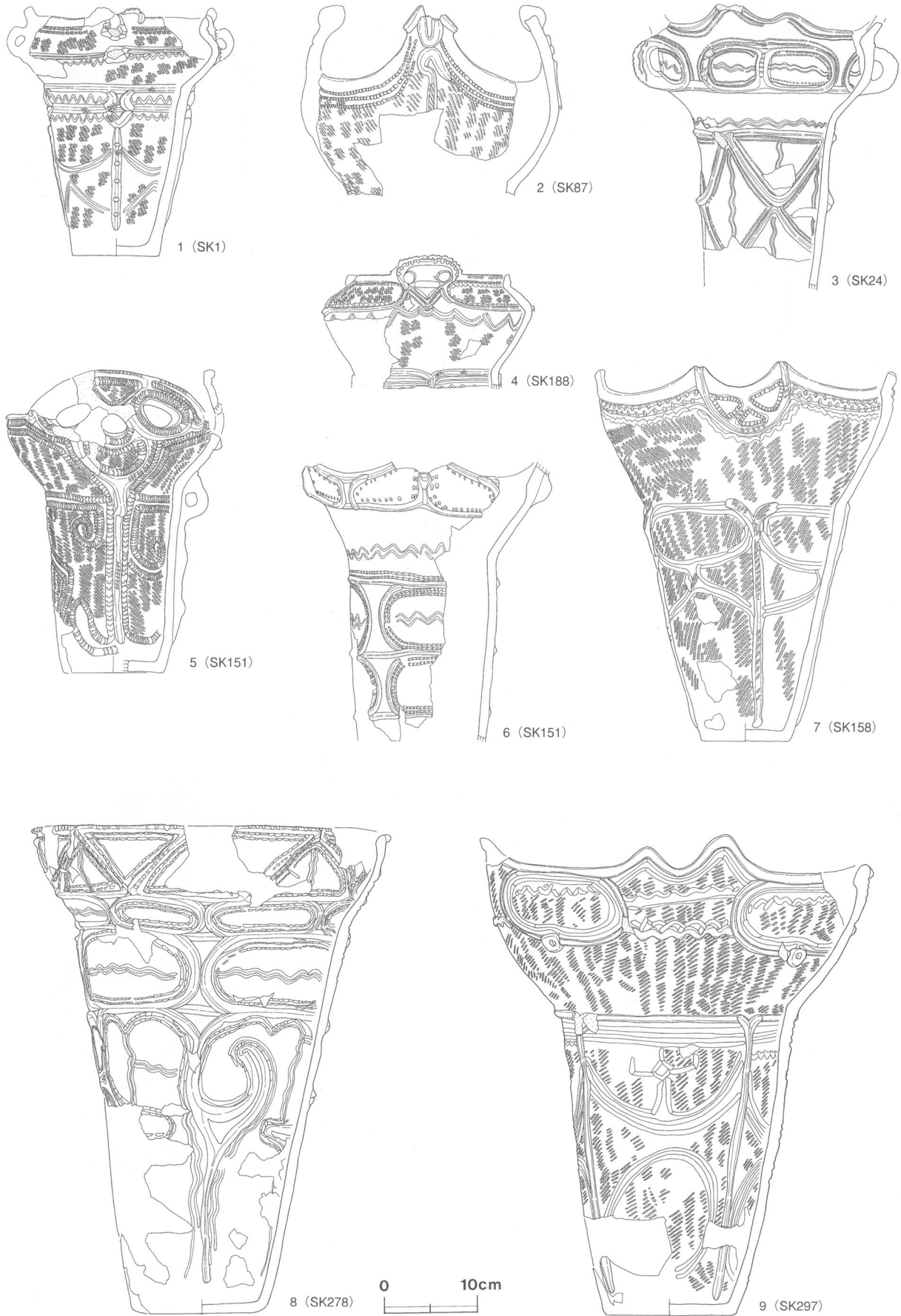
第511号土坑出土土器(33・34・35)を指標とし、第399号土坑出土土器等が相当する。本期は阿玉台Ⅳ式土器に大木8a式土器が伴出し、七郎内Ⅱ群土器は微少的存在となる。阿玉台Ⅳ式土器の隆帯に沿って施される文様には、沈線文を施すもの(27・29)と、半截竹管による平行沈線文(33)がある。また、胴部の隆帯については、4単位で垂下するもの(27)と、環状の突起を有するもの(33)がある。大木8a式土器は出土数が増加し、深鉢の器形が多様となる。34のような胴部中に最大径がある樽形のもので伴出するものも、本期からである。また、本期には、41のような立体的な把手を有するものや42のような勝坂Ⅲ式土器も微的に伴出すると考えられるが、阿玉台式土器が共伴していないため時期を確定するには至らなかった。

#### 加曾利EⅠ式古段階期（第533図）

第637号土坑出土土器(48・49)を指標とし、第601・610・642・647号土坑出土土器等が相当する。本期は加曾利EⅠ式土器が成立し、伴出する土器群が減少する。伴出する土器群としては中峠式土器が微的に存在し、七郎内Ⅱ群土器と勝坂Ⅲ式土器は組成からなくなる。加曾利EⅠ式土器の文様には、細い隆帯と背に沈線を有する隆帯がある。中峠式土器は第642号土坑から出土しており、立体的な楕円区画文を連続して巡らすもの(50)とキザミを有する隆帯を施すもの(第461図13)がある。また、46のように地文や文様の手法に阿玉台Ⅳ式土器の特徴を有する土器も残存している。

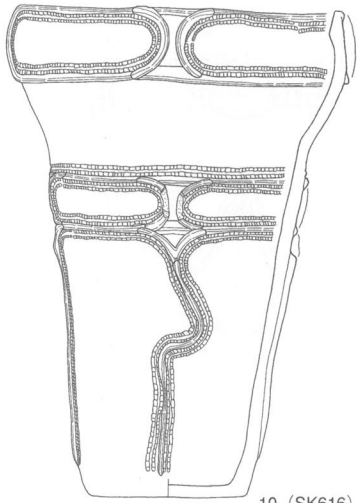
#### 今後の課題

以上のように、茨城県における縄文時代中期中葉土器の研究史を略述し、宮後遺跡における阿玉台Ⅱ式期から加曾利EⅠ式古段階期にかけての土器様相の概略を提示した。今回の方法は土坑出土の一括資料を段階設定の基礎資料とし、伴出する阿玉台式土器を時間軸にして、それぞれの特徴と組成を抽出したものである。しかし、阿玉台式土器が伴出していない資料も多く、七郎内Ⅱ群土器をはじめに大木7b式土器・大木8a式土器・勝坂Ⅲ式土器・中峠式土器等の理解が不十分なため、それぞれの系統を把握することができなかった。今後は、それらの理解を深めていくとともに周辺地域の資料を含めた分析を加えていきたい。

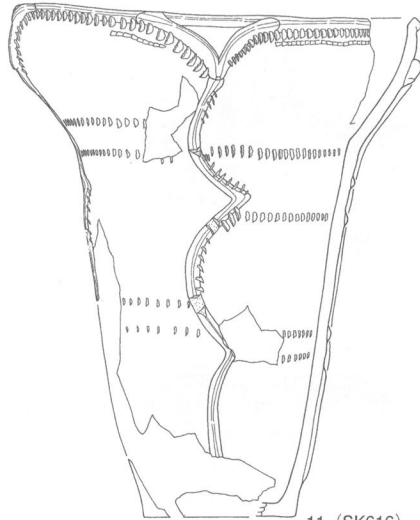


第528図 阿玉台 I b・II 式期の土器 (1)

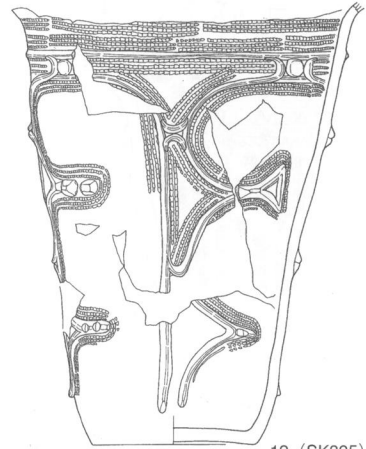




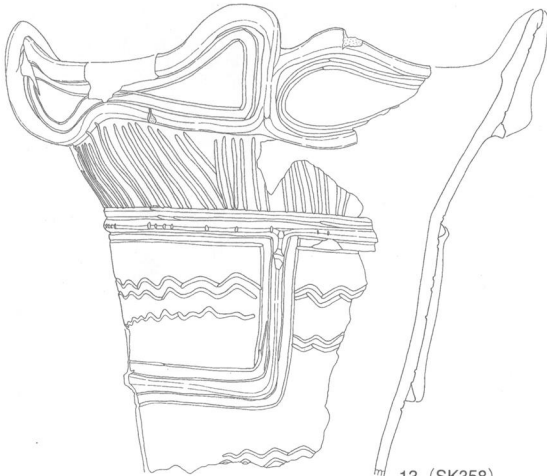
10 (SK616)



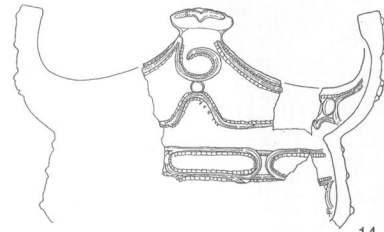
11 (SK616)



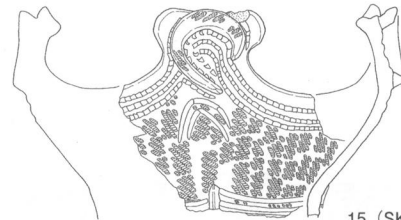
12 (SK395)



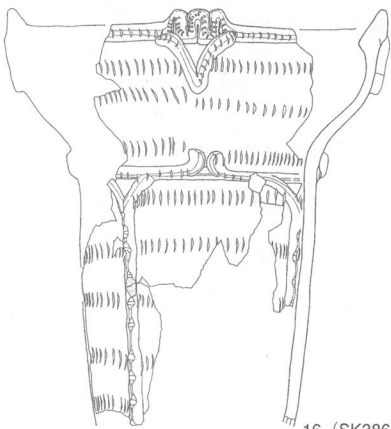
13 (SK358)



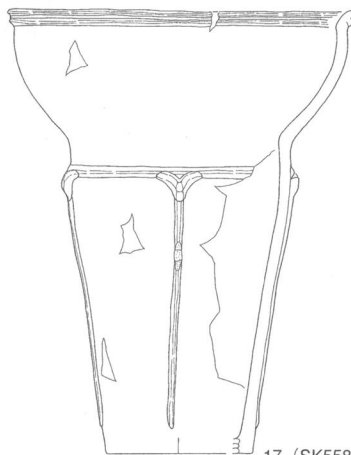
14 (SK396)



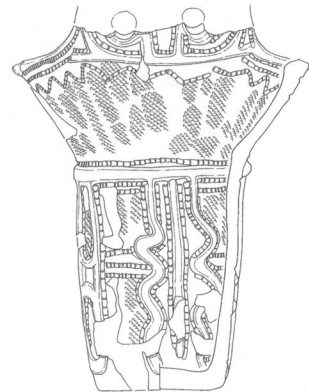
15 (SK396)



16 (SK386)



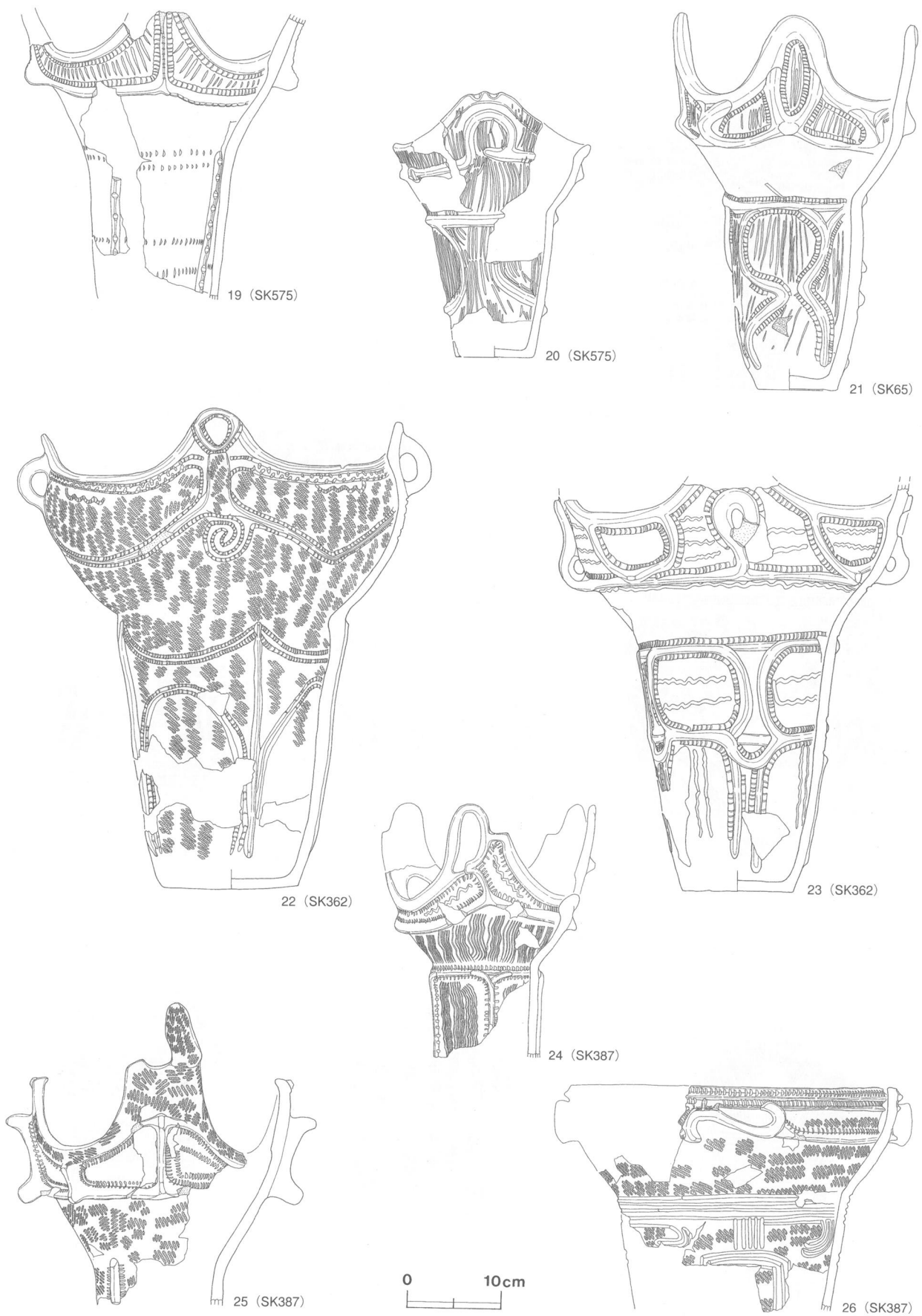
17 (SK558)



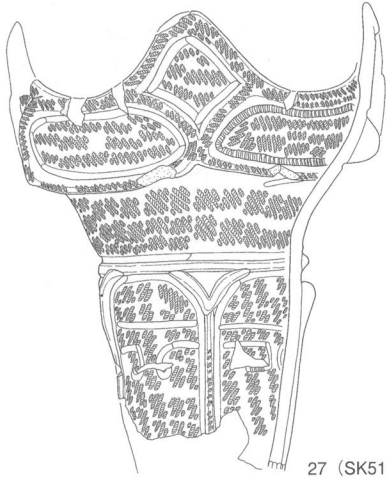
18 (SK558)



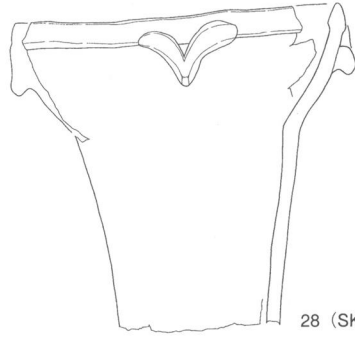
第529図 阿玉台 I b · II 式期の土器 (2)



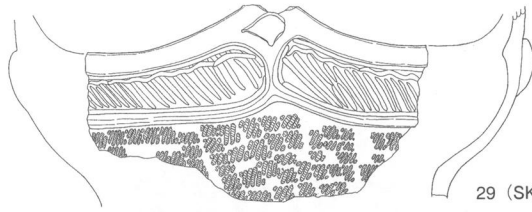
第530図 阿玉台Ⅲ式期の土器



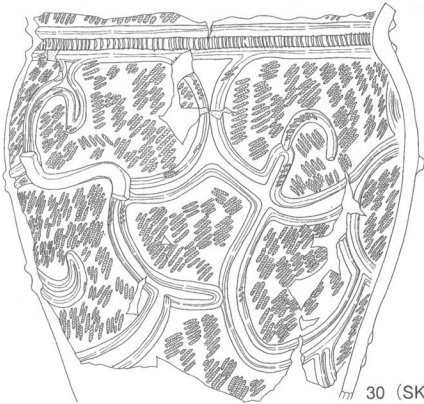
27 (SK519)



28 (SK399)



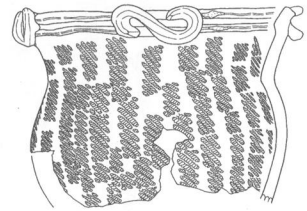
29 (SK399)



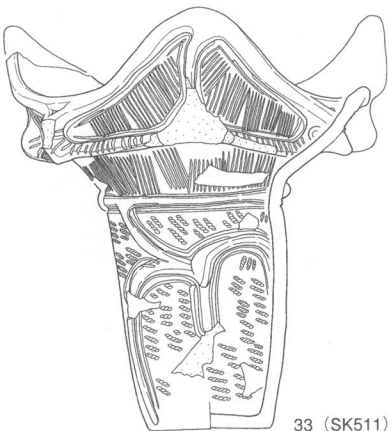
30 (SK399)



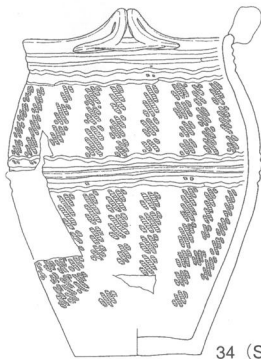
31 (SK399)



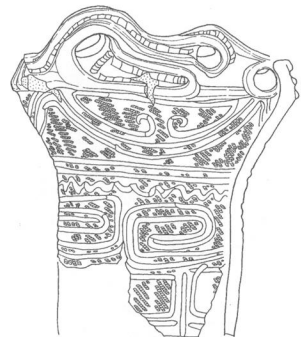
32 (SK399)



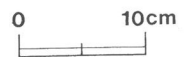
33 (SK511)



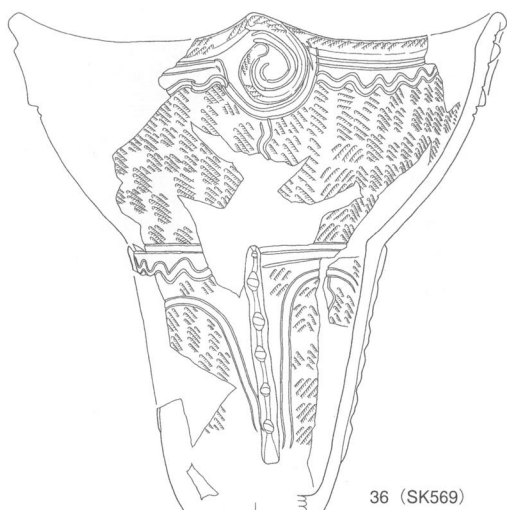
34 (SK511)



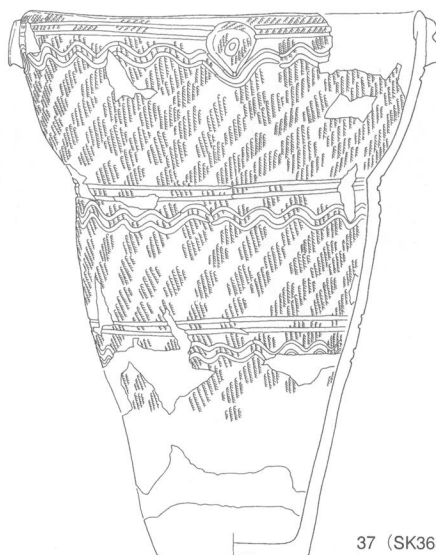
35 (SK511)



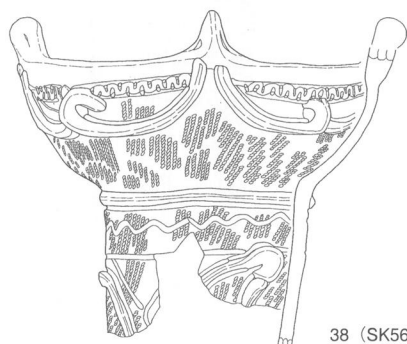
第531図 阿玉台IV式期の土器



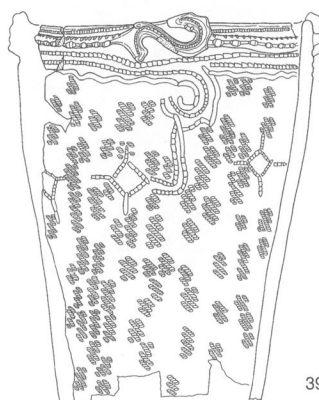
36 (SK569)



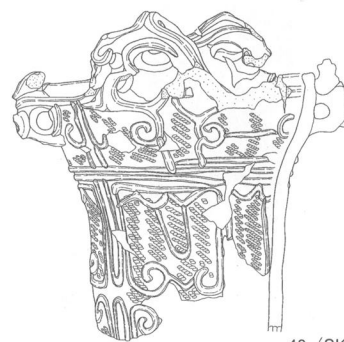
37 (SK368)



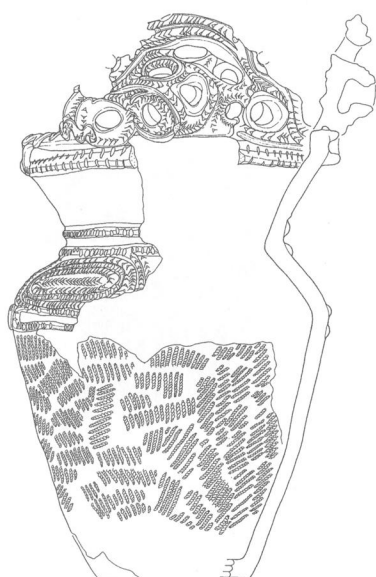
38 (SK569)



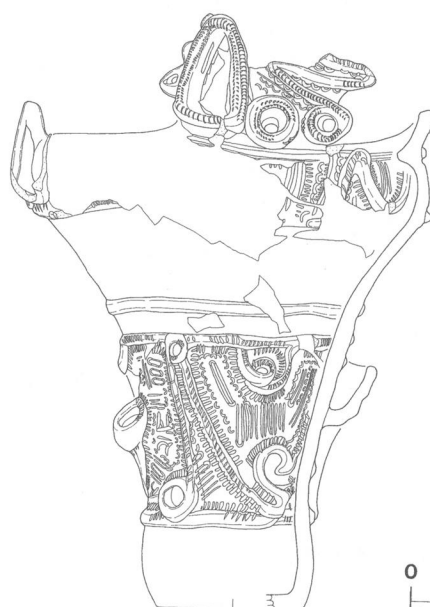
39 (SK516)



40 (SK368)



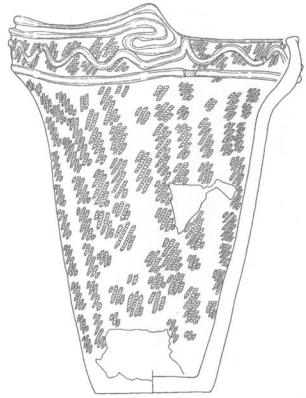
41 (SK312)



42 (SK456)



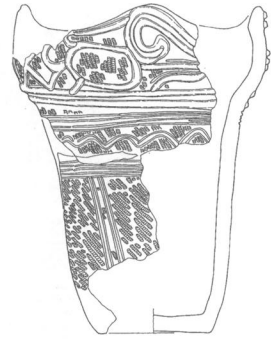
第532図 阿玉台Ⅲ・Ⅳ式期の土器



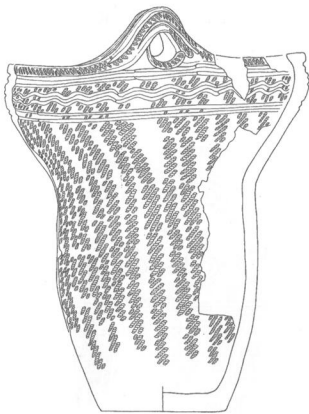
43 (SK601)



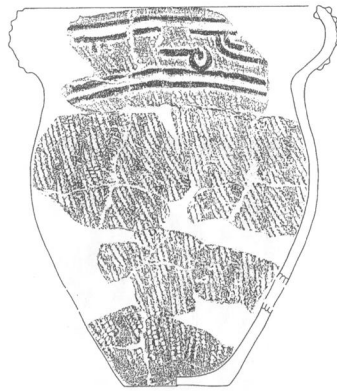
44 (SK601)



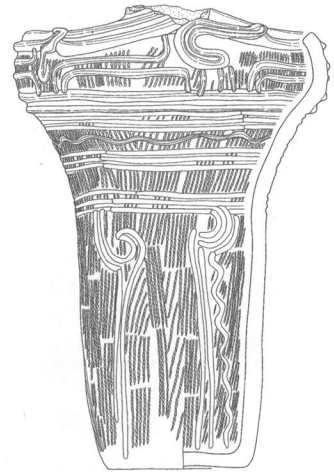
45 (SK601)



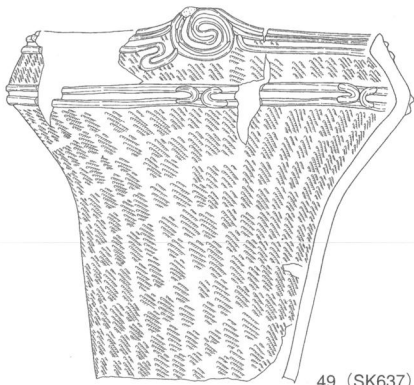
46 (SK610)



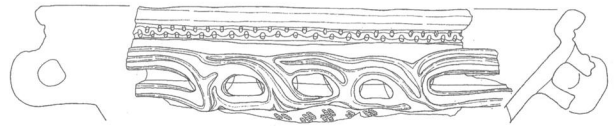
47 (SK610)



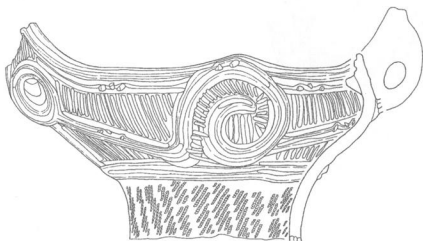
48 (SK637)



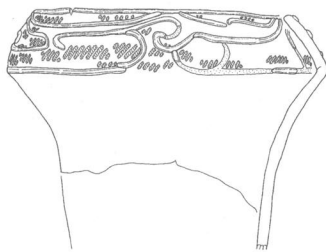
49 (SK637)



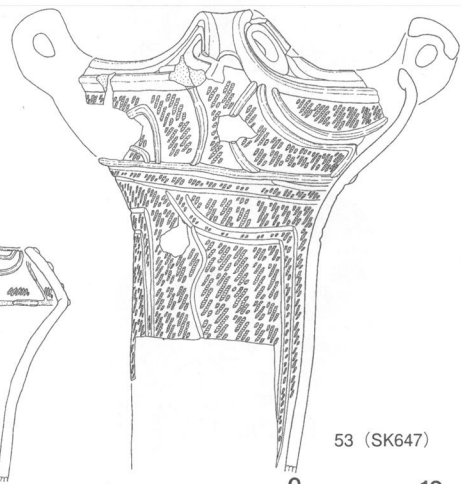
50 (SK642)



51 (SK642)



52 (SK642)



53 (SK647)



第533図 加曾利EⅠ式古段階期の土器

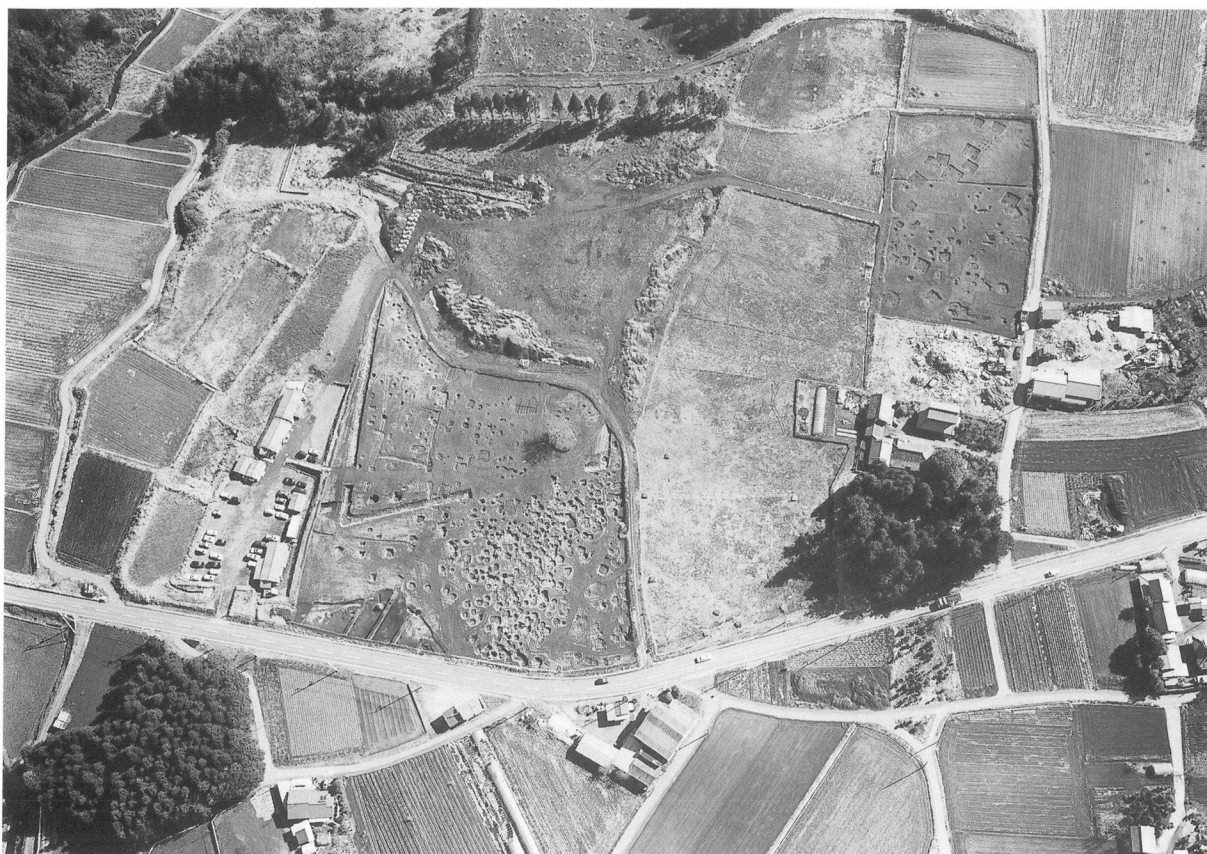
## 2 土坑墓から出土した大珠について

第1号土坑墓から大珠1点が出土している。本土坑墓は環状集落の中心部にあたる墓域に位置しているが、本土坑墓が検出された区域は前述したように攪乱が著しく、同様な土坑は検出できなかった。しかし、同じ墓域内に位置し、調査1区に隣接する2区からは、残存状態が良好であったため約200基の土坑墓が検出されており、それらが放射状に分布していた。本来は本土坑が検出された1区も2区とおなじように多数の土坑墓が存在していたのであろう。本土坑墓についても主軸方向は墓域の中心部方向を向いており、その位置も墓域のほぼ中心部にあたる。また、装身具が出土した土坑は2区から検出された土坑を含めても2基だけである。本土坑の大珠は、装身具の希少的存在と中心部に位置する土坑だけに副葬されていることから、威信財と考えられる。また、瓦吹堅<sup>17)</sup>氏の集成によれば、茨城県における大珠は29遺跡で40点が確認されている。今後は典型的な検討とともに、出土状況からみた副葬状況や墓域の構造等を復元していくことが課題となるであろう。

### 註

- 1) 川崎純徳他『石岡市東大橋原遺跡－第1次調査報告－』石岡市教育委員会 1978年  
川崎純徳他『石岡市東大橋原遺跡－第2次調査報告－』石岡市教育委員会 1979年  
川崎純徳他『石岡市東大橋原遺跡－第3次調査報告－』石岡市教育委員会 1980年
- 2) 鈴木裕芳『諏訪遺跡発掘調査報告書』日立市教育委員会 1980年
- 3) 註2文献に同じ
- 4) 鈴木裕芳「諏訪遺跡出土土器群の再検討」『茨城県史研究』第59号 茨城県歴史館 1987年
- 5) 海老澤稔「茨城県内における縄文中期前半の土器様相(2)」『婆良岐考古』第6号 婆良岐考古同人会 1984年
- 6) 横山 仁「石岡市東大橋原遺跡出土の加曾利E I 式土器の考察(上)」『婆良岐考古』第4号 婆良岐考古同人会 1982年  
横山 仁「石岡市東大橋原遺跡出土の加曾利E I 式土器の考察(中)」『婆良岐考古』第7号 婆良岐考古同人会 1985年
- 7) 橋本 勉「田木谷遺跡出土の中期縄文式土器」『婆良岐考古』第5号 婆良岐考古同人会 1983年
- 8) 瓦吹 堅・鴨志田篤二「茨城県縄文中期10段階区分図」『北関東を中心とする縄文中期の諸問題《資料》』日本考古学協会昭和56年度大会シンポジウム I 1981年
- 9) 松本 茂「縄文時代の遺構と遺物」『母畑地区遺跡発掘調査報告X』福島県文化財調査報告書第108集 福島県教育委員会・福島県文化センター 1982年
- 10) 鈴木素行「部室貝塚の土器－栃木県における縄文時代中期中葉土器群の研究に学ぶ－」『玉里村立史料館報』第3号 玉里村立史料館 1998年
- 11) 吹野富美夫「前田村遺跡G・H・I区における縄文時代中期中葉の土器様相」『研究ノート』8号 茨城県教育財団 1999年
- 12) 塚本師也「茨城県における縄文時代中期中葉の土器について－つくば市中台遺跡と谷和原村前田村遺跡の調査成果から－」『常総台地』15 常総台地研究会 2000年
- 13) 海老原郁雄「北関東・縄文中期の〈合の子〉土器」『那須文化研究』創刊号 那須文化研究会 1987年
- 14) 塚本師也「縄文中期土器について」『浄法寺遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告第196集 栃木県教育委員会・栃木県埋蔵文化財事業団 1997年
- 15) 塚本師也『品川台遺跡』栃木県文化財調査報告第128集 栃木県文化振興事業団 1992年
- 16) 松本 茂『法正尻遺跡』福島県文化財調査報告書第243集 福島県文化センター 1991年
- 17) 瓦吹 堅「茨城県の大珠」『列島の考古学－渡辺誠先生還暦記念論集－』渡辺誠先生還暦記念論集刊行会 1998年

写 真 图 版

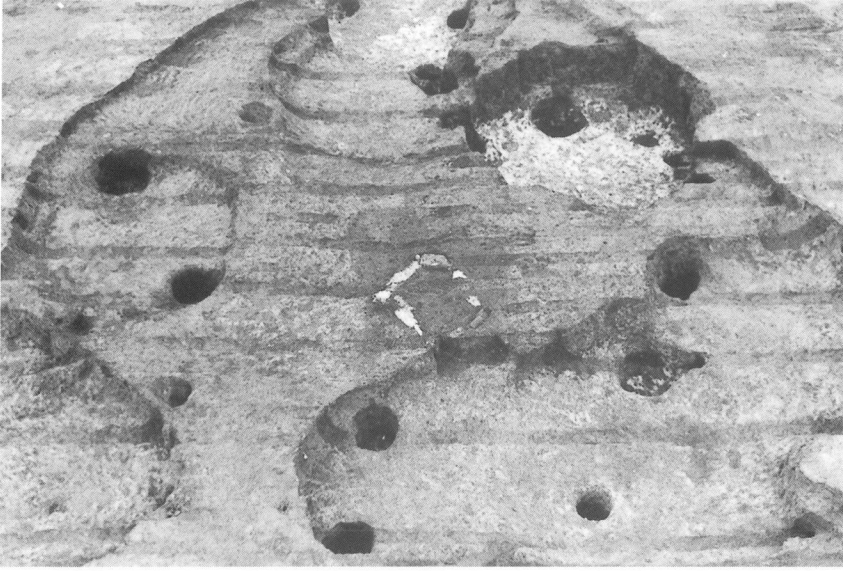


宮後遺跡全景

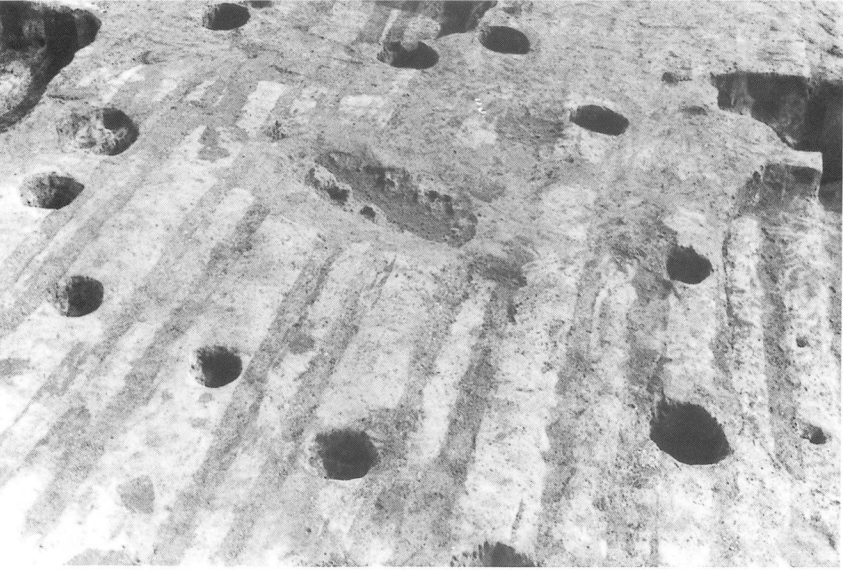


宮後遺跡遠景

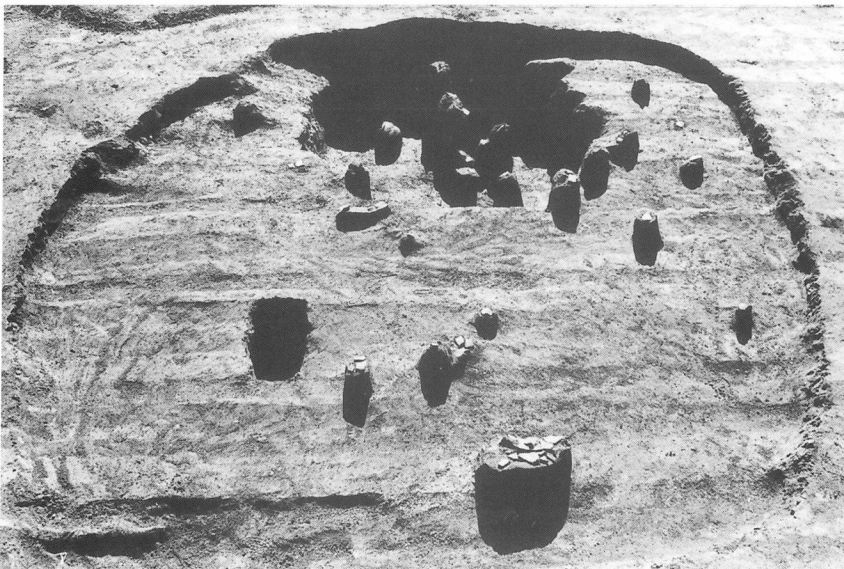




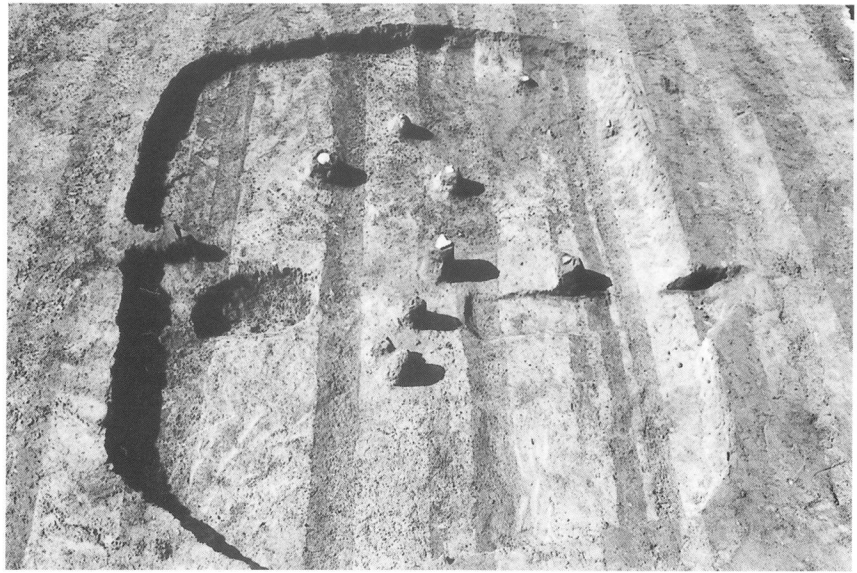
第5号住居跡  
完掘状況



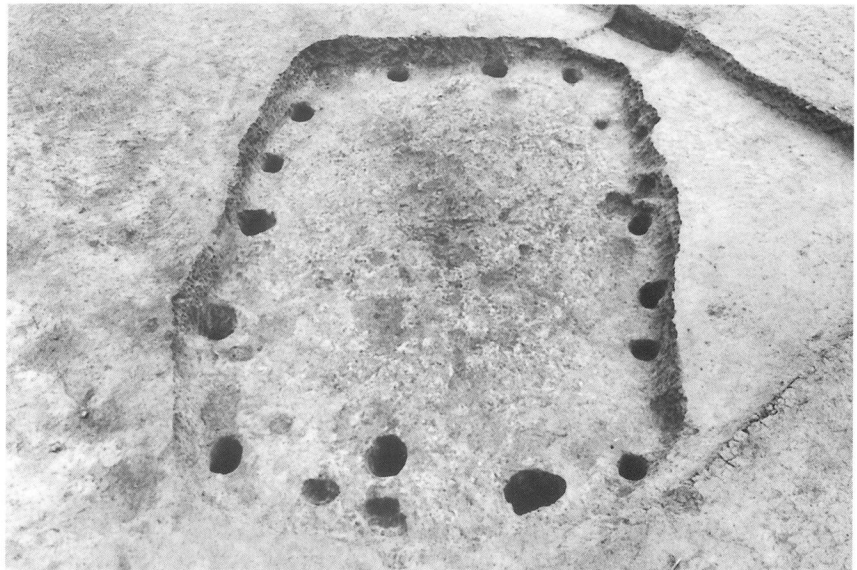
第39号住居跡  
完掘状況



第70号住居跡  
遺物出土状況



第79号住居跡  
遺物出土状況



第113号住居跡  
完掘状況



第119号住居跡  
遺物出土状況



第 6 号屋外炉  
遺物出土狀況



第 2 号土坑  
完掘狀況



第 23 号土坑  
遺物出土狀況



第 32 号土坑  
完 掘 状 况



第 34 号土坑  
完 掘 状 况



第 37 号土坑  
遺物出土狀況



第52号土坑  
完掘状况



第87号土坑  
遺物出土状况



第125号土坑  
遺物出土状况



第149号土坑  
遺物出土狀況



第149号土坑  
遺物出土狀況



第151号土坑  
遺物出土狀況